S9-1-1



東西優勝校爭覇試合

『組織の強味』を發揮して 初登場の早大見事優勝す

竹腰重丸

早大 5(2—1 3—1)2 京大

(京大)		(早大)
長伊眞中高田山福持植金		松取本澤川村原野木江井
岡藤田野田邊本安地木澤	FW	(平名川野長中立笹鈴堀熊谷
	HB	
	FB	
	GK	
7	CK	11
8	FK	6
28	GK	3

過去四回の對抗

試合は、鍔競合ひにたゞへてもよいほどの接戰を繰り返しながら第三回試合が無勝負に終つたほかすべて一點の差で關東側の勝利に歸してゐた。しかしてこれらの試合は蹴球界の情況から見て實力上の第一位を決するものとして注意せられながら第一回から三回までの東大、第四回の慶大はいづれも代表となるまでの諸試合に精力を使ひ切つてか生彩を失ひ特徴とする強味を發揮し得ずにこの對抗試合を名前と實際の伴はないものに終らせてゐた感がある。然るに今回の早大は東京學生聯盟の覇權掌握後この試合までに伸張し得るであらうと思はれた特長を十分には伸張してをらずまた個人的に見れば不調にあつた選手も見受けられたが、チーム全體としての精神的肉體的狀態は必らずしも低調でなく東京における一流チームを代表するといふに相應しい

「組織の強味」

を十分に發揮して危氣のない試合振りを示し、最後までよく戰つた京大の健闘と相俟つてこの日の試合は過去の對抗四試合に比較して遙かに期待に近いものとなつたといつてよからうと思ふ。

對東大並びに對慶大の試合においては早大は非常に鋭い意氣込みでスタートし開始後第一回の寄せて得點したがこの日の試合開始直後は京大の氣合に押され氣味で三分を經過しないうちに飽氣ない一點を擧げられ今年の早大もまた氣合拔けの感じを與へる試合をするのではないかと危ぶまれたが七分過ぎ同點としたころには殆んど本來の活氣を帶びた早大チームに立歸つてゐたといふことが出來る。同點となつて後三分を經過したころには京大のLWが深くゴールライン近くまで進んでLIに返し更にそれをRWに廻してそのヘツデイングで入れる形が出來RWのオフサイドに得點とならず京大にとつては實に惜しむべき過誤であつたがこのオフサイドがなく得點となつてゐてもその後の試合内容から見れば結果として記錄せられた五對二程度の差はやはり出來たことを想像せられる。

京大チーム

を各個人について見ればCFとRWを除いた他の者は早大選手に比較して大した遜色を認められないけれどもチーム全體として見れば組織の上で、また個々の技術の力はともかくとして試合を運ぶテンポが一段と低く周圍に强チームの少いために出來る缺陷を可なり多く持つてゐた樣である。

HB及びFBの布陣として早大の採用するSHがIFを押へCHはそれより下り氣味にしてFBが左右に大きく開く形が良いか、京大のHBラインとFBラインと可なり劃然としてゐるものがよいかについては議論もあり具體的な各個人を考慮していづれを採るかを決すべきでもあるが、京大のHBが懶して相手を追ひ込んでFB或は他のHBに打ち突けようとする動きを採らずにむしろ急激に襲つて制球を亂さうとする動作をとつてゐたにも拘はらずFBはその破れを拾ふ動きをとらないで漠然と後退する傾向を示したのは靜態的に觀た布陣はとも角動的に見れば一つの

守備組織の矛盾

であり、また神宮競技場は十分な廣さがないから襲撃に次ぐに襲撃によつて制球を亂す守備方法は成功し易くまた前日の降雨で地表は荒れてゐてそれを助ける傾きはあつたがなほかつ早大FWの制球力は慶大や東大の强襲にひるまぬ訓練を經て來たものであるから慶大、東大に比較して一段と速度の低い京大のHBがこの方法によつて成功し得なかつたのはむしろ當然であり成功しないと見て追ひ込みの動きをとらうとする樣にも見受けられなかつたのは多少無策のきらひがある。早大のHBに決定的な攻撃の端緒をつくるフイード能力がなくまた地表の荒れてゐた關係からか早大にワイルドショットやキーパーの正面をつくショットが多かつたので五點に止つたがこれ等の缺陷は早大FW程度の制球力とがなり滑らかなパスワークを持つものに對してはなほ一二の失點を記錄しかねない致命的なものである。京大の攻撃はFWのまとまりから見ればWFが深く入つて後センターする形に强味を見出し得るけれどもそれ以外には威力となるものなく、一つの

パスからパス

へ或はドリブルへ等々の過程に時間がかゝり非常にギコチない感じを與へた。形の上に現れた缺陷としてはIFがゴール前でもCFより後ろ氣味の位置を墨守する傾向であるがこれは寧ろCFが球を得て後に緩い速力で兩FBの間に進むためIFが突進すればWFの果すべき役割を侵して全體として不經濟となるためと考へるべきであつて、もしもCFが左右いづれかのFBに向つて快速に突き掛つて行く動きをとつてゐたならばIFが最前列に突進するに都合良い空地も與へられ全體としてもスピードも出て更に複雜な攻撃を展開し得たのではなからうかと思ふ。京大のとつたHB及びFBの布陣は本來攻撃に轉換するには不便な隊形であるから好機を生むフイードの出なかつたのは當然であるが、LB及びGKからは可なり屢次長蹴が出てゐたからこの日の京大はそれを生かすべきであつたがCFに長距離ドリブルを强行して成功する能力が不足でありRWに威力がなかつたのでこの長蹴から決定的な機會が出來なかつたのも或はやむを得ないことであらうか。



東西優勝校對抗蹴球に優勝した早大チーム

早大のとつた

HB及びFBの布陣は二週間以前よりも一層守備組織としての機能を果す樣になり大きい缺陷は見出し難かつたがWFに好球が出た場合の處理に多少の難あり殊にRBはしばしば相手の走力と機會の選擇を無視して直線的な動きで京大LWを强襲した爲に決定的に外されて、堅實に守れば起さないで濟むと思はれる破綻を生じてゐた。その衝撃の强さは實に素晴らしいけれどもその効果を十分にするには更に一層機智の選擇に留意すべきである。GK熊井君には京大金澤君に見る樣なセンターリングをとび出てインターセプトしようとする華麗さはないが洩れ球を拾ふ範圍は可なり廣汎となり兩FB及びCHの活動を非常に容易にしてゐる。技術に照應しない抽象的な理論は別として現在の一流ゴール・キーパーの技術の程度からいへば熊井君程度の活動に止まるのが最も堅實ではなからうかと私には思はれる。

本來守備から攻撃に移る際及び

年次成績

東大 3—2 關學
（昭和四年）
東大 2—1 京大
（昭和五年）
東大 2—2 關學
（昭和六年）
慶應 2—1 京大
（昭和七年）
早大 5—2 京大
（昭和八年）

攻撃から守備

への轉換に便利で全體としては攻撃的な傾向を持つ組織だとせられてゐる早大の採るHBおよびFBの布陣はその守備的方面にはかなりの成功を收めてゐるけれども攻撃方面にはまだ多くの未完成な點を殘してゐる有樣である。SHが思ひ切つて前進出來てはゐるけれども、なほかつそれからのフイードには難があり、この布陣の攻撃的意味を完全に發揮するには更に努力を要するかと思ふ。

※右ページへつづく

※小見出しは本文を兼ねている

S9-1-1

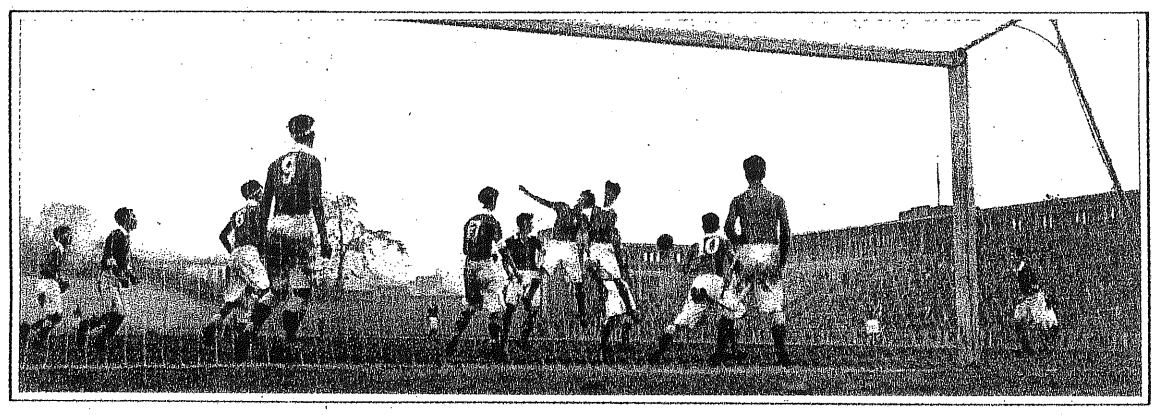
※ 左ページからつづく

この日の早大は、早慶戰の際の中央突破とは逆に敵陣深く入るまで兩翼ＦＷを極度に使ふ作戰に出たかに見えたが、地表の荒れたときにとる方法としては一應最善でありこの日の兩翼はその責を果してもゐたけれどもそのセンターリングを受ける側に十分な聯絡が見られずミツドフイールドからの攻撃をそのまゝ續けてこの形で得點は出來なかつた。記錄によつて見てもそれを一應防がれ、ＣＫとなりその後の崩れから得點となつたものが總得點五點のうちの四點を占めてゐる。今年の早大の攻撃に他のテイームと異つた特色を見出すとすればミツド・フイールドでＣＦおよびＬＩに一應確實に球を持たせその後川本、名取兩君がドリブルを主として用ひ近間隔に並び進んで一角を崩しそれから球を巧みに廻す方法であらうと想像してゐたけれどもそれは早慶戰に

その片鱗を見せ

たに過ぎずこの對抗戰にはその發展した姿を見ることが出來なかつた。これは多くを期待し過ぎるものであるかとも思ふが多少物足らぬ感がないでもなかつた。

京大の持つ缺陷は内省力のすぐれたメンバーが揃つても關西に強チームが簇出せぬ限り容易に氣付かれない性質のものがあり、早大には今年の基礎の上に更に建設すべきものが殘つてゐる樣である。そこに、我々は強チーム出現の歷史性、環境の支配を見出すことが出來、また我蹴球界の一段の向上の爲には更に一層數多くの者が研鑽精進しなければならないゆゑんを見出すべきであると信ずる。



早大對京大蹴球試合の後半における京大ゴール前の混戰

S9-1-1

東西學生蹴球爭覇早大對京大試合



京大のゴールキーパー金澤君は早大の右コーナーキックからの球を一旦セーヴしたがこの直後名取君のプッシュで早大一點を先取する

Kanto - Kansai intercollegiate socker championship final between Waseda and Kyoto Imperial, won by Waseda 5 to 2. Photo shows Waseda scoring on a push by Natori just after Kanazawa, Kyoto goalkeeper had successfully stopped the ball on a right corner kick by Waseda.

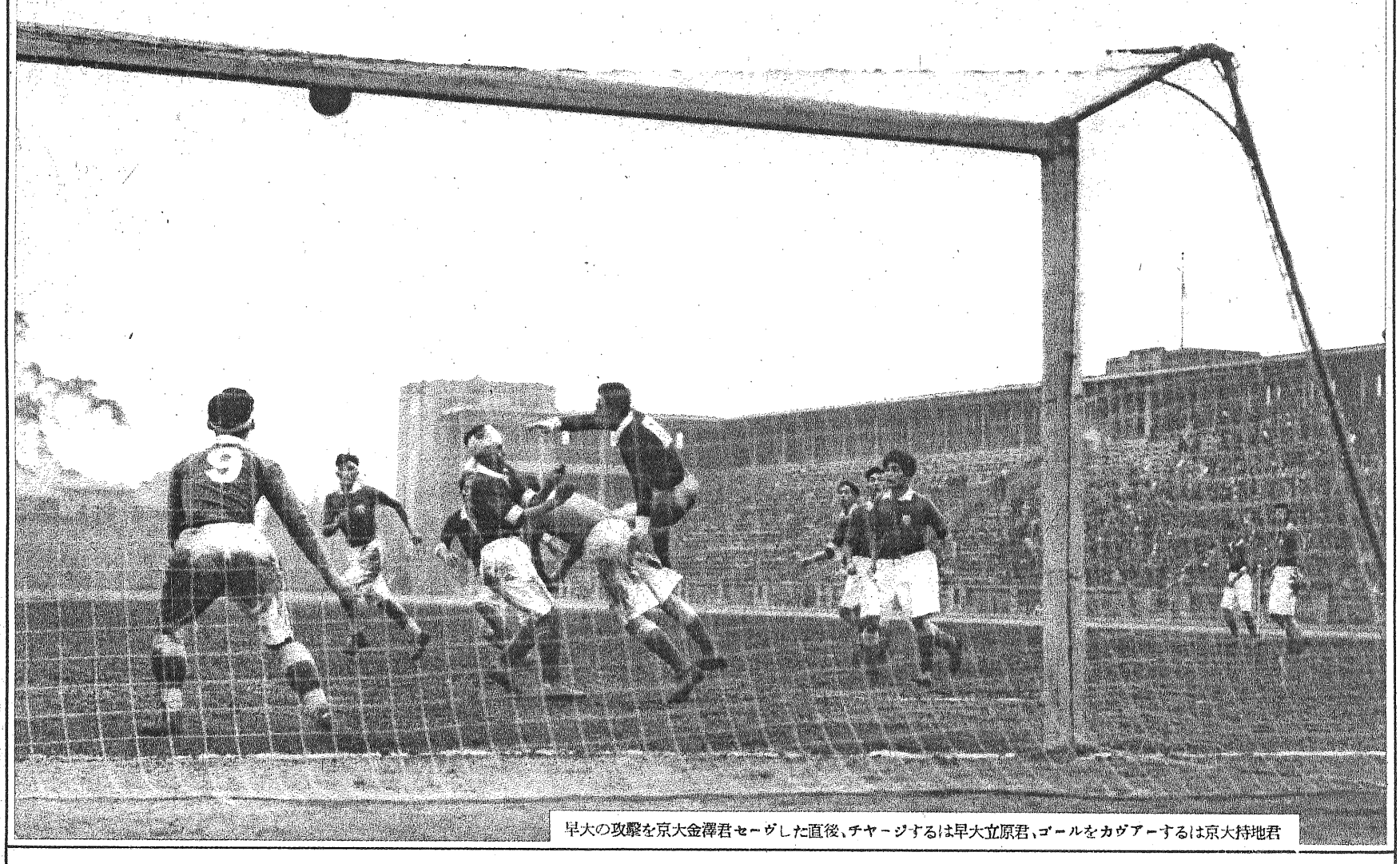
S9-1-1

アサヒ・スポーツ

十二月十日神宮 5—2 早大勝つ



京大GK金澤君のセーヴ及ばず野澤君のシュート成つて早大2—1にリード



早大の攻撃を京大金澤君セーヴした直後、チャージするは早大立原君、ゴールをカヴアーするは京大持地君

Top : A shoot by Nozawa gets through Kanazawa, Kyoto goalkeeper, and gives Waseda a 2 to 1 lead. Bottom : Tatehara (Waseda) charging, with Mochichi covering goal, just after a save by Kanazawa, Kyoto goalkeeper.

S9-1-1

リーグ戰七十八試合

關東學生蹴球聯盟戰印象

早慶帝の實力は紙一重
緊張した三部以下の試合

山田午郎

番狂はせ？

東京學生蹴球聯盟と改稱初のシーズンは六部編成の下に昭和八年十月一日の慶文、早農の二試合を冒頭戰として其の幕を開き十一月二十六日の第一部における爭覇の早慶戰を合せて實に七十八試合を二ケ月の中に滯りなく終つた。加盟三十三校、七十八試合の運行は先づ上乘の結果を收めたといふ事が出來よう、第一部においては六シーズン連覇の東大にとつて代つた慶應が整備した陣容と冒頭の對文大戰において稀有のスコアを殘して堂々の勝利を掌中にしたことから早くもこのシーズンは再び慶應の制覇が豫想されたのであつたが瀧刺たる傳統の意氣に前前シーズンから引續き優勝の機會を可惜逸して來た早大が試合毎に堅實さを加へ慶應四勝の後をうけて東大を擊破し王座に向つて慶應と並進しシーズンの結びをつける二十六日天下分け目の一戰において遂に優勝の呼び聲高かつた慶應を粉碎して第一回リーグ戰以來ここに二度目の優勝を記錄してしまつた。

シーズン半ばごろまでは慶帝早の順位さへ豫想された早大はシーズンの進むにつれて進境の跡著しいものがあつた點から見ればこれは單なる番狂はせ試合などと扱ふ事は出來ない。實に堂々たる優勝として稱讃さるべきものであつた。

立教の擡頭

二部は前シーズンから漸く陣容を整備した立大がこれも全勝を記錄して優勝の榮冠を獲得し第一部昇格の多年の宿望を達すれば第三部にあつては商大がこれも呼び聲高かつた慈大を慘敗せしめ全勝の下に返り咲く日にめぐり合せた、第四部はシーズン前から眞摯の練習に怠らざる練磨の効あつて二、三プレイヤーのプレイは兎角の非難はあつたが拓大が優勝して次シーズンは第三部に編入されることとなり第五部にあつては最近シーズン毎に下調の一途を辿つた青學が第三部における商大と同樣返り咲くことゝなり第六部は府立高校の獨壇場となつてしまつたこのシーズンを賭けて涙ぐましい精進の結果が豫期せぬ事故に阻まれて次シーズンに希望をかけねばならぬ不幸を慨いた幾チームがあつたが結果は先づ順當なものであつたといはねばなるまい。

覇者の氣魄

第一部において早大は勁敵慶帝に對するよりも對文大戰において前半2－0のリードとなつてゐたが意外の苦戰を演じた。文大攻擊線が沈着と頭腦的の連絡を求め得たならば早大の前半におけるリードは果して成つたかどうか危ぶまれるものであつた。この危險線を突破した早大はシーズン前期待をかけ得なかつたHB線の守備から攻擊への力量て增幅しFW線の兎角縱に偏したパスも橫を交へて攻擊効果のあるパスワークを示すに至つて個人の優れた技術に一層の精華を添へて優勝早大の實力を試合毎に發揮するに至つた、平松、名取、川本、野澤、長谷川の決定FW線に大越、眞山を加へた第一線、中村、立原、笹野のHB線はシーズン前半上野を擢用し鈴木、堀江のFB線にGK熊井のチームワークは意氣て結束して一見粗雜に見えるその技巧は實戰上に寧ろ大なる効果を示すものがあつた。早大は優れた技術的のコンビよりも先づ意氣の投合からチームを結束せしめて成功してゐたといへるだらう。

慶應に比したならばチームバランスは劣つてゐたてあらうが忠實なプレイに依つてその缺陷を補ふことが出來てゐた。勿論この忠實なプレイは體力の優秀なる結果からであるのはいふまでもないが錦標に向つて相距ること遠い一般の豫想に一層早大スピリットを燃やして不撓練磨の功を積んだ結果によつて生れたもので目立ちはしないが早大意氣の底流に石に噛りついてもといふ強い氣魄がシーズンの深まるにつれて熾烈になつてゐたのは榮冠獲得の主因であつたといひたい。

非效果的の慶應

早、慶、帝は、事實その實力とするところにおいて紙一枚の差もなかつたであらう。或は早大が慶帝に對し試合の劈頭において機先を制する貴重の一點を先取して有利に試合を進めたといふやうに運賦天賦のあつたことは否めないが氣魄において忠實な點において第一部における孰れのチームよりも優れてゐた事はまた否めないであらう。

慶應は攻めるに強い力を有してはゐたがこれは實力の對等以下の相手に對しては遺憾なく示されても餘り變化のないものであつたがために對等の實力を有する相手に對しては極めて非効果的であつた。一方守備線は前シーズンと不動の岩波大崎、右近のHB線と岩崎塚越のFB線にGK纏綿てあつたがシーズン前に傳へられた中央弱しの聲はシーズン終りに近く暴露された。これはFB戰の案外の薄力からもたらされたものであつて攻擊加擔の巧妙も守備には極めて拙劣て一度び攻勢から守勢に墜ちた場合のポヂションは拙惡を極めてゐた。

攻擊即守備であるには相違はないが逆襲に備へるには走力も鈍くその弱點を暴露した。對帝、對早の二戰はこの間の消息を物語つてゐた。HB線もその實力に過信して守備を顧ぬ所の嫌ひがないとはいへぬ。FW線は藤岡、播磨、津村、塚部、駒崎いづれも優れたゴールゲツターであり大量得點をしてゐたが出來、不出來が餘りに著るしかつた。要するに慶應は亂戰に處するにその用意の手薄と體力の不足から生ずる粘り强さの乏しさから大事のシーズンを喪つたといふことになるのではなからうか。

東大と文大

帝大はシーズン當初の拙劣さを後半に入つて帝大の誇りてある本來の姿に立て直した。從來の巧味あつたそれに比べたならば强味のある帝大てあつたがポヂションによつては人を得ない憾みが殘されてゐる。FW線における菊地、HB線における高山これは當代第一流プレイヤーであるが意氣のバランスがとれてゐても個人力に開きがあつては有利な試合も最後まで持ちこたへることが出來ず失はれてゐた。LW德田若く、RW和田老巧の技を有しながら制球力にムラあつて決定的の攻擊機會を作るに不十分てあつては木村高山、江崎のHB線が大童の健闘も優秀なる結果とするには及ばずに終つた、FB線の原田、荻原未だ最後の守備を承るに缺きHB線を廣く動かすの結果になつてゐたのも德田、菊地、佐藤、川原、和田、宮内等によつて布かれるFW線をして拱手傍觀せしめるの事實を展開させることともなつてゐた。兎も角この陣容を以てして對慶戰に勝つた試合を演じたのは不屈の精神の賜といひ得る。慶應の老大成に比すれば覇氣漲るものあり將來に期待をかけることが出來る。

文大は慘敗のスタートを切つた。駿足揃ひてこれを利かさんとしての速攻をとつて却つて災されてゐた。シーズン半ばに至つてよくそれぞれの持味を生かすことに成功し對早大戰には敗れても悔なき一戰を行つて農大を破り成城を卻けて第四位を獲得した。槇原、木村、松永、藤野、江崎のFW線は物凄いダッシュに後方からのロングキックてよく突破するが沈着があるならば進歩を示すであらうが傍見するには無計畫的のものであるとより見られない場合がありこれは改めねばならぬ點てある。木村、藤野のインサイドは試合を重ねて圓熟し松永もCFとして漸くその任を果たすやうになつてシーズンを終つた。

パス・ワークにより變化を求め走力を利かすに相互の位置關係を早くすることとシユーテイング・レンヂを擴大することをせねばならない。HB線は對農、對成城の二試合には時にFW線以上に攻擊力を示したのは進歩てあるが足下に覚い點を矯正せねばならない。

FB線は體力の優れた點を遺憾なく發揮しGK杉森のプレイは第一部級に伍するに至つた。早大とともに進境著るしいといふは決して誤まてる見方ではなからう。只より考へてプレイすることは沒却出來ぬものてある。

農大と成城

農大は覇氣滿々たるものあつて自然强味を示した試合にB級においてトツプを切ると思はれたが文大に敗れて一勝したのみに終つてしまつた。比較的チームバランスもとれて試合の運びは極めて圓滑に行はれプレイも忠實に行はれてゐたが球を寄せての得點力の不足により自滅した形であつた、要言すれば精練不足、これはFW線が試合場數の經驗乏しくチヤンスの判斷遲鈍にあつたといふよりほかない。杉浦懸命のプレイの前にGK川本は派手なプレイを追ふことよりも蓄へられた技に堅實を織り込まねばならぬ。

成城高校はシーズンごとにトントン拍子を以て第一部に進出したがその巧技を生かすのは劣惡な體力によつて封じられて慘めな姿て第二部に轉落した。個々の技術を檢べるならばそれは決して恥づべきものではなく蹴球の系統的訓練を積んてゐるから試合を頭腦に運ぶが體力劣る爲めに必然的に焦慮に災されて拙劣に陷つてゐた、これは止むを得ない結果であつたといふよりない。

第二部その他

第二部はこのシーズンを期待されたのであるが中途にして主將吉田病んてチーム編成に苦しみ拔いて案外の結果を招き明大は漸く復活の曙光に惠まれたがスタートを誤つてゐたために挽回成らず結局立教をして名を成さしめてしまつた。東京高校は覇氣乏しく試合は常に後手を引いてその實力を傾けることが出來なかつた。尤も有力選手の病氣に法政以上の痛手を蒙つてゐたのは氣の毒てあつた。商船はシーズン前の評判ほどのこともなく力倒れのした感があり、第一部から廻つた一高は全線の異動多かつたために實力低下したが一回商船と引分けたのみて轉落の一路をたどることとなつた。しかしシーズンの終りに近く進歩した實力も法政が商船に一敗するに及んで示し得ずに終つたのは氣の毒の限りてあつた。第三部は慈大、商大、中大、日歯等の實力伯仲しむしろ第二部よりも力の入つた試合多く結局は優れたFW線を持つてゐた慈大が商大のため潰されて國大が第四部にまはることになつた。第四部以下は紙面の都合て省略するが大體においてこのシーズンは第二部以下において活氣が溢れ實力がいよいよ近接して來た、一般にゴールキーパーに對する不當のチヤージが多くあつた。これはルールに牴觸する最前線においてこれをなすやうにプレイヤーが巧妙になつてゐたのにあるが遺憾この上もない。一面審判技術においてもより一層の研究と審判度胸を据ゑることをしこれ等の點を防止せねばならず試合をリードし得るやう强い態度を持して臨んでほしいものである。

S9－1－1

個人、團體共に技倆低下

關西學生蹴球聯盟試合の跡

京大關學の一戰も空虛粗雜
努力遂に酬いられた神戸高商

高　田　正　夫

レベルの低下

去年の十月初旬以來二ケ月間に亙つて若人達が血潮と汗と涙を盛つて力戰した昭和八年度の關西カレヂ蹴球リーグ戰は、第一部京都帝大、第二部大阪帝大の各各優勝によつてその幕を閉ぢたが第二部の第一位校大阪帝大は、第一部の最下位校大阪商大との挑戰試合に目出度く凱歌を擧げて來年度より第一部に編入されることゝなり多年の宿望を達した。

カレヂ蹴球は現在の日本蹴球界においては常に第一線に立つて活躍すべきものであらねばならぬ、またそれが當然のことであるとの感慨を常に抱いてゐるものにとつて、今シーズン關西のカレヂ・フツトボーラーが示した戰跡はそれらの人人に多大の寂寞を感ぜしめた。それは前シーズンあたりからプレヤーの個々に求められた技術なり、更にチームとしての洗練された和協融合いはゆる纏りのあるチーム・ワーク等といつたものがこのシーズンになつて波動的高低の低きに向つて急激に流れんとしてゐるかの如く思惟されてゐたことが、事實となり顯著にあらはれて來たことである。

粗雜な攻法

少くとも二、三年以前まではシーズンを終るごとに多少とも進歩の跡をプレヤー個々に或はまたチーム全體に認められて來たのである、そのほんの些細な進歩にさへも喜びを感じ祝福して更に一段の進歩を期待した人々にとつて今シーズンの收穫はあまりにも慘めなものであつたといふ外ない、今第一部のビツグ・スリーとも稱される京都帝大關西學院大學、關西大學の三チームを見渡してもこれらの事實を容易に首肯し得やう。殊に京大一關學戰に兩チームが示した攻防の粗雜さはチーム構成上の整備さを缺いてゐたことを明確に物語つてゐるものである。

あの日の僅かな風速が個人、チーム兩プレーに彼等が前、後半戰を比較して攻防全くその位置を轉倒したほどの甚大な影響を及ぼしたことは寧ろ奇異の眼をもつて觀られる。このゲーム以前にリーグ各試合において攻擊される機會の少なかつた京都帝大にしてもこの事情をもつてのみ寬容さるべき防備網とはいへまい。

その試合の結果に逆轉を許さなかつたのは京都帝大のデイフエンスをたゝへるよりもむしろ關西學院の攻擊の亂脈をまづ責むべきが順當だらう。

野生に還る

「訓練されたるものがその修練を怠つたがゆゑにまた元の野生に還つた」との評は蓋し今シーズンの關西學院大學チームを表現するに最も適した言葉であらう。關學チームに向つては今更多くの言葉を費す必要もなからうが、しかし關西學院としては徐ろに飛翼をへ、計畫的に且つ同時に全面的に補强工作に留意し、覇權奪還に乘出すならばチーム全體が彈力性に富んでゐるだけに躍進の將來を十分期待出來る。

今シーズン關西大學が殘した戰の跡については相當の重要さをもつて吟味する必要のある何物かがひそんでゐる、彼等がゲームごとに示した出來不出來の差の甚だしさに驚きの眼をみはる前に先づ考へさせられるべきものがあつた。それ程このチームのゲームの進展は全く豫斷を許さぬものがあつた。彼等は全くその日の成り行きにすべてをゆだねてゐたかの感が深い。善きも惡しきも、彼等が意圖したる何分の一の効果を遂行し得たものがあつたらうか彼等の滿足し得られるゲームとして、この試合を指示することができるだらう。これほどのプレヤーを集め得たるチームとして相手校の名聲に壓迫を感じ調子の安定せぬゲームを進めたとも思はれない。技術方面許りではなく精神的融合が如何にチーム・プレーに必要なるものであるかを如實に語つてゐるのではあるまいか。

殊勳の神高商

不斷の努力、たゆまざる向上への邁進が如何に尊いものであるかを指示してくれた神戸高商は今シーズン唯一の宣揚され得るチームとして擧げ得られやう。リーグ加盟以來わずかに第三年目にして第一部の第三位にまで進出し、しかもそれに到達するまでには老雄關西大學を輕くその軍門に降し、更に覇權獲得に向つて虎視耽々たる關西學院を窮地に陷入れ、その結果においてはあきらめ切れぬ自滅の一點を獻上して敗れたとはいへその努力は十分認められなければならない。エース大谷をおくり出して後の神戸高商としては當然採るべき道をふんだまでのことではあらうが共同一致の賜として賞されやう。

大阪外語、大阪商大に至つてはプレーそのものに對する追及の熱度が不足してゐるのではあるまいか。そのためかとかくチーム全體に生氣を缺き勝ちであつた。

その內でもセオリスト田邊を擁する大阪商大の第二部への凋落は一層の寂しさを思はせるものがある。田邊、多木等の散々苦勞を味はつた結果鍛へあげた末の經驗も大阪帝大との挑戰試合には何等際立つた活動をもみせなかつた。彼自らが主動的に活躍した時代に比較して感慨無量なるものがあらう。

何れにしても世界進出の第一歩として、先づ極東大會制覇といふ絕好の目標を目前に控へて關西學生蹴球界が殘した今シーズンの足跡はあまりにも乏しいものであり且つ同時に慘めなものであつた、更生の意氣を呼び戻して多事なる斯界向上への奮起、蹶起を促してやまぬ次第である。

S9－1－1



Corner or Goal-Kick？

上下二枚の寫眞を仔細に御覽になつて、そしてそれを較べ合はされると大體そのよつて起る經緯の進行を想像出來るでせう……その說明は後廻しにして一寸こゝに書き添へて置きたいのは、凡そ競技の審判程難しいものはない、トラツク競技や或ひは競泳のやうに傍目からは比較的容易に見られるものでもなかなかさう簡單には決めにくいもので相當間隔を置いてゴールに入る場合などは別問題として一時にドヤドヤと塊まつて決勝點に流れ込んで來るときなどその判定にはかなりの苦心が要る、勿論長年の經驗と鋭い頭のひらめきの持ち合はせがないとこんな時全くまごついてしまつて正鵠を失する、一定の見易い場所に位置して判定する競技においてすらさうだのにサツカーやラグビーのやうに終始その位置を移動させる審判にあると「觀察」「判定」のほかに更に「走力」の一要素を强要される、例へばラグビーの場合などあるサイドが球をフオアワードしたときレフエリーは直ちに進行を停止してスクラメーヂを命じ得るが、しかしその瞬間相手方のポヂツシヨンに留意してスクラメーヂを命ずる方が相手方に有利か或は不利かを間髮のうちに判ぜねばならないでもしスクラメーヂを命ぜずその儘試合を進行させた方が相手方に有利と認めたならば笛を吹かずに試合を續行する——これはほんの一例に過ぎないが、レフエリーは規則をタテに無暗矢鱈に試合の進行を停止させるのが能でない以上よきレフエリーは常に閃光的グツドジヤツヂを必要とする。

蹴球においてしばしば話題を釀すのはオフサイドの問題である、輓近オフサイドの判定も昔のやうにボールの動向に干與しないプレーヤーを極端に指摘しない樣になつたが、それでもまだストツプを命ずるのを度々見受ける、ゲームの進化とゝもに追々とレフエーリングの向上を來たしてゐることは認めるが、しかし突發的に起つたオフサイドは時折見逃がし勝ちである、これは平行線近くから見てをれば比較的見易いが、しかし背後から或ひは逆襲に移つたときなど一寸判定に苦しむ場合が多い、オフサイドでゴールをせしめてもまたせしめられてもこれほど不愉快なことはない、本場のイギリスにおいてすらこの問題に關してはしばしば惱まされレフエリー二人說まで叫ばれてゐる、この寫眞はフルハムとマンチエスター・ユナイテツドの間に行はれた試合スナツプで「上」ラムバート(白いユニフオーム)がマンチエスターのゴールキーパー、ホールをゴール・ライン近くへ詰め寄せたとき、ボールはアウト・オブ・プレーとなつた(？)この寫眞ではボールは明らかにラインを越してゐるからコーナーを與へねばならないはずだ……だから「下」ラムバートはコーナー・キツクを要求してフラツグの方を指さしてゐるが、反對にマンチエスター側のバツクはゴール・キツクを主張してゐる、結局レフエリーはこの二つの要求の何れにも耳をかさず、プレーをその儘續行させた——日本でも一時ゴール・ジヤツヂをつけたこともあつたがプレーヤーはこの種の誤審は度々起り得るものと考へてかゝるべきだ、日本でもいつかの六大學野球リーグの試合でスリーフツトラインが問題となつたことがあるが、その時の寫眞も矢張りその判決とは正反對だつたと記憶する。(J・M生)



S 9-1-15

全國高校蹴球大會の跡

氣力と技術の強さに群強を
壓した堂々たる六高の連勝

竹腰　重丸

大正十二年一月に第一回大會が開催せられて以來滿十一年の歲月を經た第十一回全國高校蹴球大會は南は七高より北は弘前、北大豫科に至る二十四校の參加を見て恒例の如く元旦の早朝八時から本鄕東京帝大運動場に於て開始せられ戰前から優勝候補と目せられて居た六高が確實に一戰一戰を摑んで二年連覇の偉業を達成した。

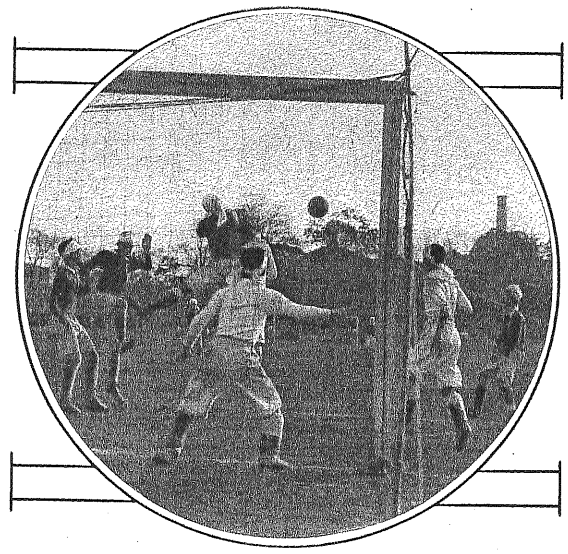
參加校數二十四、登錄選手數三百數十といふ數字は一所に集まる高校大會としては實に尨大なものであるが各チーム各試合の技術的內容は決してこの數字に比例するものといひ難く過去のこの大會における一流チームの水準に達せるものと認められるものは優勝校六高以外には三、四を擧げ得るに止まり質から觀れば多少寂莫の感がある。もとより、この大會の優れた點は『飽までも戰ひ拔く』高校精神の發揚に在り、これは一面において技術を超越するものともいひ得やうが試合は飽まで蹴球といふ技術的なものを通じての戰ひであつて勝つためには技術が必要であり、また試合場での氣持で平常の練習に努めれば少くとも二十四校中の半數は過去の一流チームの技術的水準には達し得るのではないかと思ふ。

進歩なきチーム

一勝を得ず敗退した諸チーム中、松江、七高、法政豫科、佐賀、浦和、二高、五高等には前回の强さに比較して殆んど進歩の跡を認めることが出來なかつた。これ等は地域的に不利な環境に在るものであつたり又は繼續的に出場出來なかつたものであり或は又選手に移動の多かつたものではあるが四高、松本等が同樣な條件にありながら可なり改良され進歩してゐたことゝ考へ合せれば更に一段の努力を望んでよからうと思ふ。殊に松江、七高、佐賀、法豫は基礎技術が甚しく貧弱で從つてまた散兵戰としての蹴球戰術に理解を缺き他と比較して一段低い水準のチームでありいかなる不利な條件があつたにもせよ春以來熱心に練習してゐたならば何らか練習の跡を示すものが見出されたことであらうと思ふ。浦和、二高、五高は個人的には强い選手を持ちながら全體として見れば殆んど進歩なく、前回に比較して改善されながらなほおよばず一勝をも得なかつた四高、松本および一勝者中の八高と共に前記四校より上位に在る一團と見ることが出來る。

惜まれる敗者

一勝もせず敗れたものゝうち惜しまれるものは成城一高、廣島である。成城、一高は東京の聯盟試合にもまれたチームであるだけにそれぞれ强味を持ち、成城は早高と戰つて大會隨一のスピーディな試合を展開し殊にC・Fは六高早高のC・Fと共に拔群の威力をあらはした。一高は六高と戰ひ後半戰兩翼H・Bが疲勞して六高I・Fに振り離されたこととF・Wに得點力がなかつた爲大差が出來たが組織的な動き方に一つの特長をあらはして居た。



全國高校蹴球大會、六高對東京高校の試合後半東高ゴール前の危機

Tokyo in a pinch in front of her goal in the second half of the Sixth High - Tokyo High soccer game.

廣島は各個人の基礎技術が可なり確かであるといふ以外に特長となる强味なく試合運行に滑らかさを缺いて延長戰の結果靜岡に敗れたが尙且成城、一高と共に一勝或は二勝したものの中の八高、府立、成蹊、弘前武藏等よりも上位のチームと見ることが出來やう。八高は法政に一勝の後府立に敗れ一兩年前の八高には優るが十年以前の八高には遙かに劣り又正當なチヤーデと危險なプレイとの差を知らないかに見える試合振りは七高と共に一考を要する府立成蹊の進境は環境の賜物と見るべく更に平常の鍛鍊が望ましく、弘前は多少鈍重な點はあつてもその氣力を盛る技術が前回に比較して遙かに進歩し粗暴なプレイから脫却し得てゐたのは喜ばしいことであり、靜岡はC・H、L・I、C・Fの活躍を中心に滑らかな展開戰で廣島を破つたがF・B弱く又全體として技術の割合に氣力なく六高に大差をつくつて敗退した。

三次から准決勝

三回戰に入り府立は第三回戰出場者としては餘りに無力で簡單に水戶に敗れ武藏は氣力すぐれ技術的にも一應のまとまりを持ちながらすべて規模小く北大と接戰して退いた。松山はF・Wが球を受けて後の滑り出しに傳統的な巧味を持ち松江に大勝し弘前に對して拙戰して後六高と對戰し可なりの迫力を示したが、各F・Wはパスする前に止る傾向を持つため効果的な攻擊とならず一對四の記錄を殘して敗退した。早高は成城との試合には滑らかなパス・ワークを示し六高の連覇を阻むものは早高のみといふ感を與へたが東京との對戰には二對零と簡單に得點を先取して後緩みを生じその H・B、F・Bからのフイードは荒れ東京の追擊を抑へ得ず延長戰に入つてはむしろ東京に押され氣味となり間々凄味ある攻擊を見せたけれども遂に四對四の同點に終り抽籤に退かねばならなかつた。

准優勝戰には六高、水戶北大豫科及東京が殘り水戶は四高成蹊府立と一戰毎に强味を增して來たが六高との試合にはF・Wに決定力なく戰況から見れば寧ろ大き過ぎる六對一の差で敗れた。北大豫科はR・H、C・

※右ページ上段へつづく

東西選拔蹴球試合豫想

マニラ、滿洲兩派遣チーム
選拔の興味を盛る試合

山田　午郎

今シーズン

東西學生蹴球學生聯盟優勝校對抗戰も初舞台を踏んだ早大が京大を破り關東の球史に連勝の一頁を飾り立ててシーズン後期に殘されるビッグゲームは來る二十一日及び二十八日に甲子園と神宮において二回に亙り行はれる極東大會選拔の東西對抗試合のみとなつた、東西ともに選手詮考を終つてこの二回の試合により來る五月比島マニラで行はれる第十回極東選手權競技大會に派遣するわが晴れの代表の最終的決定を見るのであるが果して一般の豫想するやうに關東選拔軍が勝利を得て多數の代表選手を獲得するか、關西軍が一般の豫想する程に腑甲斐なく起ち得ぬものであるか、この豫想も東西對抗の勝利の美酒に醉ふ關東側の立てゝゐる言はゞこらぬ狸の皮算用である。第一回甲子園に邀擊する關西側が地の利に乘つて一潰しにするといふ意氣の程も賴母しくあり事實として現はれるであらうし關東側が神宮の一戰に復仇を遂げるといふ事も肯ける。

選拔軍は兎角人の和を缺き易いといふ事よりもコンビを整へる事が至難である先づこの試合は地の利、地の不利で決定づけられるといふ事になるのではなからうか。

關東は豫定陣容

を下記の如く發表してゐるが仄聞する所に依ればCH高山君の缺場といふ事である。これが事實とすれば關東はCHの拔擢に選手詮考當時と同樣の惱みを經驗せねばならない。

（FW）藤岡（慶大）名取（早大）川本（早大）野澤（早大）永地（東北）
（HB）右近（慶大）寺山（帝大）立原（早大）
（FB）竹內（帝出）井出（早出）
（GK）熊井（早大）

右近君が關東選拔試合にCHとして立原君より優つたところを示してゐたから右近君が廻るか、立原君となるかはいゝとしてその後を襲ふのは誰か、HB線の補缺として中村（早）大崎（慶）の兩君がゐるがこの兩君のいづれに白羽の矢が立つか。立原君をCHにまはして右近君をそのまゝにし中村君を拔く手もあるし右近、立原兩君をその儘に大崎君をポンと拔いてCHに据ゑる方法もあるが統計的にとつた資料が詮考及び決定の中心となるわけではなし主觀的のものであるから高山君の缺場は結局相當の經緯を必要とすることになるわけである、ポヂションがポヂションであり圍棊の脊較べであるから關東側としては痛手である。所て

關東のFW線

はセンタースリーを早大のその儘殘してゐるのは攻擊的に見て頗る有利である。兩翼はそれぞれ一癖もある藤岡、永地の兩君で變化のある動きにチヤンスメーカーとしての職責を盡し得るならば曲者揃ひのセンタースリーは兩翼の活躍をフイにするやうなことはあるまい、だがここに懸念されるのはHB線とのコンビである。その決定如何は、インサイドの守備的加擔に際してカチンコして徒勞に歸する場合の多い結果を招くことである。HB線は高山君を中心にして布かれるものならばチームの鋭い動きを要求することは出來るが缺場となれば幾らか不安を殘してしまふ。といつて前線の活動を反古にするやうなことはなからう。FB線は老巧な竹內、井出兩君を以てしソツのないプレイと着實の期待をかけることが出來るが一つ問題が殘されてゐる。それは竹內、井出兩君の動きは極めて眞實であるがキーパーの技倆を封ずる傾きがある。GK熊井君はこれを知つて相當惱みとしてゐるらしいが鈴木堀井兩君との間におけるコンビとともに現はれる熊井君の實力——それが不自然的に封鎖されるとすれば關東は十一分の一の力を減殺するに止まらぬ結果を生ずることにもなる憂がある。これは選拔軍のもたらす通弊であるには相違ないが、癌としてそのまゝに放り出して置くことなく熊井君から注文づけて徹底的に打開策を講じなければならぬ。熊井君は鈴木、堀井のトリオで描くコンビは意を滿たし得ないにしても實力を發揮し得る所まで打開を演ずる事が全線の士氣を昂める事であり、選拔軍に對し忠實な所因である。

關西の選拔軍

は最後の決定を見たのはGK金澤君のみで他は保留され顏觸は次の如くである

（FW）大谷（神商出）東浦（關學出）堺井（關學出）西邑（關學）中野（京大）津田（關大）前川（神高商）大橋（御影出）
（HB）西村（京大出）山本（京大）福安（京大）三崎（關學）川西（關學）
（FB）後藤（關學出）安部（關學出）持地（京大）
（GK）金澤（京大）

關西は普遍的に人材を求

※右ページ下段へつづく

※左ページからつづく

S9-1-15

H及F・W中三人の活躍で二高、武藏を破つたが東京との試合にはチームとしても可なりの纏りを持ち乍ら兩翼F・Wが甚だしく無力なため得點に至らず東京よりも多く球を持ち乍ら一對零といふ僅少な差で敗退してしまつた。

六高、東京の爭覇

優勝戰は六高と東京との對戰となつたが東京は長年球に親しんだ選手の揃つて居るので球の操作を滑らかに出來ること試合慣れして居るため洩れ球を拾ふこと以外に特長といふ程の強味を持たず六高は練習の跡著しく斷然たる強味を持ち乍ら第一回戰に於ける對一高後半戰を最高潮として漸次調子を失つて來たためこの優勝戰の内容は頗る貧弱なものとなつた。東京が松本、早高、北大を制したのはパス・ワークの滑らかさとゴール前を固める巧さによつたと見ることが出來この優勝戰にも或程度の成功は收めてゐたけれども練習が輕い同チームには六高に優るいかなる技術的な巧味はあつても地力の六高を抑へる迫力を持つてゐなかつた。

優勝者六高が一戰ごとに精彩を失つて行つたのは對戰した各チームがいづれもこの大會中屈指の強チームであつたので多少疲勞したにもよるであらうが練習の最も激しい同チームが他より早く疲勞するとも思へず寧ろ全體の調子が下り坂の時にこの大會を迎へたと考へるべきであらう。

六高の強味

六高は一言にしていへば地力のある基礎技術と激しい練習を經た者のみの持つ滲み出る樣な氣力とを兼備してゐる點にある。L・H及びF・Wの左から四人の活動を中心とする攻撃は、パスは硬く相手の逆をとることになつてゐないがスピードと強力なショットを持つため巧いといふよりは强く、守備についても滑らかなパス・ワークには弱いけれどもなほ且つ個々の衝撃の強さには他にすぐれた強味を見出すことが出來る。

夫等の特長は全體として東京方面の巧いけれども弱い諸チームに比較して巧くはないが强く、頼母しい感じを與へる六高を形成してを居る。同チームF・Wが硬い、止つてするパスのみによらず相手ゴールに向つて進みつゝ滑らかに授受するパスを會得すれば攻撃のみならず守備の缺陷も自然に矯正せられて更に一段とすぐれた强さを現はすに至るであらうと思ふ。とも角も最も激しく練習した跡があり氣力と技術の强さに他を壓する六高が二年連覇の偉業を成しとげたことは同慶の至りであり優勝の榮を得なかつた諸チームに對すると同樣に同チームに對して今後一層の精進を期待したい。

豐師が優勝するまで

關東中等蹴球優勝大會評

山口勳郎、宮本能多

蹴球協會は全國の大會を整理統一しこれを協會の統率下に置く本來の意義の第一歩として從來行はれてゐた文理大主催全國中等蹴球大會及び、東京蹴球團主催關東中等蹴球大會を合一して此處に關東協會の主催で第一回關東中等蹴球選手權大會を擧行することになつた、そして本大會は十二月二十六、七の兩日にわたり東京朝日新聞社後援の下に神宮競技場において花々しく擧行された。

もとより本大會が名實共に關東における中等蹴球界の最高峰として斯界に重要な位置を占むることはいふまでもなくこれが蹴球日本の建設進展の母體として輝かしい功績を產むであらうことは當然豫測されるものである。



關東中等學校蹴球大會に優勝した豐島師範チーム
Toshima Normals, victors in the Kanto intermediate school soccer games.

各府縣における激しい豫選を經て本大會に出場の榮を得た各地俊豪は豐師（東京）神師（神奈川）茨城師（茨城）栃木師（栃木）千葉師（千葉）埼玉師（埼玉）藤岡中（群馬）山梨師（山梨）の八チームであり、結局第一回の覇を稱へたものは東京代表豐島師範であつた。

栃師、千葉の擡頭

◇ ◇ ◇

A　冒頭豐師と組んだ栃師が數年の冬眠から目覺めて再び往年の巨豪たる面影を止めた强勢のダッシュで、最初の一點を奪つたのは偉とすべきだね

B　しかし豐師の反撃に堪へ得ず時間と共に敗戰の色を濃くして行つたではなかつたらうか

A　さうだ、これは試合馴れぬ地方チームの巧味に乏しい爲からだと思ふ。

B　結局意力の缺乏から招いた氣合負か

A　それもあるが、相手チームの穴を攻撃の中心とした、タクテックに轉じて行く術を知らぬことなどが、主な敗因ではなかつたらうか

B　守勢の場合なら自己の弱點を無意識の中に補つて行けるが、攻勢方面でそれに轉じて行くことは六ケ敷い

A　それはたしかにさうだカレヂのゲームでさへさうではないか

B　瀧刺たる意氣と均勢のされたよいチームだから良指導者さへ得れば將來覇權に達することは難事ではなからう

A　山梨師範に敗れた神奈川師範は縣下の各强チームを破り相當の期待をかけられてゐたが案外飽氣なかつたね

B　いはゆる燈台下暗しといふ奴で神奈川のレベルが一向上がらないから何時までも昔のままなんだ

A　キーパーは一點先取されたらゲームを投げた樣な風が見えたが、試合は何時どうなるか知れないし、それに全線の意氣にも影響するから愼まなくてはならないね

B　山梨と全く伯仲の試合をしながら三對零と開いた原因は何處にあるだらうか

A　積極的に必ず勝つといふ精神力の稀薄に原因することが一番大きいと思

以下２３頁へ續く

※右ページへつづく

※左ページからつづく

いふことを言つて置きたい

的は外れてゐるが有意義にして重要な場合であるから駄言をさしはさんだ次第であるが更に一言、國際親善を期するための日滿國際試合の代表選手決定も含めてゐるのであるがこれは相手の實力から見て風土の關係からしてマニラと滿洲とは條件に相當の優劣がある。負擔は輕し比較的責任も輕いから被選拔者は第二軍となつてもよし滿洲を希望するといふ懸念はないか。マニラに敗戰の戎衣をまとふ悲慘さよりは赤い夕陽の滿洲に勝利の凱歌を滿足するのではなからうか。一石二鳥の名案のやうであつて二つを兼ねたのは全日本的のベスト・チームを編成する所以ではないはずである。枝葉に走つたが勝敗は先づ豫想するに困難、見るには相當の興味を盛る試合といふことになるのではなからうか。（一月六日）

め最後の決定を保留してゐるあたり選拔効果を最大にしようとしてゐる。最後の決定即ちベストチームの編成を遲らしたのは優柔不斷に見えてそれが然も成功してゐるといふのは被選拔選手の意氣込みの大なることである。來る二十一日を前にして熱意の漲る練習に努めて意氣昻るあがつてゐる。關西も未定であるが關東は既に決定すべき監督が未定で決定選手の指導方針が立つてゐない。これによつて來るべきものあるを否定することも出來ぬ。これこそ優柔不斷の譏を免れはしまい。10——7の比でOBが殘されてゐるのは關東に比して現役の不振と拙劣を意味することにもなつてゐやうがこの場合これらは決して問題でなく寧ろこの傾向を關西方將來のため慶賀すべきことであるかも知れぬ。傳へ聞くにOBは精進如何によつては全日本代表として現役を壓倒する人達が多いといふことであるから關西は代表チーム編成になほ心勞がある。前シーズン定評のあつた大谷君がLWとなつてセンターストリーは

關學系統

の東浦、堺井、西邑の三君が拔かれてRWに中野君が据るといふことになるのがFW線の力强い動きとなるのではなからうか、津田君も優秀なプレイヤーではあるが大谷君の元氣がよければ控へとなるだらう。HB線は甲子園でのあたり屋福安君が先輩西村君より先にRHのポヂションを授けられるであらう。CHは三崎君にしても山本君にしても些して優劣があるわけでないからいづれでもよささうだが山本君が無難でLHは川西君に廻るといふことになりはしないか。FW線は關東と同樣曲者揃ひであるが大谷君が元氣なら左からのチヤンスは關西が多いだらうが、HB線は高山君の缺場となつても顏觸れからすれば關東方に多少の分があると見たい。FB線は左が後藤君と持地君で爭ふ事になるか右に廻してもいい後藤君を使つて安部君を控へさせる結果になるか前二線の編成よりも決定は容易である。兎に角關西は今後に詮考の興味を殘してゐるし甲子園と神宮をそれぞれ使ひ分けて見る事になるが豐富なスタッフであるから寧ろ氣强いものがある。

東西陣容の決定

を見てさへ豫想は困難であるのに關西の未定陣をのぞいて勝敗を卜する事は雲をつかむと何等選ぶ所はない、關西に惱みあれば關東にも同じ惱みありて個人の蘊蓄した實力を如何にしてぐれだけにあらはしめるかの困難な指導は監督にある。ガツチリ組んだ單一チームさへ作戰に齟齬を來す事が間々あるのであるから幾つかの流れを選んで今日に至つた個人の集結を短時日にその流れを多少なりとも矯めながら一律とすることは極めて困難である、ここ兩三年の經過を辿つて選拔軍でも關東の勝利を豫想することは一體のチームに完成することの困難と同樣に容易なものではない。殊に選拔試合などは地の利に支配されることの多いといふことを攻めて言つて置かう。

甲子園と神宮を選び東西それぞれの地の利に據らしめて二回の試合を行はしめることは政策上寔に當を得たものであるがこれは一方を苦しめるだけで詮考資料を收める上からは當を得たとは斷言出來ない、極東代表の最後的資料を得るのが眼目である以上神宮、甲子園それぞれに三回戰を行はしめるに越した事はなく經費をおしんでの結果によつて政策上の意味を含まずといふならば中間地帶の名古屋あたりにおいて三回戰の必要がある、地の利といふハンデイキヤツプの中に僅か二回の試合による資料を以て最後的決定をするならば試合以前に於ても最後的決定は可能と思ふ。關東において選に洩れた中には優れた實力が惡感情によつて潰されたといふ噂さへある。尤も詮考はカレヂ・リーグ戰、全日本地方對抗等の

資料を中心

にしたもので行はれるとのことであるがこの對抗を行ふ以上は多少の資料を求めてゐるに相違ない全日本的の決定上必要ではないが關東西の選出比率があるわけではなしこの試合によつてそれらも非表面的に所謂點示の形であらはれるものとするならば大事をとつての二回の試合は更に數をかけるに越したことはないと

S9-1-15

※左ページからつづく

關東中等蹴球續き

ふね

A　それに漫然と戰ふだけでは駄目だ、得點に達するセオリーが少しも研究されてゐないらしい

B　結局好い相手がないために理詰めに戰ふといふ傾向が生じて來ないわけだね

A　たゞ何處となく！何といつたらいゝか、まあ風格のある點がこのチームの模範とすべき點だ

A　僕は去年の關東大會でも千葉師のチームは見たが、素晴らしい向上が見えるね

B　それはチームに漲るフエーアプレーの精神が建設後日の淺いこのチームをあれまでにさせたものだ

A　創設期の指導者が正しいものを會得させたからだらう

B　五對一と埼玉とは開いたが實力は二對一とも見られる

A　そうさ、三點はキーパーのミスデヤツヂに因るものだらう

B　それはキーパーとフルバツクのプレーの疏通を缺いた爲不覺の三點を獻じたものと見ねばなるまい

A　前評の神奈川師と同樣に合理的に行くといふ點が見られなかつた、その上基本的な練習が不十分ではなからうか

B　然し地元に適當な相手がないのにあれだけ戰へれば立派なものだ

藤中、山師、茨師

B　藤岡中學は茨師に九對零の敗北を喫したのは、年齡、體力、環境等のハンデキヤツプを考へればまあ止むを得まい

A　このチームは未だ正しい蹴球とその戰術を體得してゐないと思はれるがそれは指導者に人を得ないからではなからうか

B　いささか時代遲れの感があつた

A　特にバツクスのキツクはそれが攻撃に加はる何等の意義を持たない、まあいはば一昔前の蹴球ぢやないか

A　それでも飽迄敵の懷に飛込んで行く精悍な鬪志は大に買ふべきものがある

B　それも度を超えてレフリーを無視する樣では困る

A　次は山梨師範だが不利な環境にありながら正道を進むよく纏つたチームだ

B　基礎技術も相當な域に達してゐるし上品な感じのよいチームだ、その上理論的にも見るべきものがあつた、殊に前衛はよく調子を呑込んで寄せて行つた手際は垢拔けがしてゐた

A　豐島に敗れたのは氣合負けしたといふより他ない、慾をいへばHBに今一歩の粘着力が欲しい

B　殊にRHはポヂションを誤つて、相手に攻撃のチヤンスを無造作に與へてゐた

A　だが次の機會にこのチームに見ゆるとは樂しみぢやないか

B　次は茨城師範だが二つの試合から全然異なつた感じを受けた、それは藤岡とのゲームに見えた氣品の快さに引換へ、埼玉の場合には全くラフな態度で失望の深淵に沈められてしまつたことだ

A　同感だ弱勢の敵に對して小手先であしらふといふ風が見え、強敵に對して捨身の餘り手段を選ばぬといつたら酷評にすぎるかね

B　中にはCFやLWの樣な技術的に優秀な者もあるから將來適當なコーチとチームの歷史を憶つて自重すれば前途は期待出來る

A　さうだあの旺盛な鬪志は他チームの全く及ばぬ點だからね

埼師、豐師の決勝

B　埼玉豐島は決勝戰に相應はしい好ゲームを演じ流石關東の覇權を目指すチームとして天晴の貫祿を備へたもので、何れともいひ難いものだつた

A　埼玉が五角の試合を失つたのは何處に原因があるだらうか

B　それは戰略を誤つた事に盡きる、先づ攻撃ではチヤンスメーカーたるRWの俊足を活用せずセンタースリーを過信してか中央突破の策に出て幾多の機會を豐島のCHの强力に潰されてゐた

A　僕はむしろFBの健鬪を無にしたGKを責むべきではないかと思ふ、實力伯仲のゲームでは一つの失點が勝敗を決定するキーで往々あつて見ればこの感は更に深い

B　さうだ敗因はその二つに歸する

A　基礎的技術も慥かなものだし、それに洗練されたスピリツトは、一朝一夕に得られたものではなく、多年の研究と光輝ある部史の上にのみはじめて得られるもので、覇權を掌握出來なかつたが實に立派なものだつた

B　豐島の優勝は滿々たる征覇の氣はくと、優れた體力に負ふ所が大きい

A　疲れを知らぬ强引なダツシユが壓倒的に飽くまで相手を粉碎せねば止まぬといつた調子だつた

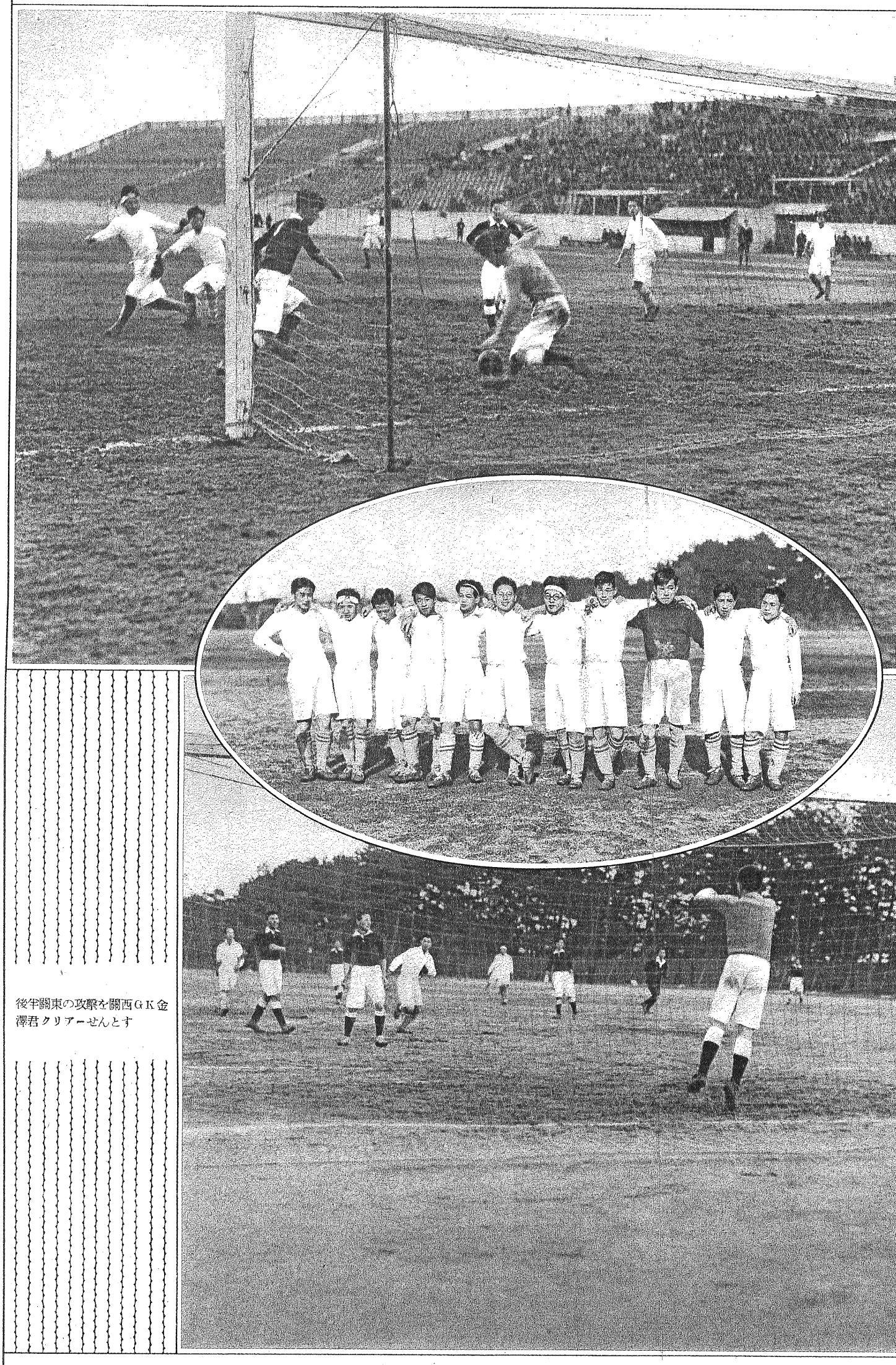
B　殊にCHは超弩級で强靱無比な感があつたね

A　僕は東京豫選から豐師は見たが幾分ラフな感じがあつた樣だつた、殊にGKへのチヤーヂなど不當なものが間々行はれてゐたやうだし、これでは中等第一線に立ち斯界をリードするチームとして一考を望みたいと思つた

B　とにかく技術を超越した强味を持つて最初の覇權を得たことは豐島のために稱讃の辭を送るべきである

S 9 - 2-1

第三回東西對抗蹴球試合



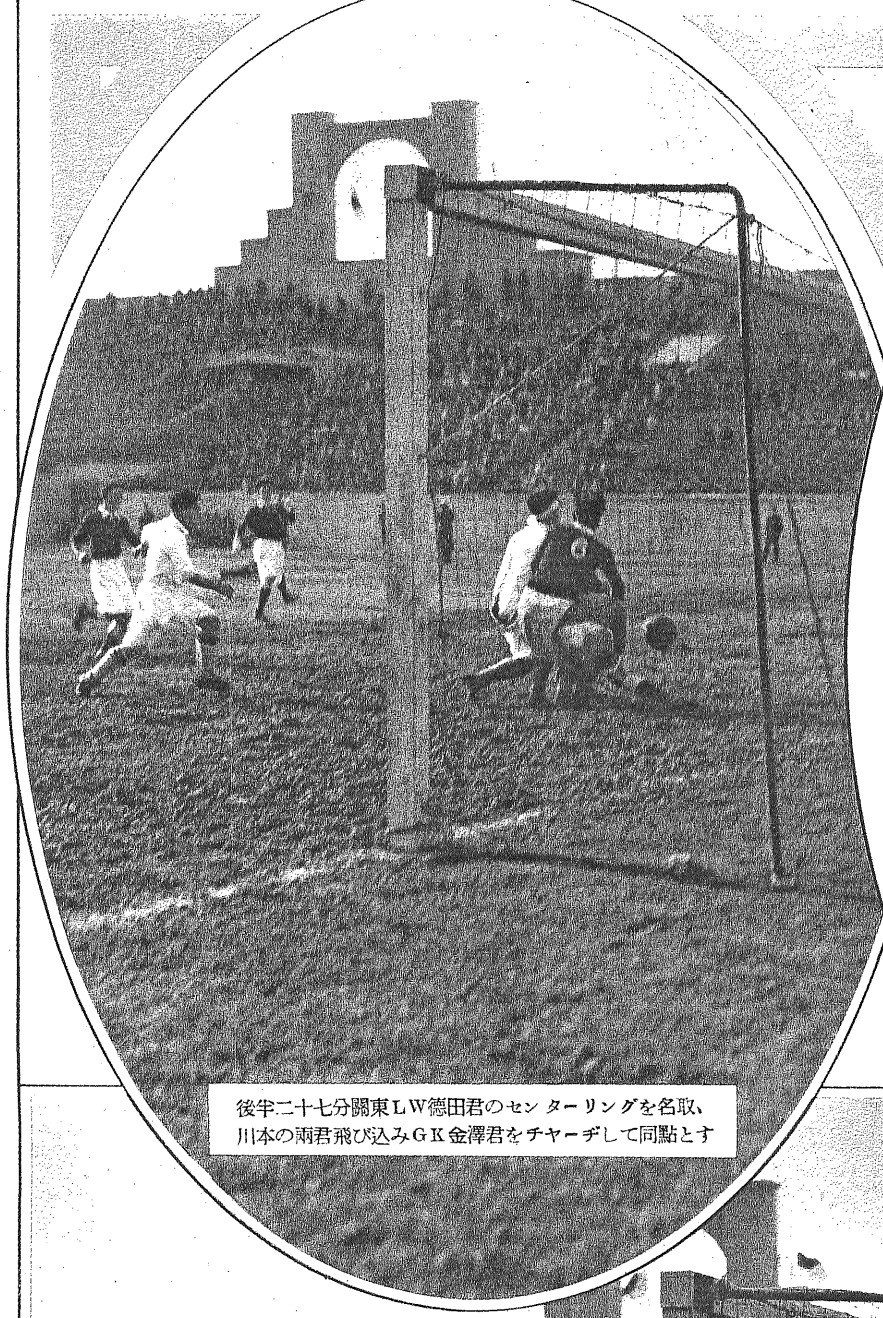
前半關東の肉薄を關西GK金澤君セーヴせんとする（楕圓內）勝つた關東チーム

後半關東の攻撃を關西GK金澤君クリアーせんとす

Third annual Kanto - Kansai soccer game, January 21, won by Kanto for the third time, with a score of 5 to 3. Top : Kansai goalkeeper saving when Kanto attacks in the first half. Center : Victorious Kanto team. Bottom : Goalkeeper Kanazawa kicking clear when Kanto attacks in the second half.

S9-2-1

一月二十一日南甲子園で擧行 5—3 で關東軍三度連勝



後半二十七分關東LW德田君のセンターリングを名取、川本の兩君飛び込みGK金澤君をチヤージして同點とす



後半三十一分關東左のCKから川本君の强蹴で得點4—3關東のリードとなる



後半三十二分關東の名取君左のCKからシュートゴールを割り試合の大勢決す

Kanto - Kansai soccor game. Top-Left : Kanto scores twenty-seven minutes after the opening of the second half. Top-Right : Kawamoto (Kanto) scores on a kick from the left corner thirty-one minutes after the opening of the second half. Bottom : Natori shoots and sends the ball squarely between the posts thirty-two minutes after the opening of the second half.

S9-2-1

東西對抗蹴球試合評

關西方の優勢後半の疲勞に空し

關東 5 (1—3 / 4—0) 3 關西

山田午郎

幸先よき關西

今年五月マニラに行はれる第十回極東選手權競技大會を控へて最強陣を布くための所產としてこのシーズン第三回の對抗である東西選拔試合は代表選手詮考の便宜のためにも從來と趣向をかへて東、西それぞれの地において二回の對抗戰を行ふことゝなり、その第一回は二十一日南甲子園球場で行はれた、京阪は十九日朝珍らしい降雪があり自然この後を承けて行はれた爲球場のコンヂションは表面ローラーをかけて地ならしされてはゐたが不良である上に濱の強風は時折の細雪を交へるといふ狀態であつた、トスに勝つた關西軍は濱風を負ひ關東軍のキックオフで定刻より五分遲れて試合は開始された。關西軍は地の利、時の利を占めて極めて好いスタートを切り一糸亂れぬ整つた戰陣を布いて試合を進めれば關東軍は相手の整つたチームに對しバラバラの布陣で不安をたゞよはし乍ら應じた、この整、不整の戰陣は果然試合の上に集團威力と個別薄力の對立となつて歷々とあらはれた。

稀らしい逆轉

果然關西軍は幸運のペナルテイキックを得て西邑君の伸びた好キックで一點を先取してから前半二點を加へ關東軍は辛くも一點を報いて3—1關西軍のリードて前半を終つた、關西軍が前半のこのリードを果して保ち得るかどうかといふ懸念より關東軍の不調が有利に戰機を導き得るかどうかといふ不安の方が遙かに上を行つたのであるが後半も對等の試合を進めた關西軍は無得點、これに反し關東軍は四點といふ大量得點を以て遂に大試合の形勢を逆轉せしめ一般の期待と豫想の前に立ち直つて三度連勝の記錄を止めることになつた、大試合としては稀らしい逆轉の熱戰であり激變を綴つて內容また十分のものてあつた、前半3—1後半0—4の大きな開きは一方的に偏した試合を思はせるが穴を捉へてのキメ手の遲速がこの相違を來したもので事實試合そのものは強風に煽られながらもスコアの示す程に一方的に偏しては居なかつた、關西軍が前半3—1の優位を勝利に導き得なかつたにしても後半4—0の差のよつて來る所のものをこの試合から見逃し得ない事は勿論である。

關西軍は老巧のOBを揃へ乍ら前半のリードによつて勢に乘り過ぎたのも一因であり關東軍が後半に入つて漸く調子を呼び戻した事もこの勝敗を決定づけたものであればOB中心と現役中心の體力の相違も見逃す事は出來ない、この日のコンヂションからして向ひ風のハイパスの不利をドリヴルに移しこれを濫用し過ぎたといふ部分的の個人の判斷錯誤がチームバランスを失するといふ結果に陷つてゐたのも因をなしてゐるのであるが關西軍のチーム編成の遠算をこの勝敗の上において單に實力の相違がもたらした結果として葬り去る事は出來ないと思ふ。

一絲亂れぬ整容

前半關西軍がペナルテイキックに難攻不落を思はしめた關東軍ゴールを先づ陷れてから追風と地の利はあつたにしても關西軍は各線とも一糸亂れず整容の陣を布いて早パスに速攻、好パスに強攻し守備を堅めてキビキビと關東軍ゴールに寄せ第二點を擧げた、この關東軍の失點は上手の手から水が洩るてFB井出君の判斷處理を誤つた不覺であつた、井出君が最後の處置をGK熊井君に委ねるものであつたと推定されるがこの失點の結果を見るまでもなくあの場合はサイドに向つて捌き出すべく餘裕もあり一足捌き出して追走すべきであつた、關西軍のLI西邑君が單身ドリヴルで堅きを誇つた關東軍のバックスを拔いて肉薄したのを斯の如く一旦奪つたのであるしLW大谷君のバックアップがあつたのであるからこの危機はゴール正面から僅かでもいゝから移すべきであつた、ゴール前に供せられたボールこの絕好の機會を何て大谷君が逸し去らう、第二點の決定は餘りにも鮮やかてあつた、向ひ風に球を流され、意外關西軍HB線の奮闘は前線供球を豐富にしFW線の活躍また意表に出でたため聯絡を斷たれてゐた關東軍は豫想に反して2—0と引離されてゐたがこの直後關東軍逆襲しCF川本君の捌いた球を忠實にバックアップしたRI野澤君きめて2—1と迫り關東軍の挽回成るを思はせたが冒頭から各ライン間のコンビを失してゐた關東はこの虛をつきまくられて3—1と離されるといふ結果を殘して前半を終つた。

光つたプレイ

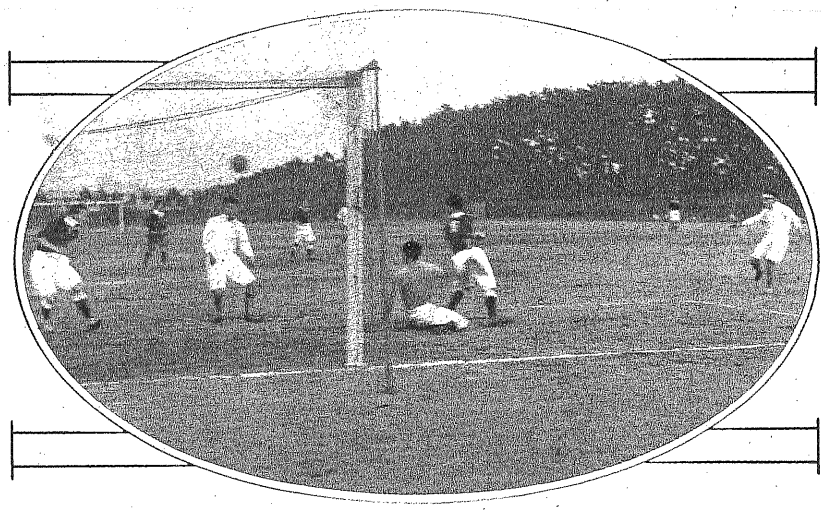
全く關西軍の有利な條件を生かして行はれた壓倒的の試合であり關東軍は不調の文字に盡きる愚戰の點綴があつた、この中に獨り求めるGK熊井君の織り出す果斷の妙技とそして水際立つた好プレイは前半十九回にわたるクリヤの中に發現されてゐた、實に偉大な最後の守備線であつた、この他バックパスに依る幾度かの強襲を巧みに切り拔けたあたり殊勳者として稱へられるべきである、關西軍の勝いくさを進める中にはPKを決定した西邑君の銳く且つ確實な動きとLW大谷君、CF東浦君の好聯絡は比較的チームバランスのとれた關西軍にとつて左に偏した嫌なきにしも非ずであるがこれによつて關東軍の策謀巧技の闘將右近君をして常に後手を引かしめて立派な成功を收めてゐた、一方RI前川君の粘り強いプレイ、センターリングを風に炙されてゐたがRW大橋君のラッシュ等遺憾なくその實力を發揮してゐた、HB線はC且三崎君小粒ながら出足早く正鵠な判斷の下に銳い動きを見せ福安君は體力を利した川西君と共に三崎君を援けチームの中樞機能としてフイードにバックアップに遺憾の點を見せず實に堂々たるHB線の形成の下に曲者揃ひの關東FW線を封じ去つた、立原、右近、高山三君の形成するHB線は日本一のラインと豫想されたがこの強力なラインの前には甚しい見劣りのあつたのはコンヂションが惡かつたとはいへ驚嘆に値するものであつた、GK金澤君、FB安部、後藤兩君とのコンビは優れてゐたとはいへ關東軍のハイ・パスを長身を利してカットするのが一際目立つただけて全く守備的に傾いてゐた、攻擊線の增幅にあたつて進出はあつたにしても攻擊線への加擔は極めて狹い範圍においてのみ行はれたといふよりなかつた。

立直つた關東

後半風下となつた關西軍の苦戰を豫想したが案に相違してキックオフから雪崩れ込んで優勢を保つかに見えたが關東軍は二分先づ左にCKを得、五分また左にCKを得るといふ樣に攻擊に精彩を示しはじめた、けれどもこれ等の形勢を觀じて關東軍の挽回は容易なりと豫想することは出來なかつた、チヤンスは一般的狀勢を以つて決定されるといふ速斷は出來ないにしても大勢必ずしも有利の條件の下に置かれた關東軍に優れるものありとはいへぬ狀態にあつた、しかし次第に制球力を整へ本陣にも餘裕を見せて立直る所ありこれに反し關西軍のバックスは漸く疲勞の色を漂はせはじめた、老巧に生きるも飽くまて忠實なプレイに終始することの出來ぬOBの主力とするチームの悲哀を暴露したといへばいへよう、チームバランスはバックスから決潰しはじめライン間のコンビは亂れるとゝもに球は鈍い動きとなりはじめた、十二分關東軍が右のCKを得たがチヤンスとして運び得ぬ隙に乘つた關西軍はLW大谷君快走後シュートしたが右前に流れ前出したRI前川拾つてのシュートも惜しいゴールアウトとなり後半における絕好のチヤンスは潰れ去つた、危機を脫した關東軍は局部的に生氣を加へ一方關西軍は衰退の兆を孕んて試合は進められ十六分右側から進んだ關東軍は大きく球を左に廻しノウマークのLW德田君とつてフリーシュートすれば球はポストを彈いてゴールイン3—2と迫る、之を契機として勢ひづいた關東軍、リードを保たんとして追はれる關西軍との間には前半の優劣を逆轉せしめて映し出した、前半好守にリードの鍵を握つた關西軍HB線も位置を誤ること多くFB線には拱手傍觀的の姿を屢次見受けるに至りFW線は關東軍の緊密を加ふるに反し前半關東軍のバラバラを眞似るかに見えはじめた。

波瀾のゴール前

個人の力を示す單的のプレイは何物をも齎らさず守備にあつてはGK金澤君の好技善闘を知るに過ぎぬものてあつた、關西軍が後半ゴールキック13を算したのは關東軍のゴールショットの定まらぬ結果によるは勿論であるが苦戰を示すものであり金澤君の七回にわたるクリヤと許した四點と更に九回のCKとを通算すれば最小三十三回ともいへようか關西ゴール前に波瀾は約三分間隔位て釀し出されてゐたといふことにもなる、この波瀾の率は數字的に示さるべきものではないが關東軍の倍數に達してゐる、3—2と縮めた關東軍は威丈高になつて試合を運び關西は萎縮し二十六分LW大谷君タッチに沿うて强引のドリブルに機會を思はせたが關東軍バックスの後退早きと自身の好走續かず有效に使用し得ずに終つたLI西邑君遲れ氣味ではあつたがバックアップしてゐる際であつたから奇襲を捨てゝリターンパスに關東軍の整備を亂す正攻法を採るのが穩當ではなかつたか、三崎君に粘り付かれて多少攻めあぐんだ形の川本君が持味を漸く示せば關東軍のセンターラリーは圓滑に球を運んて中央を割ることに成功し二十七分CH立原君の前線送球は關西FB線の背後に出てCF川本君とつて左前に送ればLW德田君これをゴール直前に返し川本、野澤兩君のラッシュてきめ七十餘分にわたつて3—3のタイとなる、關西軍は追はれるものゝ不利に陷つて潰滅の一路を辿り關東軍の意氣は軒昂、こゝにおいて實力の相違が明白となつた以上關西は一か八か捨身の一策あるを知り乍ら混合軍の悲しさはその缺點を暴露するのみて追はれざほしこの儘引分けるなどの豫想は立てられぬ破目に陷つてゐた、この後關東は左CKから川本君得意の强蹴て一點を加へリードを奪ひ關



東西對抗サッカー前半關西軍關東軍ゴール前に壓迫す
Kanto makes a goal in the first half of the Kanto Kansai soccer game.

※右ページへつづく

S9-2-1

※左ページからつづく

東左側からの強襲で三回にわたる關西のピンチはＧＫ金澤君によつて潰されたが更に左ＣＫからの球をＬＩ名取君によつてきめられ５－３となつて波瀾曲折あつた第一回の試合は關東軍の勝利となつてノウ・サイドとなつた、この經過を辿るならば關西軍は地の利、時の利に乘つて案外の善戰、關東軍は調子に乘る迄慮外の辛苦をなめたといふ事になり全く實力の相違といふに落ちるだらう。

關西の違算

この試合は實力の相違とはいへ關西軍にチーム編成方針の違算がなかつたならば前半有利の試合も六十分後において一擲する破目を見ずに濟まし得たではなからうかといふ結果論も抱かずにはゐられない、曲者揃ひの關東ＦＷ線を最後に潰さんとして老巧と好聯絡を期待し後藤、安部兩君を以てＦＢ線を布いたのは體力を無視した嫌はなかつたか寧ろ老巧に信賴したものなら現役の瀧刺さを求め將來ある持地君(京大)を拔擢し前記兩君の孰れかに配した方が六十分後の疲勞困憊にマークを放擲する結果は招かずに終つたらう、京大中野君をＲＷに据ゑる一手もあつたしＲＩとしても見たかつた、これは關學と京大との拔擢比率などを云爲するものではなく地の利に第一戰を奪ふ制勝のためベスト・チームの編成を期する點からである、關東軍が反撥し得たのもたゞ一人のＯＢ井出君を除いては張り切つてる現役闘士であつたからこその感が深くないか、餘り廣汎にわたるチームの編成と決定が前日に迫つたのと深慮が却つて關西軍を不利に導いてしまつた、關東軍はＬＷ藤岡君の負傷によつて德田君が補充されて偉勳者となり竹内君の轉勤によつて鈴木君が井出君のパートナーとなり高山君が練習不足でサイド・ハーフとなつたが期待に背かぬといへる、大事に大事をとつた關西軍は失敗であり最強主義で、一氣に陣容を決定した關東は人材多しとはいへまづ成功であつたといへる。

極東候補物色

極東の代表詮考資料を得る機會にもあてられたこの試合は二十八日における東京の第二回戰を殘してゐるので最終的決定の陣容豫想は不適と思ふがこの一戰を通じて入選十五名としてその豫想を試みて置かう。

ＦＷ　德田(東大)名取（早大）川本(早大)野澤（早大）西邑(關學)東浦（關學出）

ＨＢ　高山(東大)立原（早大）右近(慶大)三崎（關學）福安(京大)

ＦＢ　井出（早大出）鈴木(早大)安部(關學出)

ＧＫ　熊井(早大)

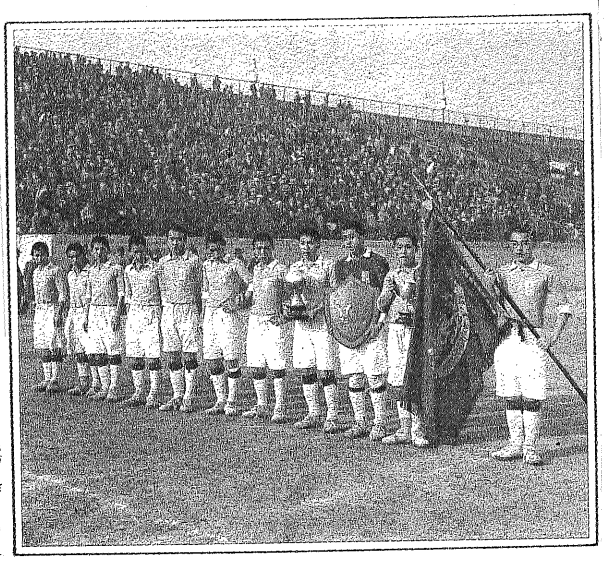
第二回戰出場の陣容は更改されると思ふから第二回戰に依つて詮考される人のあるのはいふまでもない。(一・二二)

(關東)			(關西)
德名川野永高立右鈴井熊	田取本澤地山原近木出井		大西東前大川三福後安金 谷邑浦川橋西崎安藤部澤
		FW	
		HB	
		FB	
		GK	
16		GK	18
12		CK	8
4		FK	5
0		PK	1

全國中等蹴球大會評

群雄を卻け新進岐阜師範快勝

高田　正夫



全國中等學校サッカー大會に優勝した岐阜師範チーム

Gifu Normals, all-Japan intermediate school soccer champions.

吾國中等學校蹴球選手の總てが登龍門としてそれに目標を定めてゐる全國中等學校蹴球大會はその第十六回大會を一日四日より連續四日間南甲子園南運動場に於て大日本蹴球協會主管、大阪毎日主催の下に華々しく擧行された。集まれるチームは全國十二の地方より各々の地方の群雄を征服し來れる精鋭だけあつて何れのチームも技倆殆んど相伯仲し、誠に中等學校らしき熱と意氣を込めた激戰を遘時展開した末、遂に最後の光輝ある榮冠ははじめてこの大會に出場するの權利を得た新進氣鋭の東海地方代表岐阜師範學校の獲得するところとなつて無事大會を終了した。

【第一回戰】

明星商 7—2 富山師

富山師範は殆んど毎年連續して本大會に出場し、更に明治神宮大會にもよく地方代表權を得て出場し比較的練習相手の少い地方として對外的には相當の苦心を拂つてゐる。それにしてもこのチームの被る最大の不幸は天候のために十分の練習時期を得られぬ事である。その結果でゝもあらうが對明星戰には全員の活躍に相互的聯絡を缺いてゐた。故に相手方が攻勢に出た時の守備陣には多くの缺點を藏し、轉じて攻勢における前衛間の纏りも十分ならず、得點の機會を失した事は數度であつた。ＧＫ水上の失策が續出しなかつたならば攻撃を誇る明星としてもあれ程の得點を重ねるに至らなかつたであらう。

青山師 12—0 德島商

初出場の德島商業に配するに優勝候補の一と目されてゐた青山師範は殆んど一方的ゲームに終つた。出足走力、體格、キツク、コンビネーション等蹴球における總ての必須條件は青山師範側に一段と冴えのあるものを認めた。得點の差の大であつたのは當然の歸着である。德島商業としては根本的に基礎技術なり或は蹴球そのものに對する考へを修練しなければ、一地方における優勝はさておいて、全國大會において相當の戰績を擧げるには餘程困難なものがある。

廣一中 6—0 宮城師

全國制覇を目指す廣島一中に向つて宮城師範は豫想以上の善戰を演じた。殊にＲ・Ｗ永沼を用ひての攻撃は堅陣を誇る廣島バックスを相當攪亂した。前衛中央の三人に、より以上の球に對する執拗さと粘着力とがあれば無得點に終る様な結果にはならなかつたであらう。宮城が豫想以上の試合をしたとはいへそれはたゞ單に吾等の戰前豫想を裏切つたのみであつてこの戰に現れた廣島の技術には一日の長ある事はいなめない事實である。

御影師 3—2 函館師

函館に前半の最初及び後半の始めならびに終りの元氣が持續してゐたならば全國中等學校蹴球界の名門御影を降し得るの快戰を演じたかもしれない。函館としては全くゲームに勝つて、勝負に負けたあきらめ切れない一戰であつた。御影としては幸運の試合を拾つたとも評されやう。函館攻撃度數に比較して得點の少なかつたのは、前衛の得點に向つての最後の突つ込みが物足らなかつたことに起因してゐる。猛烈な得點に向つてのラッシュがあつたならば折角一度掌中にしたゲームを御影に獻上するやうな結果にはならなかつたであらう。

【第二回戰】

明　星 4—1 長崎師

初出場の長崎にとつてはグラウンドに不馴れのためもあらうがプレヤー間に統一なく各自バラバラの動きをなしてゐた。その結果小さく動く明星の自由になつてゐたやうだ。相當の風のためでもあつたらうが明星としては調子付かぬ試合であつた。ＣＦ芹川ＬＩ林の活躍がやゝ目立つたのみであつてその得意とする攻撃戰も特に際だつた効果を現してゐなかつた。

京都師 1—0 青　師

青山は前日の對德島戰に見せた様な當りは全然でず全く見違へる様な凡戰の連續であつた。チームの中軸であるべきＣ・Ｈ西野の後半中ごろ以後の疲勞による拙戰甚だしくその結果前、後衛共に動きに統一を缺き京都前衛の活躍を廣範圍に許してゐた、それにしても兩軍ともにこの一戰に緊張し過ぎてか當然得點すべきチャンスを自滅してゐたことが1—0といふ接戰の戰績を生んだものであらう。兩軍とも敵ゴール前に起つた機會を逃さず確實にものしてゐたならば試合は更に大量の得點を相互に擧げたであらう。京都Ｇ・Ｋ中垣内がこの試合に示したゴール、キーピングは本大會隨一と賞揚され得る價値のあるものであつた。

岐阜師 4—2 廣一中

ダークホース岐阜は遺憾なくそのダークホース振りを發揮して優勝候補の最右翼と目されてゐた廣島を撃破した。廣島の陣容に前日の對宮城戰に負傷したＲ・Ｉ大山Ｌ・Ｂ松元の不出場は大いなる傷手であつた。さしも整備を誇つた攻撃も二名正選手を失つて意の如くならず更に精神的負擔も加重して本年こそはと自他共に許してゐた優勝の榮譽を投げださねばならなかつた。

1—1と同點となつてからの廣島の焦慮は甚だしく岐阜ゴール前の機會を數度自ら逸し去るの凡戰を繰かへした。何れにしても廣島にとつてこの一戰は全く不覺の凡戰であつた。

御影師 5—0 埼玉師

埼玉は意外の不振であつた。常勝軍御影の名聲に威壓を感じた譯でもあるまいが御影の意のまゝの試合であつた。我等は近くに良き相手チームを多く持つ埼玉に相當の期待をもつて望んだものであつたが全く待望は裏切られてしまつた。良き練習相手、長き練習期間良き試合を見る機會などに惠まれること少い地方のチームより却つて見劣りのしたことは誠に惜しむべきことである。

【準優勝戰】

明星商 4—1 京都師

ゴール前におけるショットの時機の判斷とその確否がこの試合の結果を左右したものである。京都としては對青山戰に自由に用ひてゐたヘッデイングの威力を現さなかつたことも敗因の一に數へ得やう。更に兩サイドハーフの布陣の不正鵠は明星前衛の廣範圍にわたる活躍を許す結果となつた。明星として弱點とされてゐたバックスの當り激しく爲に前衛をして後顧の憂ひなく奮戰する事の出來得た事はＬ・Ｂ寺井、Ｇ・Ｋ中村等の健闘によるものである。それにしても本大會のベタラン京都Ｌ・Ｗ鍋島の善戰もこの試合をして京都に凱歌をもたらず誘因を作るに至らなかつたのは惜しい事であつた。

岐阜師 4—2 御影師

本年の御影は攻防共に從來に比し不整備であつた。彼等が準優勝戰まで進み得たのはその最も誇りとする疲勞を覺えぬ頑張りと壯烈なる戰闘意識の賜ものであつた。對岐阜戰は技倆全く伯仲し勝負の豫斷困難であつたが不運な三點を連續岐阜に得られて、得意の追撃戰も功を奏さず新進岐阜に名を成さしめた。

あまり多く我等の目に耳に親しみを持つてゐる古豪御影の敗北に我等は一抹の淋しさを感じさせられた。

【優　勝　戰】

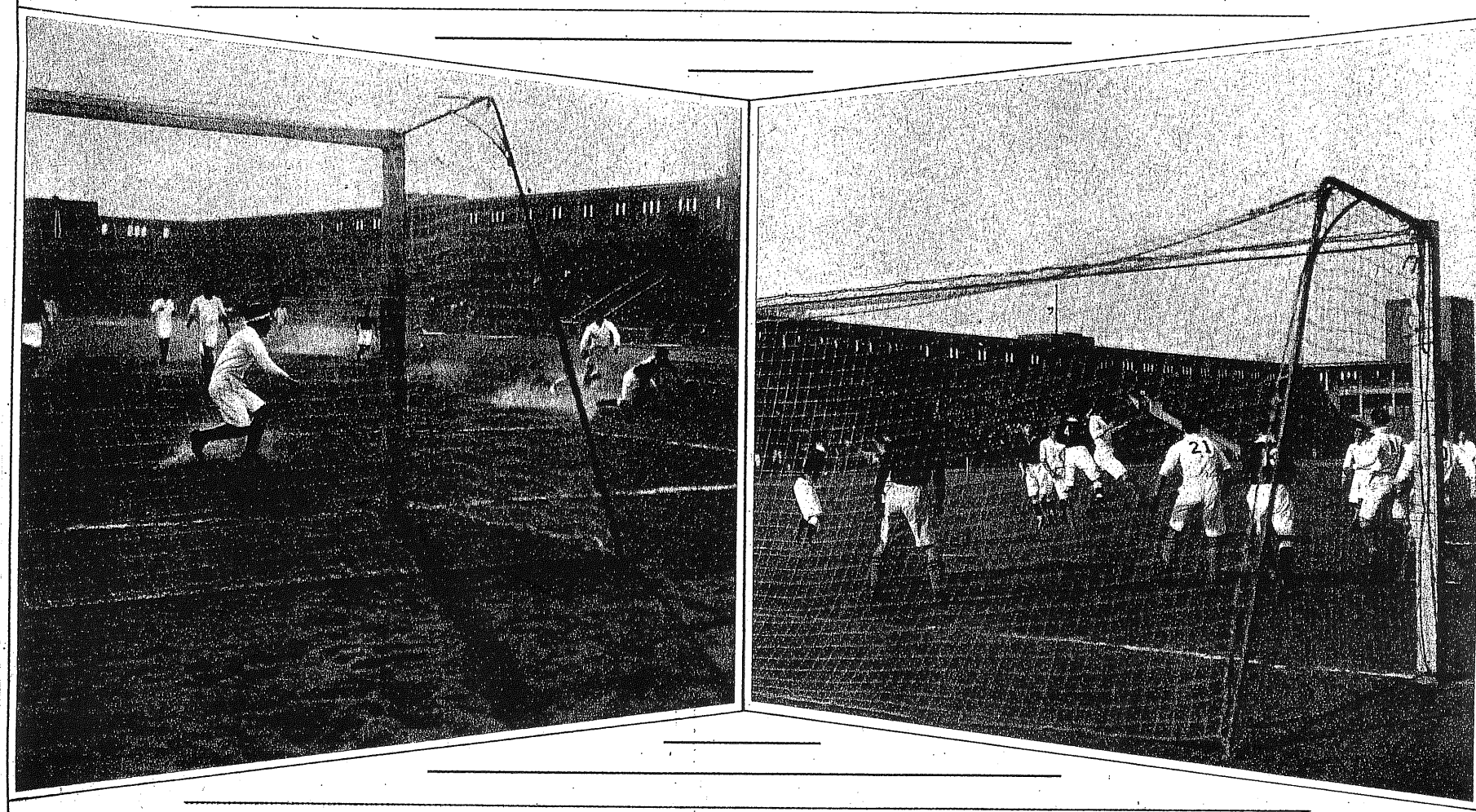
岐阜師 8—4 明星商

四―一と開きながらタイムアップ數分前に續け樣に三點連取された結果延長となりその後は續けて四點を岐阜に與へたこの戰ひは全く明星にとつてあきらめ切れぬ試合であつた。

絶えず得點をリードされながらも最後まで試合をすてずあくまで頑張り拔いた精神力の一致が岐阜の優勝といふ大事業を完成さす根元をなしてゐるものである。岐阜のこの尊ぶべき團結一致の精神力を讃へると同時に最後まで正々堂々と攻整陣をはり續けた明星の純心そのものゝ如きプレーにもまた多大の敬意を拂ふものである。

S9-2-15

第二次關東、關西選抜對抗蹴球試合——一月廿八日擧行 6—1 關西勝つ



前半關西西邑君のドリブルを關東GK熊井君潰さんとして逆に潰され鈴木君のゴールカバーで辛くも危機を逃る

前半關東ゴール前の混戰

Second Kanto-Kansai association football game, Jan. 28, won by Kansai 6-1. Left: Kanto hardly defending itself against the dribble of Nishimura (Kansai) in the first half. Right: Confused struggle before the goal of Kanto.

東西對抗蹴球一勝一敗

關西の勝因はキツク の正確と長蹴戰法

山田午郎

關西 6(1—1/5—0)1 關東

谷口井川野西崎地藤部澤	FW	藤名川塚長高大右鈴井熊谷
大西堺前中川三持後安金	HB	岡取本部川山崎近木出井
	FB	
	GK	
7	CK	8
3	FK	5
18	GK	14
2	OS	1

關東の違算

東西選抜對抗蹴球第二次試合は二十八日神宮競技場で擧行、第一次試合5—3の關東軍勝利はこの日前半1—1で後半に大きな期待と興味をかけさせたのであつたがキックの優れた關西軍は長蹴轉法を加味して試合を大きく展開させ僅か七分の間に四點を加へて試合を決定し更に一點を加へ6—1で快勝し一勝一敗となつた。

快晴、軟風、フキールド・コンヂシヨン頗る良好でシーズン掉尾を飾る大試合を行ふには上乘のコンヂシヨンであつた、けれ共試合内容は極めて貧弱で東上の不利であるべき條件の下にある關西軍の橫行濶歩といふ結果を見せて東西選抜對抗試合優勝預りといふ事になつて終つた、殊に極東大會代表決定といふ副次的の目的も加へられてゐた結果から見れば關東軍には大なる違算を生じたものでこのシーズンの狀勢から豫想された極東大會代表關東七割關西三割といふのも完全に潰されてしまつた、副次的目的からいふならばこの東西選抜對抗は關西側の大成功といふべきであらう。

兩システムの衝突

關東軍は第一試合におけるC日立原君が慈母を喪つて服喪中のためHB線編成に支障を來しその他第一次試合の負傷者もありチーム編成には苦辛させられた跡歷々たるものがあつたが、豫想されたところから見れば豫備軍による編成であつても關東勢は關西を邀撃粉粹せねばならぬはずであつた、副次的目的からすれば重要であるべきこの第二試合を關東軍はなぜ失つたかこれは頗る興味ある問題であり關東方の究明せねばならぬことであると思ふ。

辛苦の末に細かく寄せる關東軍の攻撃はゴールに近く寄せ切れぬうちに關西軍バックスの優れたキックで形勢を一擧に不利に導かれるといふ有樣でこれを大まかに見るならばロングキック・システムとショウトキック・システムの正面衝突であつた、いはゆる地方的傳統の技風の對立で關東軍は潰えた、これが單一チームにおいてならばそれぞれその進むべきを知り應ずる策はあつたはずであるが支柱のない選抜軍の支柱のない大きな屋台はロングキックの嵐にあつて應急加工の術を知らず遺憾ない缺陷の暴露で終つた、勿論關東軍は不調にあつた、これに反して關西軍は第一次の有利な試合を落して蹶起し捲土重來の意氣を以て東上したホームグラウンドに迎へる有利もFW線の攻的結成、バックスの第一次における名譽回復を期した焦燥は結合の上に大きな波紋を描いた、この歪んだ波紋は收拾される所か次第に惡化して支離滅裂となつて終つた、結果は正に當然である。



第二次東西選抜對抗蹴球試合に勝つた關西チーム
Kansai team who won in the Second Kansai-Kanto association football game.

整備の關西

C日の重要な位置を占めた大崎君は果敢その所信を斷行すべきであつたが第二次に登用されたためか躊躇して惡闘に終始した、これは違算の甚だしいものであつた、寧ろ二度の出場となる高山君を中央に据ゑるのが適材適所であり大崎君を生かす方法でなかつたか、拙いスタートを切つて試合中途にしての交代が何にならう、技術的に結合を求め得ても精神的にこれを缺く選抜軍においてかかることは全く非効果的であるはずだ、FB線も第一次試合に比したなら雲泥の相異、きはめて不良であり、FW線の右側はまたFB線の不調に劣らぬものがありGK熊井君も判斷處理をたゞ一本の軌道にのせて行つて失敗してゐた、關西軍は中野、持地の初登場者が異なるポヂシヨンを與へられて去就に迷つた他はいづれもよいあたりにハチ切れさうな元氣を見せて全線は整備されてゐた、後半バックスの長蹴にFW線のダッシユをきかせての急激なる戰局打開を策してからは全線その個人の持味を發揮して潑剌さを盛つた、細かな寄せと大まかな寄せの對戰、關西軍バックスの放つロングキックは空襲にも似てHB線とFB線、FB線とGKの間を衝いて爆撃効果は百パーセントであつた、何れにしても關西軍の優れたキックが物をいつた、勝敗の分岐

※右ページへつづく

S9－2－15

※左ページからつづく

こゝにあつたこといへよう選抜軍編成にはたゞよく蹴り得るものをセレクトすればいゝといふことがこの試合において經驗させられたのではないか、システムでは全く行詰つたこといつてゐるがこの試合を見れば關東勢はシステムの行き詰りを云々する前に基本としてのキックを再吟味せねばならぬと思ふ。

溜飲三斗をさげた關西軍完敗したとはいへ關東軍にも收穫のあつた第二次試合であつた。

極東大會代表チームの檢討

【FW】大谷一二（神高商出）西邑昌一（關學）名取武（早大）川本泰三（早大）堺井秀雄（關學出）野澤晃（早大）中野重美（京大）

【HB】川西隆（關學）高山英華（東大）立原元夫（早大）石近德太郎（慶大）

【FB】鈴木保男（早大）後藤敏雄（關學出）井出多米夫（早大出）安部輝雄（關學出）

【GK】熊井俊一（早大）金澤宏（京大）

【補缺】三崎四郎（關學）大崎辰彌（慶大）堀江忠男（早大）松永行（文理大）藤岡博（慶大）纐纈八郎（慶大）纐纈六郎（慶大）

東京における第九回極東選手權大會において比軍に快勝し中華と引分けて制覇を遂げなかつたが第三回以來（第四回マニラの大會は不參加）五回の出場で何れも中華のために連敗の屈辱を被つた中華と引分けて宿志を達するのはいよいよ近きを思ふ中に近くマニラの第十回大會を迎ふることゝなつた、蹴球は全日本地方對抗選手權大會、カレヂ・リーグ、東西優勝對抗戰、東西選抜試合等とに代表選手の詮考資料を求めた未去る五日漸く最終的の決定を見た、選手個人の學業や就職の關係もあつて異動あるのも慮られて補缺六名も決定した、ポヂションの補充が原則であるから各ラインの缺を補つてゆくわけであるが名Hプレイヤー高山君（東大）の出場が懸念される位で殆んど動きない陣容として見られる。

大體において一月二十八日行はれた東西選抜試合第二次戰の結果からすれば可もなく不可もなく豫想された顏觸れでもある、もし第二次試合も關東軍の勝利に歸してゐたならば勢の趣く所關東9－8關西といふ結果は想像されない、このシーズン掉尾の試合實力からすれば詮考に苦心の程がうかゞはれ先づ無難の結果である、リーグで優勝し東西優勝試合で勝つた早大は勝てば官軍で七名といふ殆んど半數近い選手獲得は他から見れば多いやうでもあり、早大からすれば不足とも見られる、議論のあるところだが勝てば官軍の早大が代表チームの根幹をなし代表チームに生命を與へるといふことになつたのは早大の滿足といふ局部的の滿足よりわれ等の代表として力強い事であり、この詮考の成功であると思ふ。

◇　◇

關學は黃金時代の三雄に現役二名を加へて五名で早大に次ぎ京大二名の東大、慶應、神高商各一名は萬遍なく行きわたつたといふよりも事實がそうであつた。然し第二試合に登場して天晴れ榮譽を獲得した堺井君は關西軍が第二次戰を奪つた殊勳者であるが二回共健闘した三崎君に較べたなら幸運兒であつた、もう一人の增員が許されるならば他のラインに比して淋しい（尤も後藤君などは擢用出來るが）HB線に一枚加へたい所だ、現役の十二人に對しOBの五人は意氣で進める（現役選手のプレイに對し熟慮で行くOBの沈着を配して妙ともいへよう、總監督鈴木君は第八回上海大會當時の主將であり選手監督竹腰君は第七回のマニラ大會の經驗を踏んでから第八、九と三回代表の光榮を擔つた恐らく球界の空前絶後ともいふべき千軍萬馬の間を往來した勇士であつて見ればチーム編成は華比のそれぞれに異色を盛つて應ずるであらうから差し控へることにするが運用の妙を得たならば十七人十七色とりどりの趣をたゝへてゐるだけに制覇の期待も空しくは終らぬであらう。

◇　◇

七選手中井出、後藤の兩君は東京大會からの猛者その沈勇は大いに期待したい、たゞこの兩君がFB線にあり他は何れも血氣にはやる若武者、純情を以てこの極東大會ばかりは切り抜けられぬ、鈴木、竹腰兩君が大いに策を授けるであらうが各自一步を老獪なプレイに進める要はある、HB、FB、GKのラインは編成可能と見られるがFW線は苦心を要するであらう。就中RWのポヂションは至難ではなからうか、中野君が授けられるであらうこのポヂションに中野君を馴れさすことがFW線編成の急務といへる、關係を持つ立場からすれば種々意見のある所であらうが近來にない粒を揃へたものといへるだらう

渡歐四谷君優勝

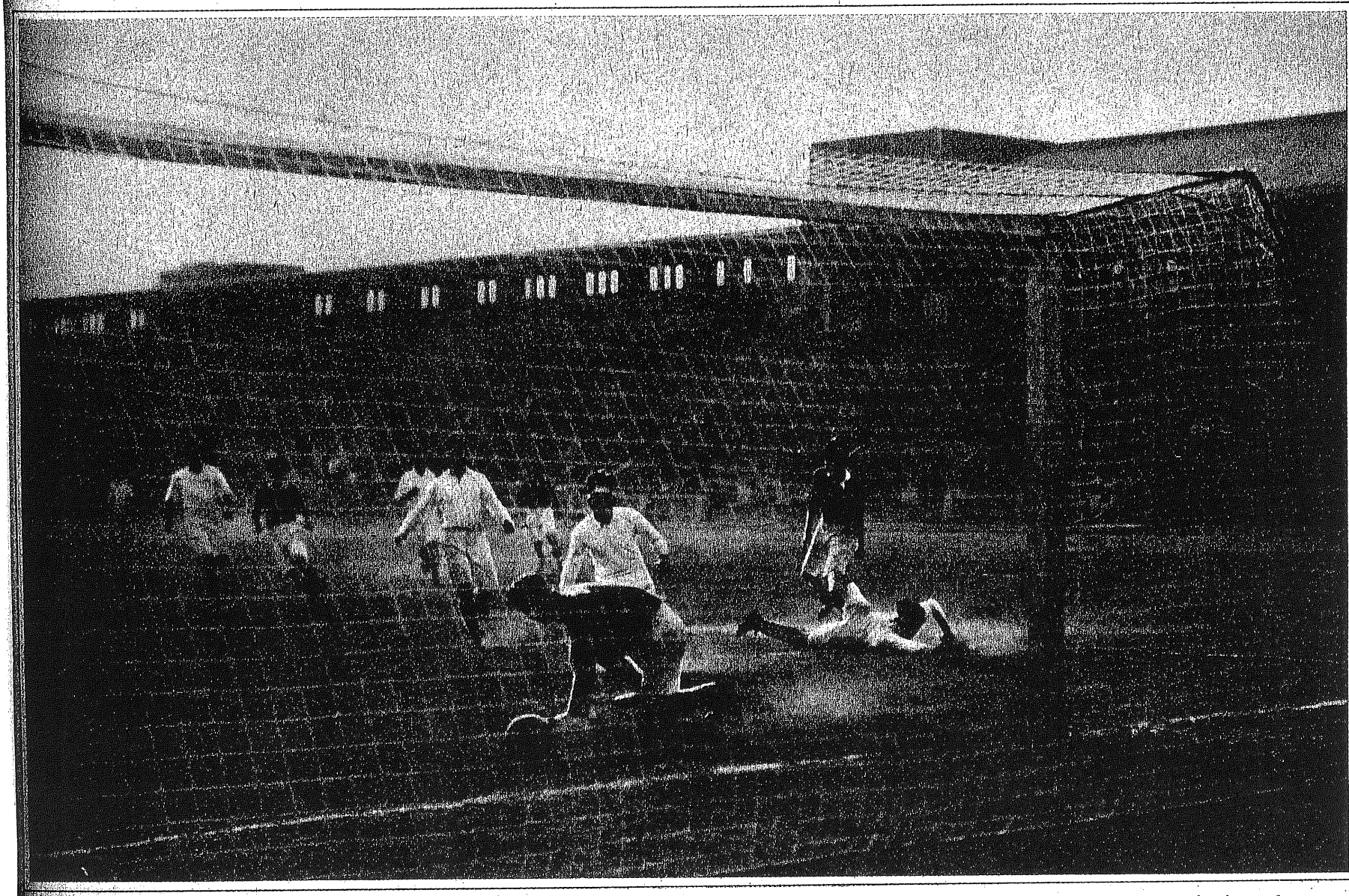
瑞西に開催のジヤンプ大會で

第十回萬國學生スキー大會に出場のため去る一月二十二日ウエンゲンに到着した日本代表選手一行は二月八日よりの大會を前に猛練習中一月二十八日グリンデルワルドのジヤンプ競技大會に出場。

四谷選手（小樽高商）三二三・六點を得て第一位となつたが、記錄は第一回五〇米、第二回五二米、第三回五三米である、その他竹內（法政）選手は五等、栗山（早大）選手は十等となつた。

蹴球の滿洲遠征

大日本蹴球協會では本年マニラの極東大會に派遣する代表を來る一月二十一日（甲子園において）、同二十八日（神宮において）の二回にわたり東西リーグの現役およびOB三十名の選抜を行つて十五名の代表を詮考することゝなつてゐるが、更に殘りの十五名は五月中旬から約一ケ月蹴球を國技とする滿洲國に派遣して我が運動界の滿洲遠征の魁をなすことゝなり記念の大カップを携へ新京その他の都市チームと對戰して日滿スポーツの親善をはかることゝなつた。



關東關西對抗蹴球試合　後半十九分關西OH三崎君の左前送球を關東井出君カットを仕損じ關西の大谷君ドリブルシュートして2—1とリードした場面

Kanto-Kansai association football game. Otani (Kansai) leading the game 2-1 by a dribble-shoot in the second half.

S9-3-1





一月中旬英國で行はれたF・A盃爭奪蹴球試合の第三回戰の寫眞で(上)は一對一の同點に終つたチエルシー對アルビオン戰、チエルシーのゴールキーパーがアルビオンの攻撃を防いだところ(下)はトツテンハム對エバートン戰、エバートンのゴール前の混戰、三對零でトツテンハムが勝つ

Third round of F A Cup association football games, held in England early January. Top : Chelsea vs. Albion game. Bottom : Tottenham vs. Everton game.

S9-3-1



Barber (Chelsea) heading in the fourth round of the Chelsea — Nottingham Forest game in the F. A. tournament, England.

イギリスF A 盃爭奪蹴球戰の第四回戰チエルシー對ノツチンガム・フオレストの試合、チエルシーのバーバー君のヘツデイング

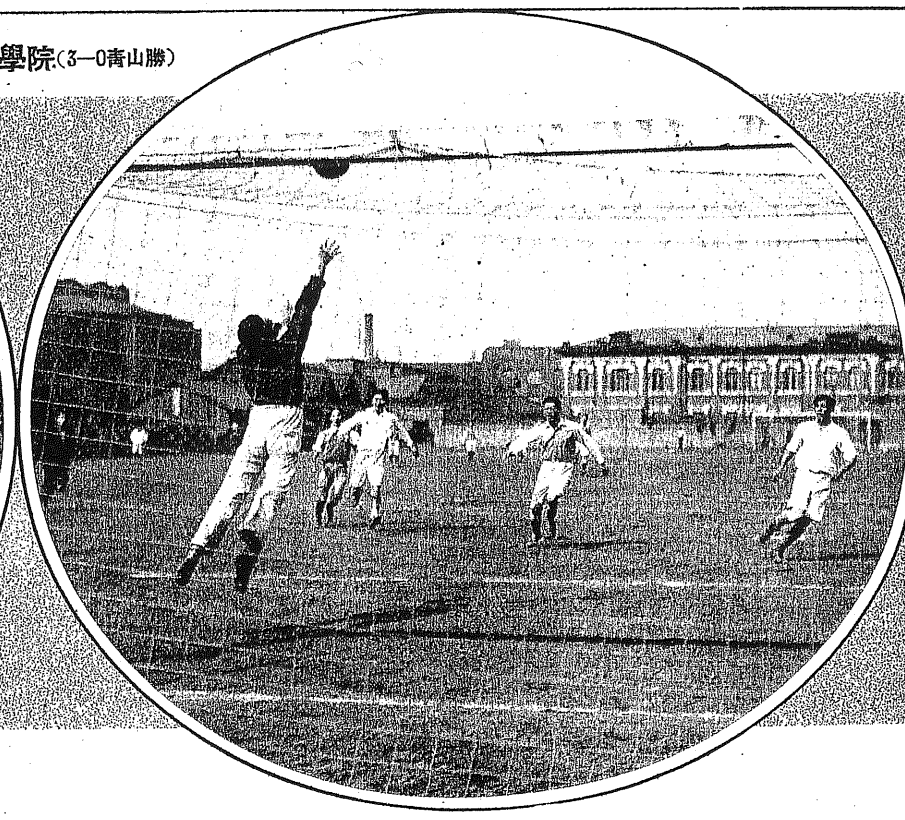
S9-3-15

三月四日行はれた東京各大學OB蹴球試合

明治對青山學院(3—0青山勝)



明治GK原田君の躍進遅く青山服部君得點する



明治原田君、青山の攻撃をセーヴする

慶應對文理大(2—1慶應勝)



慶應伊東君のシュートを文理大GK鹽澤君セーヴ

帝大對法政(5—0帝大勝)



帝大中島君のドリブル、タックルせんとするは法政西川君



法政小仲君のキックしたところ

Top : Two views of the Meiji - Aoyama Gakuin OB association football game, Tokyo, March 4, won by Aoyama 3 to 0.
Center : Shiozawa (Bunri goalkeeper) saving in the Keio - Bunri OB association football game, March 4, won by Keio 2 to 1.
Bottom : Two views of the Hosei - Imperial OB association football game, March 4, won by Imperial 5 to 0.

S9-4-1

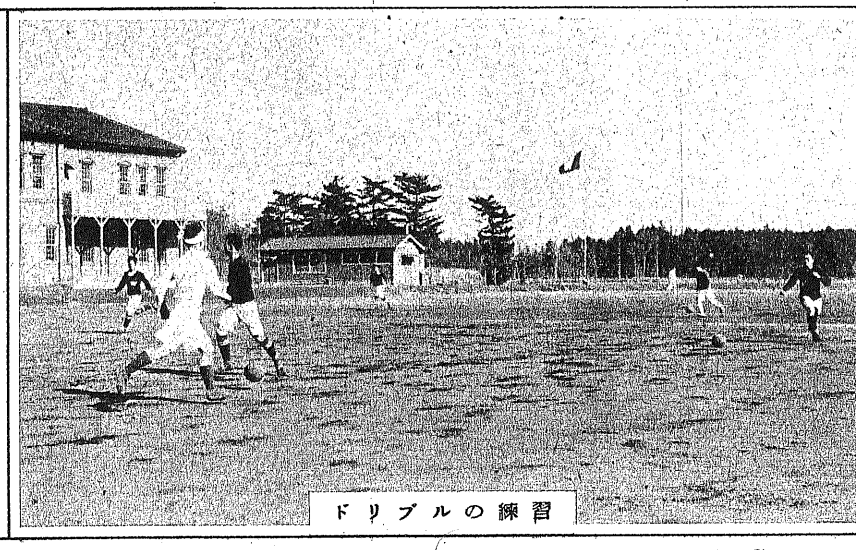
第十回極東選手權競技大會出場蹴球選手の練習



ゴールキーパー金澤君のキーピング



ウオーミング・アップ



ドリブルの練習

Three photos of the association football squad that will compete for Japan at the Tenth Far Eastern Amateur Athletic Championship Games.

S9-4-1

東京OB蹴球リーグ戰

早大案外脆く慶應に敗る

島田　晋

東京大學ＯＢリーグ戰は二月十八日から三月十一日までの毎日曜日、帝大球場において行はれた。參加テイームは昨年の六テイームに新に青山學院を加へた七テイーム、之を慶大、青學、文理大、明治をＡ組に、早大、帝大法政をＢ組にと二組に分け兩組の優勝者が決勝戰を行ふことになつた。結果はＡ組では慶應が、Ｂ組では早大が昨年の覇者帝大を三對一で破つて優勝し、結局早慶兩イレヴンが決勝を爭つたのだが、早大案外にもろく、六對二の大差で慶應が優勝した。

この決勝戰における慶應の勝因は、ＨＢ線が味方のＦＷと共に球を持ちつづけ敵の前線供給は殆ど之を遮斷した點にある。早大は前半風上に位しながらその攻撃方法の單純さの故に二點しか得點出來ず、後半は風下と慶應ＨＢの活躍にそのＦＷとバックメンの間を切離されて、攻撃指揮者ＣＦ鈴木老はのどかな散歩を本郷球場に樂しんで居られた。

◇──◇

早大の中央突破を主とする單純な攻撃方法は、帝大に對しては効果的であつた。帝大が竹腰、高山、手島等の超一流級を持ちながらもその他のメンバーとの不均衡さの故にテイーム全體としての力の發揮が不十分であり、それにも拘らずショートパスを主とした複雜な戰法をとつたのに對して、早大が上述の戰法によつてまんまと成功したことは極めて興味の深いことであつた。

文理大は日本蹴球界の先導者佐々木等をはじめ、他テイームに比して比較的に年齡の多い人々をふくめ、横原、竹内等の精悍な所を並べて居たが、青山學院の全員後退しての密集防禦に對する攻撃方法を誤つて不覺の敗戰を記錄した。文理大イレヴンの戰術的理解の低さを惜しむと共に、新進青學の異常な善戰を賞すべきである。そしてまた、明治、法政は、テイームのまとまりと各人の闘志といふ最も基本的な點に於いて、青學の前に恥ぢるべきであらう。

◇──◇

このリーグ戰が勿論將來年と共に質的にも量的にも發展して行く事は疑ひのない所だが、一層その發展を早めるための一方法として試合の時期をもう一月遲らせてはどうかと思ふ。現在の制度では二月中旬から三日初旬にかけて行はれる關係上、今年卒業する筈の人達は「準ＯＢ」として、この試合には成可く出ないやうに、出ても現役當時のポヂションにはつかないやうにと云ふ不可解な制限つきの別扱ひを受けてゐる、何のことはない、「この試合は我々老人共の遊ぶ試合なのだから、お前達若い元氣な者達は遠慮せい」と云ふのだ。私は試合主催者のこの根本的に誤つた態度に反對する。現在は日本の蹴球が國際的な水準への急行軍を開始しつつある時だ。從つて質的な向上のためにあらゆる努力がはらはれなければならず準ＯＢをわざわざ不馴れなポヂションにつかせその實力の發揮を故意に阻害するやうな規定は全く害あつて益なきものだと想ふ。そこでこの試合の期間を一ケ月遲らせて、新卒業者の出て來るのを待つて、これを夫々正規の位置に就かせて試合を行ふとすれば、このリーグ戰の試合内容は、昨年や今年のそれより遙に高められるに違ひない。

◇──◇

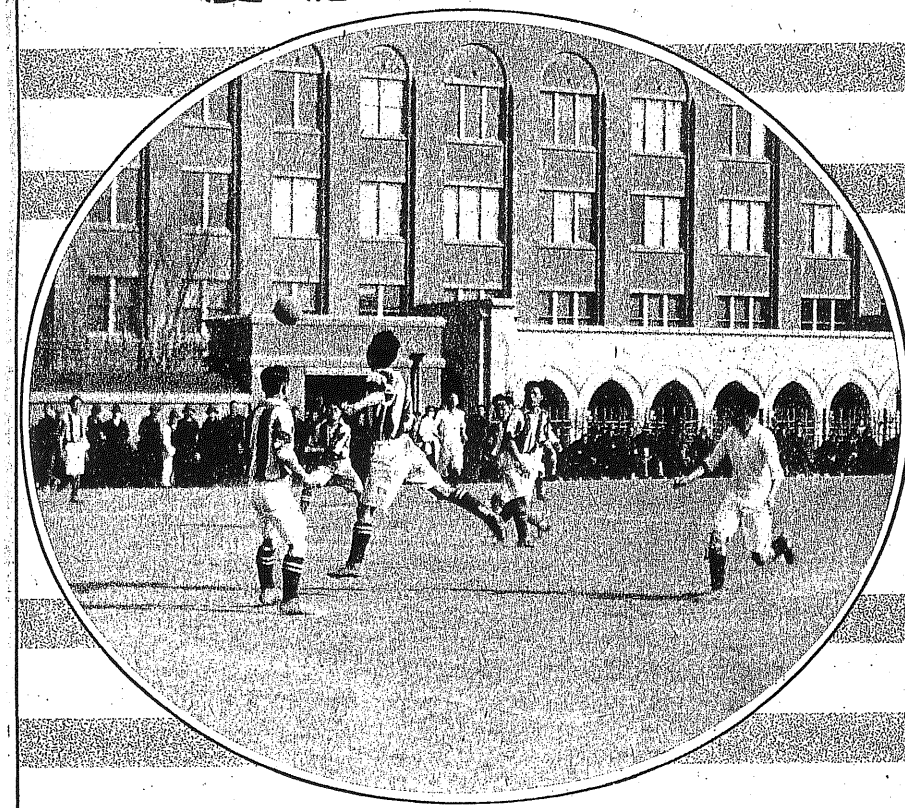
現在の制度では、主催者自身が既に上述の如き「遊び半分」な氣持を持つてゐるので、プレイヤー自身にも眞劍な闘志が缺け、從つて練習不足による身體のぎごちなさ、多くのミスが目立つ。觀衆はプレイヤーの拙劣さに喜劇をでも見るやうに笑ひ興じてゐるが、これはむしろ喜劇ではなく悲劇なのだ。

ＯＢとは「オイボレ」の略語ではない。ＯＢになつたからといつて、蹴球を理解し愛する氣持に變りはなくましてや試合に臨む態度に變りがあつてはならない。「ＯＢだから現役程までにやらなくてもいゝさ」といふ風に考へてゐる人があつたとしたら、その人は蹴球のほんとうの面白さが那邊に存するかを知らず、またその面白さの味はひ方を知らない人なのだ。

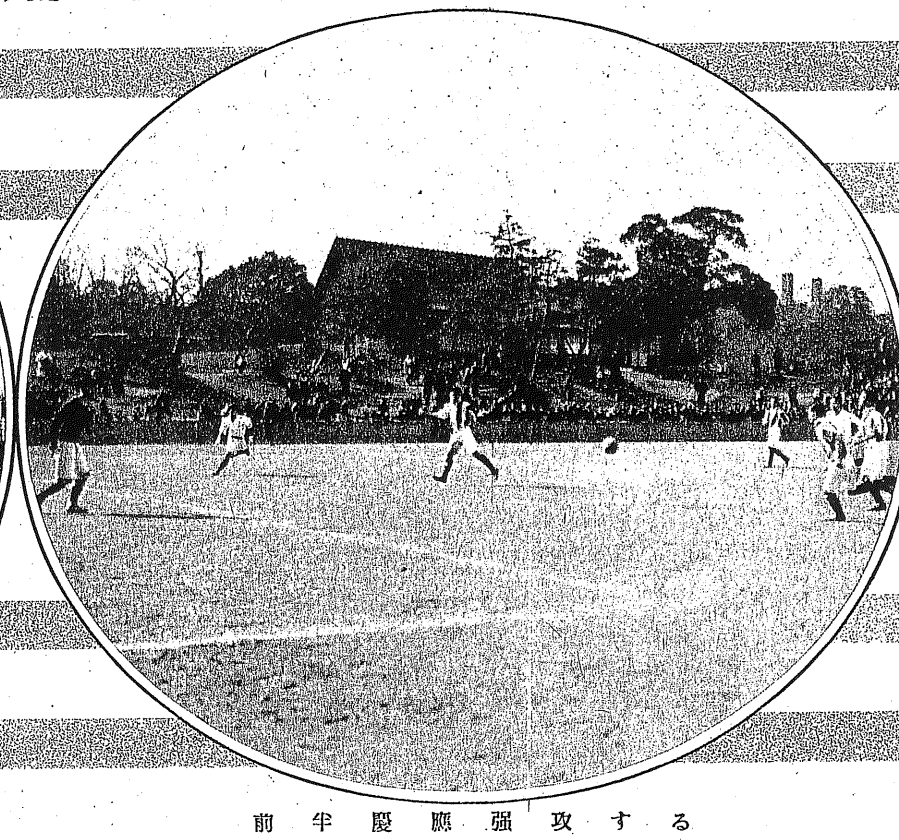
もう二、三年經つて、丁度近代蹴球戰術の勃興期と建設期の中に育てられた人人のみによつて各ＯＢテイームが滿される時になればＯＢリーグ戰の面目は現在とは全く變つて了ふだらう。

S9-4-1

慶應OB・早稲田OB蹴球試合——三月十一日擧行 6—2 慶應優勝



前半早大HB井出君ヘヴディング直後



前半慶應強攻する



後半早大ゴールキーパー伊藤君、セーヴせんとする刹那



後半慶應第四點を入れる

Waseda OB - Keio OB association football game, March 11, won by Keio 6 to 2. Top-Left : Ide (Waseda) heading. Top-Right : A Keio attack. Center : Ito (Waseda goalie) saving. Bottom : Keio scoring her fourth point in the second half.

S9－4－15　　第7回 極東競技大会の思い出

第七回大會の蹴球

何よりも暑氣が大敵

神田清雄　三宅二郎

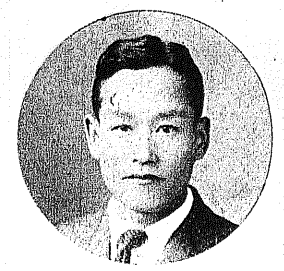
神田　何といつても大きな問題は暑氣を如何にして克服するかといふことでした。暑いといふことは行く前に聞いてゐたので覺悟はしてゐたが、さて着いて見ると豫想外に暑氣が強かつたのでいささか閉口しました、今度の大會にはマニラに行つたことの經驗がある竹腰君がコーチとして行



神田君

かれるのだからこの暑氣に惱まされる點に對しては相當注意を拂はれることと思ひます。

三宅　さに角暑かつたですね、かう言へば甚だ腑甲斐ない話ですが、餘り暑いものですから無我夢中でたゞボールのあとを追つかけてゐたに過ぎませんでした、試合當時のことを想ひ返しますと、眞に汗顏の至りです、徐々に暑くなつたのならばまだしもですが、急に暑くなるのだから身體の調子が何だか變でした、その上食事が進まなかつたものだから餘計にコンデイションを悪くしたのでせう、それに水泳や陸上のやうに短時間に勝敗を決して終ふ競技と違ひ一時間餘を走り廻らなければならないのだから技術的方面の研究は勿論必要なことではありますが、それと同樣に身體の調子を如何にして最良なものにするかといふことを念頭に置く必要がありませう、その點フイリツピンにすればホーム・グラウンドであるし、また支那にしても恐らく暑いところに慣れてゐる香港チームが主となつて選ばれることでせうからコンデイションは日本チームが一番不利な立場に置かれてゐる譯です、全試合を最良の狀態に置くといふことは勿論必要なことではありますが、しかし、相手が調子づかない裡に機先を制することが肝要です、立ち後れると最後まで不利な條件がくつつき勝ちで、調子を取り戻すのになかなか骨が折れますから、要するに立ち出しの調子を最高に持つて行く必要があります、比律賓には勝てないことはないと思つてゐたところが、結果は支那に豫想外の好戰で二對零の接戰であつたのに反し比律賓には四對零の大きなスコアーで敗北を喫して終ひましたね。



三宅君

神田　それは比律賓にはどうしても勝たねばならないと思つてゐたものだから餘り固くなり過ぎたためで、ところが支那に對しては輕い氣持ちで戰ひ得たから比律賓の試合より良好な結果を殘し得たのでせう。僕等が行つた當時とさら現在のわが國の實力は非常な進歩を示してゐるから、比律賓に對しては、いくら悪く豫想しても負けないと思ひますが、支那は依然强敵でせう。

三宅　フイリツピンでは目下候補選手を集めて猛練習をやつてゐるやうですが、今度は是非とも日本を負かさねばならんと非常に力んでゐるやうです、しかし先達つて候補選手とマニラに寄港したイギリスの東洋艦隊のイーグル號と試合をした記事が出てゐましたが、大した結果を擧げてゐませんでしたから今回のフイリツピンのチームは先づ問題ではないと思ひます。

神田　支那のチームの戰法はかつて日本でもよくやつたやうに殆んど兩ウイングを利用して攻めて行くといふ有樣で、日本のやうに臨機應變、長短併せ用ひるといふ合理的なパス・ワークがないから、戰法においてはわが國の方がはるかに上であります、また彼等の單調なアタックに對しては防禦し易いです。

三宅　しかし彼等のフット・ワークは先天的な巧さを持つてゐるからボールを持つてゐるものを完全につぶして終はないと、うつかりするとそのまゝするすると拔かれるおそれがあるから要心せねばならない、この前東京で行はれた大會のときのやうに……恐ろしいのはたゞそれだけです、フイリツピンは技術的には何等心配するところはありませんが、何分最近の不成績を取り返さんと、一生懸命になつてゐるし、またグラウンドを取り卷く白衣の觀衆の聲援は、わが選手の神經を相當いらだたしめるに違ひないでせうから、相手の調子づかないうちにガチヤンとやつて置いた方が試合を樂に運べます……今度の遠征には十七人の選手が行くので選手のうちで調子が悪い人が出來てもその補充は樂ですね。

神田　心配なのはピツク・アツプチームであるからコンビネーションを如何にして最良なものに形成するかです、勿論目下合宿練習でもその點大いに留意してゐませうしまた今までにもピツク・アツプチームで戰つた經驗もありますから萬遺漏のないこととは信じてゐますが、しかし技術以外に最も大切なことはプレヤースがお互ひに精神的にカツチリと結び合つて欲しいことで、いはゆる心身ともに完全なコンビネーションを望んで置きたい、さうすれば今度の制覇もあながち難事ではないでせう。

S9－4－15





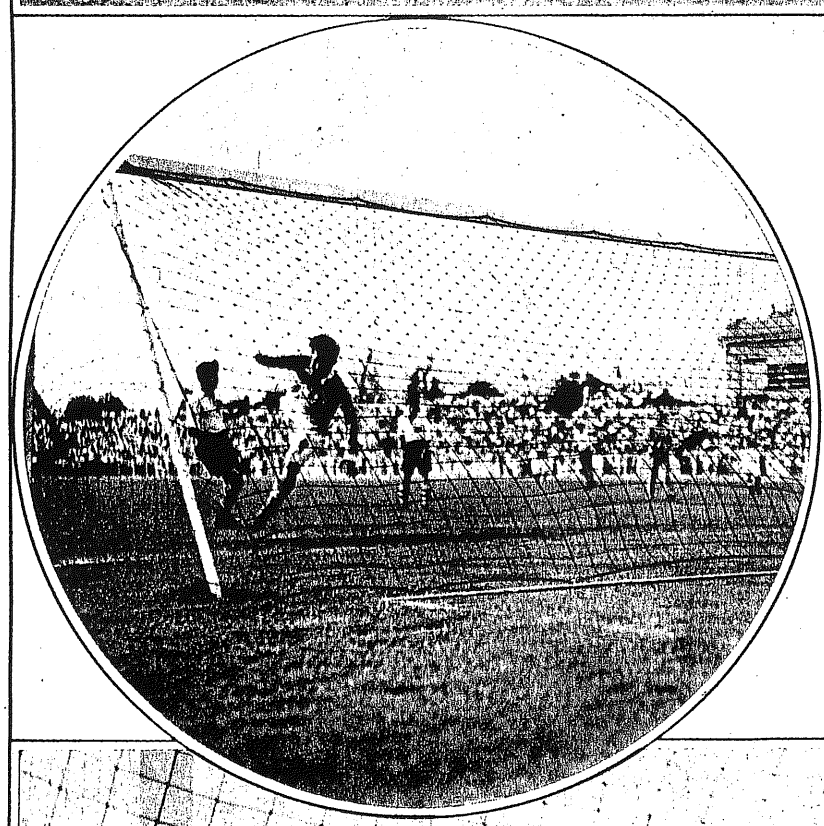
過般東京で行はれた第三回實業團蹴球大會の優勝戰日立鑛山對慶應病院、左は日立ゴールの危機、右は慶應ゴール前の混戰

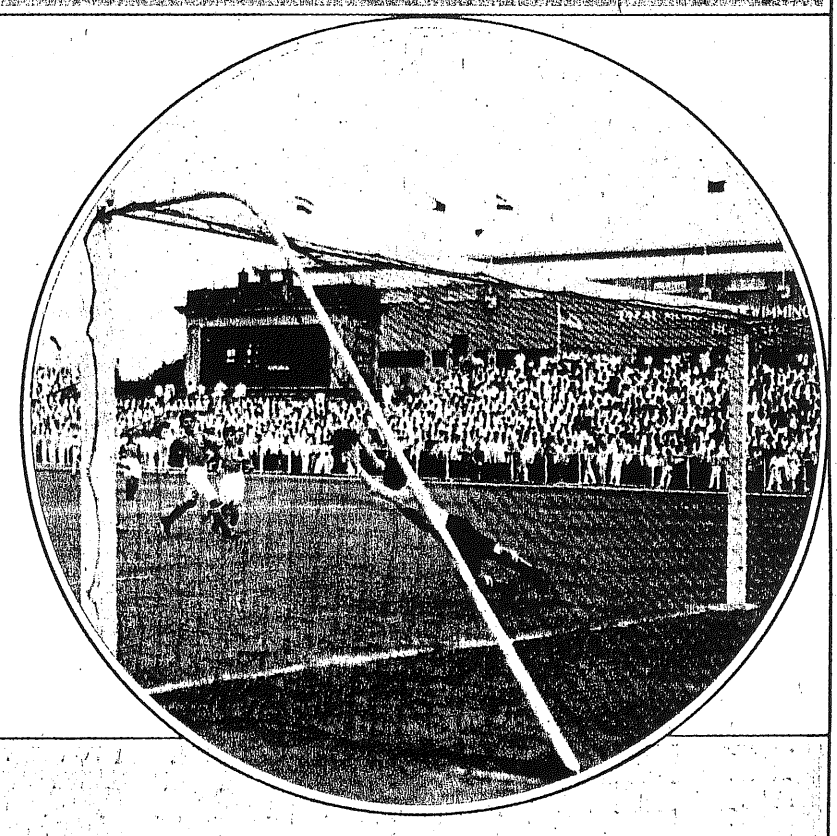
Top : Two views of the Hidachi Mine - Keio Hospital game in the third Tokyo business men's association football tournament recently held in Tokyo.

S9-6-20　　第10回極東選手権競技大会関係

蹴球競技——蹴球競技は支那6點、日、比、蘭共に各一勝宛の戦績で2點を占め支那優勝す







(上)日本代表蹴球選手團　(左)日支對戰支那第一點を挙ぐ(右)日蘭對戰蘭印一點をあぐ(下)日比對戰日本第三點をあげた刹那

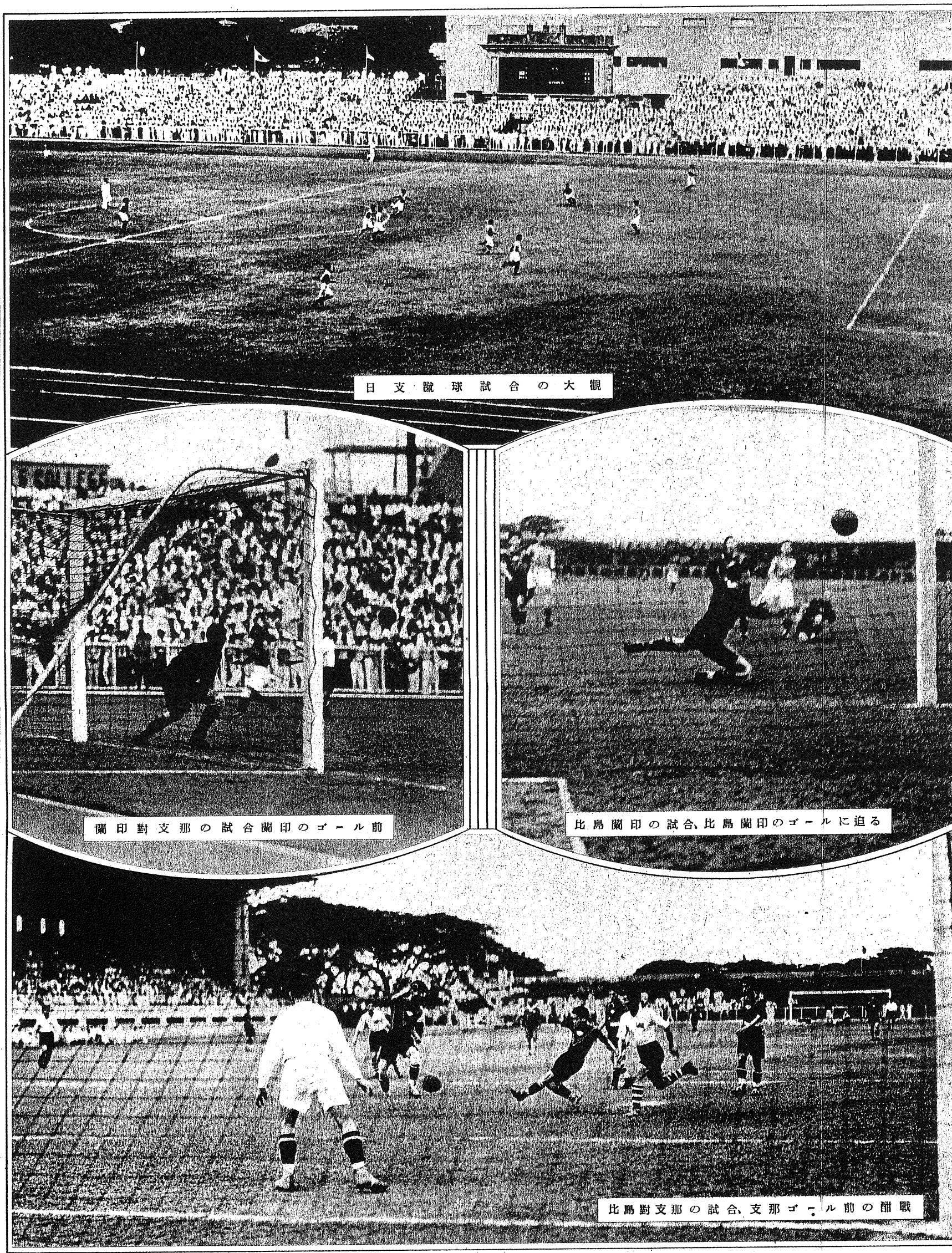


Soccer. Top : Japan's soccer squad. Center-Left : China scores her second point in the Japan - China game. Center-Right : Java scores in the Japan - Java game. Bottom : Japan scores her third point in the Japan - Philippines game.

※ 右ページへつづく

S9-6-20

※左ページからつづく



日支蹴球試合の大觀

蘭印對支那の試合蘭印のゴール前

比島蘭印の試合、比島蘭印のゴールに迫る

比島對支那の試合、支那ゴール前の酣戰

Top : The Japan - China game. Center-Left : In front of the Java goal at an interesting moment in the China - Java game.
Center-Right : The Philippines - Java game. Bottom : A fierce struggle in front of China's goal in the Philippines - China game.

※ 右ページへつづく

S9-6-20

蹴球選手權評

期待を裏切つて日本敗る

傷病者多く編成手不足が敗因

山田午郎

拙劣な審判

支那が三戰三勝して覇權を獲得しわが軍は比島を卻け、比島はジヤヴアを破りジヤヴアは日本の蹴球史に較ぶれば遙かに古きものあり實力も勿論一日の長ありと豪語しただけの結果を見せて日比とジヤヴアはおひたちごつこて結局一勝二敗の同成績となつた、フキールドは地盤の稍かたい所に繁茂する芝草は多少長くゴロのボールのスピードを殺ぐものがあつた。然し手入れされてゐたために決して悪いものではなかつた。

試合は孰れも午後五時のキツクオフとなつてゐたので本大會の第一戰である支比と第二日行はれた日本對ジヤヴアの試合の日は炎熱きびしかつたが強い陽は傾き涼風さへ出て暑熱に脅かされることはなかつた。けれどもこの他の試合は懸念した酷熱よりも豪雨の襲來に脅かされ乍ら行はれた。大體においてコンデイシヨンは豫期したよりはよかつたといふことが出來る、審判に至つては極めて拙劣といふより他になかつた。

それは彼等の未經驗とルールに精通しないために招く失敗であつたと思ふ。殊にオフサイドに對する判定は問題の外でフエルナンデスの如きはこの國際試合に不適任なものであつた。

フアウルプレイに對し嚴格に臨まんとする意志は汲むべきではあつたが正當なチヤージまでこれをフアウルプレイとしプレイを徒らに中斷して試合興味を破壞してゐた。コムミテイに向つて嚴重なる抗議の提出されたのも審判技術の拙劣と無能から見れば當然であつた。一旦進行を命じた試合を數分後に停止してボールを舊位置に復し而して再開するなど一般の想像も出來ぬものがあつたのみかボールの進行線上に佇立して試合の圓滑なる進展をはゞむなど數へ上げたら全く際限がない。何處でも適當な審判は得られないものであるがこれは餘りに甚だしく立派なフキールドに似ても似つかぬ存在であつた。

ジヤヴアの實力

參加四ケ國チームの大會前の練習を見ては日支とジヤヴアは伯仲の間にあり、比島の無氣力無統制は最も劣る實力として見られてゐたが試合日割に叙はれて支那は幸運の三勝を掌握し比島は零敗をまぬがれる事が出來た。優れた實力を有し乍ら無念の涙を呑んだのはジヤヴアであり審判の無能に依つて支那との一戰を落してしまつたのはわが日本であつた。

十二日 支那 2{0—0 / 2—0}0 比島
十三日 蘭印 7{2—0 / 5—1}1 日本
十四日 支那 2{0—0 / 2—0}0 蘭印
十五日 日本 4{1—3 / 3—0}3 比島
十九日 比島 3{1—2 / 2—0}2 蘭印
二十日支那 4{2—0 / 2—3}3 日本

ジヤヴアが本大會の優勝候補と目された日支に向つて連日挑戰させられたのは氣の毒といふべく假令勁敵日本を七對一で屠つた餘勢をかつて支那に臨むにしても對日戰の疲勞困憊を平常の狀態に復するには無理であつた。參加四ケ國の場合いづれは一ケ國がこの日割編成に犧牲とされるは止むを得ない。ジヤヴアはこの犧牲として立たせられるべく新顏の餘儀ないところに置かれた。もし對日戰の疲勞が回復してゐたならばジヤヴアは支那を敗退せしめたであらう。そして初參加のしかも最後となるべき本大會の選手權を握つてゐたらうことさへ思はれた。

神技にも近い好プレイをする優秀な選手を擁して各ラインを整備し強靱なものとする一方確實なパスワオークで前後を強くまとめてゐた點は敬服の他ない。

ジヤンの快技

L1ジヤン、CHメイング、RBケラーなどの巧技は小憎らしいものがあつた、ジヤンのバツク・アツプは速く守備線に厚味を加へ、出ては正確無比の強いロング・シヨツトで敵方ゴールを襲ふ快技は自分の經驗した蹴球生活から言はしむれば最初の經驗であつたといふべきものであつたタイプは竹腰君ソツクリで背丈に優れ野澤、西邑、名取君等を凌ぐ走力をもち輕快俊敏の中に押し出し強くそのキツクが一度ゴールに向つて行はれゝばキーパーを彈く威力が籠つてゐた。鮮やかな彼の制球力は前線を整へ後方との聯絡を確立し攻めるに厚く守るに分厚のものとしてゐた、この超弩級のジヤンを有してゐたからこそ日本のスタートを誤らしたのであつたともいへる。わがRH立原君をして彼の傍に寄ることが出來ぬと長嘆息せしめたのに見てもジヤンの面影が偲ばれるのだらう。

プレイヤーの個々に吟味することが許されるならば彼は正に上位を占めるものである。傑出したプレイヤーの一人はチームにとつて何ほどの役にも立たぬといふがそれは單獨のプレイに走つてチームウオークを亂すを警戒する戒言に過ぎない。

ジヤヴアの敗因

ジヤヴアには四人の支那人選手がゐた。CF張はジヤンに代つてゴールゲツターとして對日戰の砌三點を擧げてゐるがこれはわが守備線の潰亂の結果であつた。張を讃美するならば川本君のショツトはない、CFとして兩インサイドを活用する球捌にあつた。FW線は兩翼が大谷、堺井、右近君等に似てタツチプレイにすぐれ、センターリングも確實であつた。右インサイドのテクレプタも巧いプレイヤーでよく揃つてゐたHB線はメイングを中心にして川西、松丸、立原、三崎君等によつて布かれるそれと優劣を定め難いものであつた。ジヤヴアの在留邦人がわが代表チームに電報を寄せて恐るべし、警戒すべしと傳へたのは決して無理ではなかつた。然しわが代表軍は餘りに警戒してしまつたのは一ツの敗因となつてゐたのは否めない。ジヤヴアは確實なロング・キツクをもつてよい聯絡を見せてゐた。支那が細技に走る傾向のあるに較べてジヤヴアは必要のパスと必要のドリブルによつて攻めることを忘れなかつた。この結果として當然スピードが盛られてゐた。

ジヤヴアの比支に對する敗戰は何といつてもわが代表軍の宿志の達せられなかつたのとともに惜しまれるものであつた。對支戰を失つたのは關將ジヤンの負傷が因をなし對比戰は對日支の二戰で全力を傾け盡してしまつた結果に他ならない。一人のジヤンを中心にしてゐたからこの結果を招いたといふ事はあたらないといふ事を全線の動きから見て一言斷つて置く。

比華戰の熱狂

試合の最も興味あつたのは何時もの事ではあるが比支の一戰に指を屈する。それは歷史的の彼等に敎へた爭闘であるからではない。強い對抗意識を盛つてゐるために全力を傾けスピードを十分に盛つてゐるからである。今日のスポーツが科學化されてゐない時代を彷彿たらしめるやうな亂闘は第三者の立場において全く傍觀し得るから見樣によつては拳闘以上の迫眞力を盛つてゐると言へてもそれは試合としての興味ではない。雙者は勝たんとしてカと熱を盛り速攻に息もつかない。この點から最も興味あつたものとして數へるのである。そしてその全力を傾ける試合が遂にはそのスピードを殺ぐべく不當の手段が講ぜられた。支那はそのためスパイクすることを忘れずに行つた。そして比島選手が憤慨してこれに復讐しようとして醜い後半の失敗を繰り返した。狡猾な國民性を遺憾なく暴露してゐた支那選手のプレイは批判の價値はない、試合は後半に入つてCF鴎のすぐれたヘツデイングがきまつて支那側が一點を先取して綻びはじめた。わが代表軍も對支戰において彼のすぐれたヘツデイングにゴールを傷つけてしまつたが、支那はヘツデイングにおいてその優秀を誇ることは出來た

比島も二敗

比島はこの試合においてバツクスのミスキツクに一點を許して敗れたが、大會前の習練振りと比較すればチームとして見違へるほどの強味が示されてゐた。對支戰にHB線は全部傷つき合せて五人の負傷者を出したが、中二日を置いてゐるので、ベストチームでわが代表軍に對することが出來た、案外なスコアで對ジヤヴア戰を落し自重してゐるわが軍に向つた比島は眞向から強攻に出た。ボールを停止せしめることなく速かに處望する彼等の戰法は凝刺たる意氣と共に効果をもたらしてゐた。然し勝敗の決定を急ぐ比島は力の按配を忘れてゐた。試合に餘裕を持たぬ彼等が後半を支へ切れなかつたのは當然と言ふの他はない。二敗した比島は平常にかへつて第三試合の對ジヤヴア戰に臨んだ。

比島の意氣はジヤヴアを壓しジヤンをよくマークして中心を崩し而してその缺陷である淺いバツクラインをかき亂して制勝した、ジヤヴアを研究するに最も都合よいプログラムの下にあつた比島としてはこれは當然の結果だ。

支那は老巧さ、老猾さを遺憾なく示した。李惠堂、譚江柏の巧技とヴオレーキツクでボールを捌く効果とGK黃紀良の美技は目立つてゐた。ジヤヴアが平調にあつたなら支那の勝利は覺束ないものであつたらうしわが軍との試合に於て不可解のペナルテイキツクが與へられなかつたら全勝は不可能であつた。惡運の強い支那であつたといふよりほかにない。

日華の特徵

わが代表軍は意外な結果を招いて終つたが三戰ともに傷病者の多いためにベストチームを布いて臨み得なかつたことが主因で相手の強弱を論ずるのもこの點から發するものである。遠征の不利な條件の下によく3—0と離された對比戰を奪ひ對支戰も尻上りの調子で三對三の同點とし殘る四分の間にペナルテイキツクで敗れて了つたのは返す返すも殘念である。然し支那のFW線のすぐれたフツトウオークと速いパスと洗練されたヘツデイングは數へ上げていゝ彼等の優れた點であつた。

HB線は單獨でフイードすることの出來ぬもので、全體から見れば押しの強味はわが軍にあつた。この大會の三試合から強調したいことは蹴ることを立て前としてその完成あつて後にそれを活用するため理論づけたい。個々の技術と理論を並行させることは理論が常に先に走る結果となりはしないか。正確に蹴ることの出來るチームが比較的よい結果を招いたその前に敢てこの見解を披瀝せんとするものである、如何にして蹴るかの問題ではなく如何なる場合にも蹴れるといふ技術についてである。この他の點については因つて來る種々の原因なるものがあつたのだから敢て言ふ事を避けるが對ジヤヴア戰の如く絕對的のチヤンスを持ち乍らこれを決定し得なかつた事と優勢な試合を落としたこの試合と對支戰から見てシユーテングレンジの擴大ショツトの大部分はゴロでローンの上ではスピードなく殆んどクリヤされてしまつたといふのは今後考へねばならぬと思ふ。

CHとして立つた松丸君は病氣に災されたが三崎君とともに背丈が足りないためにその實力を封じられてゐる。種々の豫期しなかつた故障のため竹腰監督をはじめ全軍が編成に苦心したのやこの結果ポヂションを移されて苦しんだ選手諸君の苦心は並々ならぬものがあつたらう。いづれの試合も涙なくては見られぬ奮闘ありこの後に來た惜敗であつた。

一勝二敗はたゞ結果としてあらはれたもので實力を云々することの出來ぬものである。

S9－10－15



關西學院蹴球チーム（前列向つて左から）福井君、川西君、田邊君、宮部君、小林君、中澤君、梅園君、西川君、松井（照）君、（後列左から）酒井君、松井（佐）君、野澤君、前田君、武井君、北濱君、榎南君、朝田君、笠井君、田中君、三崎君、立上君、高尾君

Kwansei Gakuin association football team.



興味一段と加はつた 關西學生蹴球リーグ

京大、關學を繞る今季の情勢

永野武

苦戰を豫想される京大

關西學生蹴球聯盟リーグ戰は去る十月十七日の甲子園における京都帝大對大阪外語の試合を皮切に秋のシーズンは展開された。

昨年度の覇者京都帝大は本年も昨年同樣岡山の地に合宿練習を行ひ福安主將以下三年連勝の希望に燃えて居る。然しフオーワードで猛將中野、伊藤の兩インナーを今春送り出した後だけに甚だ寂寞の感を懷かしめる。兩ウイング長岡、高田健在にして本年も大いにその活躍を期待されてゐるがセンタースリーのダッシュを研究しなければ得點するのも容易ではなからう。即ち現在のところ兩ウイングよりの攻撃あるのみてしかもそのセンターリングの球を敵ゴール前て取り得ないやうては甚だ心細い次第てある。去る滿洲國足球隊との一戰にも京都帝大が一番得點の少なかつたのもこの點にあると考へられるのてある。

センター眞田も時々激しい動きを見せてはゐるがまだ球が足より離れすぎるやうてありフオワードの中心としての球捌き等にも研究の餘地があらう。兩インナーに誰を起用するかは可成りの問題てあらうが孰れにせよ昨年度に比較して聊か物足り無く從つてハーフの努力を大いに待たなければならない。ハーフは福安を中心に松尾、瀨野、奥田、

※ 右ページへつづく

S9-10-15

※左ページからつづく

今村らの多士を擁しては居るが未だ圓熟のプレーは望み難く殊にインナーに新人を用ふるとすれば兩サイドの責任は重く人選は相當困難であらう。

若しインナー、サイドハーフの聯絡を缺き積極的活動がなければ忽ちチームの浮沈に關し慘敗を招くやの慮が多分に有るのである。然しこれを補ふ宿將福安の試合振りは大いに期待されてゐる。フルバックは持地栗原をもつて占めるであらうが持地のロングキック及びタックルは良く味方の窮地を脫せしめるであらう。もう少し試合度胸を着けて逆境に立つた場合にもこれを切拔けて好轉せしめるだけの餘裕を望み度い。

新人栗原の元氣あるプレーは大いに期待する所である。キーパーは名手金澤を控へて先づ無難である。昨年以來益々圓熟したプレーを示し殊に極東大會の經驗を得て十分自信を有してゐる樣て曾遠のシュートでは得點を許さないであらう。全體より見て防禦に強くフオーワードの得點のチヤンスが少い樣に思はれるので今後相當の苦戰は免れないであらう。

制覇の意氣に燃ゆる關學

昨秋制覇の希望を懷きつゝ惜しくも好機を逸したる關西學院は本年こそは覇者たらんと猛練習を勵んで居る。今春伊藤、西邑、丹羽の三君を學窓より送り出したが、尙多士濟々にして三崎主將の下に十分統制が取れてゐる。然しフオワードに名選手西邑なき後は大いに攻撃力を殺がれその中心を失つたことは事實である。

山藤、朝田、野澤の諸君の健闘を期待するが未だ交互の聯絡に不十分な所があるやうに見受けられる。バックが相當しつかりしてゐるのであるからもつと餘裕をもつて積極的なプレーを望み度い。フオワードに比較してバックは伊藤、丹羽の兩君を失つてはゐるものの力量は大體昨年と大差なくハーフは老巧三崎をセンターとしてサイドには清水北濱、笠井、前田の連中が居るが多分清水、前田の起用を見るのであらう。

キック、パスワークの共に優れたるこのハーフは關西學院に取つては至寶でありハーフの活躍如何が勝敗の鍵を握るものであらう。フルバックは超弩級川西と松井、宮部の中一人が選れるであらうが川西の精確なるキックとタックルは良く自陣を守りフオーワードをして後顧の憂なく攻撃に當らしむる事が出來るであらう。從つて川西を有する關西學院バックには各チームのフオーワードも惱されるに違ひない。キーパーは丹羽の後を繼いで西川がその本陣を守る事となつた。體力もあるし判斷も正確であるから容易なる得點は許さないであらう。本年リーグ戰より責任あるキーパーとして活躍するのであるから大いに健闘を希望する。



京都帝大蹴球チーム（前列向つて左から）青木君、高田君、金澤君、長岡君、眞田君、福安君、持地君、橋本君（後列左から）麻野君、小出君、柘植君、今村君、植木君、古川君、栗原君、瀬野君、汐見君、中田君

Kyoto Imperial association football team.

期待される關大の活躍

前二校に較べて最も鬪志あり好調なのは關西大學である。昨年度は關西學院と引分けを演じ甚だ有望であつたが神戸高商との一戰に思はぬ不覺を取りはかなき最期を遂げてしまつたが本年こそは優秀なる成績を收めるであらうと豫想せられてゐる。

フオーワードに新人大橋を加へた事は大なる強味である。ダッシュあり適時のシュートを有する大橋にはチームのバックも定めし混亂させられやう。レフトの津田主將も相變らずの元氣で、本年はセンターに大橋を控へてゐるので從來の如き無理なるドリブルの必要もなく甚だ時宜のセンターリングをしてゐるやうである。

今迄の津田にして見れば餘りにフオーワードの攻撃を一身に引受け責任が重過ぎてゐたが本年からは樂々として思ふ存分の活躍が出來るであらう。卽ち大橋との聯絡により一層津田の活躍が生きて來たのである。この二人の攻撃を如何なる戰法により封じるか各校バックの守備は興味を以て見られる。

インナー西山、武田の兩君も先づ無難であるがもう少し活動範圍を廣くしセンターストリーの圓滑なるパスに熟達したならば一層關西大學フオワードに偉力を增す事とならう。ライトウイングは多分大谷が起用されやうがその他篠原、籔田、瀧井の連中を控へスタッフは豐富である。然し大體レフト側に強くライト側が少し劣る樣に見受けるのはやゝ片手落の感があり甚だ惜い事である。

バックは奈良君一人の卒業を見たゞけて他は昨年度と異動なく甚だ有望である奈良君の代りには田坂、塚井があるが最近益々鋭鋒を現しつゝある戸川を中心としたる關西大學のハーフは關西學院ハーフと相對して大いなる強味である。ミドルウエイにおける活動範圍も廣くフイードもよくフオーワードへのバックアップも十分である。然しバック間の無駄な樣なパスがあり敵フオーワードのため潰される事が時々ある樣に見受けられる。フルバック、キーパーともいよいよ技倆の上達を示しその好聯絡により良く關西大學の陣を守り得るであらう。

進境目覺しい神高商

昨年關西大學を破りビッグスリーの土台を搖がしめた神戸高商は本年は更に一段の躍進を續けんと前川主將統御の下に奈良の夏期合宿を經て益々猛練習を加へつゝある。今春はフオーワードの上山、フルバックの川野、中濱の三君を送つたのみて他に變動はないから大いに期待しうるチームである。フオーワードには新人高垣を起用して十分補はれ左より松本、高垣、磯野前川、長田の順で最近殊に好調を示してゐるからその活躍は見るべきものがあらう。昨年度より目覺しい進境があるだけに他校のバックは防禦に相當苦心する所がある。

大してスピードも無いやうに見られるがその厚い攻撃層は大いに注目に價するであらう。ハーフは岡田を中心に小橋、渡部を配し昨年度のハーフサイド岸井はフルバックに下るやうである。結局ハーフの活躍如何味方のフオーワードを十分活用し得るか否かが勝敗の分岐點になるのではないかと見られるのである。フルバックは二人共卒業の爲補充に相當苦心があるやうてある。ハーフの岸井を下げ新人宇野と二人て占むるのであらうがまだ未完成の所あるやに聞く。日もあることながら今後の研究を大いに望み度い。キーパー木原は本年は更に技倆を練り今や元氣一杯である。

阪大と大外語

昨年二部より上つた大阪帝大は六高の雄永津、磯野を中心に攻撃を進めるであ

※右ページへつづく



關西大學蹴球チーム（前列向つて左から）籔田君、篠原君、松本君、津田君、大橋君、武田君、西山君（後列左から）武本君、黒田君、上吉川君、土井君、大谷君、長島君、渡邊君、戸川君、塚井君

Kansai U association football team.

S9－10－15

※左ページからつづく

らうが他に餘り人無く甚だ苦しい立場にある。然し闘志滿々大いに練習を積んで居るから相當の試合振りを示すであらう。

大阪外語は昨年度より一部へ加り更に大阪帝大を三對〇にて破り大いに氣概のある所を見せたが必ずや本年もまた相當なる成績を攻めるであらうと大いにその奮闘を希望する。

以上は大體一部各校の陣容であるが孰れが本年は關西の覇者たり得るか、例年は關西學院か京都帝大かと謂はれてゐたが本年は關西大學が甚だ有望で少くとも先般の對滿洲國との試合振りでは最も有力なる優勝候補である。然し默々として精進を續けてゐる神戸高商また侮るべからざるものがある。結局この四校の爭覇戰となり花々しい決戰が演ぜられることであらう。今後共研究と練習を積み關西學生リーグ戰として相應しい試合振りを示されん事を望んで止まない。

——終——



早稻田大學蹴球チーム（前列向つて左から）野澤君、加茂君、塚本君、佐野君、三原君、吉田君、柴田君、笹野君（後列左から）眞山君、平松君、長谷川君、蝶良君、關野君、木島君、伊達君、小野君、大越君、堀江君、渡邊君、川本君

Waseda association football team.

早大連覇か……
慶帝奪還か……

東京學生蹴球リーグ戰

山田午郎

適中した下馬評

近來の狀勢に鑑みて今春行はれた東京學生蹴球聯盟議事部委員會は大學、高專分離の改組案を一旦は通過させてリーグ特別委員の手に移し具體案作成とまで運んだのであつたが今秋に入つて開かれた議事部委員會においては改組必要を認めずといふので一蹴されてしまつた。かくて從來の組織形式のまゝで早くも去る十月一日商大對東高の第二部の試合をもつてシーズンの幕を開けた、前シーズンと同樣加盟三十三校七十八試合は十二月二日の東高對商船を最終戰として結ばれることゝなつた。

第一部は宿願を遂げた立教が闘將小林の殊勳を謳歌しながら加はつて連覇を豫想される早大、奪還を期する慶帝、これに返り咲くであらうといはれる文大と第一部を死守する農大によつて編成され第二部は轉落した成城高校を筆頭とし轉落以來不況に憂鬱なシーズンを迎へては送る明大と、法政、東高、商船に五年振りに蘇つた商大を加へて孰れ劣らぬ互角の對立、第三部以下群雄割據して虎視眈々といふ勇ましい姿でシーズンを迎へた。

第一部は早大の陣容の變動極めて少く、自然優勝が豫想され、帝大、慶應、文大、農大、立教は孰れも中堅CHのポヂションに變動あつて苦衷を物語りながらシーズンを迎へてしまつた。七日行はれた第一部の劈頭戰である早立、帝文の二試合は一は早大の快勝するところとなり一は終始熱戰を續けて帝大の辛勝するところとなつて一般の下馬評が大體において的中した、このシーズンは早慶帝のトリオに向つて文大が放つ積怨をはらさんとする爆彈が、新鋭立教の獅子奮迅と相俟つて波瀾を呼ぶかどうか。

不安のない早大

早大はGK熊井を送つて痛撃を蒙つたが豐富な陣容はこの補充を容易なるものとし合理的に進境著しいところを見せてゐるだけ多少の不安も殘してゐない。熊井の補充は佐野にしても伊達にしても熊井のそれに劣るものはあるが他に比して些して遜色あるものではなくバックスが堅實性を加へてゐるから危な氣はないと言へる。

FB線は鈴木、堀江と組んだら恐らく當代隨一のもの、上手の手から水が洩るのを相手が拾ふならば兎も角、闘志と言ひ技術と言ひ大早稻田のゴールに寸隙を與ふる事をしない、對立大戰の久保田に依つて許した一點はコンデイションの不良が上手の手から水を洩らさしめた。雖を言へば強氣の後を顧みぬ進出である。HB線は立原の剛直傾向漸く失せて球操作に一段の冴えを見せ吉田、笹野よく立原の手足の如く滑らかな動きで攻守の妙味を示す、川本を中心とするFW線を傑出したFB線に比し多少劣る所を見出すがそれはこの前後線が強い輝きを見せてゐる結果に過ぎない。HB線の兩翼がブラインドを効かせることになつたら鐵壁、前シーズンに比して立原がより攻撃的になつたのは早大の強味を增したもので、川本、野澤、加藤の闘士を思ふままに活躍させることが出來る、兩翼平松、長谷川、大越が多少懸念されたのであつたが七日の試合は平松が立派なチヤンスメイカーでありゴールゲツターとなつて早大の不安を一掃させてしまつた。大越の巧技を生かすものは果敢でありこれが望めたら早大は他の追隨を許さぬ所のものであらう。極東大會代表五名を擁し强バス戰法に目新しさを見せるかと思はれたのが急激な轉換の不利を知つてか敢て新しい型を採らうとせずガツチリした所で行かうとしてゐる所がこのシーズンに物を言はせる所であらう。ゴールゲツターとして光る野澤が再び足關節を傷つけたが今後の試合に出場覺束ないとなれば大きな痛手である。

慶應苦心の跡

早大を脅かすものとして自他共に許す慶應は陣容を整へるに苦心した一つである。石川をCHに、一宮をGKとし右近を前線に繰り出すなどこれを物語るが、シーズンを迎へて胸撫て下ろす所まで進め得た、一宮がGKとしてフオームを體得したのはこの上なき喜びで纒綿の神技に遠く及ばずとしても慶應ゴールを委すに足るものがある。

宿將塚越か伊東の孰れもこれを率ゐるに十分の實力あり、主將岩波が新鋭石川をCHとして据ゑ自らサイドに出てピンチに際しての逸脫を期せんとするなど苦心の跡がうかがふことが出來るがバックスは往時の老巧味を新鮮味に移したからむしろ溌剌たるプレイにこのシーズンは期待されるものがある。

LW藤岡病後で出場を望めぬものとすれば攻撃力の減殺著しいものあるが增田を挾んで播磨、右近の攻守力增幅は目新しいものがあり相手方はこの兩君をマークするに疲れはしないか、播磨は優秀なゴールゲツター、いよいよこのシーズンは完全に球を自己のものとし駒崎の活躍と共に慶應攻撃線の有力闘士となつた。

このシーズンこのチームに期待するところのものは覇氣橫溢、練習に熱を含めてゐる事である。この氣分が溢れるところ二倍の確保は些して困難ではなく早大との最終戰にこのシーズンの王座を賭けて爭ふ事にもならう。

勝氣の東大

東大はL1川原を舊位置に殘すのみて他は全部ポヂションを動かすか、新たな補充となつた。然も川原も都合で出場危ぶまれてゐたが對一高の練習試合を見て發憤、私情を捨てゝ起つ事になつたもので東大は正しく更改期にある、何を言つても名CH高山を送り出したことは誇らしい歷史をもつこのチームにとつての全面的の打撃であつた。然し七日の對文大戰は辛勝したとは言へ東大は傳統的に試合の巧みな運びを見せてゐる、蓋を開けるまで懸念されたチームワオークも個々の技術をよく結び縱に一貫した連繫を持ち合せて文大を屈服せしめた。

德田、潮田の兩翼の動きは鋭く若林も川原に劣らずよいバックアツプで萩原、長、大內のHB線を救援してゐる。近石、八卷、HB線と呼應するところに多少の不安はないでもないが今後に期待し得る東大で勝氣であるだけ賴母しさを持つてゐる。

GK飯田は焦つて思はぬゴールを與へるなどあつたが捨て難い守備力を持つてゐるから生氣溌剌更生の意



東京帝大蹴球チーム（前列向つて左から）長君、太田君、大內君、近石君、德田君、萩原君、潮田君、若林君（後列左から）宮內君、吉野君、川原君、飯田君、片山君、八卷君、川島君

Tokyo Imperial association football team.

S9-10-15



慶應大學蹴球チーム（前列向つて右から）辻君、伊藤君、石川部、塚越君、岩波君、駒崎君、增田君、乙骨君（後列右から）平野君、堀江君、藤井君、一宮君、中西君、播磨君、前田君、宮川君、溝口君

Keio association football team.

※左ページからつづく

氣に燃ゆる東大が巧技に生きることをせず今日の素地のまゝで行けば早慶も決して安堵を許されない。

更生の文理大

文大は松永をCHに下げ新味を盛つた。巧技縱橫の松永にこのポヂションをあてたのは文大更生の途である。藤野、木村の強力なインナーが彈丸の如く躍り込むところ松永、阿部、大瀨のHB線が間斷なく球を供給して面目を新たにした攻撃を豫想されたが七日の對東大戰には冒頭の二點が災したのだらうけれども全く消極的に墮してしまつた。攻めるはFW線、HB線は守備とも見ゆる動きであつたが、この一戰を以てこの力を云々する事は出來ぬ。後半猛襲の機會に何故に長蹴戰法をとつて荒天不良の對策としなかつたか。一人の松永の無策を責めるのではないがCFの經驗を持つてゐた點から見て不可解とする所である。しかしこの一戰を經驗に貴重なものとなつて今後の試合を彩るであらう。

藤野、木村が頑強を警戒されながらその力を示し得なかつたのはコンビネーションプレイに束縛されたものか。かかるコンデイションの場合は個人技に走り多くまたそれが思はぬ收穫をもたらすはずであるのにこれは失敗で文大が今後早慶を脅かすとすれば試合を精神的に、常に攻勢を持出すことをせねばならぬ。それが文大のこのシーズン執らねばならぬ方法ではないか。

農大と立教

農大は杉浦主將CHとして先人石井の後を襲ひ全線に覇氣を盛つてゐる。技術よりも意氣て行くこのチームはGK川本の傑出した技を筆頭とし個人の技に於ても他に劣る所はないが試合を進めるに一の型を追ひ過ぎて却つて動きを失ひ凡戰に陷つて行く憂ひがある。個々が最上の判斷の下に批判を惧れず試合を進める事をせねば新鋭立教の餌食ともならう。その優れたキックをグンと伸ばすFW線は攻撃一方に偏する位に行くべき要がある。對早大練習試合は危地に陷つてのがれる術を知らなかつたといふよりもHB線がフオロウの不足でFW線の位置を亂してゐた天野、見目あたり大試合の經驗も豐富であるから後方の加擔を考慮に入れることを捨てて常に敢進する用意をしてはどうか。

立敎はGK山口の判斷と好プレイで七日の對早大戰のスコアを縮小してゐたのは見逃せない。期待されたHB線は主將敏島が宮崎、駒崎を率ゐて攻守に奮盡してゐるが度胸の不足はありはしないかと思はれる。全線に奔放、獨斷のプレイを要求して見たい。またHB線は後陣に憂ひを殘さず攻撃力の增幅をしなければ久保田をめぐるFW線の巧技も生かし得ないだらう。あたつて碎けろ、新鋭らしく巧緻で眞向から太刀打たず試合を捨てゝ亂射亂撃するのが行くべき途ではなからうか。それが臍を噛むの愚をなさぬ途である。

S9－11－1

火蓋を切つた東西學生蹴球

覇權を繞る興味

開幕三試合から見た今年の京大、關學、關大、神高商の實力

三宅　二郎

去る十月十七日　開幕した關西カレッヂ蹴球リーグ戰は戰前豫想された如く京大、關學、關大の三校間によつて激しい競り合ひが演ぜらるべく、この間神戸高商は對關大との第一戰に不幸前半に許した三點が祟つて後半に入つてからの急激な追撃も甲斐なく敗退したが、後半における試合振りから推して來るべき京大、關學の兩チームに對しても堂々たる戰陣を張り得ることゝ想像される。

大阪外語及び大阪帝大は前記四校に較べると一段と落ちるのは否めない、外語は京大のため９－０、阪大は關學のため14－０の大差をもつてそれに完膚なきまでに打破られてゐる狀態て大番狂はせの起らない限り結局兩校間で第五、六位に甘んじなければならぬことにならう。

中野、伊藤の兩君をＦＷ線から失なつた京大は代へ難い大きな損失を被つただけにその穴埋め如何は各校間の注目するところであつたが、ＬＩには新人山中君をＲＩにはバックから植木君を引き上げて對外語戰に備へてゐる、勿論まだ整備して間がないため各ポジションの連繫は十分とは言ひ得ないが、先づ無難に動いてゐた、技術的に見てまだ研究すべき餘地を殘してはゐるがしかし兩ウイングの決定とＣＦ眞田君は相變らずの元氣てまた兩インナーがＣＦと相俟つてゴールを割り得る素質を備へてゐるから他校に比して遜色ありとは思はれなく、殊にこの

ラインの特長　ともいふべきものは依然京大獨特の、スピーディーに攻め寄せる武器を藏してゐることて、甲子園の如き廣いグラウンドにおいては最も有効なフアクターとなるてあらう。

ＦＢ持地君は今年も依然その健脚を誇れば新人栗原君も期待に反せず持地君のよきペアーとして活躍し、またＧＫ金澤君の技も益々冴えて、圓熟味を發揮して後顧の憂ひなからしめてゐる、京大が連覇し得るかどうか大きな鍵をもつてゐるのはＨＢ線の活躍範圍の厚薄如何によつて決せられることになるのではなからうか、勿論ＨＢがいくら頑張つてもＦＷがいふことを聞いてくれねば仕方がないがどちらかといへば常にボールにはよくついてゐるが、どことなく最後の押しが足りないやうな氣がしてならない、しかし全體的に見て京大が一番よくまとまつてゐるやうてある。

關西學院はＦＷのピカ一西邑君を學窓から送つた上に肝腎の村井、山藤の兩君が病氣と事故て顏を見せずまたＨＢの清水君も病氣といふ氣の毒な有樣にある、三崎主將を中軸とするＨＢハーフからＦＢに引き下げた川西君及び新人の宮部君も可なり

よき守備陣を　張つてゐるので先づ申分なしとして問題はＦＷてある。對阪大戰には大量得點を擧げ得たが、しかし京大、關大神高商に對してはさう易々と得點し得られないであらう、元氣者揃ひてスピードもあるが、未だ場馴れせずコンビネーションの研究になほ多くの研究を要すべく昨年同樣今年もＦＷ線に多分の惱みが殘されてゐる。

昨年神高商のために敗れて不覺にも第四位に下つた關大は、今季第一戰の神高商には昨年の敗辱を雪いて世評の如く更生振りを見せるに至つた、ＣＨ戸川君は神高商戰の前半には完全に近きまてのあたりを見せ長島、塚井兩君のサイドともに攻防によく力を纏してゐた、またＨＢ渡邊、土井兩君の氣合もよくＧＫ上吉川の技の向上も認め得られる、バックはかなり重厚な陣を張り得るがＦＷ線の統制に惱みがある、レフトサイドは文句ないが、右側の邊りに非常にムラがあることがやゝ片手落ちの觀なしとしない、この缺陷の是正如何こそ關大がものをいひ得るか、どうかを決定することゝならう。

神高商は對關大戰に不運なスタートを切つたが、後半戰におけるあの

物凄い突撃振　りから想像して今期の活躍は十分豫測し得られる、前半において今少し得點の差を縮めてゐたならば恐らく關大を苦戰せしめてゐたに異ひない、前半餘り緊張し過ぎたゝめ固くなりそれがためボールのコントロール惡くコンビネーションを亂してゐた、前半幸運と思はれる位關大のＨＢがよく動いたので期待された神高商ＨＢは手の下しやうなくしかもＦＢは新人てあるだけにピンチに弱く防戰に追はれてゐた、しかしＨＢ團は他校に比し遜色なくまたＧＫ木原君も短軀ではあるが、仲仲覇氣に富み操作もよい、ＦＷラインは大した凄味をもつてゐないが關將前川君

※ 右ページへつづく

S9－11－1



Top: Sano, Waseda goalkeeper, saving in the Waseda-Rikkyo association football game. Bottom: Kyoto attacking in the Kyoto Imperial-Osaka Foreign Language School association football game, October 17, won by Kyoto 9 to 0.

（上圖）早立蹴球試合における早大ゴールキーパー佐野君の挺身のセービング

（下圖）十月十七日甲子園で行はれた京大、大阪外語蹴球試合における京大の攻撃とこれをカットせんとする外語、黒服は外語

が縦に激しく動くのはよいが、横へ餘り大きく動くことは前線が彼に頼ること大であるだけに不得策であらう。

三試合を見ただけではまだ確定的なことはいへないが、關學がもし全線の裝備なれば別問題としてさもなくば現在のところ關學は京大關大に敵からず苦戰するであらう。（十月廿三日記）

左ページからつづく

更生の氣漲る東京學生蹴球

東大を破り金的を射止めた農大

山田午郎

東京學生蹴球

聯盟第一部は二十二日の帝農戰を以て十五試合中の六試合を完了した。これて六強いづれも各二試合を終つたが早慶が二戰二勝し、文立が二戰二敗で、帝大が農大のため一敗地にまみれて帝農は一勝一敗の同成績となつた。このシーズンも變哲もないABクラスを存置されると思はれたのが二十二日の帝農戰は從來の傳統を打破してしまつた。昭和四年シーズン第二部に轉落し六年復活して辛くもその他位を確保してゐた農大が早慶帝に向つて弓を引いて來たが、蟷螂の斧の讐に洩れぬものがあつた。假令帝大が不調のドン底にあつたにしても六シーズン王座を守つて斯界に君臨したこの金的を射落した事は農大の偉勳である許りではなく蹴球界更生の警鐘ともなつたといへる。この一戰は闘志が技術を抑壓したともいへようか。

兎まれこの曲折は痛手を蒙つた當面の相手帝大の奮起は素より轉落逃避を企てる要ある二戰二敗の文立の發奮いやが上にも綾を織りシーズン後半は相當の活氣を盛るのではなからうか。

早大は立教

とシーズンの序幕戰を行つて5—1て卻け、文大と第二戰を行つてこれを10—2て破つた。守備のチーム早大の攻撃陣の整備がうかがはれる記録であり事實またそれを試合の上において具現してゐる。早立戰は豪雨の中に行はれ前半1—1のスコアは後半に入つて均衡を破つた、立敎の後退戰法を衝いた早大攻撃陣の巧妙は今更いふ迄もない。立敎は局部的の結びが不十分であつた許りでなく縦貫する冴えたキックもなければ全體的に幾分に壓迫されてゐた。老巧早大の勝利は當然であつた。文大と第二戰を迎へた早大は前半十五分ころまでは文大の強攻が物を言つてミッドフイールドに互角の試合が行はれた。この間に偵察を終つた早大が文大バックスの危機に弱い所を衝いて成功を收めてからはバックスの潰亂とGKの未熟が災して前半早くも七點の大量得點をしてしまつた。文大に對しては脆弱な守備といふより他になく早大の執拗な攻撃を稱讃するに終るものであつた。

CH松永が重要な位置を占めてまだチームを占めるに至らぬ缺陷がGKの未熟とゝもに暴露されたといへばそれまでだが餘りに肺甲斐ないものであつた。前半早くも勝敗を決したこの試合は後半に殘される何等の興味はなく進められたが文大が二點を擧げて零敗を免れただけのことである。早大の弱點とすればHB線がFB線の強力に依頼して後退救援の不足とGK佐藤の横にあるか、二戰を通じた所の早大は後日に殘された問題はあるにしても攻守共に他に優れ全體のまとまりは勿論、強氣のチームとして期待される。

慶應は農大

を6—2て破り、立敎を6—3て卻けた。對農大戰は前半鋭い所を見せて4—0と離したが後半の粘りに不足があつて二點を許して前後半を比べたなら全く見違へる動きと乏しい氣魄を示した。對立敎戰にもこの傾向を著しくしてゐた。守備陣が岩波の健闘に辛くも支へられ、攻撃線は播磨の獅子奮迅の活躍に負ふ所が多かつた。スコアは勝利に導くに不足はないが試合全體から見れば曇如を許されないものであつた。殊にHB倶左側の微弱は疎調され易く、FB線の前出戰法も後線との結合を亂し易い所があつて前線の得點が無ければ後顧の憂ありといふ狀態である。

攻め手の變化、球の寄せには傑出してゐるが後陣は新人の補充を多くしてゐる爲に一度崩れゝば收拾困難である。しかし相手を知つて試合を巧みに運ぶから守備を破られても敗戰に陷ることは考へられぬ。

帝大は文大との第一戰に辛勝したがこれは文大の愚戰によりて思はぬ拾ひ物をしたのであつたが從來のチームと異つてチームの中心がないところに

攻撃線の不振

とゝもに農大に打棄られてしまつた。練習中不慮の災禍を被つた長の缺場は痛手であつたに相違ないが球を寄せまでの完成てこの後に來る重要な試合進展の鍵をさらへてはゐない。LW德田がチヤンスメイカーとしての貢獻、L1川原のFW線とHB線の結びの巧妙も對農大戰には右側が出足を誤り、ポヂションを失つて十一本のCKをとり農大をして二十一本のGKをさせながら恨を千載にのべてしまつた。出來、不出來は止むを得ないにしても誠に心許ない攻撃線であつた。

對農大戰には全くゴールゲッター無きをなげかしめたとよりいへぬのが敗因をなしてゐる。

立敎は對早大戰に鑑みて試合を精極的に運んだが前線右翼の凡失に波瀾を捲き起す機會を逸した對慶應戰の經驗を今後に生かさねばならず、文大は各線の連絡を一層緊密にせねば個々の力量をチームの力量として發現する事は先づ覺束ない

日米對抗競泳

アメリカの都合で

明年度開催困難か

日本水上競技聯盟では明年を期して東京に日米對抗水上競技會を開催すべくさきに來朝したキツパス監督を通じアメリカAAUに交渉中であつたが、この程AAU祕書フエリス氏から「AAUの方針としてはオリンピック大會の前年は國外に選手を派遣しない事と決定してゐるから貴聯盟の申入れに卽答し得ない」旨書狀をもつて回答して來たので、水上聯盟ではさらにキツパス氏宛極力盡力を求める電報を發した。

S9－11－15



慶應對文理大學蹴球試合における中央線の混戰
A busy moment in the center of the field during the Keio-Bunri association football game.

大詰を急ぐ東西學生蹴球

關東學生蹴球リーグ評

覇者は早か慶か

擡頭の立教、惨めな東大

山田午郎

秋愈よ深く

東京學生蹴球聯盟第一部のスケヂユールも十一月十五日の農大對文大の他早帝農立、慶帝、早慶の四試合を殘すに過ぎない。早慶はさもに農文立を倒して無傷の三勝、新興立教は帝大を潰し、文大を最後の十分に潰走せしめて二勝し只今の所第三位を占めてゐる。農大は帝大を屠つて一勝し帝大はシーズン冒頭の試合において文大に辛勝し、シーズン前善闘の呼び聲高かつた文大は四戰而も四敗、試合毎に落調を辿つていよいよ殘すは對農大戰のみとなつて文大の死活を制する重大な一戰が横はつてゐる。

このシーズンの制覇は早慶孰れか。この目覺しい一戰と、第二部轉落を決定する文農の文大捨身の悲壯な試合が興味を呼ぶわけとなつた。

前季の戰績

に依つて編成されたスケヂユールも、早帝、慶帝、早慶の三試合はビッグゲームの待遇を受けてシーズン終りに近く殘された筈であつたが、此シーズンの帝大は文大に對し辛くも一勝を獲得しただけで農大に敗れ、立教に叩き込まれて早くも一勝二敗、往時の巧味、前シーズンの強味どころか、たゞ徒らに無氣力の殘骸を殘し、十五日の農文戰で農大が文大を破れば文大全敗となつての轉落に救はれるといふ人の褌で相撲する慘めな境地に立つを餘儀なくされてゐる。

轉落を決定するのは農文の一戰、文大が勝利を獲得すれば今日の帝大にとつては青天の霹靂であるといはねばならぬ。尤も不振の帝大が微動だにせぬ早慶に向つて一勝を記錄することが出來るならばこの危惧は全く一掃されるのであるが今日までの戰績は早慶打倒は及びもつかぬ夢である。

スケヂユールの進行からすれば優勝決定と共に必然的に轉落もからまつて來るのであるが今シーズンはこの渦中に帝大が飛び込んでゐるだけ一層一般の耳目を聳動せしめるものがある。秋深し。帝大と文大にとつては眞に秋風落莫の嘆を禁じ得ないものがある。

六シーズン連覇

の王座は一朝慶應に拉し去られてから、早大に轉じ早くも三年にして「優勝させろ帝大を」の聲は消え「落すな帝大」の慘めな姿に早變りしてしまつた、誰か感慨なしといふであらうか。

帝大の球の寄せは早慶に劣るとも農文立に比して決して劣るものではないが、ゴールゲツターを缺いてゐる、種々の故障が伴つてチーム編成に苦心を重ねたとはいへFW線に多くの球を

※右ページへつづく

S9－11－15

※左ページからつづく

集め、絶對的のチヤンスを把握しながらムザムザ自潰してゐるのでは、球をＦＷ線に集中し得ざるものと何等拙劣さにおいて選ぶところはない、立敎に對し七分三分の試合を進め前半早くも試合を決定する機會を凡戰、凡失に逸して少いチヤンスの立敎に名をなさしめた、長恨久しうするの試合であつたが果して早慶と相見えるまでにこの機會を順次決定する所まで立直り得るや否や歷史を守る氣魄と敵愾心が餘りに乏しい。

早慶は依然

として好調にある。對立戰に後半崩れ易い缺陷を暴露した慶應も對文戰には文大が不仕鱈であつてもＣＨ石川病氣缺場の缺を十分に補うて快勝を博した、强ひていふならば守備線は岩波獨壇場の感なしとしない。これが攻められるならば攻撃線いよいよ冴えチームバランスが立派にとれて早大と眞向からの太刀討ちが出來る。早大は對農戰にその威力を遺憾なく發揮した、快刀の冴えは見せないが强迫する攻撃線の底力は曠稱のほかはない、バックスも鈴木、堀江のペアーはいよいよ堅く、立原の率ゐるＨＢ線は笹野よく、吉田の進境目ざましく完璧に近いものがある。早大チームはかつて見ないチームの均衡がとれてゐる。早大は出でていよいよ物凄いものがある。

立敎は帝大に對し幸運の一勝を殘した。尤もＬＷ上田の正鵠なる判斷と巧技が決勝の一點を擧げたがＦＷ線右側が目立つて劣る。殊にバックス左側の弱點があるにも不拘帝大が衝きまくられなかつたのは立敎にとつての幸といふよりない。文大に對しては兎も角、農大に比してはチームの均衡を缺くこと甚だしい感がある。文大とは全く互角、試合内容は乏しいが力の籠つた試合を續けた末、宮崎のフイードで上田兄弟がＨＢ線とＦＢ線を巧みに拔いて一點を擧げ試合の均衡を打破してから更に二點を加へた。老巧猛者揃ひの文大がこれまたチヤンスを決定し切れぬのに較べればチームとしての實力は兎も角として局部的ではあるが試合の運びに巧妙な點がある。

立敎は幸運

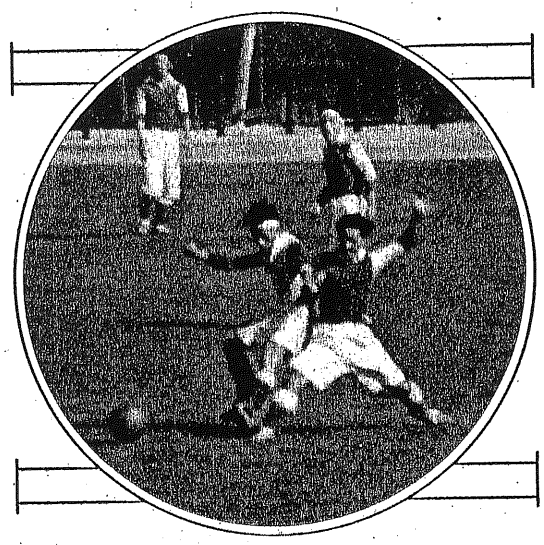
に惠まれてゐるが第二部から昇格してのシーズンに斯かる好果を收めてゐるのは異例として粗雜なプレイも自重、自制する必要がありはしないか。農大は帝大を破つた餘勢を藉つて對早戰に臨み冒頭好戰して早大を度々强引に押して見たがＦＷ線兩翼の體力が決定的のチヤンスを作り得ないために徒らに富樫等が狂奔するに過ぎなかつた。前半1－0で食ひ止めながら全線が後半杉浦の意氣に追隨することが出來ぬ程疲弊して崩れＧＫ川本も肩を傷めてからは試合を捨て氣味に見えたが眞正面のプレイには鮮やかさを誇示してゐた。崩れ落ちる自軍のため最後まで挺身奮闘の缺けたことを遺憾に思ふ。しかし全軍の最後まで試合を捨てず粘り續けるスピリットに對し敬服するを惜しまない、對文、對立の二試合を殘すが文大征服は農大自體の地位を確保するのみではなく累を他にも及ぼすものである。特色とする粘り强き杉浦の意氣に感銘して結束するならば先づ轉落の憂き目も見ることはなからう。

文大は現在において最下位、試合ごとに陣營を更新して生きる道を求めてゐるが强力も粗雜なプレイによつて發現出來ずにゐる。何故か松永を活用する事をせず徒らに松永を腐らしてゐる。强キックのパスに縱貫しようとしてゐるが前後關係をシックリ結びつけ得ないのはパスの恰適性を缺いてゐることにもよるが各自のフットワークが劣惡であるのも見逃せない一つである。

對立戰も

後半直後において幾度か制勝の機會はあつたが凡逸してしまつた、勝を急ぐことは自力を自潰するに過ぎないことをいつて置きたいし、ＨＢ線のフイードが中央に向つてのみ行はれる無變化を矯めねばならない。

早農戰において後半四十二分に農大杉浦の過失はＰＫとなり早大は川本がキッカーとして立つて川本は農大ＧＫ川本の正面に球を出したがこれは杉浦の悲壯な意氣に共鳴した川本の奥ゆかしい心の發露であつた、この場合この得點が勝敗を左右するものでもなく杉浦の涙ぐましい奮闘の後に來た過失を責めるには過酷して同情を寄せたその精神と正しいキックによつて敢てその美德を誇示するが如き卑屈の伴はなかつた擧措とこの結果には稱讃の辭を送らざるを得ない。



關西學院對關西大學蹴球試合における關大武田君（左）と關學三崎君のせり合ひ

Both teams trying to dribble during the Kwansei Gakuin - Kansai U association football game.

長蛇を逸した關大

殘る關學、京大、神高商戰の興味

關西學生蹴球リーグ戰評

三宅二郎

關西學生蹴球

リーグ第一部試合は本稿締切までに十五試合中の七試合を終了した、この間關大は關學、京大の二豪に相對したが關學には1－0、京大には2－1の大接戰を以て共に敗退の悲運に泣いた今年の關大は久方振りに覇權爭覇のグループに擧げられてゐただけにこの二試合は覇權歸趨の上に重大な關係を持つものとして非常に興味を以て迎へられたのであつた。

關大は對關學の試合において開始後五分ＬＷ梅園がゴールライン前約十五ヤード邊から放つたセンターリングはかなり强い球であつたが關學ＦＷの足並が十分揃つてゐなかつたのでさ程危機とは思はれなかつたが、これを急ぎ戻つて蹴り返したＬＢ渡邊のキック、意外にも自己のゴールを割つて致命の一點となつた。

試合は飽くまでボールをタッチに出してデッドすることなく關學攻むると見れば關大の肉薄となりテムポも速く終始スピーデイーにボールが運ばれて見た眼には興味深いものであつた。

プレイを戰法的

に見究めれば語るべきものはなかつたが、しかしボールをタッチせず或る程度意識的にオープンへオープンへと運び得るやうになつたのは技倆の進歩を物語る證左で、これてこそ蹴球の醍醐味を味ひ得られる。

關大對京大戰のときには前者ほど激しい動きはなかつたが、それでも興味の持てぬ試合ではなかつた、毎シーズン一つかせいぜい二試合位しか好戰のなかつたことを思へば數段の進歩であるといへやう。

對關大戰に示した關學の攻撃は主として兩ウイングからであつた、從來の關學は壇野、東浦、堺井、西邑君等ＣＦに或ひはインナーに優秀な選手を揃してゐたため主としてその方面から攻撃が釀成されてゐたが本年はＲＩの山藤君がやゝ光つてゐるだけであるから殆んどサイドから攻め込む戰法を用ひてゐたのは當然である、左側の梅園君は新人ながら快足で關大のバックをよく切り込みまた田中君のドリブルエンドキックにも强力なものがあつた。

ＦＷラインは全面的に見て取りたてゝいふ程のものはないが、元氣とスピードのあるのには感心させられた、しかしＬＩ田邊君は他の四君に比すれば一段と見劣るやうである、關學の兩翼がかくまで完全に近い動きを發揮し得たのはＣＨ三崎君がこの日關大ＣＨ戸川君の不調に乘じて彼の持つよき粘りを發揮したゝめ關大ＨＢの兩サイドは攻防の範圍を擴大され必然の結果として兩側に空隙を生じスプリントにおいて關大サイドに優る

關學兩ウイング

の活躍を自由ならしめた關學が屢次よきセンターリングを見せながら容易に得點し得なかつたのは關大ＧＫ上吉川君の著しい技倆の上達とＦＢ渡邊、土井兩君とのトリオワークよくゴール前における最後の攻撃をとめられたもので、關大バックの健闘もさることながら、その反對に關學の眞中三人の得點決定力の脆弱なことも甚だ眼につく。

ＦＢ川西君は期待に背かず堂々たるプレーを演じ彼の側に寄せ來る球を喰ひ止めてゐたのは流石である。

關大は關學より多くのチヤンスを迎へてゐながら遂にノーゴールに終つたのは一點を餘り早く先取された爲ＦＷは得點を焦り自己のポヂッションを亂してゐたのでいざといふ場合に足並揃はず惜しいチヤンスを逃した、右側が對神高商戰の如き當りがなかつたこともその因かも知れないが、强力を誇らんとする津田、西山、大橋君の側のコンビが崩れて了つては如何とも策の施しやうがない、關大はミスキックによる悲運な敗北と見るよりも寧ろ得點を擧げ得なかつた前線の不均衡を指摘したい。

京大對關大

戰は關大は對關學戰の不振に顧みて陣容の整備に留意したのであつたが、之また絶對的制勝の機會を逸して終つた、關大のＦＷは對神高商戰の如き割合滑らかな調子を見せ京大のＦＷより數等優る攻撃力を發揮し他のチームであるならば殆んど決定的と思はれる程のゴールショットもＧＫ金澤君の判斷よき守備によつて目前の好餌を見棄てた。金澤君の技は益々冴え第一人者の貫祿を思ふ存分示してゐたが當日もし京大に金澤君の美技がなければ恐らく勝利を把握し得なかつたこと丶思ふ、今年のＦＷラインは今春去つた中野、伊藤の兩君が餘り强かつたので感を深くするのではないがさして强力なラインとは思はれない兩ウイングは前年通りでＣＦであつた眞田君はＬＩに位置を變へ、そのポヂッションをよくマスターしてゐたが小出、山中の兩君は新人であるだけにコンビはまだしつくり合つてゐない、しかし對關大戰に巧みにチヤンスをとらへたのは關大のバックのその時の配陣を云々せねばならぬかも知れぬがそれよりも京大のＦＷの殊勳として褒める方がよからう。

興味の中心

だつた關大はかくしてまたも二豪のため敗れ更にもう一年雌伏せねばならなくなつたが、この關大に奇しくも各一點の差で辛勝した關學、京大が來る二十五日の試合をどう戰ふか……。

京大は毎年シーズンの終りになつて巧みに調子の波に乘るのを常としてゐる、だから前記二試合の結果から兩大學の一戰を卜することは至難であるが、今までの戰績に徴すると對關大の關學は1－0、京大は2－1、對阪大に對して關學は14－0の大量得點を擧げてゐるに對して京大は5－1である京大は對阪大戰にはＣＨの福安君が出場せず陣容整備してゐなかつたゝめもあるが、餘り香ばしい成績を殘してゐない、これ等の諸試合から考へるとやゝ關學に勝味があり全體的にも關學に有利と思はれるが京大ＧＫ金澤はなかなか好守備を張るから京大にしてもたやすくは參らぬであらう。

大勢の赴くところ、今期の覇權は矢張り京大、關學によつて爭はれるであらうが、只一つ見逃してならないのは神戸高商の存在である、神高商は對關大に前半の不調が原因して、3－1の敗退を蒙つてゐるとはいへ對外語には10－1の悠々たる試合をしてゐるだけに殘る對京大、關學に對して如何なる試合を挑むか若し神高商ＦＷにしてＨＢ團の好調によるよきフイードを得るならば優勝候補の兩大學と雖も安閑としてはをれまい、關大は今年もあへない最期を遂げた、殘された立役者神戸高商の活躍を期待して筆を擱かう。（9、11、9記）

S9-11-15

京都帝大關西大學蹴球試合——十一月五日擧行 2—1 京大勝つ



京大の攻撃を關大GK上吉川君受け止める



關大右から攻め西山君シヨットしたが京大GK金澤君倒れながら止める



關大 L W 津田君のドリブル

Kyoto Imperial - Kansai U association football game, Koshien, November 5, won by Kyoto 2 to 1. Top : Kansai goalkeeper stops a Kyoto charge. Center : Kyoto goalkeeper goes off his feet to stop a Kansai rush. Bottom : Tsuda (Kansai U) dribbling.

S9-11-15

慶應大學、文理大學蹴球試合——十月二十六日擧行 6—1 慶應勝つ



慶應播磨君、増田君(轉倒)のシヨツトをクリーヤーした文理GKの球を體を開いて球を右に寄せる直前

Keio attacking in the Keio - Bunri association football game, October 26, won by Keio 6 to 1.

關西學院、關西大學蹴球試合——十月二十七日擧行 1—0 關學勝つ



關學右から攻め關大GK逆モーションとなつたがRF土井君蹴返して危機を脫す

Doi (Kansai U) getting his team out of a pinch in the Kansai U - Kwansei Gakuin game, Koshien, October 27, won by Gakuin 1 to 0.

S9-12-1

東西學生蹴球

連戰連勝する早大、關學





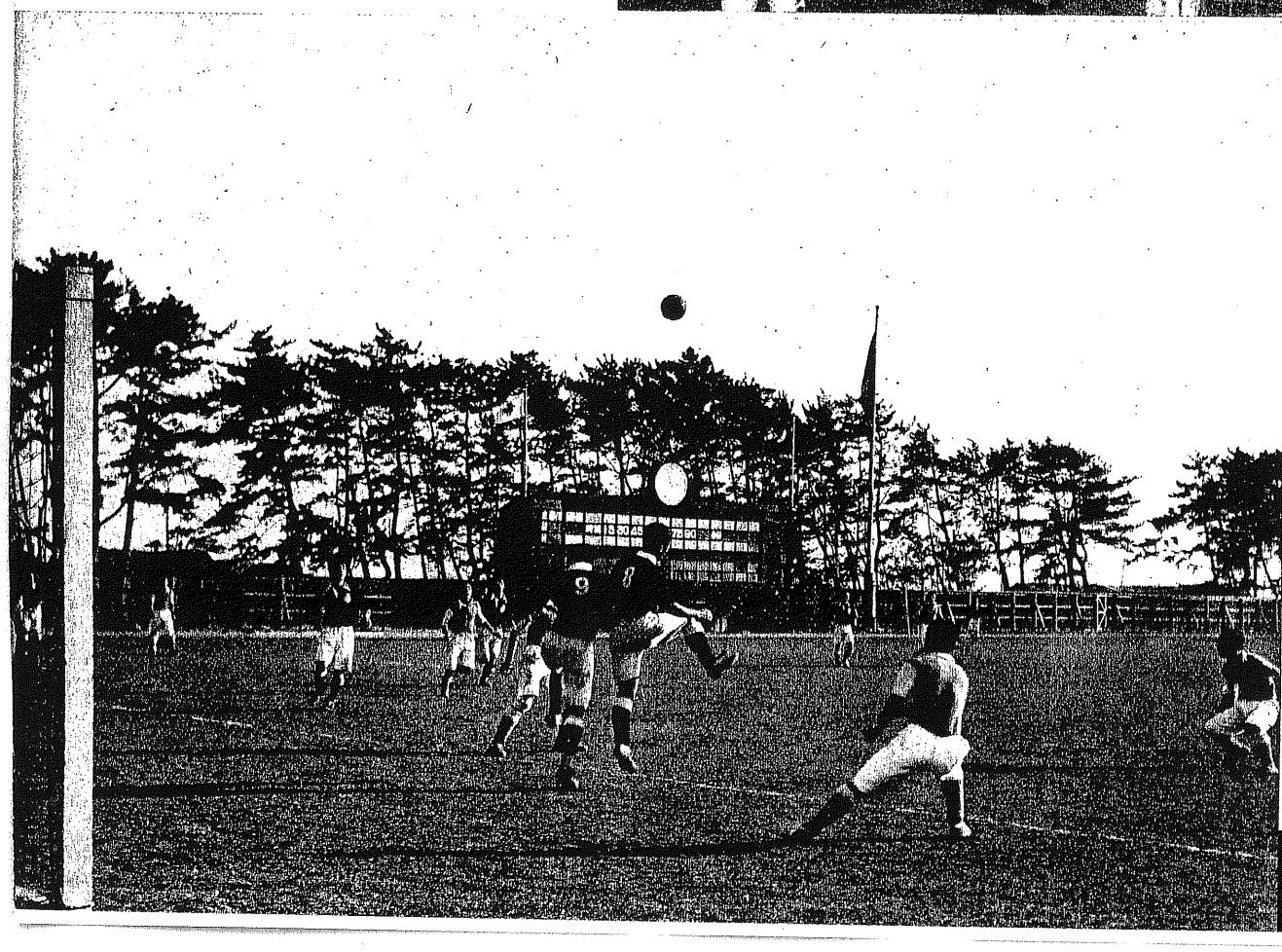
早大 6(4—0 / 2—1) 1 東大　十一月十七日神宮競技場で擧行、寫眞【上】東大ゴール左前のヘッデイング戰【上左】早大GK佐野君の好守

立教 5(2—2 / 3—0) 2 文大　十一月四日神宮競技場で擧行、終始接戰のうち立敎勝つ、寫眞【下】文理大GK長田君が懸命にセーヴイングしたところ





早大 7(1—0 / 6—0) 0 農大　十一月四日神宮競技場で行はれた早大快勝す、寫眞【上】は早大CF川本君のフリーシユート



關學 6(5—0 / 1—1) 1 神商

對京大に三對零で敗れた神高商は十一月十七日覇權を目指す關學と見えたが健闘及ばず五點の差で敗れた、寫眞【左】神商ゴール前で兩軍ヘツデイングに揉み合ふところ

Top-Left : Waseda goalie saving in the Waseda-Imperial association football game. Top-Right : Heading in a jam in front of the Imperial goal in the Waseda - Imperial game. Center-Left : A free shoot by the Waseda center forward in the Waseda - Aguricultural U association football game. Center-Right : Bunri goalkeeper saving in the Rikkyo - Bunri association football game. Bottom : The Kobe goal endangered in the Kwansei Gakuin - Kobe Higher Commercial association football game.

S9-12-1

東京カレツヂ蹴球戰

帝大、文理、農大を退けて
立教一躍第三位となる

山田午郎

◇初舞台を踏んだ立教が一躍第三位になつたのは聯盟史上空前の殊勳であるこれに反し往年六年連覇の歷史を持つ帝大の四位以下への凋落は感慨深い

◇農大は初めの出足よかつたが途中挫折し、文理大は最後の農大戰に強攻を示したが發奮、時すでに遲い憾がする

◇このリーグ戰は第一位を決定すべき早慶戰を除いて他の形勢は大勢すでに決した筋合となつてゐる

═立教殊勳の躍進═

初舞台を踏んだ立教は二十二日の對農大戰に快勝して五戰三勝し、新鋭の威力を見せて帝、文、農をして瞠若たらしめた。早慶に次いで一躍第三位の獲得は、聯盟史上最初のもので將來においても能くなし得ぬ業績といはねばならぬ。

新興立教の隆々たるに比し感慨切なるものあるは、昭和元年シーズンから引續き六年シーズンまで六ケ年の久しきにわたり、堂々覇權を確保した東大の沒落一歩手前にある不遇ではないか、七年は慶應の制覇となり、八年シーズンは早大これに代り挽回を策しながら二シーズンを見送つて、今シーズンも依然としてビツグ・スリーの一つとして數へられたはずであるのに四戰僅か一勝するに過ぎず對慶應戰を最後として打上げるのを見て誰か感慨なしといふだらう。榮枯盛衰常なしとはいへ立教と帝大のそれは餘りに幸運と悲運の甚だしき取合せであらう。

單調を豫想された今シーズンは、意外な悲曲を奏でながら終幕の日を迎へんとしてゐる。

═早帝戰に於て
帝大よく活躍═

◇……早帝は帝大の反撥力に期待されたのであつたがこれは僅か後半早大の疲勞に鋭くのりかけたに過ぎなかつた。今日の實勢力からするならばそれは當然の勝敗であるが假令早大に疲勞が現はれたからであつたにせよ各線からほごばしる様に送り出されるキック、FW線の死物狂ひのダッシュが試合冒頭から發揮したらごうだつたらうかと思はれる。攻め口に角度をとつた變化に富む攻撃は傳統に蘇つたのを思はせたが時既に遲い。

前半十分にして早くも三點を與へたのは帝大にとつての致命傷であつた、非力のFW線には過重の負擔であり、守備線は焦立つて布陣は混亂の中に前半を終つた、前半四對零は勝敗を決定してゐると見られたのである。

試合を愼重に運んだ早大は後半に入つて案外早く疲勞を見せ、さすがの堅陣も帝大の追撃に遇つて應酬し切れなかつた、HB線の崩壞から招く危機はGK佐野によつて幾度か脫したが、佐野の殊勳を物語るは結局HB線の落調を示すものである。帝大CH荻原の確實な戰ひ振りはFW線のシューテング・レンヂを確定せしめ、前半徒らに球を前送してゐたのを想ひ起せば見違へるほどであつた。

CF太田が焦らず狙ひを定めてゐたら川原の收めた一點といもにたとひ勝ち得ないにしても早大を更にまくし立てゝスコアを縮小しは對慶應戰がある。

═農大途中で挫折═

◇……帝大を意氣て壓し切つたはずの農大は對早大戰に潰えてからは、文大に對しても立教に對しても、その片鱗さへ示さなかつた。精根つきた殘骸にも似て無氣力で臨み全く哀れな結果を止めた、もつとも文大は優れたキックをきかし、秀でた走力をきかして當然とらねばならぬ最適のキック・アンド・ラッシユの戰法を布き、立大は悠々試合に臨んだので農大からすれば全く裏切られた兩者の出方であつた。

これに引き換へ農大はとるべき强攻の威壓する何物もなく二戰共に引き廻されてしまつた、二戰とも完敗で盡きやしないか、FB線の脆弱はHB線の救援に待ち、センター・スリーはチヤンスの決定力を缺いて攻守共に重點を失つてゐたのでは試合を落すに何の不思議もない、對立戰の如きLW天野が好球を送つてゐたのにFW線が徒らに下がつてゐたために當然ゴールし得べき球を見す見す凡戰して落してゐる。

見目、群山、富樫孰れも天野に陳謝すべきであつた農大は重要な試合を變哲もなく失つてしまつた。かくて農、文は同成績、不幸帝大も一勝に止むならば三者は下位を決定するために改めて試合することになるのだがもしこれを行ふことゝなれば不合理の三巴の下位決定戰は今シーズンが最初のものとなるのである。

═文大に望むもの═

◇……文大は勝つた試合を帝大の前に落してからは早慶には勿論、立教のためにも最後の頑張りが利かず奪はれて最終の對農大戰に臨んだ、冒頭の機會とPKを松永落して不安を漂はしたが最後の一戰といふ强い氣魄が全線に漲つて强攻一點張りで押し切つた、シーズン當初から何故この戰法と氣魄を盛らなかつたか……これは齊しく一般の問ふ所である、なまじシヨウトパスの徒らに複雜化した遲攻戰法を眞似る愚を捨てゝ自力に恰適のキック・アンド・ラッシユ戰法で第一戰から臨んでゐたならば敢て臍を噛みながら最後戰まで藥掻かずに濟んだのではなからうか……。

戰法は性格からまた體格から考慮選擇せねばならぬは文大がよく教へた。試合ごとに布陣に迷つた文大もこの試合を以て漸くチームの形態を整へることが出來た、この調子がシーズンの初めなら……の嘆なしとしまい。原崎の球の捌きが種種の角度を持つに自由となり、足下がもつと細かになつたなら依然として宿將の貫祿を備へるのであるがそれは後の祭か……。

◇……帝、文を潰した立教が農大を料理したのは當然である、攻撃技能の大きな開きは4－0が不思議はない、HB線は弱氣であつても農大と互角、同樣に雙方不安を漂はしてゐたFB線は立教遙かにすぐれた出來榮えであつた、立教はLW上田をマイナスしたるを忘れてはならない、この立派なチヤンスメイカーがあればこそと見るは僻目ではなからう。

新興の意氣に燃ゆる强味を次シーズンに持ち越すことが出來れば次シーズンは早大と天下を爭ふことになるだらう。

農立戰において耳を掩はしめる闇雲、目を覆はしめる醜惡なプレイが幾度あつたことか、斯界をリードすべき最高峰を行く試合においてかかる事實に直面するは遺憾この上もない、誰が手によつて蹴球道を確立するか、制勝のために手段を選ばぬものであるならばそれは卑怯である。敢て三省を促がして置かう。

◇……かつては第二部に輝やかしい位置を占めた商大が轉落また轉落から漸く撥ねかへして前シーズン第二部に復活したのであつたが今シーズンは五勝を以て年來の宿望を達した、この無傷の勝利は稀しいことであり、これに引きかへ明大、法政は迎へては送り、送りては迎へる昇進の踏み台、何日の日にか古い歷史に復活の頁を作るのだらうか。



早帝蹴球　早大RW長谷川君のヘツデイングで危地に陷つた帝大ゴール
Hasegawa (Waseda) heads in the Waseda - Imperial association football game.

S9-12-1

研究と指導

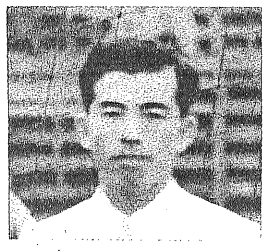
【質問】　は大阪市北區中之島三丁目大阪朝日新聞社アサヒ・スポーツ研究と指導欄係宛のこと、質問要旨は出來るだけ詳細に書くこと、用紙はハガキ、便箋何れにてもよろしい

【擔當執筆諸氏】　【野球】飛田忠順、腰本壽【庭球】太田芳郎、佐藤俵太郎【陸上競技】野口源三郎、森田俊彦、織田幹雄、南部忠平、津田晴一郎【水上競技】松澤一鶴、杉本傳、高石勝男【蹴球】竹腰重丸、高田正夫、山田午郎、三宅二郎【ラグビー】清瀬三郎、西野綱三、加納克亮、村山仁【排球】多田德雄【籠球】李想白【ホツケー】山崎愛介【漕艇】鄕隆、千葉四郎【登山】藤木九三【スキー】麻生武治、中川新、加納一郎【スケート】五代正友、小林進、小出秀世【スポーツ醫事】東龍太郎、齋藤一男、小笠原道生

蹴球の基礎技術に就て

【解答】　竹腰　重丸

蹴球に關しては手許に四つの質問が來てゐる、特に基礎技術の練習についてと指定したものではないが、この解答はその何れの質問にも應答したものである。



【問】　ア式蹴球チームを編成致しました次の要項をお敎へ下されば幸甚です。❶チームの編成上の注意。❷基本練習。❸比較的初心者に對する戰法。❹適當な參考書の著者及び發行所（愛知縣田中廉大郎その他）

＝解　答＝

優秀な蹴球選手は競技中に普通の者には容易に出來難い技術を使つて巧に戰況を有利に導いて行くが、その選手の用ひる技術を一々拾ひ上げて行くと蹴球の技術は際限のない程數多いやうに見える。然し夫等の技術をキックだ、ドリブルだといふ樣に分類して行けば大して種類の多いものではないのであつて、たゞ優秀選手は蹴球に適するやうに良く訓練された身體を持ち球のスピードや廻轉などに對して微妙なカンを持つてゐるので一寸球に觸ればすぐ次の動作に都合の良い處に球を置くことが出來たり、高い球や足許から遠い球でも強く正確にキック出來るといふ樣に、一つ一つの技術に非常に幅があるから他の選手より澤山の技術を持つてゐるやうに見えるのに過ぎない。

日々の練習に當つて、何をするにも、どういふことをしようとしてゐるのであるか、やらうとしたことが巧く出來たかどうかどうしてそうなつたのかといふ樣な注意を拂つて反覆練習すれば、確實に何か一つの技術を摑むとそれがすぐ他の技術にも應用出來る部分があることが知られ急に自分の前が開けて、初め驚嘆した優秀選手の持つてゐる技術を會得するのも大して困難でないやうに感ずることが多い。一般に技術修得には不撓不屈の努力が必要だといはれるけれど本人として見れば、一つ何かを摑んで明るい氣持になることに樂しみを見出し他所目には苦しいことも少しも苦にならないやうでなければ現在の日本蹴球界の最上級の技術者にはなれないといつて良からう。

要するに技術修得に必要な心掛けは、種々工夫し、反省しまた咄嗟に何も考へないでやらうとすることが反射的に出來る樣になるまで手數をかけて練習することである。その心掛けさへあれば漠然と練習してたゞ慣れで上達する者が十五年かゝるところは十年で、五年かゝるところは三年で出來るといふ樣に非常に速く上達することは間違ひのないことだ。現在の日本蹴球界は個人技術の進歩が遲いと叫ばれてをりその原因は種々あるが練習方法の形式的な方面は一般化せられてゐるにも拘らず前述の樣な心掛けが多くの選手に缺けてゐるので過去の最上級の選手の域に達する者が非常に少いことが一つの大きな原因になつてゐると考へられる。

普通に基礎技術と呼ばれるものを大別すると、キック、ストップ、ヘツデイング、ドリブルタックル、ゴールキーパーに特殊な技術等がありそれ等の中にまた種々のものがある。また急に疾走し始めること（スタートダッシユ）急停止、咄嗟に種々の方向に身體の位置姿勢を變へること等は各種の技術の基礎になると共にそれ等自身一つの技術でもあるがこれ等は蹴球に適するやうに身體を訓練すること（いはゆるトレーニング）によつて養成出來る。四五年位前まではこのトレーニングについては少數の者が關心を持つに過ぎなかつたが、身體の素質の良くない者の多い現狀からすればこれを重視することは一般に非常に必要なことである。また技術の力強さや滑らかさを獲得するには蹴球をやつてゐるうちに自然にそうなるのを待つよりも、より根本的にトレーニングによつて積極的に蹴球に適する身體を作る方が遙かに效果的であつて一般に一段の關心を拂ふべき事柄である。

基礎技術やトレーニングについての個々にわたり詳述することは到底本誌上で出來ることではないからこゝではそれらについて簡單に方針乃至二三の注意を述べるに止める。

◇【1】體操及補助運動◇

ウオーミングアップとしての體操はいはゆる普通體操でこれは心臟に刺激の少い部分から徐徐に行ふといふのが通說のやうである。これが終つてから初めて蹴球に必要な本格的身體訓練としての體操に移るのであるがその主眼とする處は

（A）全身の柔軟可動性
（B）馬力（C）彈力性（D）敏活性

の養成獲得である。

（A）としては各關節の運動特に腰、足首、膝、首の自由な動きを得るための運動を行ひまた腕のスウイングを行ふ（この際身體の均衡を保つことにも注意する）次に身體の急激な前後屈折左右への捻轉、下肢のスウイングを強烈に敢行する。

（B）としては、投擲競技、鐵棒、エキスパンダー、鐵鞭鈴等を用ひ、主として上體の發達に心掛ける。

（C）としては、體の十分に伸びた際と縮んだ際との差を大きくし屈伸を速くすることであつて、それには障碍物競走、反射運動などが效果多く、走幅跳なども良い。プレー中轉倒して後起き上る動作を早くするのも重要な一つとなる。

（D）としては、急ピッチの繩跳び、バスケットボール競技などがある。

メデイシンボールを使へば（A）（B）（C）いづれの目的にも適ふ諸種の訓練が出來るであらう。

◇【2】ランニング◇

競技中には少くとも二粁、多い者は七、八粁を馳驅しなければならないからそれに耐へ得る耐久力は養成する必要があるがたゞ蹴球としてのランニングをとり出して練習するには二粁、三粁といふ樣な比較的長距離を走るよりは、三十米程度のスタートダッシユを練習する方が戰術上の助けにもなり他の技術例へばキックやタックルドリブル等の强さを出す上にも效果が多い。

また疾走中急角度に方向轉換すること、急旋回、急停止が必要であるからその目的に適ふ樣なランニングを練習することは非常に效果的である。このためには四百米位走る間に三四回位急にスピードを加へまた急に落すことや、障碍物を一間半位の間隔に置いてその間を縫つて疾走すること、直徑十米程度の圓周を全力疾走すること、十米位の間を四五回連續疾走往復してターンする場合の身體の姿勢や足の踏み方（ステップの方向及びスパイクの利かせ方）等を練習するのが普通である。

◇【3】キ　ツ　ク◇

一つの足を十種類に近い程使ひ分けるといふくらゐ種々の蹴り方があるが、その中で最も必要とされまた良く用ひられるのはインステップ・キック、バックサイド・キック、アウトサイド・キック、トー・キックと呼ばれるキックであつてシユートやロングパスにはインステップ、ショートパスにはアウトサイドおよびバックサイド、小さい動作で相手に先んじて球をパス或は一時妨害するにはトーキックが用ひられる。巧妙に味方に球を保持するにはアウトサイドの使ひ分け、球を立體的に運ぶにはヴオレーキック等が一層研究錬磨せられなければならない。また一方の足だけしか正確にキック出來なければ、不得手な足から利き足に球を移してパスしようとする間に、優に十米位相手のマークを外してゐた味方はマークされ、或はシユートに際して一方の足から他方の足まで球が移る間に三四米後れてゐた相手に潰されたりゴールの一方にはシユート出來ないやうに一側を塞がれるやうな結果を招來し勝ちで利き足と他の足との能力に大きな差のある者は決して一流選手とはなり難い。

現今の選手が比較的樂な球しか蹴り得ないのはストップの濫用に習慣づけられてゐる弊でもあるが腰の捻り、腕の振り方或は咄嗟に姿勢を變へてしかもフオームを崩さないこと等の研究不足、自分の得意で容易なことだけを行はうとする貧澤心が重大な原因ではなからうか。要するにどんな球でも蹴りこなし得るやうになるまで根氣を持つて數をかけることが是非とも必要である。キックの强さ正確さを出すには前記のトレーニングによつて身體的要素を固めると共にフオームの研究が必要であるが、一般的にいへば支へ脚に全體重をかけ身體の上部から順次に下方に運動を移すこと、即ち蹴らうとする方向に向つて先づ胸を張り次に腰部をその方向に突き出し次に蹴り脚を振る（それも大腿部が先に出て後脛、足を振り出す感じ）といふ工合にすること、キックした後體の重心はその方向に滑らかに移動するやうにすること、蹴り脚は足が球に觸れる瞬間まで固くしないことなどを注意すれば身體の力および助走の力を有效にキックに加へる事が出來、また足を球に良くミートさせることが出來やう。勿論これに當て嵌らないキックもあるがこゝに詳述することは困難である。

◇【4】ドリブル◇

ドリブルで拔かれる虞れを抱いて前を警戒した時に逆を衝いてパスされたのでなければそのショートパスを追つて受ける先で潰すのはさして難事ではなくまた自分の前が空いてゐる際にパスを受けてもスピードのあるドリブルが出來なければそのパスを生かして戰況を有利に展開することは困難である。パスは近代蹴球に必須な戰術ではあるが近來の一般的な傾向としてパスを偏重し過ぎて、そのパスを生かしまたそれに多くの「含み」を持たせるのに必要なこのドリブルの練習を輕視して居る惡弊がある。

ドリブルに熟達すればストップやパスワークに必要な球を受けて滑らかに出ること、咄嗟にパスして相手の逆をとることなどいはゆる球馴れは容易に獲得出來るのでドリブルの練習は十分に數をかける必要がある。單獨で練習するには最も容易な技術で、種々の障碍物を縫つてドリブルしたり、急に速力を加へたり減したりまた急停止したり特に浮いた球をバウンドさせながら持運んだりすることを數をかけて練習し體のどの部分を使つても誤らずまた球を注視してゐなくても樂に持運べる樣になるまで習熟すべきである。球を蹴つて追ひかけるのでなく球を推し進める氣持で足なり體なりを球に觸れさせることが肝要である。

◇【5】ストップ◇

ただ單に球を止めて自分の近くに置くだけでは不十分であつて、止めてすぐドリブルかシユートかパスかといふ樣な次のプレーに滑らかに移り得る樣な狀態に球を置きまた姿勢を整へなければならない。次の動作に結びつけて考へるだけでなく緩い球に對しては球に近づくのに强くキック出來る樣な姿勢で近づき咄嗟にキックしないでストップすることが出來るやうにならなければまだ完全とはいひ難い。またF・Wは横及後H・Bは前及横からの球に對して主として練習するといふ樣に自己の受持つ位置に關して考慮を拂ふ必要がある。球の性質も平凡な球だけでなく大きくバウンドする球や高くから落下する球、强く蹴つけられた球等種々と變へて試みるべきで、F・Bはストップよりもキックに主力を注ぐべきだが、もし練習するとすれば體に强く蹴つけられた球を如何に處理するかといふやうなことを研究すべきであらう。

◇【6】ヘツデイング◇

身長の低い者はヘツデイングする機會が少いと思ふ者があれば、誤りであつて、低い者は浮いた球に對して足を使ひ得る範圍は狹いのであるから急ぐ場合には勢ひヘツデイングを多く使はなければならなくなる。またジヤンプしてヘツドする際のタイミングが巧くなれば低い者も多少身長の優つた相手に勝つことも出來る。またパスに拔で處理出來難い高い球を用ひなければ相手の込んでゐる中を通し難く、それを受けて處理するには上體及び頭を巧妙に使ふ必要がありマークの方法の進んで來た現今ではヘツデイングの重要性

※右ページへつづく

S9-12-1

※左ページからつづく

は一層増加して來たといふべきである。フオームとしてはキツクの動作とは逆に先づ屈した膝を伸ばし、次に腰をその方向に動かし最後に上體捻轉及首を振る力を球に加へるといふ工合に下部から順次に上部に移るフオームが良い。良くミートさせる爲には最後の瞬間まで球を注視する必要があり、また強さを出すことや、横や走る方向と逆の方向に捌くことの爲には腰と首の捻轉の力を養成する必要がある。眼鏡をかけなければならぬ者も初め近くから樂な球を投げて貰ひ、單に前額や横額に正確にあてるだけの練習を積んで後全身を振つて強くヘツドする練習に移るといふやうに順を追つて進めば突き上げたり眼鏡を壞したりしないで常人のやうにヘツド出來るに至るであらう。

◇【7】タツクル◇

タツクルにも種々な場合方法があり、立つたまゝで相手に接近し、足で球を止めると同時に肩や腰で相手をチヤージして奪球する方法、片膝を立て片手を地について一脚伸ばして相手の足許にある球を止める方法、正面或は横から辷り込んで足裏或は足首、膝裏で止めて奪ふ所謂スライデイング・タツクル等がある。一應それ等のフオームを覺えた後、最後の動作を敏捷强力にすること、及び最後のアタックに移る時機の判斷に誤りを少くすること等はタツクル成功に不可缺の條件であるが、熟達者でも拔かれることは多いのであるから拔かれた後の立ち直り(主として旋廻して追ふ)及び轉倒した後の起き上りが早く出來る樣にしなければ拔かれた時の心配の爲にタツクルを敢行すべき際にも躊躇する弊に陷り易いであらう。

ミツド・フイールドにおいては多く第一に擧げた方法が採られるが成功の可能性が十分あるか近くに味方がゐたりタツチラインの附近ではスライデイング・タツクルも利用せられ又味方ゴール前では離れてゐる相手にもシユートさせない爲に遠くからスライデイング・タツクルを用ひなければならないから最近あまり見受けられないこのスライデイング・タツクルも數をかけて練習する價値は十分にあるといふべきである。

◇【8】キーパーの特殊技術◇

ゴール・キーパーに特に必要な技術としては捕球の正確さを第一に擧げるべきであるがこれはキヤツチボール、强いシユートを捕球すること、壁に蹴つけて撥ね返る球を捕球する練習などで習熟出來る。なほ拳或は掌で突いたり叩いたりする技術、ゴールのバーとすれすれに飛んで來る球をジヤンプして突き出す技術、ステツプしては間に會はない球に對して手から先に上つたりまたは跳びついた捕球或は突き出す技術、パスのインターセプト、ドリブルする者或はシユートする者の足許に手から先に跳び込んで球を押へる技術捕球後相手のチヤージを外す技術等がある。近來はキーパーの活動範圍が非常に廣くなつたから單に跳躍の力を增すためのみではなく廣く動くためにも短距離疾走の力をつける必要はます〳〵多くなつて來てゐる。また早く位置をとることによつて防禦力を大きくするためには輕く速いステツプを採れるやう脚の訓練にも意を用ひなければならない。

◇【9】其　　他◇

相手の逆モーションをとるために一方に進む姿態から急に逆方向に進む技術や、上體でのチヤージで相手を轉倒させたり前進を阻んだりする技術更にスローインに際しての投球技術等はそれ等が嚴格な意味での基礎技術に入るか否かは別として十分研究練磨すべき技術である。



文立蹴球　文理大GKが立教のシユートを挺身守備したところ
Bunri goalkeeper stops a Rikkyo shoot in the Bunri - Rikkyo soccer game.

S9-12-15
(10分の6に縮小)

THE ASAHI SPORTS
アサヒスポーツ
The Japanese Twice-a-Month Illustrated Record of Athletics

1934年の光彩
全日本柔道・東西ラグビー・サツカー爭覇戰號



表紙寫眞　十二月一日神宮競技場で行はれた早慶第一回蹴球試合の慶應ゴール前における壯態

主要目次
第四回全日本柔道選士權大會……(丸山三頭)……(6—7)
東西のラグビー戰評(10—12)　ナンガ・パルバツト登山記錄……(服部龍明)……(22)
明大個別して早大に當つて(中村米次郎)△明大が顧問を得るまで(北島忠治)△四大關學に當つて(吉田甲三)△關西の覺悟(吉野綱三)
東西の各蹴球戰評……(16—18)
(早慶戰が會戰して(岡が引分く(竹腰重丸)△慶應黑大を破る(工藤孝一)△京大又關學を破る(三宅正卿)
關東關西對抗籠球試合(土肥一雄)…(20)
全日本ホツケー選手權大會……(江川甲小勝)……(26)
郷土スポーツ自慢(長野縣の卷)……(28)
研究指導のページ……(29)
スケートを始める人々に(天代正友)△野球の規則ルールに就て(小出秀世)△野球の練習(飯田幹雄)、平易な冬季の室內練習(飯田幹雄)、

12月15日

大正十二年三月十五日第三種郵便物認可
昭和九年十二月十四日印刷納本、十二月十五日發行
朝日新聞社發行
昭和九年十二月十五日發行(第十二卷第廿九號)
每月二回(一日、十五日)發行

S 9-12-15

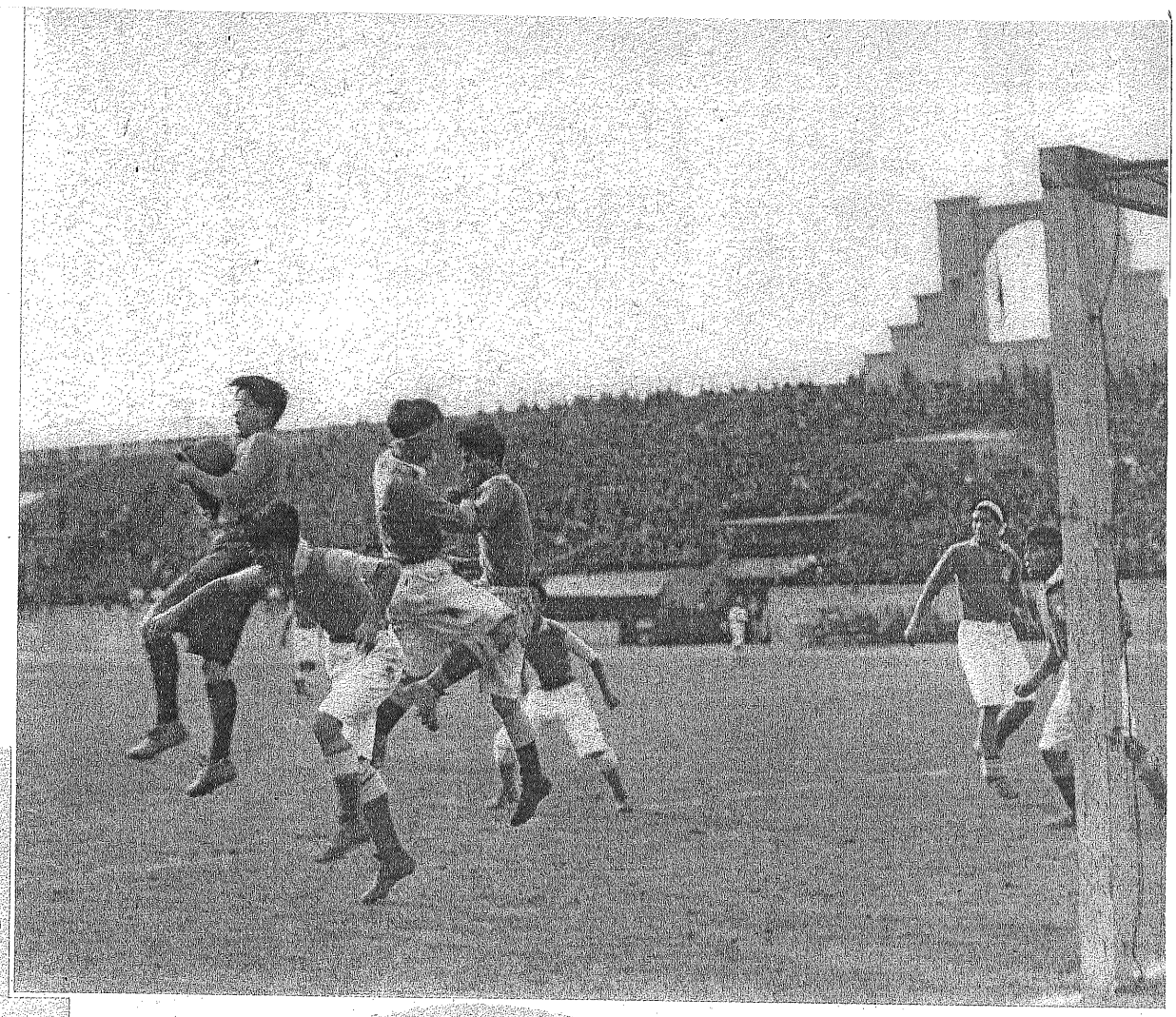
関西学生蹴球決勝

京大を救つた金澤君の美技

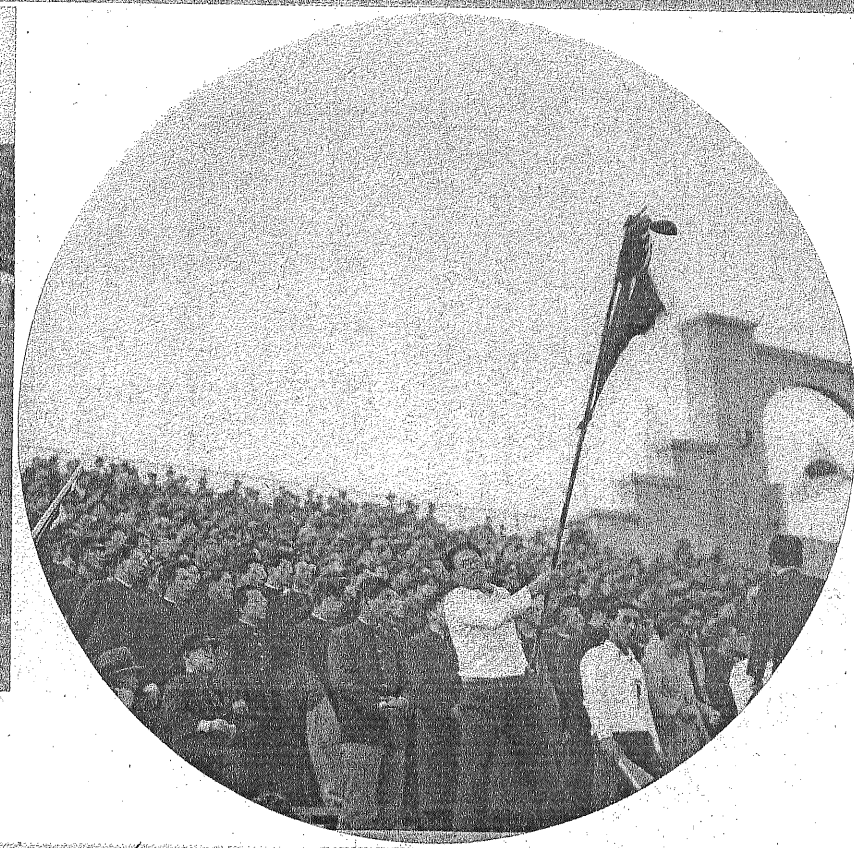
京　大　2(1—1 / 1—0)1　關　學

關西カレッヂ蹴球の第一位を決する京大對關學の試合は十一月二十五日甲子園南運動場で擧行、試合は豫想通り殆んど京大陣で行はれ、關學の一方的ゲームに終始したが、京大はこの不振の中にGK金澤君大童の活躍を見せ屢次危機を救ひ巧みに失點を逃れしめた、對關大及び對神高商戰においても彼の連發的神技によつてよくその危地を脫せしめた、京大連續三年の制覇は彼の活躍に負ふところが多い

Soccer, Kyoto Imperial vs. Kwansei Gakuin, Koshien, November 25, won by Kyoto, 2 to 1. Top: Kanazawa (Kyoto goalkeeper) cuts a corner kick by Kwansei Gakuin. Center-Left: Gakuin heads and stops a rush for her goal by Kyoto's center three. Center-Right: Kwansei Gakuin tooters. Bottom-Left: Victorious Kyoto Imperial. Bottom-Right: Kanazawa (Kyoto goalkeeper) stops a Kwansei Gakuin shoot for his goal.





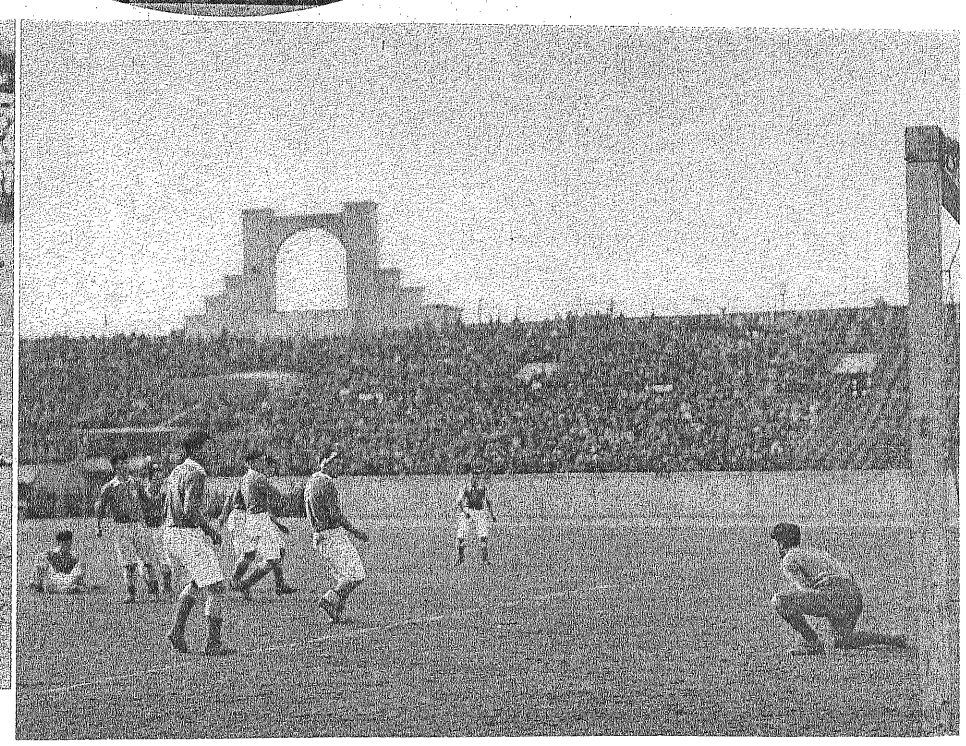


【上】京關蹴球　後半、關學のコーナーキックを京大のGK金澤君をどり出てカットするところ
【左】關學の應援團
【下】後半關學のゴールシュートを京大GK金澤君見事にセーブしたところ

【上】後半關學ゴール前における京大の壓迫で京大センタースリーがラッシュするを關學ヘッデイングで逃る



勝つた京都帝大チーム



S9-12-15







【上右】**早慶第一回戦** の前半早大加茂君のヘツデイングで慶應ゴール危地に陥る

【上】同上後半早大ＲＩ野澤君のヘツデイングをクリヤーした慶應ＧＫ一宮君

【右】**早慶再試合** の前半十二分早大ＬＷ平松君のセンターリングをＲＩ野澤君ヘツデイングで得點3―1となつたところ

【下】同上後半一分慶應ＲＷ駒崎君シユートして早大危機に陷つたがＬＨ吉田君(6番)辛くも これを潰す



早慶蹴球二度引分

早　大 3(2―1 / 1―2)3 慶　應

慶　應 7(3―4 / 4―3)7 早　大

早慶對抗蹴球試合は關東カレッヂ・リーグの優勝を決する試合として十二月一日、明治神宮競技場で行はれた、覇權をかけての一戰だけにさすがその名に背かぬ好試合を展開したが、兩軍翻とけのグラウンドに惡戰したのち遂に3―3の引分となり更に八日再試合を行つたが再びシーソーゲームの熱戰が演ぜられ慶應一點のリードで後半に入つたが、早大立どころに同點とし慶應5―4と三度目のリードをものしたが早大よく粘つて同點から6―5、7―5と盛り返し大勢決したと思はれたが慶應最後の逆襲的プレーでタイに漕ぎつけ遂に再度引分となつたので、早慶ともに第一位と決定、東西對抗には早大が推薦されて出場することゝなつた

Two Waseda - Keio soccer games, December 1, a three-to-three tie, and December 8, a seven-to-seven tie. Top-Right : Kamo (Waseda) heads and threatens Keio's goal in the first half of the first game. Top-Left : Ichinomiya, Keio goalkeeper, heads the ball clear in the second half of the same game. Center : Nozawa (Waseda r. i.) shoots for a score in the second game. Bottom : Yoshida (Waseda l. h.) stops a Keio attack in the same game.

S9-12-15

早慶再び會戰し再び引分く

關東學生蹴球リーグの最終試合

兩チームを第一位とし覇權は預り

竹腰　重丸

◇十二月一日の第一回戰は、慶應F・Wの活躍目ざましく三點を奪ひ。

◇早大また定評ある堅陣をもつて應戰し、つひに3—3の引分に終る。

◇よつて八日更に兩雄會戰し、早大全線にわたつて良く活動したが。

◇G・Kの判斷惡きに乘じ、慶應逆襲に成功し再び7—7で引分く。

第一回試合

十二月一日に行はれた早慶蹴球戰は、こゝ二、三年來蹴球の進歩を希ふものの胸奥に結ばれて解けなかつた憂鬱な感情を吹き飛ばして了つた感がある。一昨シーズン、その前年まで覇權を保持した京大を一蹴し、早大と引分けた後、順位決定戰に堂々と早大を破つた慶應は、活動力豐富なH・B線を戰略の基礎として、全體的な攻防の上に、一段「積極的な防禦法」を組織立てゝ一つの進歩を示したが、なほ且つ大まかに過ぎて整はぬ感が殘り、昨年慶應から覇を奪つた早大は、個人的に強引强靱な守備者を組織して、不可侵の强力な守備陣を布き、攻撃は奔放に早目のセンタリングからの突込みに、强引その物の感ある兩イン・サイドとC・F川本の個人技とを巧みに組合せて、また一つの別種な味を表はしたけれども、それもなほ一昨年の慶應テイームについて持つたと同樣な不滿を殘してゐたものであつた。

接戰を豫想さる

今シーズン前半の諸試合においては、慶應はF・Wの鮮麗なパス・ワークによる攻撃の强さを示しながら、守備陣の個人的脆弱さから多少の不安を藏し、早大は不安の少い守備力ながら、そのF・Wがあまりに個人技の優越を生かさうとして、却つて攻撃のテンポを低め局面の變化を減殺する傾きがあつた。しかるに早大は十一月十九日の對東大戰に、ロビング・ボールを用ひて局面の展開を圖ることに成功し、慶應は同じく二十五日の對東大戰に兩イン・サイドのロビング・ボール利用と、慶應としては異例の强引さをも示して、「早大獨り强し」とせられたシーズン初めの豫想を見事に覆してしまつた。しかして兩者のそれ等の長所は、二、三年前よりも一段と高められた活動力を基礎とする、激しい動きの間に織り込まれて居るものであるから、この一日の試合が近年に見られない好試合となるであらうことは戰前既に豫想せられ、結果も恐らく四對三程度の接戰に終ることゝ思はれてゐた。

慶應の第一點

試合前半において、早大先蹴の後R・Wのセンターリング失敗の球を、慶大奪つて辷り出しよく早大陣に攻め入り、早大ゴール前で粘り强く押し、洩れた球をC・F增田辛くもひつかけてシュートした球は、キーパーの逆を衝く結果となり開始後二分足らずに早くも一點を先取してしまつた。

この一點は、この試合までの戰跡から、多少のひけ目を感じてゐたかも知れない、しかも意氣込鋭い慶應にとつて幸先の良いスタートを與へ、士氣を彌が上にも旺盛にした感があつた。その後暫くの戰況においては、慶應兩イン・サイドは後退して、いはゆるWフオーメーションの定形で戰ひ早大F・Wが球を持つた際には、球のある側のウイングも後退して潰しにかゝりしかも球を奪へば滑らかに進出して、對東大戰に示した慶應F・Wの强味を、早くも遺憾ないまでに發揮した。

眞に息詰る熱戰

十三分に至り、早大L・W平松のC・Kに、R・I野澤のヘッド及ばず、R・Wまで伸びたのを、R・W大越シュートにきめて、一對一となるに及んで試合は一層白熱化し、豫想通りの激戰となり、各選手の活動は、果して九十分間を戰ひ終り得るであらうかと思はせるほど、激烈を極めるに至つた。しかしてその間最も目覺ましい活動をしたのは、慶應F・Wラインであり、二十分に早大兩F・BとC・Hの中央に突込んだ、慶L・I右近が、早大三人讓り合ひに乘じてヘッドし、R・W駒崎がシュートしようとした際の如き、一寸の隙も直ちに得點を結果するほどの、鋭さと强引さを備へ、慶應の第一點はその際には幸運とも見えたものが、この慶應F・Wの活動を見るに至つて決して幸運に拾つたものでないと思はせるに至つた。その早大の危機はG・K佐野果敢な突進の後、手から先に飛び込んで、駒崎のシュート直前に潰し、一應セーブしたが、鋭い出足を示してゐた慶應R・I播磨はそれをすかさず拾つてシュートし、球は惜しくも反對側ポストをかすめて外れるといふやうな一瞬の隙も見出せない息詰まる場面を展開し續けた。

兩軍攻防の長短

その後慶應L・W藤岡のセンターリングに始まつて早大ゴール前の混亂中、右近が强引に早大守備者を抑へて、ヘッドによる第二點を擧げた際には、そのころ早大守備者がクリーア難に陷る程、鋭い强攻を繰り返して居た慶應F・Wの凄味を滿喫させられた感があつた。その後も慶應各ラインは克明に動いて、洩れ球は殆んど全部その手に收めて守備陣のフイード難を補つて、右近のロビングは播磨の出足早いのと相俟つて中央突破に成功しかけたのも一再に止まらなかつた。他方早大はF・Wへのフイードには慶應よりすぐれた能力を示し、F・Wの滑らかな辷り出しには幾多の機會を迎へながら、各人の動きの間に連絡なく對東大戰に表したロビング・ボールも用ひず、球が一側に停滯し勝であり、加ふるに兩ウイングのセンターリングが本格的の物でないために、絶對的な好機と思はれるものは、チヤンスの數に比例しなかつた感がある。

慶の猛攻早の堅守

三十八分ごろ早大C・H立原から野澤にパスされ、野澤は中央線附近でドリブルし、それを大越に出し大越もドリブルで慶應守備者を外して放つた長蹴がきまつて同點となつたが、この得點經過は早大今シーズンの强味＝個人技の優越＝が十分に利かされたものであり、また見方によれば慶應C・Hが川本のマークを懸命に努めなければならない事情に在るため、變化の比較的少いC・H—R・I—R・Wといふ一側からの攻撃に、破られる結果を生んだとも考へられ、川本及びL・I加茂のシュート力が慶應守備陣に無形の威壓を與へたことになるといへないでもなからう。

兎も角も前半は近年稀に見る白熱的な戰況で二十分ごろまでの感じでは、前半戰に恐らく兩軍共に三點づつ位得點するのではなからうかと思はれたが、結果は二點宛の得點でハーフ・タイムを迎へた。怒濤のやうにラッシユし、しかも整然とした慶應F・Wの活躍を二點で喰止め得た早大の守備力は流石に早大守備陣であると讃嘆させるに足るものがあり、また克明な動きが不足て、ゴール前の突込みが揃はなかつたとはいへ個人的にドリブルて外す能力と、强力なシユート力を持つ早大に對して、危ぶまれた慶應の守備が大した破綻を示さなかつたのは、その捨身の果敢な潰しによるもので、これもまた各人の能力を極度に發揮したものとして、絶讃に値する健闘といふべきである。

後半は頭腦戰

前半戰の特徴を「活動力」の試合とすれば後半戰の特徴は頭腦の試合と見るべきであつた。早大は追風を利し、前半の不調な攻撃から脫するために、球をオープンへオープンへと廻す作戰を採つてゐるかに見え、慶應は兩イン・サイドでキープするよりも、一應早くウイングに出して早大F・Bを外につり出し、他のF・Wが極限まで前進して球を受け、鋭く突込む形の攻撃法を採用して、兩ウイングF・Wを前半より更に多く利用しようとしてゐるやうに見受けられた。しかして得點は前半とは逆に再會後三分にして早大は早くも左C・Kからの混戰中、加茂のプッシユに一點を加へて三對二とリードすることとなつたのであるが、この戰況は慶應F・Wに、守備は第二として得點に全力を傾ける鉾車となつて、遮二無二突込まうとする姿勢を採らせる事となり、勢ひ早大C・HはF・B線まで後退した位置に多く止まらざるを得ない形に導かれた。しかして早大F・Wの球をオープンに廻す努力は、慶應守備陣の果敢な潰しに遇つて球は荒れ、受ける側のF・Wは洩れ球を追ふ努力を缺いたため、そのH・B線にフオローの決斷を與へ得ず、C・Hのみならず翼H・Bの掩護も不足となつて所期の効果を擧げ得なかつた。

兩軍前後衞の動き

若しも再開後二十分間位早大F・Wが慶應F・W程の執着心を持つて、荒れたパスを追つたとしたならば、恐らく早大は更に一點を加へて勝利を確保したことゝ思はれる。

他方慶應の攻撃もバックよりF・Wへ球が渡つた際



早慶蹴球試合(第一回)前半慶應のゴール前にヘツデイングした早大CH立原君
Tachihara (Waseda c. h.) heading in front of Keio's goal in the first Waseda - Keio soccer game.

※右ページへつづく

S9-12-15

※ 左ページからつづく

早大H・Bを外して受けた形になつた場合は、非常に少かつたにも拘らず、あまりに突込みを急き過ぎたため、ミツド・フイールドでは凄いスピードを示しながら、ゴール前で妨害を受ける形が多くなり、決定的な機會を迎へた數は前半よりも少かつたさいつてよからう。もしも慶應H・Bから四、五度絶好のフイードが出たならば、最後近くの總攻撃て同點さするより前に、得點出來たかも知れないが、慶應H・B以下の個人的能力からすれば、早大F・Wを潰すほかに、それまてをも希望するのは、無理てあつたかさも思はれる。

近來の快戰

それ等の兩者の作戰や基礎的な能力等が相牽制し合つて、後半戰は多少刺激の少い感はあつたけれさも、再開後十五分間位までを除いては、さして衰へを見せなかつた激しい動きの間に、兩者がさのやうな行き方をしようさしてゐるかが明らかに現はれた、頭腦の戰ひさして、前半戰さ同等の興味が盛られてゐたさいふべきてある。

後半戰において、H・B線以下守備陣の活動さ、F・W線の活動さの間には、前記のやうに兩軍共に多少の齟齬を來してはゐたが、兎も角も試合全體を通じて非常に果敢な激しい活動を續けながら、いはゆる亂戰に陷らず、近年稀な快戰が展開せられたこさには全く快哉を叫ばざるを得ない。早大に對しては、も少し何さか出來なかつたかさ思はれる點も殘るが、それをいふよりもむしろ全力を傾倒し盡して、早大にその強味を十分發揮する餘裕を與へなかつた慶應テイーム、なかんづくそのF・Wの攻守兩面にわたる奮闘に賞讃の辭を送るべきてある。

沈滯を嘆ぜられながら、孜々さして練磨を續けたこの三、四年の我蹴球界の努力は、この試合によつて酬いられた感があり、次の時代の黎明を告ぐる一戰さして、特に記憶せらるべき試合であつたさいつて誤りないものさ信ずる。

第二回試合

一日の第一次試合には、早大は無氣味な威力を藏しながら、慶應全員の健闘さ自陣F・Wの粘り少いプレーに自縛され、威力は表面に現はれず、むしろ慶應に機會の多い戰況さなり引分に終つた。しかしながら慶應に一日の試合以上の出來榮を望むこさは無理であり早大は自ら崩すこさがなければ更に威力を發揮出來るさ思はれたので、一週を置いての第二次試合には、恐らく二點位の開きて早大が勝つだらうさ豫想せられてゐた。然るに球場の霜融けは前回よりも更に甚しく、マーク法の關係から、広る球場に弱い早大の守備が、果して慶應の鋭い攻撃を喰ひ止め得るか否かが、當日の勝敗豫斷を困難にして了つた。

前半慶應リード

開始早々から兩軍さもに前回に劣らず活潑な動きを示し、早大F・Wも昨年さ同樣奔放な大きいパスによつたため、球は良く動き、七分慶應が逆襲を巧に搗んて一點を先取する前に、一分には早大、二分には慶應に絶好の機會があつて、開始早々大量得點試合を思はせた。早大は前半風下に在りながらH・B線も良く進出し、積極的な戰ひを進めて優勢を持し、得點も慶應一點先取の後を受けて三點を續けて擧げたが、早大の優勢は鋭く寄せる慶應F・Wには却つて好都合さなり續けて三點を得て慶四早三のスコアを殘して前半を終つた。その中早大の得點はそのF・W中三人の能力からすれば當然てあり、慶應の最後の二點は早大キーバーの無用の進出に幸せられたものてあつた。

早大GKの失策

後半に入つて三分、早大は早くもウイングからの球を良く押して一點を入れ、その後の戰況もH・B線の活動により、早大優勢てあつたが、十八分に早大キーバーはまたもや無用の進出に得點せられて、三度同點さなつて了つた。

その後も第一次試合さは逆に早大の健闘が目立ち、得點もC・F川本の胸のすく樣な美技、L・W平松の好調により續けて三點を擧げ、殘るタイムは十分足らずさなつて、慶應はそれ以前に鮮やかな逆襲振りを示してはゐたが、恐らく勝利は早大のものさ思はれた。

然るに三十五分近く慶應R・I播磨がペナルテイ・エリアの隅近くてL・H、L・Bを外した時、早大キーバーは又もや何物かに憑かれたものゝやうに進出して輕く得點せられ、四十二分ごろには慶應の右からのC・Kを叩きながら近くに落して、當然勝つべかりし戰況の試合を再度引分に終らせてしまつた。

三點はGKの責

前半戰十二分ごろには慶應R・Wがシユートしようさするのを跳び出て前回さ同樣の美技に止めたさはいへ、當日の早大キーバーの進出は、すべての判斷を超越して悪く、何物かに憑かれたやうな行動て、ゴール・キーバーであるこさを忘れ、一人のF・Bになつてしまつた感がある。

早大の大量得點は全體の積極的な活動があり、慶應の守備が前回ほさの好調を示さなかつたので、當然の得點さいふ感があるが、一方早大の失點はそのバックに多少クリーア難が見えたさはいへ、少くさも三點はキーバーの無用な進出によつて失ひ、前半三十一分にタツチ・アウトに守るべきL・B鈴木がバツク・パスしてそれが流れ、增田に空のゴールに入れられた際のキーバーの使命を考へ合せれば、早大はキーバーの判斷が悪かつたために、勝つべき試合を勝ち得なかつたさいひ得やう。

近來の好試合

全體さして大量得點も無理てないさ思はれる位、球は速く大きく動き、雙方飽まて積極的に戰つた。しかしてまた計十四の得點がありながら亂雜な感じがなかつたのは、流石に良く訓練されたチームの試合てあるさいふべきてある。なほまた、全員良くも身體が耐へ得るさ思はれるほさの激しい活動を示しながら、その中に在つて早大C・F川本R・I野澤、慶應R・I播磨が浮き上つて目に見える程見事な活動を示したこさは、活動力、激しさ一點張りてあつたこの二、三年の蹴球が漸く再組織せられて來たこさを意味し、蹴球界再飛躍の時代の近づいたこさを物語るものであるさ信ずる。(終)

慶應東大を破る

東大氣魄なく6—0に潰ゆ

工藤　孝一

連戰連敗凋落の一途をたどる東京帝大最後の一戰たる慶帝戰は、十一月二十五日擧行された。從來慶應にさつての苦手さされた帝大ではあつたが、何等の期待も持てなかつた。

僅か六分にして慶應はC・F增田の機智に富むプッシユで輕く得點、次で播磨のシユートで2—0さ開き、直後に起る反撥の叫びも單なる斷末魔のもがき聲さしか聞えなかつた。怒濤の如く押し寄せるチームさしての纏つた迫力、精神力を持たない今年の帝大が、調子の波に乘る曲者慶應に6—0で敗退したのも當然のこさてある。

◇　◇

慶應の攻撃は好調さはいひ得なかつたが、前半右近播磨、增田の執拗な追球によつて、絕えず帝大陣をおびやかして、珍らしくも中央突破の新手を用ひ、後半に入つて漸く得意の側面攻撃に變へて、帝大守備陣を奔命に疲らせた。攻法の變化を持つに至つた個人持球力の進歩、判斷力の正確さは認めらるべき一つださ思ふ。守備においては帝大F・Wの單獨行爲さ無意味なドリブルで勞せずしてこれを抑へ切り、ひたすら攻撃援助に力を注ぎ得た。

單にこの一戰のみを以てその守備力を云々し得ないが、新人諸氏の落ち付きあるプレー振りは自信たつぶりだつた。

◇　◇

帝大は主將德田傷いて寺澤て補つたが、C・F太田のキープ不能さ、兩翼寺澤潮田の責任回避的なバツク・パス濫用てピント外れな攻撃に終始して了つた。シユートの劣弱もさることながら、ゴール前の鋭い寄せ(五人の纏つた)を持たない F・Wては勝利はおぼつかない、キープさかオープニングの巧妙さいふ慾は無理かも知れないが、蹴つては走り、持つては續く追球心さ、相互扶助の精神涵養が最大急務ではなからうかまた救援機關さもいふべきH・B線が消極に陷り、F・Wさ H・Bの間に大きな溝を生じたのは再考の要あらう。F・W間の横の連絡なく、更にH・Bさの縱の厚みを缺いた帝大の攻撃は全く見るにしのびない四分五裂狀態てあつたが、點の差を考慮せずに全員がオール・アタツクに出る氣力さ集團精神のほさばしりが欲しいさ思ふ。

◇　◇

守備は可成り整つたものさ思つてゐたが、案外に駄目てマークからアタツクに移るダツシユの鋭さを持たない兩サイド・ハーフ近石松浦から、慶應の右近、播磨の巧みなドリブルワークて崩され、不振の八卷が空廻りして了つた。

個人的に見た慶帝戰さいへば帝大R・B荻原の縱橫無人の活躍が不振の帝大の氣をはいた。慶の闘將右近藤岡を一手に引受け、藤岡をタツチ・ラインに釘付けにした偉勳は稱讃の的だつた。

慶大右近、播磨の兩インナーは勝利の蔭にひそむ尊い線の下の力持ちてあり、岩波主將のいつに變らぬ忠實なカバーは流石慶應チームの大黒柱さいつてよい。



慶應對東大の蹴球試合に慶應右近君タックルを外して東大ゴールに迫る
Ukon (Keio), avoiding would-be tacklers, lights out for the Tokyo goal in the Keio - Tokyo Imperial soccer game.

總評にかへて

今季の關東蹴球を顧る

山田　午郎

四戰四勝、土つかずの早慶は、今シーズンの關東の覇權をかけて去る一日相見え、早大の鋭鋒も、慶應巧緻良策のプレイに遮ぎられて引分け、覇權をめぐつて八日再び相見えたが、早大最後線の不覺は前線の活躍を反古にして再び引分けてしまつた、雙方學業の都合て今シーズンの覇權は預かられ、共に第一位さいふリーグ創始以來の記錄を殘してしまつた。

三度相會する機會を與へられたいのは一般の切願する所であるが致し方なく、覇權を預るに異存はない、全力を傾け盡した兩軍の胸のすくプレイを再度迎へて何さなく不活潑の動きを見せつゝある、斯界の刺激亢奮劑さなつたのでなからうか。

十月一日にシーズンの幕をきつてから十一月二十五日の慶帝戰まて十四試合は文大が勝軍を帝大に奪はれての接戰、農大が帝大を潰せば、新興立教も帝大を破り、六年連覇の歷史を誇る帝大が、凋落の秋に廻り合

※ 右ページへつづく

S9-12-15

※左ページからつづく

せた悲運に同情させられたり、帝、文、農が五戰一勝の同成績を以て、再び新奇の順位決定リーグ戰を行つたり、早、慶の斷然頭角をあらはす力量、新興立教の健闘等はあつても、孰れも物足らなきを喞たせるもののみであつた。

强ひてインターナショナルのルールを遵奉して、九十分のゲームの不當さへなじらずにはゐられなかつたファンからいはせれば早慶の再戰は、正に旱天の雲霓ともいふべく、不平だらだらのファンをして溜飲三斗の思ひをさせてシーズンに括りをつけ得た。

實力の相違はあまりにも甚だしいが、それは個々の技術の巧拙よりも、器用なプレイに生きて、敢て苦しまずの賢明(?)が、時代の風潮に並行してあらはれて、プレイに對する執着力が影をひそめた結果に他ならないと思ふ。換言すればメンバーとしての忠實さが乏しくなつたといへるだらう。より意氣に生きることを求め、より氣構へを望んでゐた所に惠まれたこの早慶戰を迎へ得て、また何をかいはんやである。

順位決定リーグにおいて帝。文は再認識を要求して來たが、之はシーズンの當初からあり度きものであり、夏の合宿も實施してゐる際、泥繩式の糊塗窮策は飽くまで排撃したいものである。早慶の力闘によつて辛くも面目を保つたリーグの各校は、早慶の孰れの部分でもよいから鵜呑みにしてでも精進を續ける要がありはしないか。個々の技術の前には常に實戰に卽する練習を積む要ありの忠言を呈する、今シーズンの香しからざる出來榮えであるを強言して置かう。

京大又復關西學院を破る

關西學生蹴球リーグの最終戰

三宅二郎

◇關學は京大をよく押して一方的ゲームを演じたが。
◇京大巧みに虚を衝き、2—1の接戰に勝つ。
◇特に目立つたプレーヤーは京大のG・K金澤。

關西カレツヂ蹴球リーグ大詰めの一戰。しかも覇權を賭けての京大對關學の試合は十一月二十五日南甲子園運動場において行はれた。

試合は豫想された通り關學は一方的ゲームを演じながら、2—1のクロス・ポイントで機を逸し、またも待望の覇權の奪取を次年度まで持ち越さねばならなかつた。京大は後半の中ごろから暫く好調の波に乘つた以外は、殆んど關學の壓迫で、殊に前半の如きは京大が關學陣に攻め入つたのは極く僅かであつたにも拘らず關學は京大の爲に前半一點をアヘッドされて敗戰の記錄を殘した。この京大の最初の得點は、四十一分後であつたのだから、もう少し頑張つて前半ノー・ゴールとしてゐたなら、結果は或ひは反對となり關學のものとなつてゐたかも知れぬ。

兩軍前線の優劣

覇權を賭けての試合であるだけに、兩チームはともにかたくなり過ぎて、ボールはしつくりと足につかざるため、キックは意の如く進まず、ゆゑに蹴球のもつ醍醐味に接することが少なかつた。ミツド・フイールドで優勢を持した關學がただ單に攻むると見れば、京大もたゞこれを防ぐといふ有樣で試合は眞に單調で無味なものであつた、その間京大はG・K金澤君の大童な活躍が特に目立ち、彼の名を一層なさしめるのみであつた。

京大二點關學一點の結果から推して、京大の前線が關學のそれより優つてゐたとは決していへない、なるほど逆襲からスピーデイに一擧にして位置を變へ得點を摑んだところに、京大の誇らしさがあるにしても、關學のF・Wが京大より劣つてゐるとは思へぬ。今シーズン兩軍が收めた得點は、關學の三十三點に對して京大は十九點で、關學は京大より十四點多くの得點をあげてゐる、この得點差をもつて、兩チームが持つ攻撃力の消長を云々することもまたどうかと思はれるが、しかし關學が駿足揃ひて元氣なところはリーグ中における第一位で、ただ難をいふならば餘りに素直なプレーであるがため虚々實々機に臨み變に應じてのかけ引きに缺けてゐることを指摘出來ないことはない。

目立つた選手

この點京大は押されながらも、よく關學バックの穴を拾つて巧みについたところは、さすがに試合巧者で殊に對神高商戰に眼をいため、對關學戰に出場をきづかはれてゐた眞田君の動きは、際立つて見事なものであつた。小出君にはまだ將來を待たねばならぬところがあるが、しかし同君のポヂションはよくしばしば逆襲のよき緒をなしてゐた。小出君の第一點目のとき、關學ゴールにつられて前進し過ぎてゐたならば、恐らくゴールを拾ひ得なかつたであらう。山中君の後半に入つてからの動きにもかなり効果的なものがあつた。

一方關學F・Wは兩ウイングがタツチ深く陣し、快足を利してよく京大のバックをつき、そのセンターリングはしばしば京大の危機を思はせたものであつた、また最近好調な野澤君及び山藤君の動きはさして惡いものではなかつたが、しかし京大G・K金澤君をまくためにゴール前において何とか施すべき策がなかつたらうか。

G・Kの比較

それにしても金澤君の守備陣はあまりにも固過ぎた關學F・Wの劣勢を說くよりも、むしろ金澤君の堅實な把球振りを稱揚した方がよからう、假りに金澤君を關學のキーパーとすれば恐らく關學は五、六點をせしめ得られたものと思ふ。

關學G・K西川君は目立つて落ちるプレーヤーではないが、金澤君に比すれば餘りにも見劣りした、京大はこの試合のみならず、對關大及び對神高商の試合においても金澤君の美技連發で、失點と思はれるピンチを切り拔けたことが幾度あつたか知れない、京大連續制覇の殊勳者の一人として彼の奮闘を大に稱へねばならぬ。筆者の知る限り彼は現在わが國におけるゴール・キーパーの中で最も秀れたプレーヤーの一人である「アー駄目だ」と直感した場合、その豫感は殆んど的中するものであるが、彼にはこの豫感が通用することが少ないほど見事な球捌きであつた。

また後半において逆境から一變攻撃に轉ぜしめたキックも見逃がすことが出來ない、ただボールを持ち過ぎるため、相手のラッシュを受け、ボールを中心として密集陣をよく形成してゐたが、今少しボールを早く手放せば、その危險も減ぜられるわけでこの點一考する要があらう。

後半戰は伯仲

後半中ごろから京大は順調の波に乘つて、關學と五分の試合を進めるに至つたのは、京大が調子づいたといふよりは寧ろ關學の精神的な焦燥が味方の布陣を亂した爲によるものである、三崎君を中心としたH・B團及び川西、宮部のF・Bは京大のバックに比し決して遜色のあるものとは思はれぬ、京大の持地君は足の疾患依然恢復せず、日頃見るが如き廣範圍な奮闘を見ることが出來なかつたが、しかし相棒の栗原君はシヤープなタックルとかなり強いキックでスピーデイに押し寄せて來る關學のラッシュを喰ひ止めてゐたのは、金澤君の堅陣を一層かたからしめたものといひ得る。前半京大のH・B團は關學のため完全に抑へられて餘裕のあるプレーをするいとまがなかつた。ゆゑに攻撃の掩護においてはさしたる威力を持たなかつたが、しかし自陣ゴール前における關學F・W攻撃の潰しにはかなり適切なものがあつたのは見逃せない。

京大の試合巧者

チーム全體から見るときは京大より關學の方がはるかに優つてゐたが、京大が勝利を把握し得た大きな原因には、金澤君の見事な守備力があづかつて大いに力があつた。

勿論得點をあげ得たF・Wがあつてこそ勝利を摑んだのではあるが、しかしこのかたいディフエンスが若しなければ、味方が得たゴールより以上の得點を關學に奪はれてゐたことであらう、攻撃は最大の防禦といふが、今年の京大はよき守備は最大の攻撃となつたわけである。何れにしても京大は苦しい試合を續けながらこの覇を唱へ得た、エレヴンの努力に對して滿腔の讃辭を呈せねばならぬ。



關學、京大蹴球に殊勳を樹てたGK金澤君の健闘振り(中央)
Kanazawa (Kyoto Imp. goalkeeper) playing a wonderful game in the Kwansei Gakuin - Kyoto Imperial soccer game.

關西蹴球界一瞥

關大、神高商の躍進

三宅二郎

關西學生蹴球リーグの終末に當り、京大、關學以外のチームを一瞥する。

關西大學 從來噂にのみ上つてその實あまり香ばしい實績を擧げ得なかつた關大は、今年久方振りの內容を見せ、京大に對して2—1、關學に對して1—0の大接戰を演じてともに惜しい敗北を喫した。對京大試合には關學と同樣に關大が壓倒的な優勝を持しながら金澤君の奮闘にさへぎられて一點より奪ひ得ず恨を呑み、また對關學の試合には前半開始後五分、味方のミス・キックで獻上した得點が最後まで祟つて、遂にその一點が勝敗の分岐となつて終つたのであつた、關大としてはこの二試合とも、眞にあきらめ切れない敗戰の記錄をとどめたわけである。チーム全體としては優勝校京大に對しても、また關學と對比しても、決して見劣りするものではなかつた。バックスのうちでR・Hの塚井君がやゝ落ちるやうであつたが、新人として先づ上出來の方で、H・Bの渡邊、土井兩君のコンビはしつくりと合ひ、守備力には益々堅實味を加へてゐた、またG・K上吉川君の技倆も上達し、後顧の憂ひをなからしめるに至つたのは大きな收穫である、殊に對神高商試合の後半における奮闘は大に自信をつけたことと思ふ。F・Wラインは C・Fに大橋君を得て左へ西山君、津田君となかなか强力な攻撃陣を張つたが、右側が左側に追隨し得ざるため、肝腎のところてものにならず、ために攻撃の陣形をくづして得點の決定力を減殺してゐた、關大が京大及び關學に勝利を讓つた大きな原因は、このF・Wの配列不均整によるものである。

神戸高商 神戸高商は關學のため6—1のかなり大きなスコアを見せたが、關大には3—1京大には3—0のクロス・ゲームを演じて敗北し、第四位となつた、兩F・Bに新人を起用したのでその活躍範圍の廣狹如何

※右ページへつづく

S 9-12-15

※ 左ページからつづく

は同チーム消長の上に大きく影響するので、かなり興味を以て見られたものだがL・BはさうではなかつたがR・Bはまゝ若さを暴露してゐた、しかし先づ無難なプレヤーであつた。H・Bラインはこのチームの最も誇りとするところて、殊に岡田君、小橋君が示した攻防振りは、リーグ中における優秀なものであつた。F・Wラインでは前川君が飛び抜けて目立つてゐたが兩ウイングの制球力惡きため、攻撃力はかなり削減され、またC・F、L・Iには得點決定力が脆弱であつたことは否めない。

◇

大阪外語 大阪外語は語試合から想像して阪大のため敗退しはしないかと思はれたが、よく阪大の鋭鋒を切り抜けて反對に後半に入つてから三ゴールを擧げて最下位から逃れた、このチームはどこといつて強いところを持たないが、またこりたてゝいふほどの弱點を持たない、要するに未完成なチームである。

◇

大阪帝大 今シーズン新たに一部に登つた阪大は今春更に駿鋭を得たのでその活躍を或る程度まで持たれたものであつたが、チームのバランスなく押すべきときに押し得ず、遂に一部の最下位となつて終つた。二部の最高位である神戸商大のチヤレンヂを受けて、或は二部に轉落するのではないかと思はれたが、よく喰ひ下つてこれを擊退し、危く一部にとどまることが出來たのはせめてもの慰めであらう。今年の各校は阪大及び外語が一段と落ちたが、關大の躍進と神高商の覇氣て、從來京大、關學の二校のみ問題とされたリーグ戰も、四校間實力の接近となつたので、かなり興味あるものであつた、また全體的に見ても實力向上の跡著しきものがあつたといひ得やう。

S10-1-1

學生蹴球の覇權早大へ

早　大 6{4—0 / 2—0}0 京　大

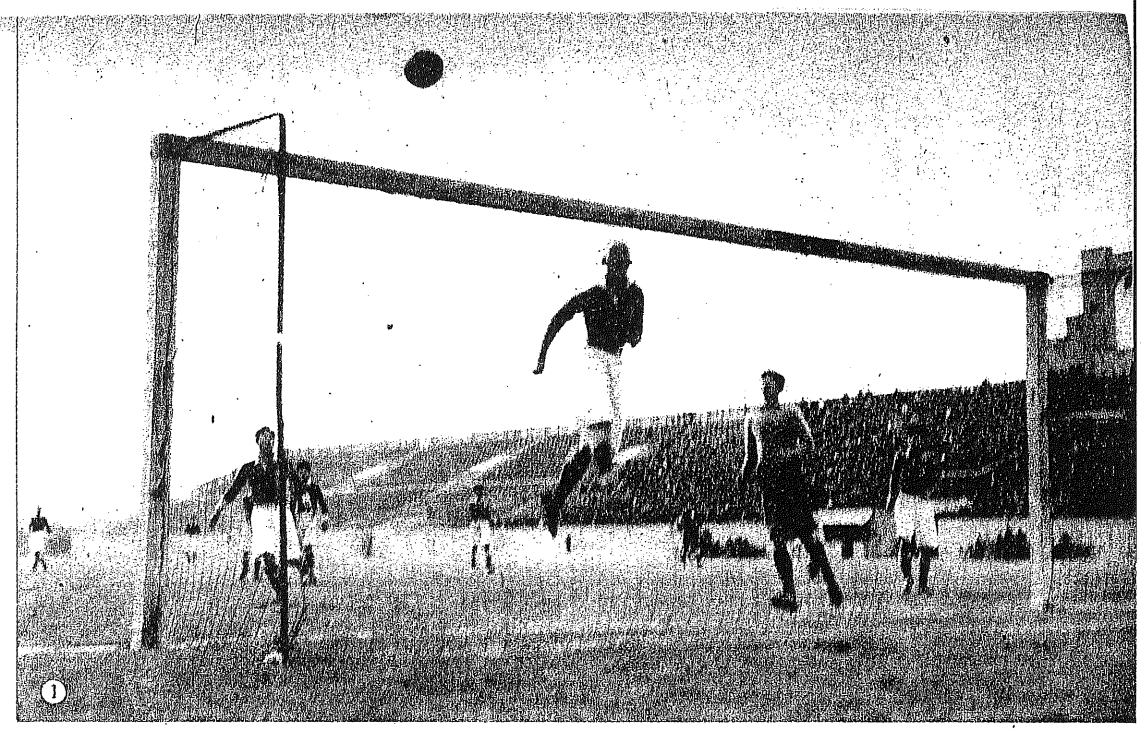
早大對京大の第六回東西優勝校蹴球試合は昭和九年掉尾の大試合として十二月十六日甲子園南運動場に行はれたが京大邀撃の地の利を得ながら迫力に乏しく遂にノーゴールで敗れ、東西對抗創始以來の均衡を失したゲームに終つたこまれ優勝チーム早大のＨＢとＦＷ兩線を巧みにとり結んだ加茂君、野澤君の努力は笹野の奮闘と相並んで一軍中に光彩を放ち、殊に全線の忠實なプレイはその實力を遺憾なく發揮せしめて注目を惹いた

❶前半早大の猛襲を京大ＬＢ持地君ヘッディングしてＣＫに逃れる美技を演ず

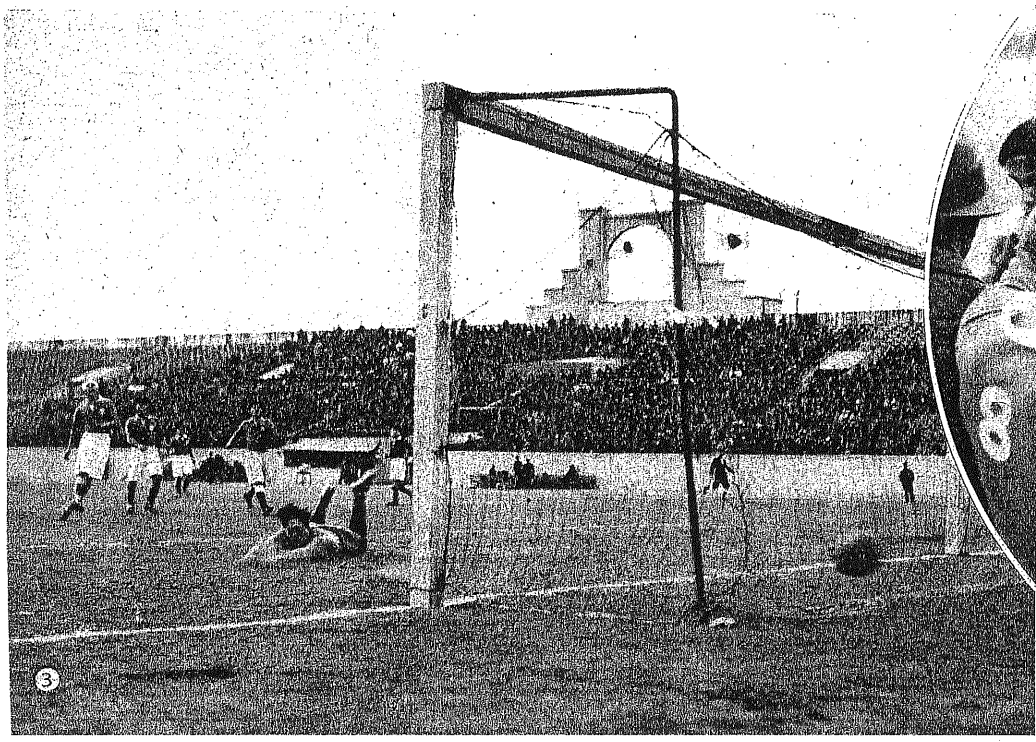
❷前半四十三分京大逆襲して早大ゴールに迫つたがＧＫ佐野君よく喰ひ止める

❸前半早大川本君がクリーン・シュートして第二點目を擧げた直後のシーン

❹ハーフタイムで鳩首祕策を練る京大チーム

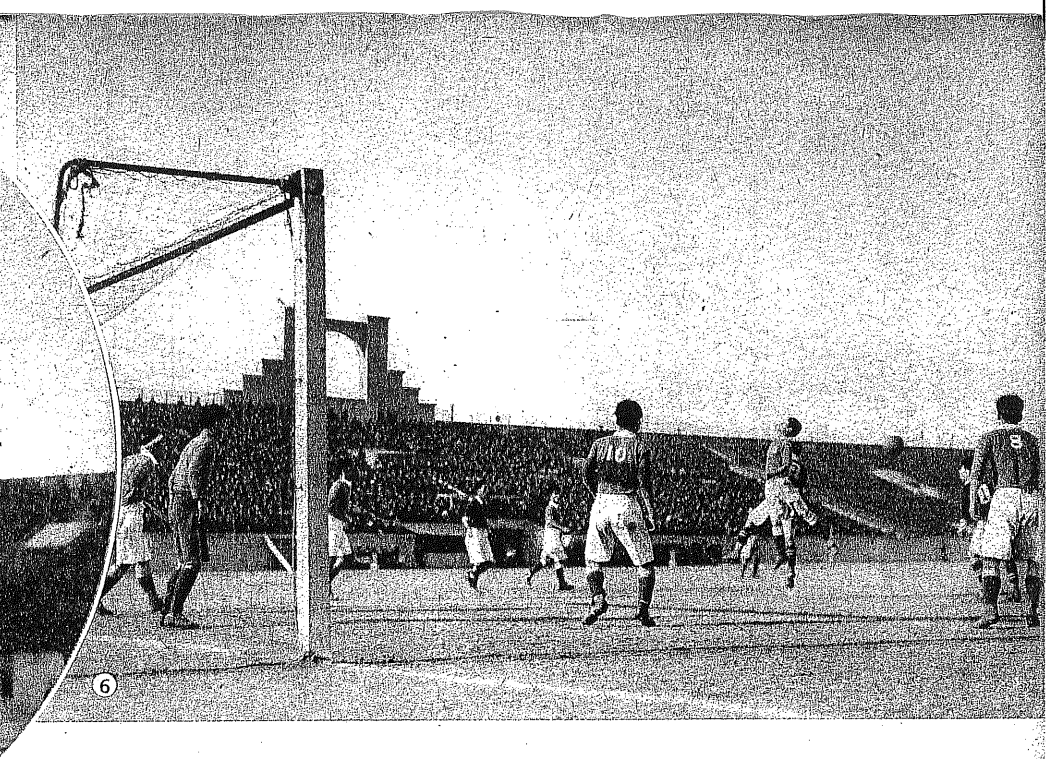

❶


❷


❸


❹







【兩軍のメンバー】

（早大）		（京大）
松兄	FW	岡田
平茂	FW	長野
加川	FW	眞田
野本	FW	中田
加澤	FW	田田
吉茂	FW	安村
立田	HB	地原
笹野	HB	澤
鈴木	FB	今持
堀江	FB	栗金
佐野	GK	
10	GK	18
10	CK	5
4	FK	2



❺ 後半京大ＦＷバックからのロッビングにラッシュしたが早大ＧＫ佐野君喰ひ止む

❻ 後半早大バックからの長蹴ＦＷ川本君に渡つたが、京大ＣＨ福安君バックヘッデイングで阻止す

❼ 勝つた早大チーム＝後列向つて左から平松、笹野、加茂（弟）、吉田、佐野、加茂（兄）、前列向つて左から立原、鈴木、野澤、堀江、川本の諸君

Soccer, Waseda vs. Kyoto Imperial, Koshien, December 16, won by Waseda, 6-0. (1) Mochiji (Kyoto) heads and stops a Waseda attack in the first half. (2) Sano, Waseda goalkeeper, prevents a Kyoto goal with a fine play 43 minutes after the beginning of the first half. (3) A clean shoot for the second point by Kawamoto (Waseda) in the first half. (4) The Kyoto team during half time. (5) Waseda goalkeeper stops a Kyoto rush in the second half. (6) Fukuyasu, Kyoto c. h., stops a Waseda attack by back heading in the second half. (7) The victorious Waseda team.

S 10-1-1

東西代表校蹴球爭覇戰

試合前豫期された如く…
…早大の大勝となつて幕を閉づ

◇山　田　午　郎◇

○過去五年間の如き接戰は見られず早大の大勝となつたのは東西蹴球界代表校の試合としては物足りない感が深い。

○然し早大の示した諸技術は斯界を稗益するところ多くこゝにこの對抗戰の有意義性を認めることが出來た。

○風が强くプレーを妨げたのは遺憾であつた。

昭和四年東西優勝校對抗蹴球戰が創められてから今シーズンの第六回を迎ふるまで、關東四勝一引分、關西は四敗一引分けて未だ勝利を記錄しない。今又關西代表四回の歷史を有する京大が早大のため6—0で慘敗し關西方は依然として勝利を記錄することが出來ずに終り年次成績は次の如くなつた。

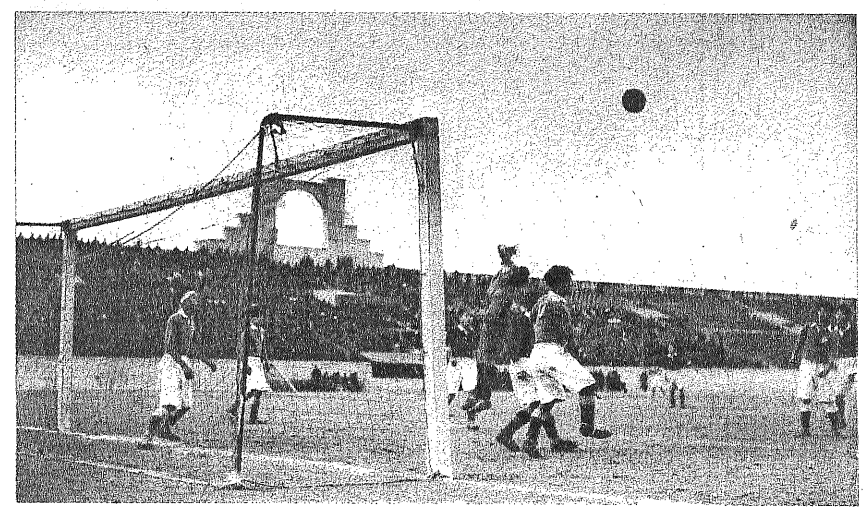
第一回 東大　3—2　關學
第二回 東大　2—1　京大
第三回 東大　2—2　關學
第四回 慶應　2—1　京大
第五回 早大　5—2　京大
第六回 早大　6—0　京大

從來のこの對抗戰はスコアの示す如く東西兩代表實力の相違は紙一枚ともいふべきもので試合も刻々變化を見せ興味深いものであつたが、今回は餘りに實力の懸隔甚だしく、寧ろ關東代表早大のスコアすることの少かつたのが不思議とされる位のものであつた。尤も素質許りではなく早大は慶應と關東の覇權をめぐつて再試合までして十分練磨されてゐるのに引きかへ、京大は幸運の代表權を獲得したとへホームグラウンドの地の利があつても洗練の不足が想像された。豫想も六分と四分とか、七分三分といふのも强ち架空のものではなく、實力の相違が其のまま決定づけられてしまつた事を遺憾に思ふが6—0のスコアはこの日の出來榮えからすれば當然の結果であつた。

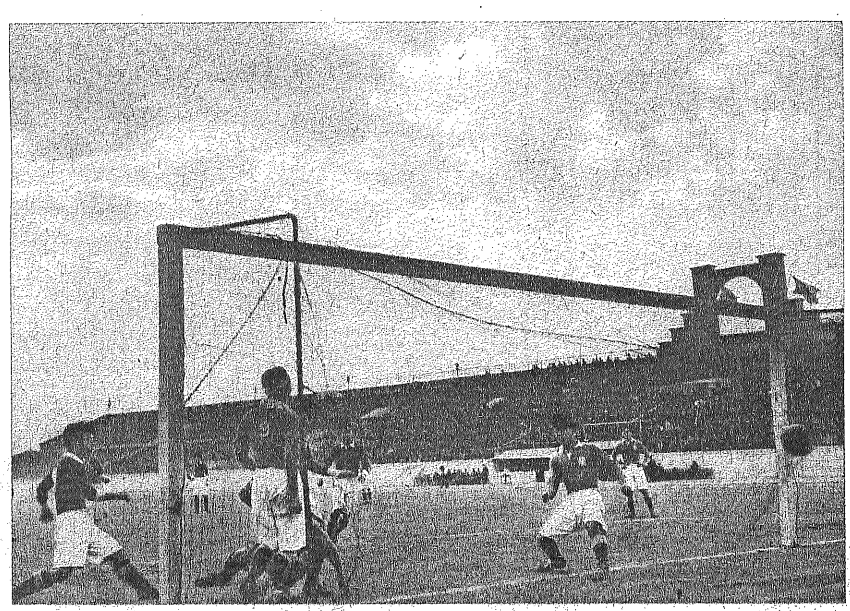
× ×

十二月十六日は好天、南甲子園球場はフキールド・コンデション極めて良好であつたが甲子園濱から吹き來る軟風はプレイを妨げることが多かつた。早大は甲子園濱側の風上、京大のキック・オフで開始された。早くも切り返した早大はLI加茂ロング・シュートして京大陣を先づ脅かし、續いて野澤—平松—川本の鋭角パスは川本のシュートするところとなつて六分までに京大陣を脅かすこと六回この間京大は一度早大陣深く球を進め、RI山中の中前送球は早大GK佐野の悠悠クリヤするところとなつて終つてゐる、前半京大が早大陣深く進出したのは數度で殆んどミツド・フキールドで京大進擊機會は極めて無雜作に切り崩されて早大の一方的試合であつた。

27分LW長岡のセンターリング、29分同じく長岡のセンターリングがやゝ深目に出された時CF廣野のチヤージする所となつて早大GK佐野が球を持つたまゝゴールラインから彈き出されたのと38分LI眞田の左前パスを長岡が早大ゴール右前に好送したのをRW高田へツデイングで襲ひ41分RW高田の送球から早大ゴールに近く攻擊を續けたのがチヤンスの端緒を捉へ得るものであつた。29分廣野のチヤージが一步早く、38分高田がフリーであつたのだからへツデイングを捨てたなら或はこれが物をいふ事にもなつたのではないかと思はれぬでもない。假令向ひ風であつても甲子園の濱風を知悉してゐる京大としてはFW線への供球が餘りに單的であつた。



早大對京大蹴球試合後半京大ゴールを死守する金澤君
Kanazawa defending the Kyoto goal against a fierce attack in the second half of the game against Waseda.



早大對京大蹴球試合前半早大加茂（弟）君のシユートで第四點目を擧ぐ
Kamo (younger) puts through a nice shoot and wins the fourth point for Waseda in the first half of the Soccer game aginst Kyoto Imperial.

HB線が早大FW線の多角的な攻擊に備へて應戰に遑なかつた所からすれば無理ではあつたらうが、よりマークを確實にし救援工作が行はれてゐたならば自陣の苦戰も少くし、FW線への供球も十分とは行かずとも相當豐富に行はれたであらうと思はれる。早大は風上でもあつたが確實なパスワークと强引のドリヴリングで京大側のタックルを外し、各線間は緊密に結ばれて九分一分の如き絕對優勢の試合を見せた。第一、二三點とも決定的のもので巧技のGK金澤も施す術なく終つてゐる。第四點は早大が中央線附近京大陣でフリー・キックを得たのにはじまり、京大はLB持地とGK金澤の衝突が破局を招いてゐる。ゴール・カヴアに忠實な持地としてはこの後退は止むを得ないが金澤の巧技にもつと信頼を置けばこれは免れ得たであらう。然し前の三點といひこの機會といひ、早大FW線の出足の速さと突つ込みの物凄さを窺ふに足るものである

守備陣は京大が左右兩側と中央を覗つて出づるを堅守し、攻擊線への供球を豐富にしてゐた。加茂、野澤の前後左右の聯絡、笹野の力闘は早大攻守の上に與つたことが大きい。前半4—0それは當然の成行でなければならなかつた。このシーズン、ビツグ・ゲームに比較的經驗乏しいRH今村の動きと判斷は當を失すること多くHB線の進退と實力の全幅的示現の上に相當影響してゐたがこれは今村を責めるよりも早大FW線左側の平松、加茂の俊敏なプレイを賞した方があたつてゐるかも知れぬ。前半の大勢からすれば均整のとれた早大に對し京大はFW HB兩線のムラの多いプレイに比較して持地、栗原のFB線とGK金澤の優れた技術が精彩を放つてゐた。

× ×

後半に入つて順位を占めた故もあらうがCF廣野の球捌きは漸く本格的のものとはなつたがFW線の誘導並行攻擊力が缺けてゐた爲めに効果を擧げることが出來ずに終つてゐるのは比較的左側の長岡、眞田の好聯絡のあるのを使ふ事をせず多く右に捌いて失敗したのと共に京大にとつては惜しまれるものであつた。後半に入つてFW線の立ち直つたのは試合を對等に運ぶ所まで行つたが好調にある早大の一角を崩してもゴールを陷れることは出來なかつた。

然し 6分、33分、40分の機會は焦燥と突つ込みの足らぬために落してしまつたがノウ・ゴールを免れる點からすれば京大としてはあきらめ切れぬものがあつたらう。勿論萎縮してゐたが既に勝敗が決定づけられてゐるのだから後半當初のオープニングに出た一策の他に、身を捨てゝ浮ぶ瀨を求める奇道を選ぶも一策ではなかつたか。尤もチームとしての彈力が乏しいのだから或は無理であつたかも知れないが深いW型をあくまで存續するとか、HB線の山型を一層高いものとして橫を考慮に入れぬ布陣で縱に長くして奇形をとるのも一手であつたらう。HB線の後退布陣がFB線の活躍範圍を狹くし、FB線がこれに伴つて下つてゐるために、GK金澤の力をして寶の持ち腐れとしてゐたなどは守るに墜ちた拙策でゴールを陷れられても奪ひ返すことに力を注いで見たかつたと思ふ。

LB持地が時々はFW、HB兩線間に入るなどはあつたがこれによつてHB線は布陣をかへて攻擊力の增幅を期することなく終つてゐる。出鼻を挫かれた頽勢は結局最後まで擧ね返し得ずに終つた。早大は後半向ひ風を警戒して相當愼重に試合を運んでゐるが12分京大長岡、眞田のパスをカツトしてRW加茂弟のセンターリングは稈合に出されGK金澤挺身の業を見せて彈いた球の轉々するをLW平松拾つてシユートしゴールを奪ふ。39分京大持地のバツクパスはプツシユ弱く懸け離れたGK金澤に達する前に前出してゐたLW平松又もや拾つてクリーン・シユートして後半二點となつてゐるが早大の老巧さは最後まで示されてゐた、早大の鋭い動きとチームを縱橫斜めに結ぶ太い線は京大今日の實力を持つてしては斷つべく非力であり京大側としても迫力を醸成すべくもなかつた。

實力の相違とはいへ餘りに一方的に偏した試合で東西代表の對抗としては感銘の何物もなかつたことを遺憾と思ふが早大の試合の運びによつて太いパス聯絡と多樣の局面展開が導く速攻を示し得たことにより東西實力均等の上に相當役立つてあらう。依然この對抗戰は爭覇の他に斯界に稗益することのあるを欣ぶものである。

S 10-1-15

全國高校蹴球大會評

六高連覇の望み空しく……一高奮闘して覇者となる

═山　田　午　郎═

◇優勝候補とされた早稻田高等學院が最初優勝圈外に扱はれてゐた一高に敗れ、更に三年連覇の偉業成ると噂された六高また一高のために敗れる

◇一高は見たところ體力も劣り氣味であつたが出足早く、タツクルも確實で且つ統制のよくとれたチームであつた、これが一高をして覇者たらしめた原因である

◇六高の球豪直木が病中を押して出場したれども日頃の如き身體のこなしが出來なかつたのは無理もなく、六高にとつての痛手であつた

◇二高はベスト四チームとして十分の力を持つてゐた、特に菊地を中心とする放射狀の緊密な結合は出場チーム中の隨一であらう

東京、京都兩帝大主催第十二回全國高等學校蹴球大會は參加二十二校を集めて恒例に依り元旦から六日まで、京都市岡崎公園球場で擧行された、年末の降雨のために元旦第一日のフイールド・コンデイシヨンは良好ではなかつたが連日好天さは行かずとも京都特有の時雨も見せず次第に良好になり、天の惠みで稀有の好條件の下に本大會が遂行されたのは同慶の一つであつた。優勝候補と目された早高は優勝圈外として扱はれた一高のため、不戰同士の第二回戰において屠られ、然も昭和六年第八回大會の砌り連覇を目指して決勝戰に1—0のスコアを死守されて恨を呑んだ一高が、今回は六高三年連覇の雄圖を決勝戰において抑止するといふ稀らしい結果を見せて昭和五年第七回大會以來茲に二度目の榮譽ある優勝を記錄した。

一高優勝の跡

幸運の緒は前半四十分のペナルテイキックに依つて解かれはじめたとはいへ一高の堂々たる優勝であつたといへる。第二回戰において早高に對し見れば敵失とも見られる貴重の一點に物を言はせ第三回戰では北大豫科と接戰の末、延長戰に入つて再び同點から延長後半において辛くも勝を制し、准決勝戰に移つては衆勝を豫想された五高に對し、五高捨身の一戰に會つて案外な苦戰を演じ延長後半に入り漸くコンビネーションプレイの精華を示す事が出來て辛くも面目を施すといふ樣に辛苦が重ねられた末に制覇を遂げた。

バックスには脚部の負傷に惱むものあり體力から見ても他に比して劣勢ではあつたが結局は出足の　さとバックスの果敢なタツクリング、それにHBを中心にしてチームとしての統制がよくとれてゐたのが一高の傑出した強味でありこの制覇を完成させた動力でもあつた。就中RI角田の矮小をして過重の負擔に堪へる廣い動きはボールをよく掻き出して攻守の上に偉大な貢獻をしたのとRH佐竹の回を重ねて愈よ冴える好プレイは餘りにも印象深かつたものとして特記せざるを得ない。

これ等は異例として上げたに過ぎないが個々の忠實な動きと正確にして餘裕あるパスワークは集團的威力として遺憾なく示され一高は捉ふべきものを捉へたのであつた。從來大會は六日間連日連戰の結果として優れた體力の下に強力一點張りの試合を強ひられてゐたのであつたが本大會の記錄と結果を繰るならば全般的に體力的のプレイの上に科學的の最小の勞力を以てして最大の効果を盛るといふチームとしての連繫の巧妙さが著しく目立つてゐた、この新生面に躍るものとして一高は勿論この好例の第一に數へらるべきものである。

一高が對北大豫科、對五高の激戰に堪へ得た體力を勿論無視するものではないが一高は體力、氣力よりも技術的の持味に宿願を達したといふ事になる。

六高の連覇空し

一高のため第八回と前大會の復讐を併せて遂げられた六高は對成蹊、對水戶の二戰にはこれを縱橫無盡手玉にあげて薙ぎ倒し二年連勝の王者の貫祿を示したが第三回戰の對靜岡戰には多少焦り過ぎた靜岡の虚を容易に衝き切れず前半終りに近くゴールポスト傍にあつたLW山口がRI安藤のシユートした洩れ球をプッシユしてゴールインとなつたのが勝敗を分ち准決勝試合に進んだ。

そして准決勝試合においては二高と相見え前半は凡蹴と二高の强氣な守備に押し切れず後半は二高優勢、辛くも二十分CF直木が二高の淺い守備陣を拔いてドリヴル・シユートして一點を先取しこれが勝敗を分つものとも見られ、また二高回復の希望も容易にかけられる接戰が繰り返された。然るに二高は二十六分CH菊地の放つたチヤージ・ボールがFW線の優れたダツシユによつて決定づけられ同點となり延長戰に入つ六高は前半八分LW山口の出足惡く可惜機會を逸したが總體的に見るならば二高に勝利の希望は多くかけられてゐた。RB簗島の奮迅の活躍とGK吉田の巧技がよくこれを支へ得たのであつて一對一同點引分けで幸運の抽籤に雀躍し一高と再度爭覇の檜舞台に相見えたのであつた。

好調のスタートを切り第三回戰後は激戰を續けた疲勞もあるが前回及び前々回の六高の鋭い姿は見るよしもなく僅かに缺陷を沒落して傳統の意氣に喰ひ下がつた悲壯な氣組の恐しさを知るに過ぎなかつた、決勝戰において不覺のハンドで一高にペナルテイキックを許し破綻を招き、後半にも轉倒から立上る時よろめいて知らずハンドの反則を犯して再びペナルテイキックを與へてしまつたがRB簗島の傳統の意氣をリードした功績は偉大なものであるといふべきだ。若し彼を一枚缺けば……も考へられぬではなく不覺のハンドなど責めるにあたらない微々たる過失である。

六高は球豪CF直木の病中を押しての出場は悲壯であると共に大きな傷手でもあつた。競り合ひにおける巧みな身體のこなし方は粘り强いプレイと共に一異彩であり相手を瞠若たらしめてゐたがこのプレイの救援工作が常に不足してゐた。決勝試合にしても二高との準決勝試合にしてもその相手の忠實なるマークと決定的のタツクルが牙をむいて待ち構へられてはゐたがこの一偉才の巧投を生かすにはHB線は餘り直木に信賴を持ち過ぎ、フオロウすることなく次に展開する局面のみに備へて直木の奮躍をして徒勞に終らしめたのは大なる違算でなければならぬ、缺陷の被覆のためとは言へHB線がより攻撃的であつたならば豐富なフイードの下に橫山の巧技も擴大示現せしめ得たのではなからうか。

相手に備へるのみでなく、相手をして備へしめることを忘れた六高といふのは果して誤れる見方であらうか。

其他のチーム

六高と準決勝戰で盡きせぬ恨を殘した二高はベスト・フオアとして見ても一高にも劣らず勿論六高、五高に比し優れてこそ劣りはしないよいチームであつた。CH菊地を中心にして放射狀の緊密な結合に至つては隨一ともいへたであらう。邊陬の地に育まれたものとしては驚異に値する出足の早さ、進退判斷の好適、大槻、岩本、大谷のセンター・スリーは攻撃の精華であつた。寧ろ兩翼のセンターリングがこのセンタースリーの技能を生かすに足らなかつたのを惜しむものであつた。このチームが更に洗練の磨きがかけられてゐたならば高校蹴球界を牛耳るに足る立派な素質を持つてゐた。

第三回戰で北大豫科は一高に敗れたがキツクは一際目立つものがありこの好武器を以て一高を相當惱ました、CK11—1GK8—21これは戰況の有利を物語つてゐるがゴール前の決定力に事缺いてゐた。後半八分、二十分、二十一分の左CKを日下が好蹴してゐたがこれを僅かに一本生かしただけで餘りに淋しいものであつた、兎まれ二高といひ、北大豫科と言ひ地の利に惠まれぬチームがこゝ兩三年來その敗退を惜しまれる所まで異常の進歩を見せてゐるのは蹴球の普遍性から見ても喜ばしい限りといはねばならぬ。

弘前が五高のため惜敗したのは實力の相違もあれ、これを抑へ切れぬものではなかつた、東北球界のこの躍進は制覇には決して遠きに非ざるを暗示してゐる。もう一步それは今日の東北球界の現狀ではないか。

浦和、靜岡は同じ樣な型のチームで共に不運を喞つ事になつたが寄せは巧妙でもゴール前が拙く敗退した。廣島は往年の意氣なくチームとしての連鎖も極めて粗雜であつた、五高と0—0引分けて抽籤に敗れたのは同情を禁じ得ないが顧れば感慨無量といはざるを得ない、東高、成城等本大會に立派な歷史を持つチームが府高、武藏、成蹊等と轡を並べて續々倒れて行つたのは意外であるが孰れも激しい練磨を必要とするであらう、東京地方のチームは技巧に走り過ぎて鬪志を涵養せずチームを貫く主流を持ち合せず强い押しを缺いてゐる憾がある。

早高、松山が豫想に反した結果を生んだのも本大會なればこそである。假令連覇を落しても六高が缺陷を彌縫して最後まで殘つたのは勝氣があつたればこそで惠まれた環境にある東京地方のチームにこの點特に留意すべきを一言して置かう。タツクリングは本大會の精華であり餘りにも鮮やかにそして果敢に行はれてゐたがキツキングにおいて尙一層練磨の要あるはゴール前の決定力の練習と共に痛感されたものである。



全國高等學校蹴球大會に優勝した一高チーム
First High soccer team, victor in the all-Japan high school soccer championships.

S10－2－1

全關東對全關西（選抜）蹴球試合

6對5關東の勝は順當ながら

―チームとしての纏りは關西にあつた

竹　腰　重　丸

曩の早慶戰さいひ今回の選抜試合さいひ、今シーズンのビツグ・ゲームは攻撃力に比較して守備力が劣り雙方大量の得點をする試合さなつてしまつた。大まかにいへば攻撃の進歩が著しくて守備の體制がそれに追ひつき得ない時代には大量得點試合が多く、次に守備力が急激に上昇して更に一段高まつた段階に到達するさいふ進歩の過程を踏むことがあり得る。

このやうな意味で今シーズンの早慶戰には「飛躍の準備時代」を思はせるものがあつたが、今回の選抜試合は直ちに飛躍を聯想させるほどの迫力を持つてゐなかつたさいはざるを得ない。

編成から見た―兩軍のチーム

全關東軍の編成は慶應チームを根幹さしてその缺陷を四人の早大選手で補つたものであり、全關西軍は京大四、關學、神戸高商關係各三、阪大一の割合の選手から成つてゐた。即ち一方は一チーム中心主義で選抜試合に現はれたところでは關西の方が却つて良く纏つてゐるやうに見受けられた

その原因には種々あるであらうが略言すれば關東の攻撃は緻密なパスワークを特徴さするがその中心さなるC・Fの動きが早大さ慶大さで可なり差異があり早大C・Fである川本は他の四人の慶大F・Wさ十分な諒解が出來てゐなかつたに反し關西の攻撃は大體の型がきまつてゐてその間單純奔放に強攻するので諒解がつきやすかつたこさ、また守備に關しては關東の守備は各人マークで球を持つ相手を襲ふ者さ他の者さの關係的な動きの諒解が良く出來てゐないさ決定的な缺陷が出來るが、關西の守備は大體においてH・BラインF・Bラインさ分れた型のもので縦の關係は關東のそれほど微妙な諒解を必要させず横の聯絡は配列巧く選抜せられてゐたので大した缺陷を現さなかつたことが關西の方が良く纏つてゐた技術上の原因であらう。



泥　球　戰（1）　寒　三

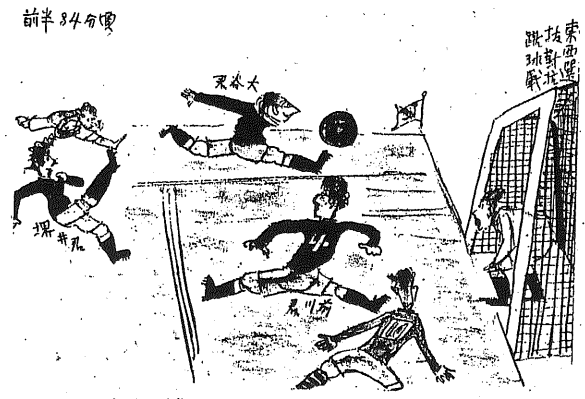
泥でぐしやぐしやの惡地面、キツクする毎に遠慮なくベタンと尻餅をつく。千軍萬馬の川本君、じつくり腰を落してシユート。ゴール成つて再び二點開く。

他方は部分的な纏りを考慮しつゝ選抜して編成せられたものさ見ることが出來る。しかして兩チームさも選抜編成せられて後の練習は四、五回を出ずチームワークを作り上げるには不十分な練習回數であつたから一チーム中心主義の關東は關西に比較して纏りの點で有利であるべきであつたが

攻撃方法から―兩軍を檢討

兩軍攻撃方法の相違はミツド・フイールドで關東はインサイドがC・Fの線或はそれより進出しようさするに反し關西は深いW形に固定される傾向があるのに因るのであるが、そのために關東のインサイドからのパスは可なり多様になり、またインサイドが得點するにも關西のそれさは異つた經過を辿つた結果さしてのものがある。

關西のインサイドはミツド・フイールドから自身でドリブルする機會を得ず、



泥　球　戰（2）　寒　三

豪雄堺井君の一蹴を、大谷君單身ドリブルの突撃。ころ合ひを見て右に渡すと、前川君頭でネヂ込む。模範的美技で一點を返す。

またそれからのパスはそれによつて相手の守備陣を崩すさいふよりも前進してゐるC・FかO・Fに急攻させるためのパスさ見るべきでそれ自身威力がないではないが單純であることは疑ひない。この日の試合全體を通じてこの傾向が顯著であつたが詳述するのを避けて次に單に兩軍の得點經過を略記して比較研究に資したいさ思ふ。

關東側得點經過

❶中央線でL・H球を奪ひ―L・I―C・Fドリブル―R・I短くシユート。

❷中央線R・H―L・I―R・I―C・Fシユート。

❸H・B強パスの流れてゴールに入るをキーパー失す。

❹押し氣味の時洩れ球をL・H―C・F一人外してシユート。

❺押され氣味の時R・H―R・I―R・W―C・F―L・Wドリブルしてシユート。

❻右C・KをL　IがC・Fの後に廻つてヘツド。

關西側得點經過

❶右深く投入よりセンターし東ゴール前にてL・I強引に押し洩れるをR・I



泥　球　戰（3）　寒　三

前半四對四の同點で、後半いよいよ熱戰に入つたが、六分頃關東のゴールを陷れたと思はれた球、入口でまごまご遊んでる。佐野君コラコラと追かけて危くツマミ出す。



泥　球　戰（4）　寒　三

後半二點をリードされ、西軍FWの突撃猛烈をきはめ、堺井、永津兩君のコンビ、長驅して一點を返す。

たので關西側は急攻するのにインサイドの手を借る必要がなかつたからさ見るべきで、さもない場合はインサイドが拾つて前進してゐる他のF・Wに渡すことゝなつたであらう。

それは兎も角さして「單純」は決して不可さいふのではなくC・F堺井のウイングへの好パスさL・W大谷の好走には大きな威力がありそれゆゑにこそ五點を得たのであるが、C・FやO・Fが追ひついた相手を外し得なかつた場合は簡單に關東の球さなつてしまつてゐたのは全くインサイドの進出不十分のためで、それが生きてゐたら更に變化に富む攻撃が出來たことさ思はれるのである。しかして關西守備陣は現在の組織では關東式攻撃に弱い難を免れないがその關西式攻撃に變化が多くなるに從つて改良せられるであらう。

關東の攻撃はこの試合に必要量の得點を擧げたが後半二點を離した後は可なり活動が鈍り、壓迫した爲却つてC・Fさ兩I・Fの判斷の齟齬が大きく影響したさはいへ、その後の三十五分間に一點も加へ得なかつたことには大きい不滿を禁じ得ない。またその守備者側はR・H立原の健闘C・H石川、R・B堀江の忠實な活動があつて幸くも支へ得たが强さは兎も角纏りの點では關西に劣つてゐた樣である。

これは恐らく慶應でR・Bを勤めた塚越を急にL・Bに廻したことが根本原因さなつたのであるさ思はれるが、それにしても關西の第二、第三、第四得點のうちいづれか一つ位は何さかならなかつたものであらうか。

兎もあれ各個人の技術が優秀であつたので凡失少くきめるべき機會をきめたさいふ外にさり立てゝいふべき長所なく、東西の特徴が瞥見されたに過ぎず、六對五の結果さなつたのは戰況から見て全く順當さいふべきである。

◇　◇

なほ關西G・Kは神戸外人さの試合に負傷したのを押して上京したのであるさのことであるが、それならばなほさら痛さを外に表さぬ心構へが望ましく、試合中にも二、三の負傷者を出したが關西R・B栗原君以外は忍耐が不足のやうであつた。私は各選手の負傷の程度を全然調査してゐないから非難する資格はないが近來漸く自己の拙さや失策を負傷で言譯しようさする者が現はれて來るやうである。この際東西對抗に選抜せられるほどの選手は單に技術のみでなく精神においてもすぐれた選手であつて欲しいものである。

觀衆に言譯するよりは痩我慢をする方が競技者に必要な武の精神に近く、また將來の我蹴球界を擔ふ選手は然あつて欲しいさ祈るものである。

S10-2-1

東西對抗選拔蹴球試合

6—5の接戰で關東方勝つ

第四回東西選拔對抗蹴球試合は一月二十日午後二時から神宮競技場で竹内(主)後藤、岩崎(線)三君審判、關東の先蹴で擧行、好晴、南の微風なれども霜とけのためフイールドのコンデイションは不良、兩チームの制球力を奪ふことが甚だしかつたが、全關東のよいスタートに對し全關西の追擊奏功してシーソーゲームとなり、全關東一點を死守して辛勝した、この試合で兩軍プレイヤー個々の持味はある程度まで示されてゐたが關東にあつてはHB線のサイドに出ていよいよ強い立原、關西では小橋の活躍がチヤンスをつくる上に重要な役割を演じてゐた、惡コンデイションの中に藤岡、大谷の效果的センターリングをなしたのも好對照であつた

關　東 6 (4—4 / 2—1) 5 關　西



優勝した關東選拔チーム



前半　前半十七分關東C F川本君が見事なシユートで得點を擧げたところ



【關　東】

藤石川(慶應)
猪狩(慶應)
鴨池(慶應)
佐(慶應)
立原(早大)
栗原(早大)
持地(早大)
近(早大)
岡(慶應)
野(早大)

【關　西】

川本(神戸商大)
谷口(關學院)
藤岡(神戸商大)
大谷(關學商大)
小橋(京都帝大)
西(關學院)
岡(京都帝大)
井上(神戸商大)
公原(神戸商大)
大永助前長川三小持樂金

17 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 8 8

後半　後半三十五分關東RH立原君のチヤーヂボールを追つて出たLI右近君が栗原、持地君のためチヤーヂされ機會を逸したところ



惜敗して退場する關西チーム

Kanto - Kansai soccer game, Meiji Shrine, January 20, won by Kanto 6 to 5. Top-Left: Kawamoto (Kanto c. f.) scores with a beautiful shoot seventeen minutes after play begins in the first half. Top-Right: Victorious Kanto team. Bottom-Left: Kansai team, a scrappy outfit that lost only after a splendid fight. Bottom-Right: Ukon (Kanto l. i.) is robbed by the charging Kansai aggregation of a chance to score 35 minutes after play begins in the second half.

S10-2-15

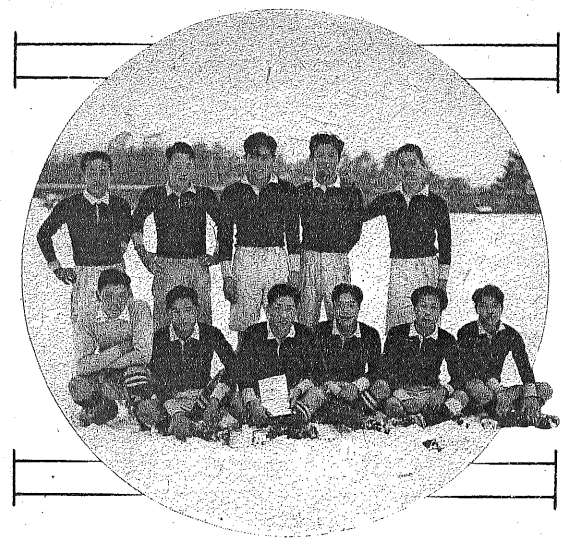
東京大學豫科蹴球大會評

―蹴球界に寄與する新なる企て―

工　藤　孝　一

蹴球年鑑をのぞけば一ケ年間に隨分色々な試合が行はれてをり、隔年の全日本選手權大會、例年斯界のトップを切る全國高校大會等と、それぞれ異つた特色を持つものはあるが、熱と技術と體力の三ツを兼ね備へた眞に內容豐かなものといへば東西學生兩リーグ戰のみだと斷定しても過言ではあるまい。かくの如く見る者、やる者をして心身を打ち込ましめるに至つた大學リーグ戰の隆盛は兩帝大を除けば先づ大體自チーム內のフレッシュメンを訓練することによつて着々築き上げられたものといつてよからう。兩帝大が高校大會に力こぶを入れると同樣に、私學が彼等の後繼者の養成に意を注ぐ苦心のほどはまた察するに餘りある。

試合がしたい、成るだけよい試合が欲しいといふのは若きフットボラース共通の希望だが每年三、四十名の新人を迎へる各私學は如何にしてこれらをリードして來たか。或る時代には自然淘汰による精銳主義も良かつた。だがそれでもなほつきまとつて來る數多の好蹴家達。この打開策として生れたのが東京大學豫科蹴球リーグであり、帝大の主催する高校大會に對抗する意味もあるが、私學自身の更生策、新人の養成といふ重大な意義を持つて居る。何れにせよ此處に新たなリーグ戰を得た事は斯界の爲にも喜ぶべき事である。



大學豫科蹴球大會に優勝した早大チーム

第一回大會は試驗接迫のためトーナメント式で去る一月廿六七日、二月二、三日の四日間日吉台慶大グラウンドで擧行され早大斷然他を壓して榮冠を獲得したが以下少し戰績をたどつて見よう。

第一日(廿六日)

△第一回戰

慈　大　2(1―0 1―1)1　拓　大

新たに二部へ上る慈大、三部へ編入される拓大と兩軍共新興の意氣に燃えた眞劍さを持つては居たが、流石慈大は試合上手で勝を制した。兩翼の好技、快足は良くチヤンスを生み、CH松田の果敢なアタック、忠實なフオローは攻守の核心として光つてゐた。巨軀、闘志、强蹴揃ひの拓大には良いコーチヤーをつけてやりたい。

△第二回戰

慶　應　8(5―0 3―1)1　法　政

播磨の鋭いダッシュは得點の大半に貢獻してゐた。增田、石川の中堅が頑張つてゐる以上8―1も當然だが、試合間際までメンバー不足で氣をもませた法政は試合以外のだらしなさが多い。

第二日(廿七日)

△第二回戰

早　大　8(3―0 5―0)0　慈　大

昨日示した慈大の善戰振りは見る影もない。全員中央線以下にこびり付いて最初から守備一點張りにとらはれたのはどう見ても感心出來ない。何點貰けるも敗けるといふ事には大した相違はない。相手が强いといふ先入觀念は一番毒だと思ふ。早大は前半加茂弟をFWにするとてオープンに出たがやはり後半の野澤、加茂兄弟のセンタースリーは得點能力が多いやうだ。

明　大　3(2―0 1―0)0　日　大

見るにしのびない拙戰だつた。明大も弱いが日大のだらしなさは又甚だしい。

立　敎　1(0―0 1―0)0　農　大

大會隨一のエキサイト・ゲーム。立敎は經くパス・ワークで攻めようとしたが農大棄て身のアタックに成らず、寧ろ農大優勢に進められた。前後半を通じて再三、再四絕好のチヤンスを迎へながらペナルテイの一點で敗退した農大はお氣の毒だが、RW中台再度のオフ・サイドは無能の限りだつた。

第三日(二月二日)

△準決勝

早　大　16(8―0 8―1)1　明　大

優勝をねらふ早大はこの日バックの編成を落して兩SHを中村、西村、LB森山、GK不破としたが、明大の無力は七十分間に十六對一といふ珍記錄を作つた。ハーフ・マッチよりも容易に得點を重ねた早大の決定力もさることながら闘志の明大としては餘りにあさましい姿だつた。それにしても一試合にペナルテイ三つとは嫌なことだ。ファイテング・スピリットとファウル・プレーとの區別をはつきりしてほしい。

慶　應　5(3―0 2―1)1　立　敎

鎌倉で冬季合宿練習したといふ立敎に期待したが、蓋を開けて見れば案外な凡戰で物足りなかつた。前半慶應は增田、播磨石川の巧みなパスワークで三ゴールを擧げたが、後半立敎の長蹴に壓せられて得意の中盤戰術は消え失せ一つのペナルテイと立敎RHの自殺點で僅かにリードを持續したに過ぎない。立敎のパス・ワークに對する意識はうかゞはれたが未だ何となくぎごちなく、キープ攻めからスピード攻めに移るポイントが板につかないといひたい。ミッド・フイールドにおけるFWのトップの濫用はその主なるものだが戰況を觀察し得る正しいフオーム(基礎技術の)と豫感の不足が手傳つて、横へ横へと相手を外しこれが延ひては相手バック・メンのバック・アップの容易ならしめた。プレーの特色を持つといふ事は豫科のプレーヤーには多少難事かも知れないがパス・ワークに走るよりも寧ろ自己獨特のシヤープな味を生かす事が目下の急務ではなからうか。慶C・F增田、立G・K山口兩君が試合最中口論したのは唾棄すべき事だ。

第四日(三日)

△決勝戰

早　大　8(5―0 3―0)0　慶　應

前夜來の積雪五寸餘となり、珍らしい雪中戰が展開された。早大は劈頭からキック・アンド・ラッシュ、マスドリブルを主とし右側齋藤、野澤の活躍からCF加茂兄、LW蠟良決めて前半早くも5―0と引き離した。後半慶應バック良くゴールを固めたが早大センター・スリーの執拗强引な押し込みに潰えて三ゴールを許し、結局8―0で早大の快勝に歸した。かかる惡コンデーションでパスを試みた慶大は不覺だつたが、賴む石川、增田の不振に加ふるに闘將播磨の孤軍奮闘も他のフオローなく、早ゴールをおびやかすに至らなかつた。

早大の快勝はフアイトと馬力が主なる原因と見られ久し振りに同校獨特の持ち味を示したものといつて良い。加茂兄、蠟良のショットはなかなか見事なものだつたが、主將野澤の力闘は良く一軍をリードし三戰總得點三十二、失點僅か一は特筆すべき記錄である。

S10-3-1

東西O・B對抗蹴球試合

シーズンの最後を飾る蹴球戰 5―2で關西軍の勝利となる

◇岩　野　次　郎◇

さきの全關東對全關西選拔蹴球試合は關西側は不運にも六對五で惜敗してゐる。その後を受けて、今度の東西OB對抗試合には關西軍の反撥的復仇氣分が凝つて一團となつた團結力は無理のない整つた活氣に溢れたチームとなり不用意の俄か作りの關東軍に對しては必勝の氣概で終始した、前半の大量得點がそれである。

異つた職業に從事してゐるOBメンバーを纏める苦心は關東、關西を問はず並大抵ぢやない。そのコンデイシヨンを揃へることの難しさは學生選拔試合以上である、恐らく練習試合をすることが最大の練習チヤンズであるが、關東が練習試合に好成績を殘したのに比し關西は全く香しくない成績と通知漏れの不準備とで氣をくさらしてゐたが、氣をくさらしたのは詮考委員や協會役員ばかりでメンバーの中の空氣は關西は案外朗らかな中に、勝算は十分あつたのである。

◇編成から見た 兩軍チーム◇

關西はF・W線はまづ斯界の老練なる權威永野武(エーヤブ)君を中心に据ゑ超弩級の技倆と、元氣を持つ堺井君、流線型の超スピード機關車のやうな除隊直後の西邑君を兩イン・サイドとし軍隊で鍛へた軍人精神を蹴球化して疲勞を知らぬ市橋君を左に、在學中から大軀と長驅で知られた中野君を廣島から馳せ參じさして右に置いて兩翼としたのでどこから見ても體格も元氣も、年齢も均整の取れたF・W線である。

關東のF・W線は左翼から年寄順に並べてゐるだけでその中心がない。竹内虎士君の返り咲きの感ある重いプレーヤーを左にし、昔鳴らした竹腰君を次に津村、塚部、角谷と若手を置いた配陣はどことなく片手落ちのしたO・Bらしいしかも O・Bのよく陥るボールの持ちすぎと技巧をこらしすぎる個人プレーになる樣な心配氣のあるF・W線に思はれた。たゞゴール前へのH・Bよりの送球を當りの強い迫力ある竹腰君が關西のF・B線を潰して單身挺身的シヨツトで得點する戰法に出ることが或は豫想出來ることであつた。

F・W線に實力を發揮してチヤンスにずる唯一のものはH・B線の活躍である。故にF・W線はH・B線との相互的聯關補助法の加何により効力を出すか否かゞ決定するものであるが關西のH・B線はH・Cに新婚直後だが元氣一ぱいと、負け嫌ひで勝氣そのものゝやうな赤川君を置きC・Fの永野君との聯絡、市橋、中野の兩翼への絶好の送球にコンビを作らすやうにし、兩側に確實なプレーヤー守屋君と現役も及ばぬ位の球にねばり強い捌きを持つ山本君を据ゑたことは均整の取れたF・W線との縱の聯絡による厚い攻擊層を作る計畫である。

關東は小軀だが張り切つた元氣と強い腰を持つ松丸君を中にしF・Wの竹腰竹内に三角關係的聯絡を持たす意味で濱田君を左側に配し若い石井君を右に配置した。併しこのH・B線は關西にくらべてF・W線を十分活躍させるのに少しはよい援隊かも知れないと思はれた。

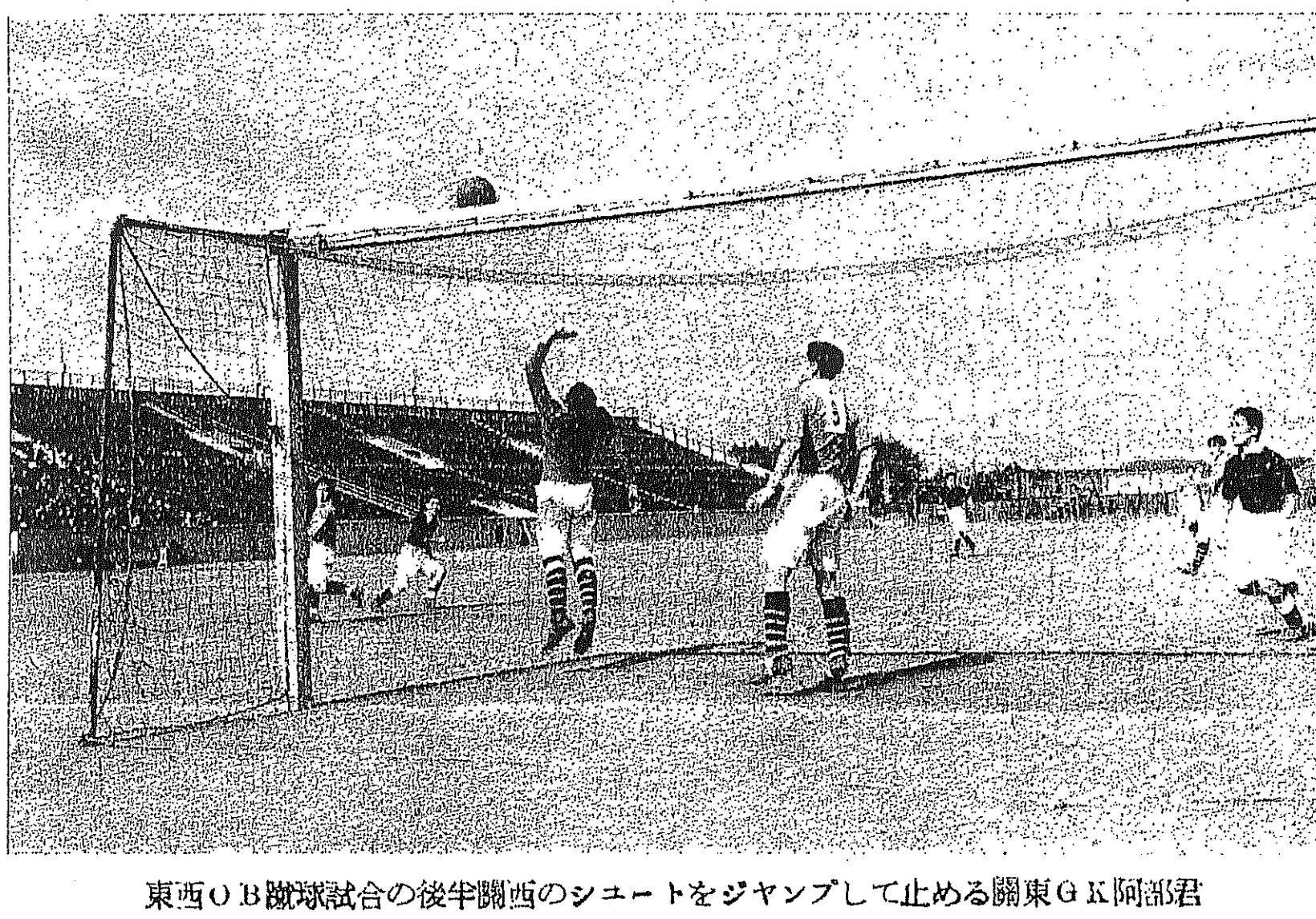
F・B線は關西でのピカ一、エンタツ、アチヤコのコンビ以上によいコンビである後藤、安部君を置いたことは當然である。併し、關東の竹内(悌)、井出君等のF・Bも仲々の豪の者である。

☆　☆

G・Kは關西、關東共に日本が全般的にF・Kの技倆の秀いてゝ來た時代の優秀者で關西の丹羽關東の阿部君の活躍を比較する事は見物人の興味を湧かす所である。孰れも地味で巧い所がある。併し金澤君の樣なファインプレーは期待出來ないかも知れない。

◇この配陣により 試合はどう運んだか◇

最初の辷り出しは關東軍好調で攻擊に、斷然迫力を出したが、一寸弱いと思はれた關西軍のH・Bは、よく潰して攻勢に出て、F・Wの遮二無二の攻擊にたちまち關東軍のゴールに攻め寄せ流線型機關車の西邑感のよい鋭い出足と強いシユートを持つ堺井、中野の強引は十分早くも關東軍の虚を衝いて一點を先取してしまつた。



東西OB蹴球試合の後半關西のシユートをジヤンプして止める關東GK阿部君

その後點を重ねること四回關東もその間逆襲的に短刀的に攻め入り二點を返した關西軍の動きは素晴らしく後藤、安部のかつ巨彈をキビキビしたF・Wよく取り、よく捌き市橋のノーマーク狀態より關東陣へ深く喰ひ入りセンターリングし、關東ゴール前での混戰を繰り返した。

關東はF・Bの長蹴とH・Bの個人マーク的潰しの手でよく頑張つたが、無力のF・Wのために受動的なプレーに苦戰した。F・Wはバツクしながら何ら意味をなさず、ボールが出ても出足揃はずたゞ凡蹴となつた。バツクメンのヘディングの防戰は目立つた。古い言葉だが意味のある「攻擊は唯一の防禦」を感ぜしめた。

☆　☆

關西の大量得點は或は風上の有利をいひ度くなるが、例へば二點目の後藤の長巨彈は加速度的にスピードが出て關東松丸のヘディングも斜め後にそれて、G・K阿部君も手を下し得ずそのまま得點となつた等は風上の有利を物語るが、やはりよく纏つた動きと力一ぱいの活躍が、豫想以上の大量得點となつたのである。

關西のH・B線はあまり目立たなかつたが竹腰君の出鼻を挫き或はバツクパスしてF・Bに大砲を打たしめ、或は型通りの三角パスにF・Wとの聯絡を取り目立たぬ所でよく助けよく動いた。

殊に守屋―堺井―中野のパスの通路、赤川―市橋への通路、山本―西邑―市橋への通路はよく展開されたオフエンス型であつた。たゞ永野君の位置惡く、ボールが出ても潰されて、チヤンスになることは少なかつたのは殘念であつた。或はずつと前に出て關東軍のF・Bを引きつけておけば兩翼からの攻擊はもつと容易だつたかも知れない、G・K丹羽君は現役時代と變りなくよく動いたが、キツクが一寸小さいので却つて逆襲の辛さがあつた。

關東は攻擊に際しては、相當の氣力を持ちながら、パスが短かく殊に兩ウイングよりの絶好のセンターリングは殆んどなくたゞ濱田―竹腰―津村―塚部とパス通路はあるが、センタースリーであまり淺いパスが多すぎるのと、竹腰君の左に右に、ボールを持つて馳せ廻るので攻擊線がいつも亂れ、且つ鈍つて赤川、後藤、安部に潰されてしまつた。やはり無力の關東FWに對してH・B殊にF・Bの活躍は物凄かつた。

後半に入り兩軍とも前半の如き活力なく、ゲームは鈍り、殊に風上に陣した關東軍は攻勢に出ながら出足揃はず、小粒で元氣な松丸老巧の濱田、石井の強引と好送球、F・Bの長蹴は屢次關西軍ゴールに肉薄したが、疲勞の傾みに加つた關東F・Wは、シユートのチヤンスなく、またシユートしても丹羽君の眞中へしてたうとう無爲に終つた。

關西側のバツク・メンのねばり強い防禦は多とすべきである。併しF・Wは疲勞の色を見せ、堺井、永野の活躍鈍り流線型機關車西邑、山本、市橋の三人で逆襲に攻め返してゐたが、もう得點の意氣も見えなかつた。後半は本當のO・Bらしい、へばりを出して鈍い球の動きであつたゝめ遂に前半のスコアのまゝ五對二でゲームは終つた。

◇戰ひ終つての 感想は斯の如し◇

もつと、俱樂部、實業團の試合を盛んにして、O・B軍の準備練習を絶えず續け練習の機會、體力の持續を許ることである。

O・B試合とはいへ後半のみぢめさはなつてゐない。ストツキングを下げ脛を出し或は此處、彼處に腓腸筋、比目魚筋および四頭股筋の痙攣に依り試合參加不能になり、ボールが傍を轉つても足も出し得ず、パスが來てもチヤンスに出來ないのは一寸見苦しい。

どうせ後半の疲勞が豫期出來るならば時間を八十分か七十分に短縮するか、或は八十分として、クオーター・タイムを置いて、二十分宛四回する樣にすればと思ふ。

☆　☆

殊に人間の體力、技倆、氣力は自然を征服するとはいへ、風速のボールに及ぼす影響は日本ではまだ大きい。故に前半の元氣な時に風上に陣すれば、實力對等の時には風上の方が決定的に勝利に導く。これをなしコンデシヨンを一定にして公平に戰はす意味からも、クオータータイムを設けてサイドチエンヂをした方がよいと思ふ。

第五回東西OB對抗蹴球戰は關西に十分の勝味は豫想されたものゝ風上の關西が前半に五點を奪ひ、後半の風下で無得點、又前半風下の關東二點を得、後半の風上で無得點とは關西バツクメンの頑張りに依るとはいへやはり體力のあまりに早くなくなるO・B戰の特徴である。

風速測定をして、何米の風速では、クオーター・タイムを設ける樣にするとか或は最後まで續く耐久力O・Bメンバーが持續する樣に、體力を向上せしめることが肝要である。

關西		關東
市橋	FW	竹内虎
西邑		竹腰
永野		津村
堺井		塚部
中野		角谷
守尾	HB	濱田
赤川		松丸
山本		石井
後藤	FB	竹内悌
安部		井出
丹羽	GK	阿部
5	GI	2
13	GK	8
3	CK	11
5	FK	2

審判三崎、線審戸川、大谷

S10-3-1

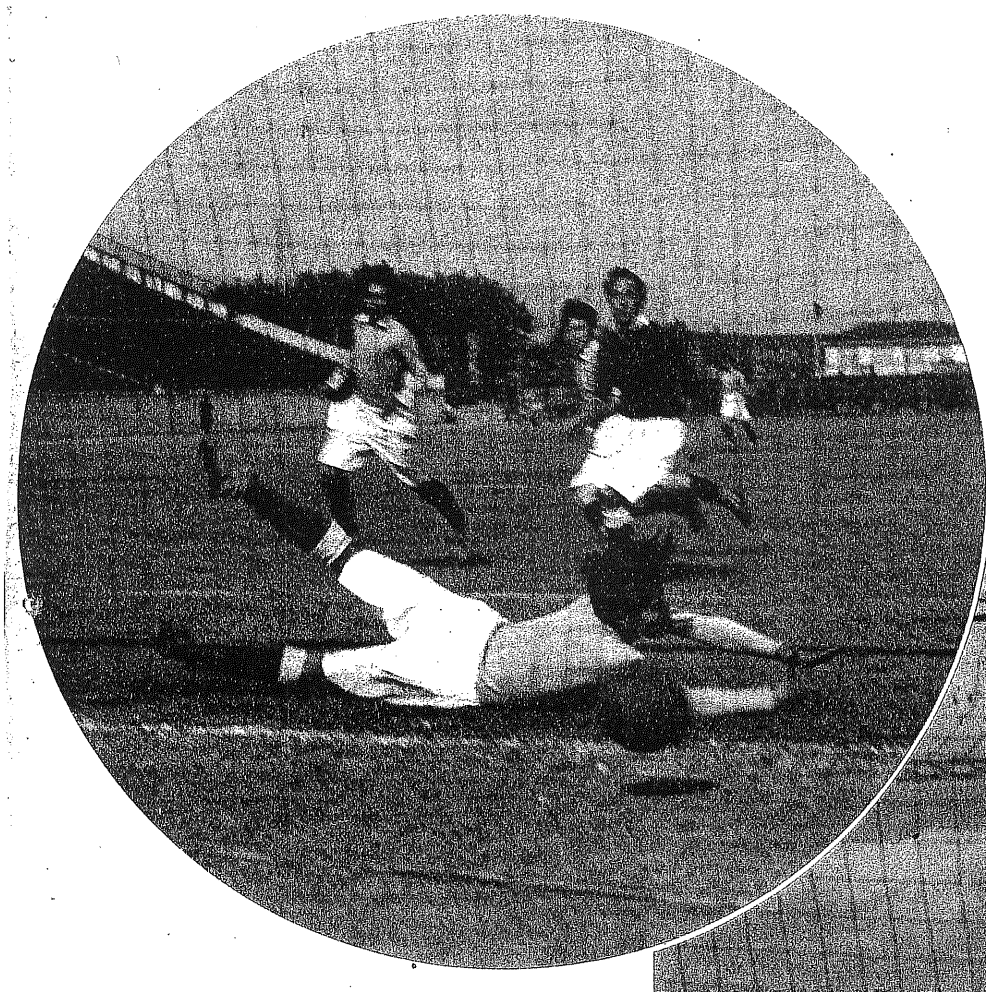
東西ＯＢ蹴球試合

5—2のスコアで關西勝つ

第五回東西ＯＢ選抜對抗蹴球試合は二月十七日甲子園南運動場で擧行、この日打ち續く快晴に惠まれてグラウンドのコンデイシヨンはまづ良好であつた、濱から吹き寄せる風はさほど强いものと思へなかつたが、可なりゲームの上に影響を及ぼし、前半風上の有利な位置を占めた關西はよく五點を擧げたのに對して關東は二點を返したのみで、後半に入れば兩軍ともに疲勞甚だしくダル・ゲームを演じて結局前半の5對2をタイムアツプまでもちつゞけて關西の制勝するところとなつた

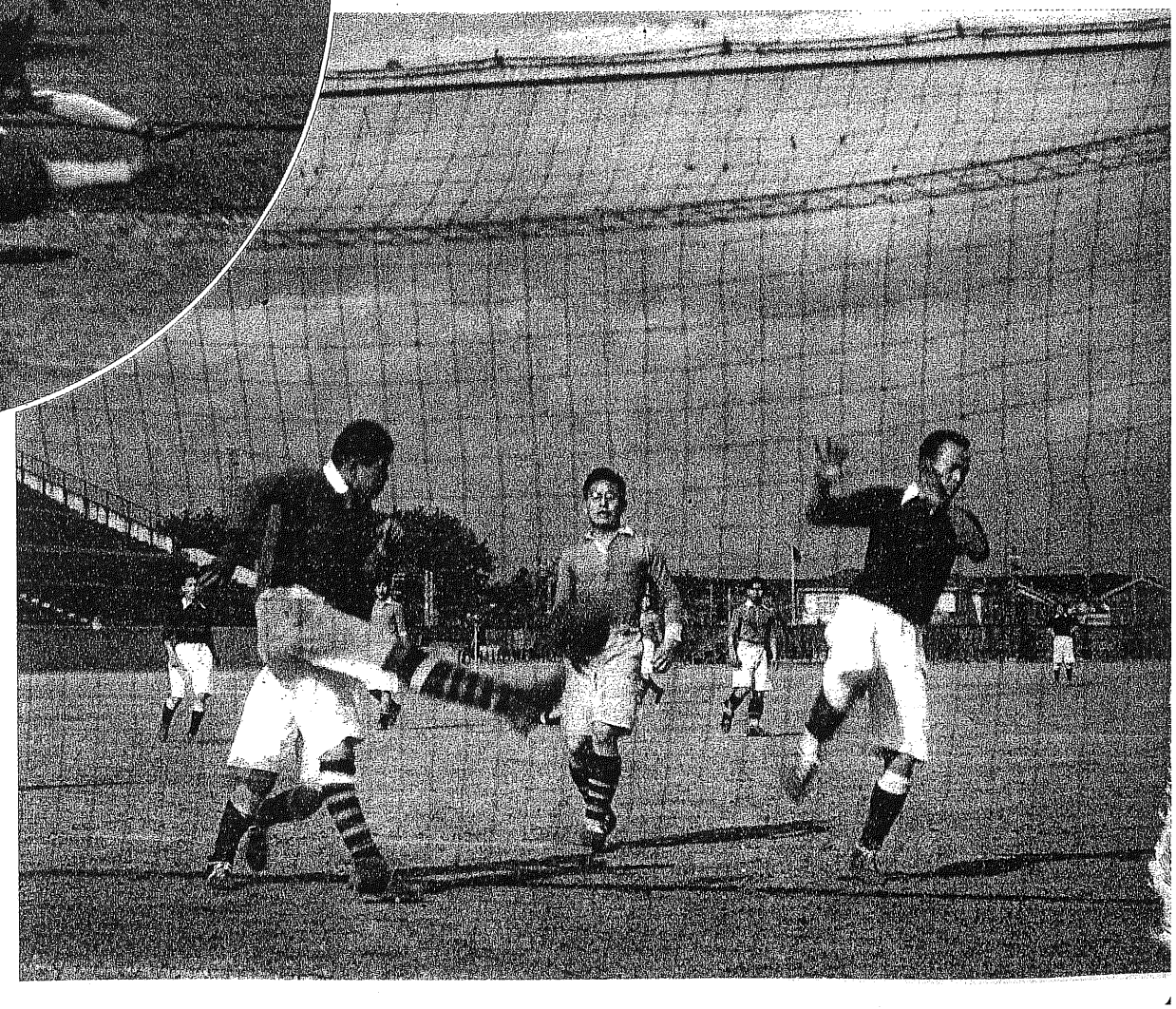


前半　關東竹腰君のパスを關西ＦＢ後藤君がクリヤーせんとするところ



勝つた關西ＯＢ
（向つて左から）（前列）守屋、山本、堺井、西邑、永野（後列）中野、丹羽、赤川、後藤、市橋、安部





前半　【上】三十六分關東濱田君が塚部君のパスをうけてシユートし二點目を擧げたところ

後半　關東側ゴール前で關西軍の强襲を必死となつてさける關東Ｇ・Ｋ阿部君

Soccer, Kanto O. B. vs. Kansai O. B., Koshien, February 17, won by Kansai, 5 to 2. Top: Goto (Kansai fb) blocks a pass by Takegoshi in the first half. Center-Left: Tsukabe (Kanto) shoots a beauty for the second point 36 minutes after the beginning of the first half. Center-Right: Victorious Kansai O. B. team. Bottom: Abe (Kanto goalie) repulses a fierce Kansai attack in the second half.

S10－3－15

東都OB蹴球リーグ戰

各チームの技倆伯仲して興味を呼び
早大、法政、慶應、帝大が有望を示す

鈴　木　重　義

東都各大學の０・Ｂ蹴球リーグは昭和七年度初めて結成されて、第一回は東京帝大、第二回は慶應大學が優勝して今年は三年目である。

今年は、早稻田大學、明治大學、法政大學、東京帝大、慶應大學、農業大學、青山學院、文理大學の八校を二分し青學、早大、法大明大を第一部とし、帝大、文理大、慶大、農大を第二部として、兩部の優勝校を最後に決戰せしめ優勝を決することになつてゐる。

學生チームが年々強くなつて來るに平行してＯＢチームもまた漸時力を增して來て今年のチームはだれても昨年あたりよりは遙かに優れた實力を持つて來てゐる。試合後半に全く動きがにぶくなる樣なこともなく最後まで堂々やつてのけ昔を思はしむる巧技の片鱗を屢次見せ年と共にＯＢの實力は上昇して行くことをはつきりと感知される。

そしてまた今年のチームに現はれたことは各チーム間の實力の差が漸次せばめられて來たことである。各チームがかくバランスのとれて來たことは試合をスピーデーとしてゐる。そしてその中にＯＢだけが持つ老練の味を織り交ぜて、あのはげしい感じのする學生チームの試合とはまた別の變つた面白味を感ずる。

更にこのＯＢに一つの愉快さを感ずるのは隨分古い選手が出場してゐることである。文理大の佐々木等氏は芝浦の極東大會の名Ｃ・Ｈとして出場した今年四十有餘の名選手である。更に文理大の小澤氏、吉田氏、竹内(虎)氏、森氏、帝大の朝生氏、乘富氏、早大の鈴木氏、山田氏、青學の川田氏らはいづれも往年の猛者て、Ｏ・Ｂとなつて約十年を經たものである。これら老先輩が、それ相應に試合をこなして行つてゐるのは一つの快味を覺える。

青學 3—3 早大

青學はよく纏つたチームである。殊にＣ・Ｈ長谷川氏は本年新たにＯ・Ｂチームに入つただけに仲々元氣て一人て大童に攻擊に守備によく動いた。

實力的には青學は早大に一歩を讓るものである。然し青學はオール・メン・デフエンスの策に出て非常によく防ぎそして早大Ｇ・Ｋのやゝ出過ぎた所を巧みに衝いて三點をせしめ同點として引分けた試合上手さは賞讃に値しよう。

早大はこの試合には昨年の名ハーフ、中村及び井上が出て昔に劣らぬ強さを見せてゐたが他は文字通りのＯ・Ｂが纏りも出ず、かなり攻めながら殊に後半は絕えず攻めながら結極三點しかとれず、しかもバツクはミスて三點を失ひ引分にしてゐる、練習不足といふより外はない。

早大			青學
伊	藤		部
西	川		村
鈴	木		田
野	村		坂
高	橋		知
中	村		部
井	出		川
幸	田		龜
山	田		田
上	野		松
工	藤		田
3		GI	3
5		CK	1
4		FK	0
8		GK	14

法大 6—1 明大

法大はＦ・Ｗの浦野、西川、吉田、仲々強く前半に三點後半に三點をとつた。明大は選手揃はず僅かに一點を拾つて零敗をまぬがれた形て、法大の好調と明大の不振とではこの得點の差は當然の歸結てあらう。

明大			法大
丸	山		木
北	村		野
伊	藤		川
川	井		田
土	倉		木
中	村		住
奥	谷		谷
熊	田		淵
星	田		篠
山	根		熊
原	田	GK	塚
1		GI	6
4		CK	4
4		FK	0
7		GK	9

帝大 5—0 文理大

此の試合は前半は一對０攻められた一つのチヤンスから一點をとられ惜敗してゐる。

槇原のシユート定れば容易に勝てた勝負て文理大としては一寸あきらめられぬ勝負であつた。全く試合に勝つて、勝負に負けた試合てあつた。

文理大			農大
槇	原		田
後	藤		浦
藤	田		田
佐々木			橋
吉	田		田
竹	内		井
奥	野		田
江	崎		川
今	村		田
小長谷			溝
平	田	GK	磯谷
0		GI	1
5		CK	1
3		FK	5
9		GK	12

慶大 1—1 帝大

此の試合までを見た所ては第二部ては帝大と慶大が先づ一位爭ひて、此の試合が正に優勝戰てあつた。

此の日帝大は闘將竹内、高山、平島等出場せず、陣容甚だ悪く意外に振はず、慶大の鋭鋒を漸くにして防いだ形てあつた。が前半帝大は意外にもＲＷ芝地がＧＫの出たあとへ、中々味のある得點をし、先づリードした、が後半は盛んに壓迫され一點をかへされ同點となつて試合はそのまゝに終つた。此の試合は實力からいへば、當然慶大の勝つべきものてあつたが慶大の勝てなかつたのは帝大ＦＢ田村氏のキビキビした、ＯＢとしては惜しいほどの元氣て終始し慶大ＦＷを完全につぶし、ゴールを守り通した賜てあつた。

慶大			帝大
岩	波		田
古	山		宅
津	村		腰
大	塚		田
溝	口		地
松	丸		河
濱	田		田
長	坂		富
角	谷		村
岩	崎		生
島	田	GK	高山
1		GI	1
7		CK	1
0		FK	4
3		GK	19

兎に角此試合は帝大にとつては甚だ危げな勝味のないゲームではあつたが帝大Ｆ・Ｗ竹腰、Ｆ・Ｂ田村の健闘は、粒揃の慶大に對してよく闘ひ中々に面白いゲームてあつた。

慶大 9—1 農大

慶大は昨年の主將岩波ＬＷとなり、新ＯＢ溝口ＲＷとなりこれに松丸、濱田、津村、岩崎、角谷等のＯＢ中での新進元氣の所の顏を並べてゐるだけにさすがの農大も一寸足が出なかつた。

農大は杉浦、石井等元氣一杯にあたつてはゐたが、實力の差如何とも致し方なき試合て、たゞ零敗に終つたことを農大のために惜しむ所である。

慶大			農大
岩	波		間
古	山		溝
津	村		田
大	城		浦
溝	口		田
松	丸		藤
濱	田		井
長	坂		川
岩	崎		谷
角	谷		樫
島	田	GK	山田
0		GI	0
3		CK	1
1		FK	2
3		GK	81

農大 1—0 文理大

文理大は、佐々木、小澤氏ら隨分と古い選手の顏も見え、小長谷、江崎、奥野槇原等非常な元氣て農大を大體において壓迫してゐた試合としては六分の勝味を有し、數度のチヤンスを持ちながら農大ＧＫ磯谷の好防にはばまれ、却つて偶々

早大 3—2 明大

早大はＦＷ不振て前半三點をとつたのみて後半は點をミスし、加ふるにバクメンもＧＫとＦＢの聯絡悪く二點を失ひ結局三對二て勝つには勝つたが實に危げな勝ち方である。

早大は佐野、宮部、井出等個人的には強いが餘りにそれに賴り過ぎて他との調和を缺きこの結果に終つてゐるものと思ふ。明大は總體的に元氣なく殊にバックに缺陷が見られた。

明大			早大
藤	田		川
丸	山		藤
伊	藤		木
川	井		村
土	倉		野
熊	田		宮
奥	谷		部
北	村		出
星	田		藤
山	根		橋
原	田	GK	幸田
2		GI	3
3		CK	6
11		FK	0
11		GK	7

法大 4—0 青學

前回に青學は早大と引分けたより非常な纏りを見せてゐたが、此の試合では前半は對等によく戰つてゐたが後半は法大に全く壓迫され四點をとられ慘敗した。

法大の西川、浦野等元氣て各々二點をとつてゐる。

法大			青學
松	木		根
浦	野		國
西	川		廣
吉	田		長谷
角	谷		可
住	谷		阿部
濱	淵		長谷川
間	淵		服部
四	條		須田
大	熊		炭龜
手	塚	GK	菅田
4		GI	0
3		CK	2
2		FK	11
5		GK	1

この日のメンバーとしてこの結果は先づ當然といへよう。

あとに殘るは第一部では

法　大——早　大
明　大——青　學

第二部では

慶　大——文理大
帝　大——農　大

てこの中第一部では早法戰が決勝戰てあり、第二部では慶大は文理大を帝大は農大をいづれも打負かすものと思はれるから結局は帝慶再試合て第二部の優勝を決することになるものと思はれる。

S10-4-1

東都Ｏ・Ｂ蹴球リーグ戰

有望視された早大帝大倒れて──法政を樂に破つて慶應優勝する

竹　腰　重　丸

二月二十四日並びに三月三日兩日に行はれた諸試合によつてＯＢリーグ加盟の八チームはいづれも二試合を終つたのであるが、その結果、一組においては法政二勝、早大一勝一分、青山學院一分一敗、明大二敗となり、二組においては慶大帝大は各々一勝一分、農大一勝一敗、文理大二敗の記錄を殘し、三月十日には各チームにとつて三回目の法政對早大、明大對青學、慶大對文理大及び帝大對農大の四試合が行はれた。

法政對早大戰

法政對早大の試合においては、中村、井出、宮部の三人でかためるＨ・Ｂラインに强味を持つ早大に有利と豫感せられたが、前半十三分に法政は一點を先取し、その後早大は槪して攻勢を持しがらつひに得點に至らず前半戰を終つた。後半においても槪して早大優勢であつたが兩翼Ｆ・Ｗの決定的な不振のため得點に至らずタイム・アツプ直前（後半三十六分）に及んで同點としたが遂に引分けに終つた。兩翼Ｆ・Ｗの不振に因る得點難はあつたとはいへ、決定的に優勢であつたこの試合が引分けとなつたことは早大にとつて不運な試合であつたといひ得やう。

明大對青山戰

明大は一對零で青學に勝つた。これは戰況からいつて順當といふべきであらうが失禮ながら兩チーム程度の技術では實力が勝敗を決定するといふよりも偶然が試合を支配すると見るべきて、如何にＯ・Ｂ試合とはいへ兩チームに對しては更に一段の進步が望ましい。

慶應對文理戰

慶大は前の二試合において既に今回隨一の優勝候補チームとしての實力を示して此の日の對文理大試合に勝つてあらうことは當然に豫想せられてゐた。それ故か前半に文理大に一點先取せられながら悠々と試合を進め着々と得點を重ねて前半戰に四對一と決定的な差をつけてしまつた。個人的にも勝り全體としても手揃ひの慶大は危ふ氣なく組織的に試合し得たので文理大の敗戰は全くやむを得ぬものであつて、後半戰において、四對二と差を詰め慶大を無得點に終らせたのは善戰として稱讃さるべきであらう。なほこの試合に限つたことではないが、文理大の大先輩佐々木氏が四十何歲の年輩にも拘らず後輩選手よりもすぐれた球操作を示されたのは注意すべき事實である。

帝大對農大戰

帝大も慶大と同樣に、農大に對して勝つべくして當然に勝つた。六對零の大差は過大の感が無いでもないが、チーム全體の纒りにも差があり、また帝大Ｆ・Ｗの攻擊が巧く廻すといふよりも寧ろ單的なスピードに賴つたのに對して農大の守備者はあまりにも走力がなかつたので、壓迫された續けでなくてかなり攻めもするといふ戰況が却て農大守備の破綻の原因となつて破られる時には決定的に破られることになつてゐたやうである。

◇　◇　◇

以上の諸試合を終つて、第一組の四チーム中では優勝候補であつた早大が青學と引分けてゐたゝめ一勝二引分の成績となり二勝一引分の法政に優勝を讓つた。第二組においては、慶應、帝大ともに二勝一引分となつたため勝者きまらず三月十四日に再試合を行つて優勝者を定め、その勝者と法政とが全體の優勝を爭ふこととなつた。

慶大對帝大再試合

三月十四日擧行、帝大は前々回、慶大は前回の優勝チームである上に、三月三日には慶應優勢ながら引分けとなり、更にまた兩者とも法政よりは可なり上位にあると目せられこの試合は事實上の優勝戰と考へられたのでこれら種々の條件が重なつて可なりの興味と興奮とが呼び起された。三日の試合には帝大は朝生、田村兩Ｆ・Ｂの奮戰に辛くも支へたのであつたが、この日は田村は缺けたがＣ・Ｈに竹內Ｇ・Ｋに阿部を加へて、前回よりも整つた陣容となり、慶大は前試合に不振であつたＦ・Ｗラインに新に市橋、塚部兩選手を入れて一層强味を增した感があつた。しかして前回の引分試合は全く慶大に不運な結果と思はれるほど慶大優勢な戰況であつたが、この日帝大は陣容の整備に勢を得て略對等の試合を展開した。

ボールの動きも可なり合法的であり試合のテンポも決していはゆるＯ・Ｂ流の緩慢なものでなく、試合內容全體を通じて見てもリーグ現役第一部の下位チームの試合に比較しても各個の活動が計畫性を多分に含んでゐる點で勝つてゐたといつてもＯ・Ｂ流の大言壯語だとの非難は受けないであらう。

帝大は正選手としての經驗を持たぬ者をも含む編成であるのに反して慶大は過去の優秀選手を殆んど網羅する陣容で勢ひ帝大よりも粒揃ひとなつた爲兩者の作戰は、帝大は個人的な銳さを單的に利用して突込まうとし、慶大は飽くまで巧くパスで廻して抑へようとする行き方を採り、その傾向は試合開始から終了まで變らなかつた。この傾向は昭和四、五年度ごろの帝大、慶大の行き方を全く逆にしたものであつて兩大學の古くからの歷史に關心を持つ者にとつては一見奇妙な現象であつたかと思はれる。

慶大はそのパス・ワークによつて相手守備陣を分散させることにかなり成功しながら帝大が開始後五分ならずして遮二無二突込んで先取した一點をタイム・アツプ七分前に至るまで恢復出來なかつたが、これは焦燥失敗といふよりもＦ・Ｗに氣持の銳さが不足で帝Ｆ・Ｂを突き切り得なかつたためであつたと見るのが正しからう。

一對一のまゝ規定の六十分試合を完了したが兩軍とも鬪志滿々て夕暮の迫る中に十分間の延長試合を行つた。しかしながら平均年齡三十歲の帝大Ｏ・Ｂには（慶・大ＯＢは三歲若し）六十分以上の試合は困難なのかまたは慶大のパス・ワークに惱まされて疲勞したか帝大方の身體は氣持ほどの勢なく前後半の各五分にそれそれ一點を失つて三對一で敗退した。慶大の勝利は全體の組織的な活動の勝利とも考へられるしまた銳さは減少したがなほ巧味を失はぬ市橋がＲ・Ｗとして決定的な機會を作り出したのによるとも見ることが出來やう。

慶　大 3—1 帝　大

慶大		帝大
塚越	L・W	桑田
古山	L・I	三宅
津村	C・F	竹腰
塚部	R・I	稲田
市橋	R・W	高山忠
松丸	L・H	乘富
濱田	C・H	竹內
長坂	R・H	並河
岩崎	L・B	小晶
角谷	R・B	朝生
島田	G・K	阿部
13	G・K	12
5	C・K	1
2	F・K	7
0	G・I	1
1	G・I	0
1	G・I	0
1	G・I	0

【兩組決勝戰】
慶大對法政試合

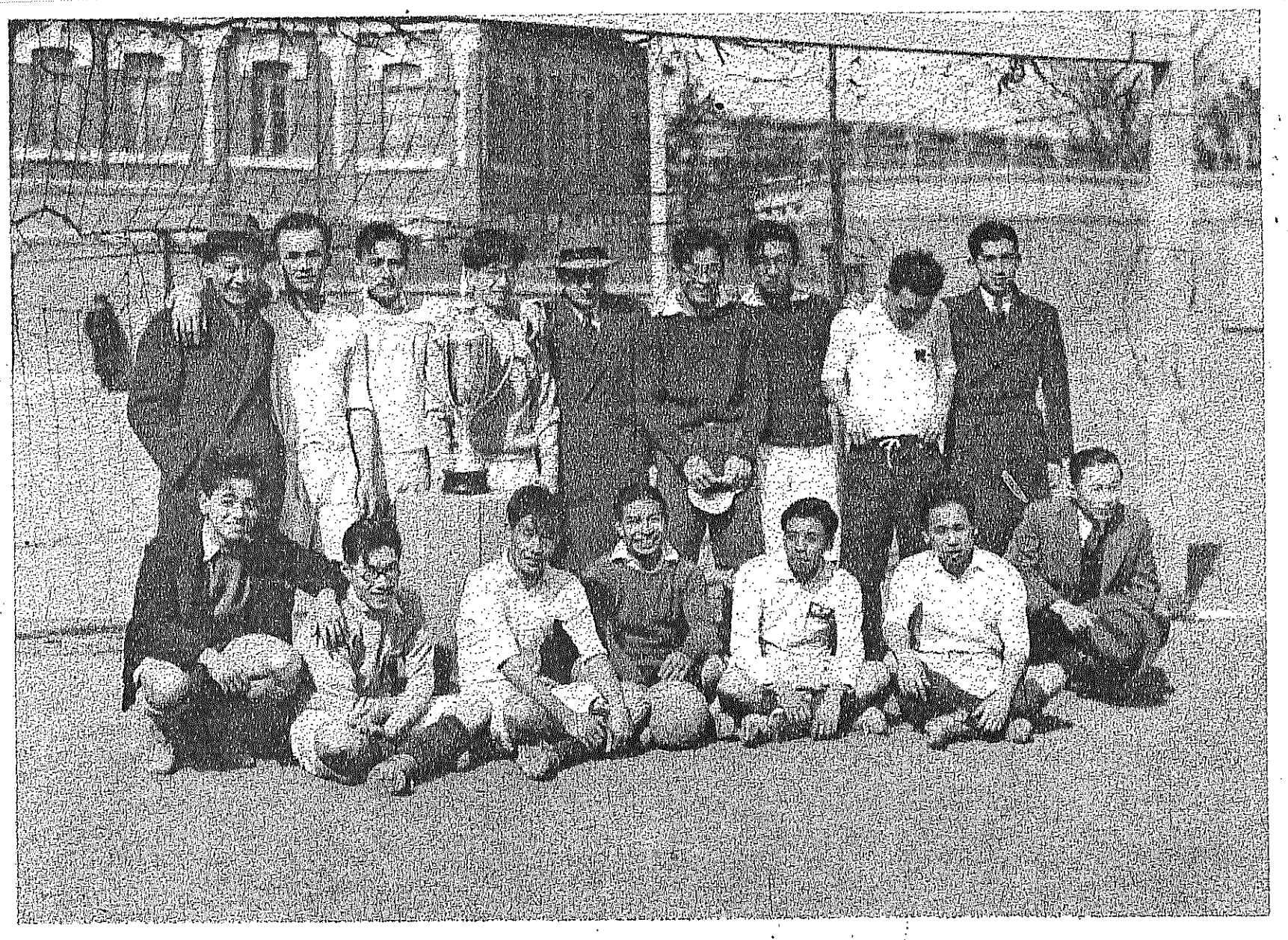
三月十七日擧行、第一組の優勝者が早大であつたならばこの決勝戰も現役の雙璧早慶兩校Ｏ・Ｂの對戰となり名による興奮もあり又實力の多少劣る早大も地方在住舊選手を動員する等の[illegible]手段も考へられて新な興味が湧いたことゝ思はれるが法政は現役選手が近年著し[illegible]く不振でこの優勝試合の[illegible]結は戰前既に明白であつ[illegible]といふべきである。あら[illegible]る方面で優越してゐる慶[illegible]方は遺憾なく組織的な强[illegible]を發揮して坦々と押し切[illegible]てしまつた。對帝大試合[illegible]は、多少守備に心を牽か[illegible]たＨ・Ｂラインの松丸、[illegible]田、長坂の三選手いづれ[illegible]この試合には決定的に攻[illegible]的な役割を演ずる事とな[illegible]たので、攻擊における慶[illegible]の組織的パス・ワークは一層容易となつてゐた。慶[illegible]は前半九分、十九分、二[illegible]一分。後半、十二分、十[illegible]分、二十七分と合計六點[illegible]擧げたが、それらいづれ[illegible]が坦々と試合を進める[illegible]に得られたものであつた[illegible]めにその經緯のうちに組[illegible]としての階調の美を感じ[illegible]せるものはあつたが、個[illegible]の技術には感嘆に値する[illegible]のは見られなかつた。

法政方にはチーム全體[illegible]して大した長所もなく、[illegible]人的にもＨ・Ｂの住、Ｆ[illegible]

慶　大 6—1 法　政

慶大		法政
岩波	L・W	松木
古山	L・I	浦野
津村	C・F	西川
塚部	R・I	吉田
市橋	R・W	大熊
松丸	L・H	住
濱田	C・H	[illegible]
長坂	R・H	間[illegible]
岩崎	L・B	四[illegible]
小池	R・B	杉[illegible]
島田	G・K	手[illegible]
6	G・K	16
5	C・K	2
5	F・K	4
3	G・I	1
3	G・I	0

※右ページへつづく



關東ＯＢサツカーに優勝した慶應ＯＢチーム

※左ページからつづく

S10－4－1

Wの吉田兩選手が慶大選手と對等に太刀打するに過ぎず、得點も前半慶大が三點目を擧げた直後に一點を得たに止まつて、結果は一般の豫想に違はず六對一の大差で慶大の優勝するところとなつた。

【總　評】

リーグ戰十四試合を通じての雜感二三を附記すれば【1】現在の我々の社會生活では相當の努力を拂つても卒業後鋭さと耐久力を失ひ勝ちであり、一方學生選手は停滯から脫して上昇期に入つてゐるので外國の幾多の事例が云々せられてはゐるが當分の間O・Bチームは學生の最も優秀なチームに對抗するに足るだけの力には容易に達しさうにないこと。

【2】恐らく急激な生活の變化に原因するのであらうが卒業後一年乃至二年の者はそれ以前の者に比較して却つて身體に力のないこと。

【3】現役中非常に優秀な技術者であつた者は練習から遠ざかつてゐてもボールの取扱ひには困難を感じないものゝやうである。たゞ鋭さや馬力はかなり減殺されてゐる。この傾向は殊に四五年より以上古く卒業した者（文理大佐々木、早大鈴木兩氏の如きは好例である）に強く最近の卒業者についてはそれほどでない。昔の一流選手の技術は數をかけて身にしみ込むまで練習して漸く得られた技術の根強さを感じさせる。

【4】今春卒業の選手も准O・Bとして出場を特許せられてゐるが、それらの選手は數において少くとも兎角そのチームの中心勢力となり易い。O・Bリーグ戰の存在の意義から考へれば多少強さを減じても來年からはいはゆる准O・Bを除いたチームで試合することの方が望ましいのではなからうか。



慶應、法政ＯＢサツカー　慶應中央を割つて強襲したが法政ＬＢ四條君ヘツデイングに逃る

S10－3－15

蹴球レフエリー二人制問題

數へられる有利點と指摘される缺點の數々

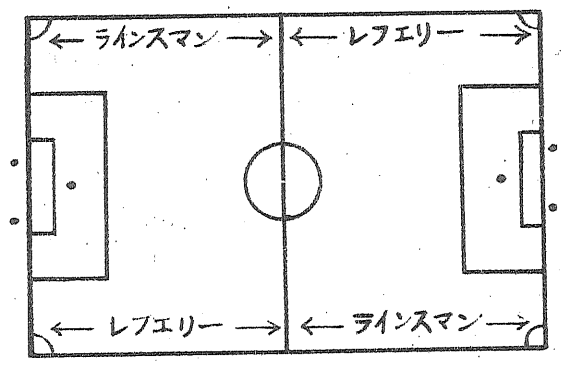
蹴球におけるオフ・サイドの問題はひとりわが國のみに止まらず傳統を尊ぶイギリスでもしばしば論ぜられてゐることで如何にすれば間違ひなく進行し得るか、それにはレフエリーを一人增して二人制にすればよいであらうといふ提案がかなり以前から唱へられてゐたものであつた、そこで一度ためして見てはどうかとのことで去る一月五日チエスターのグラウンドで行はれた國際試合豫選の北部對南部の試合に試みられたが、その結果は甲論乙駁結局歸一するところがなかつた。

☆　☆

二人制のレフエリーはホツケー或ひはバスケツトボールにおいて既に用ひられてゐるので別に目新らしいことではないが、蹴球にとつては初めての試みであるだけに各方面に異常な興味を投げ與へたことは勿論である、籠球ではタツチ・ジヤツヂがなくまたホツケーては特別な審判規定が設けられてゐるのでこれ等の競技と同一視するわけにはゆかぬが、しかし大體の思想として一人より二人で審判した方が地域的にそれだけ狹められるわけで從つて從來よりは完全な判定が出來るといふ建前のもとに試みられたものである。

☆　☆

例へばAの陣地からBの陣地へ急に迫つたときなどボールの進行が走るよりずつと早いから到底それに追隨して行けないが、しかし二人であるならば他の一人が直ちにその方に向へるからレフエリーは業になりひいては間違ひの數も少なくなるのは當然である、だがこのテスト・マツチは各方面にどんな反響をあたへたであらうか、大體において先づ前述のやうな結論に到達し贊意を表するものが、かなり多かつたが、缺點とも見られるものを擧げて見るならば



圖はバールトン博士の考案したツー・レフエリーの方法である

レフエリーとプレヤーのポヂツションがとき折重なり合ひ、それがために視野をさまたげられたりする虞れがあることで、この點試合後出場選手も『レフエリーのためバツクスとウインガーが困つた』と語つてゐた今一つ擧げられた缺點はボールが他のフイールド（相手側）において動いてゐる場合突然自分の審判すべきフイールドへボールが飛んで來たとき審判の精神と行動を直ぐその方に移し得るかどうかなどの缺點が上げられた、しかしこれ等の弊害も試合の經驗を重ねるにつれて多少とも取除かれることではあらうが……

この意見に對してレプトンの科學者バールトン博士等は次の如き方法をもつてすればそれ等の缺陷は除去し得るであらうと別記のやうに圖をもつて說明してゐるが、その要旨は『レフエリーはフイールドを半分づつに區切つて受け持ちサイドラインから二十ヤード邊のところにをりそしてラインメンはレフエリーの反對サイドに控へさせれば二人制採用後ラインメン不用說の危惧もなくなるであらう』と贊成說を唱へてゐるものもある。

このテストマツチは結局意見一致せず三月行はれる國際試合のスコツトランド選手選拔試合に行ひ更に愼重審議することになつた、當日は國際蹴球聯盟の役員をも招いて參考に供することになつてゐる。

何れにしてもその採擇如何は競技進行上に重大なる關係をもつだけに全世界フツトボールドムにまたとない大きなセンセイションを投げ與へてゐる。（三宅生）

S10-5-1

東西で行はれた實業團蹴球大會

關東實業蹴球大會＝小野　卓爾
關西實業蹴球大會＝三宅　二郎

【關東大會の部】

第四回關西實業團蹴球大會は新聞記者クラブと本郷クラブの參加が特認せられ、參加チーム數十六、昨年より六チームの增加である。この大會も逐次その技術的レベルを向上し、今回の大會においてはその眞劍味において、橫溢せる覇氣を以て死力をつくして相鬪ふところむしろ學生チームの連中を忸怩たらしめるものがあつた。今やこの大會に優勝せんがためには大會間際の泥繩式練習では不可能で一年を通じての不斷の練習が必要となつて來た。勿論これは當り前のことではあるが決勝戰においては千代田生命對日立製作所が息づまる樣な接戰、熱戰を演じ、今年もまた宿命的な延長戰二回を行ひ觀衆を興奮に包んだ。聽てこの大會がその特異性により蹴球フアンをかつ攫うて仕舞ふ日も遠くないだらう。次に技術的な批評はぬきにして試合の概況を簡單に書いてみる。

◇第一回戰◇

航空技術　3—1　興業銀行

航空技術本部は馬力で初陣の興銀を壓倒した。

千代田生命　7—3　慶應病院

接戰を豫想せられたが、昨年度優勝チーム慶應病院も千代田の鋭い動きにツブシに進退をはばまれ案外アツケなく敗退した。

帝大小兒科　2—1　航空研究

航空研究所は壓迫し乍らも最後のキメ手なく後半一對一の同點となりタイムアツプ直前ゴールを擧げられ勝つべき試合を失つた。

日本鋼管　5—0　本郷クラブ

本郷クラブは古金壽司のおやぢの率ゐるチーム。本郷の八百屋、靴屋等々にお顧客の學生を混へそれにボールのミクニが一枚買つて出た變り種のチーム。參加を特認されて出陣。結局まさまりのある日本鋼管が順當に勝つ。

淺野洋灰　6—0　三共製藥

初陣淺野セメントは西多摩工場の佐久間工場長自らグラウンドにて監督に當られこの一月から始め雪の降る日も練習を休んだことのないといふ熱心なチームである。見學の意味で出場したといふが佐久間監督の鼓吹するフアイテイングスピリツトを發揮して堂々と勝つ

東京火災　8—6　共同火災

共同火災は蹴球部有史以來の多量得點をしたが追擊ならず敗退。敗れたりと雖も善戰。

日立製作　7—0　新聞記者

日立製作所は第一回本大會の優勝チーム。この大會を唯一の目標として夜々として練習して東上、毎年優勝圈內に在り、技術、精神力共に相應の纏りのあるチームである。記者クラブは人ごとの樣に朗かに敗退した。

第一生命　棄權　油面小學校

第二回本大會の優勝チーム油面小學校の棄權は淋しかつた。

◇第二回戰◇

千代田生命　6—0　航空技術

航空技術本部の健鬪も千代田の猛威の前に屈伏した。

日本鋼管　棄權　帝大小兒科

東京火災　2—0　淺野洋灰

淺野セメント攻めたてたが東京火災のF・Bにつぶされて無爲、東京火災C・F獨走强蹴に點を擧げて勝つ。淺野セメントの奮戰敗れて悔いなし。

日立製作　4—1　第一生命

第一生命前半リードせるも後半に入り敵との接觸を嫌ひ、日立は奮然立直り泥濘の中をセンタースリー一丸となつてゴールをチヤージし點を重ねて勝つ。

◇準決勝◇

千代田生命

$$3\left\{\begin{matrix}0-0\\3-0\end{matrix}\right\}0$$

日本鋼管

前半接戰逆睹し難かつたが後半開始直後千代田は日本鋼管の浮腰に乘じ巧に突いて一分にして二點を擧げ優勝の曙光を見出した。

日立製作所

$$6\left\{\begin{matrix}2-0\\4-0\end{matrix}\right\}0$$

東京火災

端的な力は組織的な力の前に頭を下げ、日立は堂々決勝戰に進んだ。

◇決勝戰◇

千代田生命

$$1\left\{\begin{matrix}0-0\\0-0\\0-0\\0-0\\0-0\\1-0\end{matrix}\right\}0$$

日立製作所

昨年二回戰において對戰白熱的な延長戰を行ひ辛くも日立が勝つたが本年再び決勝戰において相まみえ又復文字通り息づまるやうな接戰を演じ延長二回遂に凱歌は千代田生命に擧つた。

當日相當に強い風が吹き、前半風上に陣した日立は猛烈に攻め立て四ツの決定的好機に惠まれ後半千代田は一つの決定的好機をつくり出したがともに無爲、延長戰に入つてからは風上に陣した方が攻め風下は懸命に守り、兩軍死力をつくして攻めかつ守つていつ果てるやも豫期し難い狀態となつたが二回目の延長戰後後半タイムアツプ五分前ごろ日立のR・W傷いて昏倒して退場、タイムアツプ二分前千代田の得た左コーナーキツクは日立のゴール前に落ち混戰となり日立のF・Bのヘデイングは味方のゴールに入りてあきらめ切れぬ失點となり。終に千代田が優勝した。



關東實業團蹴球大會決勝試合たる日立對千代田の試合、日立のゴールを脅やかす千代田のフオワード

【關西大會の部】

第一回關西倶樂部實業團蹴球大會は四月七日、十四日、二十一日の三日間甲陽中學校庭および南甲子園のグラウンドで行つた、わが國蹴球界の向上發達のためにはこの種大會の充實普及に俟つところ大なるはこゝに述ぶる要なきところであるが、しかし吾人の期待が餘りにも高い理想のもとに置かれてゐただけにこの大會を見て大いに悲觀せざるを得なかつた。

◇戰はずに優勝の湯淺◇

それは棄權チームが甚だ多かつたことでA組における優勝チームの湯淺蓄電池の如きは最初から最後まで相手側チーム棄權のため一度も戈を交へずして優勝したほどで、あまりにもダラしな過ぎる醜態であつた、かかる奇現象を呈したのは統制團體の不活潑に大きく起因するは勿論なるが、出場チームの自覺のなさ過ぎるのをも併せて責めねばならぬ。

かかる結果を招來したのは本質的な缺陷に因由せるものであつて私は先づその方面からの內省を提供してかからねばならない、この大會の規定內容に關する研究はしばらくおくが一體日本における蹴球シーズンはいつなのだらうか、白雪訪づれる候ともなればウインタースポーツの華と唱はれば朔風去つた春秋の好季もまた炎熱灼く百度のもとにおいても時候のわけへだてなく諸種の大會が行はれてゐる有樣で、いはば蹴球シーズンといふものを持たない、眞にずるずるべつたりな現狀である、一年中のべつ幕なしに行ふことは、少なからず興味と刺激を減殺することと必定で敢て物的或ひは心的要素をこゝに借引するには及ぶまい、他の競技から推慮して蹴球技が全國的によく醵濕、採用されつゝあるのにかゝはらず大衆の關心がその割合に應ぜざるは一面この間の事情が

※ 右ページへつづく

※左ページからつづく

しからしめるものであつて指導機關たる協會は是非考慮せねばならない急務である。

◇倶樂部蹴球の使命◇

わが國の諸競技を通覽するに學生群がその主流をなしてをり蹴球界もまたその通りであるが、しかし蹴球は他の競技と異つて技術の習得がなかなか困難なため學校卒業後において圓滿な發達を要し勝ちである、その意味においてこの倶樂部實業團大會は眞に有意義な企て斯界振興策のため大いに奬勵すべきことなのである。

それにしても現在わが國の會社制度は一般に運動したくとも運動する時間に惠まれないところが多いので從つてこの希望は無理な注文かも知れないが、イギリスなどの一流プレヤー中には三十歳前後のものがかなり多く時には四十歳以上のものも稀らしくないといふ有樣で彼我對照して眞にもつてうらやましい限りでわが國においても一日もはやくその時期の到來せんことを願つて止まない。

◇試合經過と印象◇

さて大會の印象をたどる前述の通り棄權チーム續出のため內容貧にして語るべきもの少ないが、摘記することにする、大會は實力の上位のものをA組に下位のものをB組にランクしたA組は湯淺蓄電池Aを除いた他のチームは學校を背景としたもので現役と卒業生とを混合したチームが主てB組は何れも實業團のチームであつた、A組では湯淺蓄電池が第一回戰から優勝戰まで一度も試合せずに優勝して終つた。

しかし高橋、渡邊、壇野宮地らのベテランに堺井、東浦、安部、門脇の准現役級それに今春關學を出たばかりのCH三崎君が加はつたので、陣容はいよいよ充實してゐるからもし試合つても恐らく優勝は湯淺の手中に歸したものと思はれる

次いで優勝戰迄進んだ關學OBは後藤、川西、守屋君らが主力でそれに現役選手を加へたもので湯淺チームには一籌を輸せねばならなかつたにしてもこれに次ぐ優秀なチームであつた、第一回戰における明星商OB對京都師OBの試合はA組における唯一の興味あるゲームを演じた、明星倶は關大出の津田君に、關大現役の上吉川、西山君らに昨年の明星商黃金時代を劃した若手連の中から選び形成したチームだけになかなか張り切つた面々であるから京都師OBもかなはぬであらうと戰前豫想されてゐたのであつた、ところが試合は意外にももつれにもつれて結局規定時間に至るも決せず延長戰に移ればこれまた接戰で再び同點に終るものと思はれたがタイムアツプ直前京師よくゴールを擧げてこゝに均衡は破れて勝利は京師の占むるところとなつたのである、强豪明星を倒した京都師はこの善戰により俄然向後に對して大きな興味を以て見守られるに至つたのであるが、二回戰でざうしたことか棄權したため刮目した人々の氣持ちを落したこと甚だしかつた。

◇

B組では優勝戰まで坦々たる徑路をたどり落ちつくところに落ちついたやうであるが、湯淺蓄電池B對大阪市役所の試合はさすがに優勝戰だけあつて見ごたへのあるゲームであつた、最初湯淺リードするを見れば市役所また追ひすがつて同點となしシーソーな場面を展げた末延長戰に入り市役所遂に一點を勝ち越して覇權はこゝに決したのであつた、市役所のチームは學生時代の經驗者が中心となつてゐるので結局この技倆の差が微妙的な作用を來たして勝敗を分岐するところとなつたのであらうが、しかし湯淺のチームは蹴球經歷を持たぬものが殆んどで、寧ろあれだけに仕込んだ努力を賞めてよからう。

こに角休憩合圖のサイレンが鳴ると共に幾百の從業員はグラウンドに飛び出してボールを蹴つてゐる有樣はわが國ではとても見られない圖でこの熱があつてこそ强力湯淺チームが生れたものである。

S10-6-1



全日本綜合蹴球關東豫選に優勝した文理大學チーム

蹴球全日本綜合選手權
關東豫選大會記
【番狂せを演じて文理大優勝】

小野卓爾

六月一日、二日にわたつて明治神宮外苑競技場において擧行せらるる蹴球全日本綜合選手權大會の關東豫選は四月二十七日から毎土日曜代田橋明大球場において行はれ、五月十二日文理大と早大が決勝において相見え一般の豫想を裏切り文理大が優勝し全國決勝への出場權を獲得した。

◇

この時期にかかる大會が開催せられたことは初めてであり、かつ練習期間が短かつたために豫備知識と反省の餘裕に缺け、乃至は春季の練習の重點を個人技の擴充に置く等の理由によりテイームのベストコンデイションを持つて行くことは困難であつたでもあらうがこの豫選に現はれた技術的水準は一般に餘り高度のものではなかつた。

勿論リーグ戰ころの水準を今ここに望むは無理な注文ではあるが、明年オリンピック大會を控へてゐることでもあり一歩飛躍への目論見が何らかの形において現はれるであらうことを期待するのも強ち貪慾でもなからうと考へてゐたが遺憾ながらこの期待は滿足されなかつた。

◇

【文理大】は一回戰不戰一勝、二回戰の對明大戰は一對零の接戰辛勝、潜在力において優性の文理大のこの接戰はシステムプレイの不備を意味するものであつた。三回戰對慈大戰は順風に帆をあげて戰を進めたが（慈大には文理大の虚を衝く頭腦對策がなかつた）准決勝に農大と延長戰引分、抽籤に依り勝殘つた。

◇

【早大】は一回戰において戰前事實上の決勝戰と目されてゐた、略々慶應レギユラーメンバーよりなるB・R・Bと對戰した。昨年度リーグ戰において再度の引分に終り不精算のまま持越されてをりこの三度目の顔合せは總ゆる意味において興味を以て期待された。戰は又復延長戰引分となり、抽籤に依つて早大が勝殘つた。B・R・BのW線は相當強い組織力を持つてゐたがB線は味方をリードせしめるには力が足りなかつた。早大はB線の健闘によりタイムアツプ直前一分まで味方を優勢に置いた。

三回戰には立教に凡勝、准決勝における帝大L・Bとの戰には早大はこの大會における最好調を示して決勝戰に進んだ。

◇

【決勝戰】文理大對早大の一戰において、前半零對零觀衆は寧ろ戰を互角に進めた文理大の健闘を賞してゐたが、後半二十二分俄然文理大C・F松永は早大F・Bのミス・キツクを拾つてダツシユ、GK不破飛出してセーブしようとしたが及ばず、球は轉々ゴールイン文理大は一點を獲得した。未だこの一點が勝敗を決するとは思はれなかつたが、早大は極力挽回に奔命し、その後二つの好機があつたが焦慮のために決まらず徒らに文理大の好防に名をなさしめ終に自他共に許した早大が豫想を裏切り敗退し觀る者を唖然たらしめた。

◇

個人技においても、システムプレーにおいても事實文理大の上位を行く早大が何故敗退したか。この問題は一般に神祕的な疑問を投げた。

早大は負傷等により毎回ベストメンバーを以て戰ふ事が出來なかつたし、當初より鋭さにも圓滑な動きにも缺けてゐたとはいへ、敗戰の直接の原因は榮に勝てるといふ精神上の誤算が不識不知の間に安逸に導いたのではないだらうか。これを積極に解すれば早大のみならず全てのテイームに教訓として一つの課題を提供するものではないだらうか、されば最も秀れたメンバーを有する早大が飛躍することは我國の蹴球の水準を高揚するに重大なる役割を持たねばならぬと考へられるが早大の現在は飽和狀態に達してをり、この段階が勿論圓熟となれによつて相當強力なものとなることは肯定出來るが、やがて飛躍への希望に滿ちた腹ごしらへであつてこそ意味があり、この行き方による完成が絕對的な強味への全てとは思はれない。

◇

今回の早大を見るに戰は常に個人技の算術的總和の優性が勝利に導いてゐるかに考へられる。甚だ抽象的ではあるが有機的活動體には節理を伴ひ、節理あるところに意識的な方式があり型が存在する。有機的な力は意識的な方式の蓄積の中より機會的適應性により誘發せらるゝ時、より强力なものとなつて發現するのではなからうか。

この豫選に於て二、三惡性のフアウルプレイ或は非紳士的行動を見たのは甚だ遺憾である。技術の向上と同樣品性の向上も矢張大切でありプレーヤーもテイームとしても十分關心を持つてもらひたいものである。

S10-8-1

蹴球大會の部

北日本高專大會
成城高校優勝

第六回北日本高專校蹴球大會は七月十四日から十七日まで東北帝大工學部グラウンドで擧行、參加校八校昨年體力に劣つて二高に敗れた成城高校が雪辱見事に宿敵二高を破り優勝した。

◇

一勝戰北大豫科對福島高商は着實なる北大の技術に福島は六對三で敗退した。

仙台高工對桐生高工、前半一進、一退の接戰となり桐生リードしたが後半に到り仙台頑張り遂に二點を得二對一で仙台勝つ。

東北學院對山形高校戰は前半最初半から學院優勢に出で遂に一點を入れリード後半山高盛返してタイスコアとなるも學院ロングシユートに好運の一點を得て結局二對一で學院勝つ。

二高對高岡高商戰は徹頭徹尾高岡が二高に壓され九對零で敗る。

北大豫科對成城高校戰は前半練達の成城調子好く二點を入れたが後半體力續かずタイムアツプ近く北大一點を入れ遂に二對一で成城辛勝した。

◇

准決勝戰東北學院對仙台高工戰は前半兩校頑張り各一點を得、後半、學院高工のパツク不振を衝いて、三點を得、四對一で學院の勝となる。

◇

二高對成城高校戰は大接戰を演じたが前半成城得意の鋭い出足で三點を得、後半二高優勢となり攻め立てたが試合に固くなり鋭いダツシユも見られず結局捨身に出た成城に四對二で勝を讓つた。

兩校は今日まで三回の顔合せをしてをりその度に成城が敗れてゐたので准決勝戰ながら決勝戰の如き緊張が見られ好試合であつた。

◇

決勝戰成城高校對東北學院戰は成城の先攻にキツクオフ、例により成城出足鋭く攻め、十二分に坂本のシユートに一點、つゞいて十四分、ゴール前の揉み合ひに、ふたゝび坂本のシユートが成り二點を先取、その後兩校にチヤンス多かつたがダツシユも利かず得點なし、後半學院は成城の體力の衰れを利用し壓迫し三十分金矢一點をシユートしたがパツクチヤージ多く白熱戰の儘タイムアツプとなり二對一で成城に凱歌が擧つた。

S10－6－15

全日本蹴球選手權大會

全日本的な參加を見たが
試合そのものに感銘は少し

山田　午郎

【まへがき】

第一回全日本蹴球選手權大會は六月一、二の兩日明宮治神外苑競技場で行はれた。この種の催しに初めて登場する朝鮮代表を迎へ、中國、九州、北陸等の地方代表を迎へ得なかつたが北は北海道代表から東北、關東、東海、關西と六代表を算し全日本的の內容を盛る事が出來た、好晴の二日間ではあつたが風ありフイールドは乾燥して案外な暑氣でコンデイシヨンは良好であつたとはいへない。然しこれが爲めに其の實力が封じられたとは思はれなかつた、第一回戰に顔合せした文大對北大、關大俱對仙台俱は殆んど互角で勝敗の決定は極めて微妙な點にかゝつてゐたといへるものであつた。第一回戰で接戰を演じた二勝者が准決勝戰で對戰し、幸運の籤を抽いた京城蹴球團と名古屋高商といふ試合で本大會は進められた。シーズン・オフのせいもあり五試合を通じて感銘させられるものもなかつた京城蹴球團の優勝も當然過ぎるもので顧れば無味といふことにもなる。

【第一回戰】

◇…第一回戰は文大對北大仙台俱對關大俱の二試合で前試合は四對二で文大が勝ち、後者はこれまた四對二で關大俱の勝つ所となつた前半同點の均衡が破られて、勝敗の決定した二試合は互角の對戰ともいへるもので結局はきめ手を持つチームに凱歌があがつたのであつた。之も畢竟するに惠まれた環境にあつて場慣れたチームの當然の勝利であつた。

關西地方豫選において雌伏幾年かの後に京大、關學の宿敵を屠つて出場した關大俱としては善鬪の敬讚を送るに躊躇させるものがあつた。

これは當日のコンデイシヨンが不良であつたことにも依るが急いで上り氣味であつた結果ではなかつたらうか。この試合においてRI大橋が中央線手前から强引なドリヴリングで仙台俱のバツクスを拔いての得點が成功してゐなかつたならばこの試合が或は關大俱に惠まれなかつたかも知れない。これなどは個人の技倆に賴らねばならぬ好例として殘されたものである。

◇

仙台俱は後半に至つて頑張りがなかつたがこれは選拔軍の缺陷を暴露したもので練習不足から來る致し方ないものであつた、北大は巧妙さに於て文大のそれに比し優るとも劣るものではないがオツフエンスに際してHB線のフオロウ・アツプと文大陣の缺陷を衝くことに手段を講じなかつたことを悔いるべきである、またFW線は小立兄弟の他孰れも小粒ではあつたが巧味を持つてゐた。マークに極めて不忠實であつた文大HB線に對しより鋭く出でパスを多く使つたならばその守備線を攪亂する事が出來たらう。

これはCH瀧の如何にして强く守るかに最大の努力を拂つた一方如何にして攻擊線を强く押しの効くやうに進めるかの努力が足らなかつた事とゝもに遺憾であつた。HB線はオツフエンスに際しては飽くまでFW線であり、デフエンスに際しては徹底的にFB線であるといふことに敢て言を俟つまでもなからう。

【准優勝戰】

◇……かく准決勝は文大對關大俱、不戰一勝同士の京城蹴球團對名古屋高商となつて、文大、京城蹴球團が勝殘つた。文大はCH原崎の出來榮えは殊の外素晴らしく好フイードを以てFW線を常に攻擊的に押し進めた。松永と共に關大を卻けた殊勳者であつた、關大が前半猛攻の機會を無爲に終つて3—0で後半に入り相當豐富なチヤンスを作り乍らゴールゲツターを缺いて敗れはしたが文大は豫期以上の出來榮えであつても危い試合を續けた。關大はPKの機會を逸しまたLW長島に沈着があつて後半の機會を二度だけでも決定したならばホイツスルを聞くまでは勝敗が決定しなかつたかと思はれるものであつた。

勿論そこに巧拙ありといふならいへないものではないが關大にとつては無念の一戰であつたといへるだらう。攻擊線の整備から一歩を進めシューテングの練磨は關大の今後における課題である。

◇

名古屋高商は畏縮してスタートし間歇的に生ずる機會に京城陣を襲ふに過ぎなかつた、ゴールキツク七、コーナーキツク三を數へたのは無敵を誇る京城に對しては止むを得なかつたらう。

京城はチーム編成も手加減して事實試合の上でも牛刀を以て鷄頭を斷つことをせなかつたのは武士の情でもあつた。名古屋に望むもは捨て身の戰法も相當効果のあるといふことである。

【優勝戰】

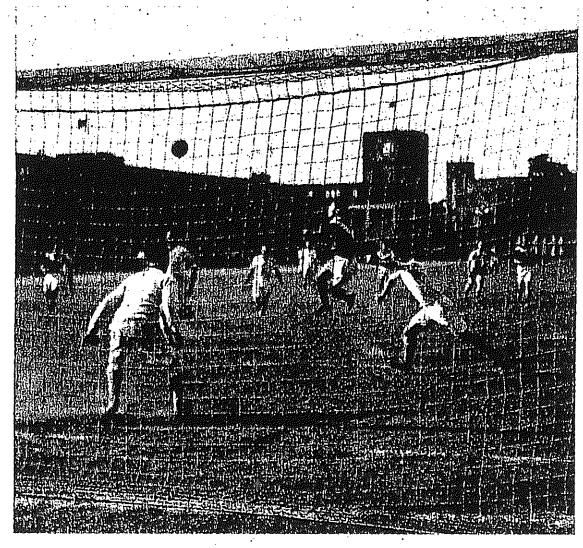
◇……京城蹴球團が好籤を抽いた許りでなくこの決勝戰に殘る優れた實力を持つてゐた。文大がムラのあるチームであつても、これまた勝ち殘つたのは當然であつたといへやう。こゝで爭覇に相應しい一戰を希望したいのであつたがLH木村の出來も前シーズンの凄味を缺きLWは人を缺いて長島、藤野、竹內と各試合毎に交代して補强工作に苦心を重ねLB三塚また振はずチームとしては左右の均衡が全く失はれてゐた。これに對し京城軍は小面憎いまでに粒を揃へてゐた。

前半1—1から京城再び2—1のリードとなつた決勝試合は三十分ころに至つて制球力の相違で大勢は決してゐた。後半に入つて十分までに三點を加へられて文大は局部的に球を扱ふだけで全く手も足も出ないといふ慘めな戰績を辿つた。この後の三十五分は京城敢て攻めようとせず、文大また三十分ごろからよく攻め立てたが切り崩すには至難と見られたほど京城は餘裕を見せて守備線を堅めてゐた。

◇

文大は對北大、對關大との二試合に互角の對戰で殆んど全力を傾けたといふ結果が執拗さを缺いて出足も殊の外に著しく眞向から太刀打つには無理であつた。然し京城の單的な球道を見究めてゐたならこれには執るべき對策があつたはずだがこれを無視してゐた事に對しては非難されても致し方ないと思ふ。特に目立つたのはRW朴の曲者を野に放した如き狀態で置いた事だ。こゝは京城のオツフエンスに於ける肝要な點で、これを斷つ事をせず文大が相手の攻擊角度は少いといつても阻止する事は出來ないはずである。京城は守備線に球を停滯させる事をせず立派なフイードをしてゐたがこれを受けたFW線は自力に過信して最後の決定を急いでゐた。これは執らぬ所である。より變化を求めて相手の守備線を徹底的に破壞することを考へねばならぬ。

このことがなければ、單調の譏は免れず、徒らに攻め立てる凡戰と評されても止むを得ないだらう、京城は個々の技倆を結び合せてチームとして强い一線が貫かれるのでなければNO1の折紙は遺憾ながらつけかねる。

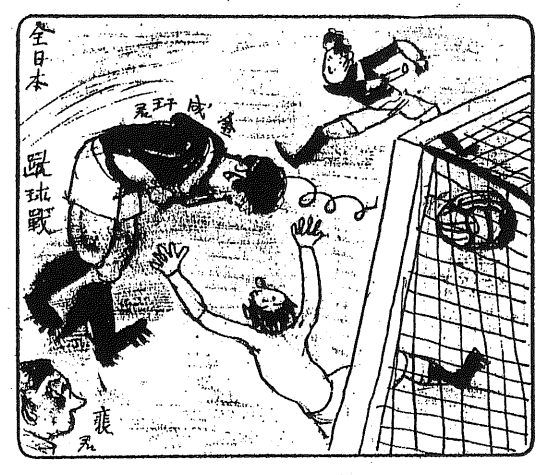


全日本蹴球決勝の京城對文理大前半十九分京城二對一とリードのゝちCF金君右にヘツデイングパスするところ



蹴球の覇者（1）　堤　寒三

全京城軍の體軀は勿論態度の堂々たる、技術の巧妙なる、實に壓倒的でした。早慶が不用意だつたとはいへ、文理大に名をなさしめたその文理大を、雜草の如く蹂躙しました。目についたのはノツポのCH原崎君が、逞しい脚の下をかいくぐりかいくぐり……。



蹴球の覇者（2）　堤　寒三

全京城軍は殆ど一粒選りの猛者だが、とりわけFW線は右翼が强靭で、CFへ、ノーバウンドのヘツデイングで二、三ポンポンはね合ひながらネヂ込むなんて際どいプレイもやる。これで日本魂の訓練さへ十分だつたら——とは、我々フアンの率直な印象。

S10-6-15

覇權半島に渡る

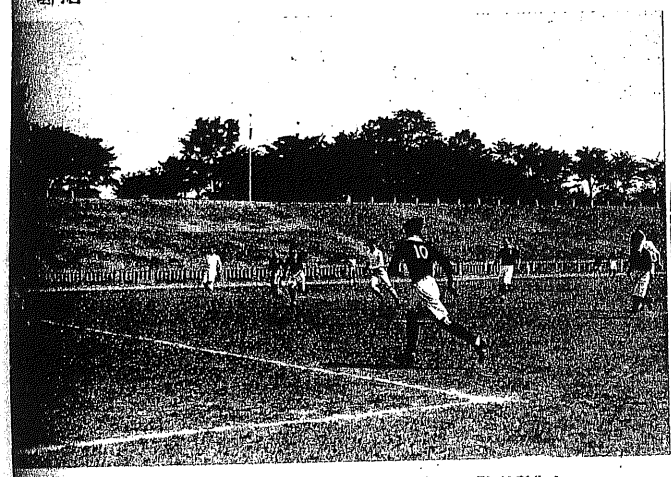
全日本選手權に京城蹴球團優勝

第一回全日本蹴球選手權大會は六月一日、二日の兩日明治神宮競技場において開催され次の成績で朝鮮代表京城蹴球團が優勝して第一回の覇權は玄海を渡つて半島チームの手に歸した

關東、文理大4－2北海道、北大△關西、關大倶4－2東北、東北大▲準決勝＝文理大3－0關大倶△朝鮮、京城6－0東海、名高商▲決勝＝京城6－1文理大



決勝試合　京城對文理大の前半十五分京城CF金君のプッシュを倒れて辛くもセーブした文大GK中垣内君



文大對北大　前半文大RWのセンタリングをCF松永君とつてドリブルして北大ゴールに迫る



關大對東北大　後半關大クラブの攻撃を密集して懸命に防ぐ東北大のゴール前



優勝した京城蹴球團

First all-Japan soccer championships, Meiji Shrine, June 1 and 2, won by Keijo, representing Korea. Top: Nakakakiuchi (Bunrika) falling as he makes a pretty save fifteen minutes after the begining of the first half of the final game between Keijo and Tokyo Bunrika. Bottom-Left: Bunrika - Hokkaido Imperial game (Upper) and Kansai Daigaku Club - Tohoku U game. Bottom-Right: Victorious Keijo soccer team.

S10-9-15

全國中等 學校蹴球大會を顧みて

兵庫代表神戸一中優勝す

師範チームと中學チームの特徴

岩野　次郎

【まへがき】

レコード主義的個人スポーツと、團體協調を競ふ團體スポーツは二方面共國民スポーツとして必要である。

歐洲大戰後の個人主義的傾向に流れ出したドイツにおいて或ひは新興國には、國民魂養成上特にチーム・ゲームの奬勵が必要であつた。「個人はない、民族がすべてゞある」とか「團體の一員としての義務を果せ、個人の權利を主張するなかれ」とドイツは民族意識團體精神作興に懸命であり之を團體スポーツに依り養はんとしてゐるがこのことは現今各國共必要な情勢である。

團體的競技たるサツカーの日本の歷史は古いが他のスポーツの樣に進歩目覺ましくなく、シベリヤを經て或はスエヅを越えて世界的に進出するまでにも漕ぎつけないが、日本國內の地下水的一般普及はやがて民衆化し日本國民體力精神力向上に役立つ第一線に立つものたることを豫想させる。

今回の第十七回全國中等學校蹴球大會に馳參じた十二地方西は九州より東は北海道より集つた地方代表のチームの技倆、體力、精神力が同一レベルに接近し何れもあまり見劣りせぬまでに向上し整備されてゐたことはこの普及を物語るものであつた。

參加チームは師範が七校中學が五校であるが試合コースからいふと二つの別の型がある樣である。

【師範型と中學型】

師範チームは體格の出來



大毎主催中等學校蹴球大會に優勝した神戸一中チーム

上つた上に、練習に相當の日數がかゝり、精神力に強いがコンビネイションが一般に惡く臨機の應用能力に缺けてゐる。故にミツドルフイールドにおいて強くゴール前の攻勢展開において判斷處置が拙い。フオアワードのオフエンスに際しペナルテイエリア附近でのスピード頓挫が多い。

パスが型にはまり、淺すぎたり大きすぎたりして結局相手が非常に弱いか、或は混戰にするかしないと得點は難かしい。要するにゴールゲツターがない。

中學チームは非常に組織的で相手の虛を突く判斷がよく、全體の場面を見て有利に展開する才能に長じてゐる。技倆が互角の場合體力の見劣りをこの判斷、處置で補つてゐる。故に非常に滑らかにすらすらと攻撃のスピードを保持して、ゴールに肉薄する。

◇

師範チームは個人的に強いが殊に兩ウイングの活躍が物足らない。天王寺師範等優勝候補の貫祿は十分だつたが卜部一人である。反對側に卜部がもう一人ゐたら樂に優勝したらう。他の師範はセンタースリーが強く、ウイングが弱いから片手落ちのチームが多い。富山師範も左に攻撃力の中心があり一方的である。

刈谷中學の樣に攻撃力を左三人に置いてゐるチームは力が均齊してゐる。殊に附屬中學等こゝといつて強い所はない均勢味が、天王寺師範と延長戰にまで肉薄した力となつてゐた。

◇

韮崎もよく整つてゐたゴールキーパーの出すぎが敗因となつたが前衛はよかつた。たゞ一寸兩ウイングがランニングばかり早くて他の者と協調出來ぬきらひがあつた。

廣島一中も全體がよく動くチームであつたが試合不足だつた。

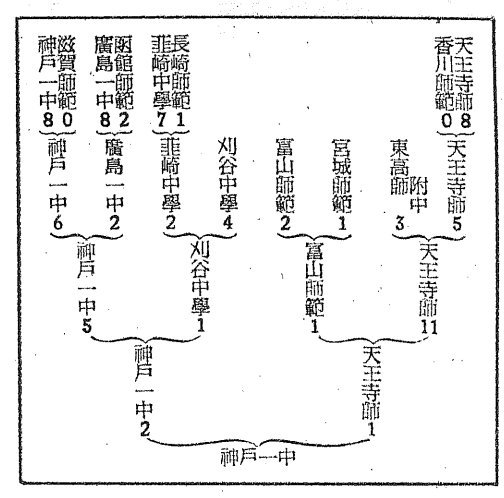
最近師範チームが中學チームに劣るのはこの點である。中學チームが獨特の向上發展をしたわけである。これが優秀なる日本チームを作る根本的のものである。これ等の五年後を期待したい、きつと强チームが日本に生れると思ふ。

【各校の短評】

◆函館師範——前年度より技倆において見違へる程進歩してゐた。パスの方向の拙いのに一考を要す。

◆長崎師範——氣魄といひキツクにおいて進歩してゐるが最も重要なコンビネイションが劣る。

◆滋賀師範——出足の早いのはよいがフオワード攻撃に異狀あり。殊に師範チームに似ず後半の疲勞が敗因。



◆香川師範——初陣中て一番弱い。すべて練習不足である。パスを敵にする拙さはない。

◆廣島一中——攻撃に威力がない。ゴール前のパスが粗雜である。パスが淺い。

◆韮崎中學——むやみと蹴り合ふチームだ。ゴール前の締りがない。キーパーが派手すぎる。

◆東高師附中——體力で見劣る。相手チームの缺を早く見出し處置せねばならない。ゴールキーパー乙部の奮闘を賞めたい。

◆宮城師範——キツク・パスその他を型通り敎へられた通り行ふチームだ。全體の動きを研究されたい。

◆富山師範——抽籤運よく准勝戰まで來たが實はもつと實力は下だ。後半の全部守備陣を張つたのは男らしくない。「攻撃は唯一の防禦」

◆刈谷中學——攻撃力足らぬ。ハーフのフオローがほしい。對神一中前半のバツクの配陣惡かつた。兩ウイングもつと活躍せよ。

◆天王寺師範——卜部一人に賴りすぎる。フルバツクの配陣惡い。深味がない。左側にある攻撃威力を右側にもほしい。センターはもう一つ早くシユートせよ。卜部の好パートナーがほしい

◆神戸一中——技倆及び戰法よし。守備陣に異狀あり。ハーフの强さに比しフルバツクが弱い。全體に體力が劣る。ざこざやつても少しづつ點を取られるチームだ。

兩ウイングの强襲と相俟つてフオワードが揃つてゐる所へハーフのフオローよく攻撃層が厚いのが强味。

【强い兵庫縣】

蹴球王國兵庫代表が十七回の內十五回まで王座についた。地方のビカーチームに比較して、兵庫はビカーとはいかぬ。他に寸盡あれば肩々相摩すチームが多々ある。兵庫豫選は本大會以上に苦戰をせねばならぬ。こゝに兵庫王國の因がある。

この甲子園原頭の蹴球强風を地方にも吹かし、お互ひに競ひ、强相手を作り、本大會以上の苦戰を地方でされたい、そして個人技だけてはいかぬ。アソシエイション・フツトボール卽ち精神力と技倆が强い體力の上に築きあげられチームとして立派なコンビネイションのあるチームを作つて欲しい。

【參加校と成績】

九州	代表	長崎　師範
中國	代表	廣島　一中
四國	代表	香川　師範
兵庫	代表	神戸　一中
阪和	代表	天王寺師範
京、奈、滋	代表	滋賀　師範
北陸	代表	富山　師範
東海	代表	刈谷　中學
東京	代表	東高師附中
關東	代表	韮崎　中學
東北	代表	宮城　師範
北海道	代表	函館　師範



中等蹴球　大毎主催全國中等蹴球大會は八月二十四日より四日間甲子園で擧行神戸一中が優勝した、寫眞は對天師との決勝試合で前半二分に最初の一點をあげたところ

S10－10－1

昭和十年—昭和十一年 蹴球界展望

【關東學生蹴球界】

早慶の覇權爭ひが興味

山田午郎

先には3—3で引分け、關東の覇を爭ふ早慶は再度相見えたがまたも7—7で引分けて如何にも申合せたやうなことになつて覇權は早慶兩チームが握るといふ異例を記錄した前シーズンであつた。いよいよこの六日を以てシーズンの幕を開けることになつてゐる關東學生蹴球界の今シーズンはこの決戰が持ち越されてゐる樣にも思はれて興味は殊の外に深い。

殊に明夏のベルリン・オリンピツグには初の代表を送ることになつてゐて代表決定の方針は未定ではあるがこのリーグ戰も資料蒐集の機會ともなるであらうし年來の懸案まであつた大學高專の分離案が通過して、十餘年の聯盟の傳統精神は繼承されてはゐても一新紀元が劃されてもゐるのでこのシーズンは新生の一步を踏み出すことになつてゐるので意義はあり、また改組から來た盡きぬ興味が盛られてゐる。

☆

斯かる中に躍り上つて話題の中心をなすものは遺憾ながらこのシーズンにおいても早慶であることは萬人の認める所ではなからうか更生を期する東大の精進は早慶にとつて非常警戒を要するものであるには相違ないが立教、文大、商大は遺憾ながら早慶を拔くには容易でないと思はれる。

待機の姿勢にある戰線の檢討資料の不足と遺漏に依つてこの見方が覆されることにもなれば球界のため欣喜このことゝいはねばならぬが今日では如何たる點から考察の陣を進めて見ても早慶を外しては語るに足る何物もない。

豪勢な早大の陣容

早大は豐富な陣容の中に關西で雄飛した關學出の西邑を迎へて寧ろ布陣に苦心を要するといふ豪勢さである、强力を誇つた前シーズンの陣容そのまゝをこのシーズンに持ち來つて制覇を期するのであるが、老朽の不安も少く優勝候補の隨一として推すことが出來る。

ＦＷ線は平松、加茂弟、川本、野澤、加茂兄に西邑を加へ、ＨＢ線は吉田、立原、笹野に關野、これがその時々によつて差し換へは自由であり優劣なしといふ有樣でこれは他の垂涎おくところを知らぬものである

ＬＦ鈴木、ＲＦ堀江、ＧＫ佐野はこれまた馴染が深い顏觸れである。佐野に代へて不破も擢用出來るといふに至つては羨望の極である。

☆

早大の黃金時代は依然として續いてゐるのであるが去る十九日の對崇實戰を見た眼には無敵の陣としてこのシーズンを讀へるには幾步か手前にあるを感ぜしめた。シーズン深まるに連れて自然整ふではあらうが完璧の陣には達してゐない。奪はれた二點は止むを得ざるものとしても四點の得點は餘りに物足らない。

これはシューテイング・レンヂの狹隘と攻撃線加增の不足が不確實なシューテイングと相俟つた結果の所產であつた。この春シーズン・オフにおいて行はれたものではあるが全日本選手權關東豫選では文大のため1—0で一敗地に塗れてゐる。

これは守備力を責めるにはあたらずＦＷ線の攻撃によるものであつた、インサイドの守備加擔は著しく密度を加へてゐるし動きは激しさを一段と增してゐるがそれが必ずしも効果的であるとはいふを憚り度い狀態である。

☆

パスは正規の體系において完全と見られるが爆撃體系の高度の變化によるものは等閑視されてゐる、これと攻撃密層を築くことが早大の制覇の前に殘されてゐる宿題ではないか。

自力以上の相手に挑むことが出來ぬ結果が球をキープすることの無雜作を深く刻みつけてゐるせいか相手を與し易しと見、拔き易しとして進む態度も改めねばならぬであらう、無缺を求め得ないにしても早大にはより以上の强力さを求め得るはずであることを一言つけ加へて置かう。

陣容の異動を意氣で補ふ慶應

慶應は岩波、塚越を送り出して守備線に痛手を蒙つたばかりか藤岡が學業の關係で出場覺束なく攻撃線にも痛手を招いてしまつた。不運を喞ちながら辛くも松元、加藤、乙骨、二宮等によつて補充された陣容は些して遜色なからうといはれてゐたのに主將右近と二宮が病床に呻吟することになつて重ね重ねの不運の中にシーズンを迎へることになつた。

この結果ＦＷ線ならびのポヂションを與へても器用にこなす播磨を右近の後に廻し、堀江、播磨、增田、猪俣、駒崎のＦＷ線、松元石川、辻のＨＢ線に、伊藤加藤(または乙骨)のＦＢでＧＫ一宮といふ補强工作の陣容が布かれるらしい。

前シーズン斷然一頭地を拔くであらうと見られた早大を執拗に追撃して、再度引分けた時の協力の結果に鑑み一致團結して悲壯な練習を續けてゐる。ゴールゲツター右近を一枚外したことは攻撃力の減殺といへるが意氣がこれを補うて餘りある樣に見られる。

☆

播磨の後を襲ふた猪俣も場馴れこそしてゐないが右近に代る駒崎の采配の下にゴールゲツターとして目立つてゐる、增田の制球力は一段と進步を見せてゐるから堀江が駒崎には及ばずとも右側に相應するの眼識が養はれたならばこのＦＷ線は速攻の妙味を遺憾なく示すであらう、これが傳統の强味といふものであらうか。

スピーデイで器用であるがこれが必ずしも强いといふことにはあたらない。この點が慶應ＦＷ線の戒心を必要とする所である、守備力は石川を中心として圓滑に行つてゐるがフイードは確實とはいはれない憾があるが動搖のあつた割合に整つた陣容で早大に突撃を試みる有力チームで依然として關東の雙璧として數へらるべきチームである。

眠から覺めた東大

東大は立教にも敗れて第四位に轉落したが今シーズンは蹶起の秋と見られる。東京高校を8—0で郤けたことを以ていふのではないが制覇の夢を追ふ早慶の忘れてならぬものは東大であるほどに東大は眠りからさめた猛虎の如く立ち上がつて滿々たる鬪志を盛つてゐる。

東大の輝やかしい部史を護らんとして動員令が下り小川も遂に起ちＦＷ線は小川、川原、高橋、森、潮田ＨＢ線は森、大内、宮澤、ＦＢ線荻原、藤岡、ＧＫ高橋といふのが豫定されてゐるが野田、種田、宮本が控へて今シーズンは手不足など喞つ要はない。

前シーズン巧味よりも强味で進んだ徑路は巧味と强味をこのシーズンにおいて並行させることになつた。確實に球を處理するこの强味は遺憾なく示されよう。チヤンスメイカーが揃つてゴールゲツターが調和の跡を見せるかどうかは兎も角東大の蹶起は興味を喚起させることと强くこのシーズンのホープとして迎へられる。

立教、文理大其他

立大は初の大舞台に自力以上の活躍を記錄したが一旦動搖を來した結果は對崇實戰に遺憾なく示してしまつた。この一戰の跡を辿るならば第三位を保つことは愚か前シーズンの好戰好鬪を思ひ出草に語ることにもなりかねまい。

※右ページへつづく



早大蹴球チーム、向つて左から【後列】二人不明、吉田君、堀江君、加茂(兄)君、佐野君、立原君、西邑君、渡邊君【前列】笹野君、野澤君、關野君、鈴木君、加茂弟君、平松君、川本君



慶應蹴球チーム、向つて左から【後列】山田君、松元君、伊藤君、太田君、野村君津田君、增田君、辻君、宮川君、野邊田君、小島君、篠崎君【前列】服部君、堀江君、加藤君、石川君、乙骨君、駒崎君、播磨君、一宮君、猪俣君、渡邊君

※左ページからつづく

ＦＷ線はボールをキープするのが身上ともいへるだらうし守備線は意外に脆い如何なる彌縫を以て臨むか兎に角ＦＷ線から上田、中村、久保田、朝廣、井上、宮崎、飯島、駒崎、岡本、灰田、山口と並べば些して不足も感じないが縦に貫く太い線が見られない、先づ個々に忠實さと責任を課す必要がある。また一人の動きは即ち十一人の動きであることも一層強調したい。

文大は久し振りに張り切つた力のチームの完成が期待されたのであるが對崇實戰に徹すれば依然として松永のみが光り松永を缺いては朽ちた柱に幸くも支へる茅屋の如きものである。

長島、久下、松永、林、小川、木村、原崎、藤田、三好、阿部、中垣内と豫定される陣容は全日本選手權大會の砌一飛躍を試みたはずであるのに種々の不利な條件が絡んでゐるにしても遲々たる進歩どころか當時に比べて退轉のいたましさである。

速攻を期するにしてもボールは完全に殺されねばならぬはずであるのに極めて無雜作に、亂暴に扱はれてゐる、これを矯めることを急ぐ要がありはしないか。

☆

初舞台を踏む商大は沈默を守つてゐる。決河の勢を示して宿望を達しはしたが大掛、荒井、淺板、林田、村田、森田、小西、水島、枝村、鈴木、田島のイレヴンは技術よりも闘志、逡巡を排し果敢に、徒らに急ぐことなく悠々構へて試合を進める必要がありはしないか。先づ相手を呑んでかゝることは商大の生きる途であると思ふ。

【興味豊かな】
關西學生蹴球リーグ

津田弘

リーグ戰第一部は十月十七日南甲子園運動場において京都帝大對大阪外語の試合をトツプに花々しく展開されやうとしてゐる、今シーズンも京大、關學、關大の三大學によつて覇權は決定せられるものと豫想せられてゐる。

特に昨シーズン大魚を逸した關大は今春全日本蹴球選手權關西豫選會に見事宿敵關學、京大を軍門に降して滿々たる闘志を以つて奈良、神戸の兩合宿に猛練習を續けてゐる。

關西學院は自校仁川グラウンドに合宿、京都帝大は岡山に各校それぞれチームの統制に重點を置きチーム・ワークの研練に關西學生界のナンバーワンたらんと戰備をさをさおこたりないのである。關大の目覺しい擡頭によつて三つ巴の激戰が豫想される事實は果して何校が覇權を把握するのか？

今春全日本蹴球關西豫選に優勝した關大の制覇となるか、闘將三崎、川西の極東選手を擁しながら今一歩で京大に惜敗した昨シーズンの關學の復讐となるか、依然京大連續覇者としての貫祿を示すかどうか以下各校の内容を檢討して見る。

陣容異動した京大

我が國隨一の名ゴールキーパーとして昨シーズン京大優勝の根源を作つたことまでいはれた金澤を失ひ加へるにセンターハーフ福安の卒業は中心を失ひたるチームとして最も大きな痛手を受けたことであらうが六高より頑張りの強い安原をセンターハーフに迎へ佐々木北本の兩キーパーを新人に持つ京大は依然强陣を誇りバツクスの持地、栗原益々健在サイド・ハーフに必然奥田、瀬野、政家の中からそなへて防禦陣を布きフオアワードは昨シーズンと大差なく駿足長岡を左ウイングに麻野、辰野、山中、小出の順に配列された顔ぶれは相當他校の脅威であり、今秋も覇權を讓るまいとしてゐる。

痛手を受けた關學

京大のそれにも增して多くの優秀なるプレヤーを學窓より送り出した關西學院は各ラインを通じて布陣内容の如何によつては同大學の今後の死活ともならう。

フオアワード・ラインを一瞥するに鋭鋒梅園、田中を兩ウイングに配し田邊、野澤、山藤とセンタースリーを構成して第一線に備へ明星より入學した林或は朝田小林邊りも適時拔擢されるものとみられる三崎、清水、前田のハーフラインを一度に失つた關學として選手權に出場した三田、笠井復南の三新人で位置を堅めバツクスに最近非常な進境を見せた宮部、松井の配陣も必然であり昨シーズンより實力低下はいなめない事實であるとしても山藤主將が今夏以來苦心慘澹特にフオアワードの强化に努め昨年度に倍してその精神的氣概において玉座奪還を目標に精進しつつあり、ゴールキーパー西川も關大上吉川と共に關西の双璧としてその捕球に進歩の跡がうかがはれる。

これまれ今季關學の活躍は相當な波瀾を捲き起すだらうと想像せられる。

陣容不動の關大

關大に視野を向けるならばこの春關大が包藏したチームの實力をもつて今秋シーズンの試合運行に示すかどうか昨年と同じく不動の好條件にあり新人選手として石垣、長島弟をフオアワードに加へベタラン大橋健在最近强引なプレーを演ずる西山に大谷、武田を右ウイングに起用するものとみて、その攻撃力は關學京大のそれに對比していさゝかの遜色なくバツクに渡邊、土井のペアーとゴールを死守する上吉川を加へた一枚は確かに野望に燃える關大の制勝を思はしめるものがある。

しかし主將戸川の引率せるハーフラインは好調な塚井は別としてセンターハーフの重責にある長島兄春以來の猛練習に不調をかこつてゐる點は同大學の攻撃力に、いさゝかの暗影を投じてゐる。關大が今秋シーズン制覇途上にあるとして重厚なハーフラインを布き得なかつたならば全日本選手權大會において文理科大學に敗れた二の舞を演ぜぬとも限らぬ。

結局はどうか

斯く眺める時各校共にハーフラインに昨シーズンより實力の低下を來しその補足に苦心が存してゐる。

唯フオアワードラインは各校それぞれ相當强靱な攻撃力を持つが故にその内容の優劣を判別する事は至難ではなからうかと思はれる。

こゝにおいて、今夏以來合宿練習の第一階段的効力は京大の不參加は別として明治神宮關西豫選においてほぼその包藏力を推測出來得るが、先づ王座挽回を策しながら京大に敗れて二シーズンを見送つた不遇な關學が返り咲きして制勝するのでなからうか。

一方關大は近年飛躍の準備時代として單調な場面を繰り返してはゐたが、精神的統一とチーム・バランスになほ一層の研練が積まれたならば今シーズンは久しぶりに快戰を奏て〻優勝するのではなからうか。

今春關大に一對〇で惜敗して以來チームの充實に鋭意準備し學生リーグ戰に主力を集中する京大が進歩の過程を踏んだならば容易に關大、關學の足下にあまんずることなく必勝の氣概に終始するだらう。

特に明年のベルリン大會蹴球參加に今シーズン關西學生蹴球界は頓みに活氣付き各校共にその傳統的意氣と精神的訓練によつて實力以上の動きを展開することは想像され得る。

學生リーグ戰はこゝに蹴球技それ自體の興趣は勿論對校意識に燃える京大、關學、關大の對戰するビツグゲームは豪華版として南甲子園グラウンド一杯にくり擴げられて花々しく雌雄を決せられるのである。

その他のチーム

これ等の三大學に介在して第三位をねらふ神戸高商は宿將前川を神戸商大に送つたが小橋、岡田、岸井を主力に虎視眈々として大物に喰ひ入らんとしてゐる。

大阪外語は昨年よりもチームに大移動を來して、最下位にあまんじなければならない悲運に遭遇してゐる。

第二部の首位爭ひも一部のそれと同じく快戰を豫想せられる。

超弩級大谷、前川を有する神戸商大に優勝の呼び聲高く學生聯盟規約變更に依る二部轉落をなした大阪商大も永津、新見、棚橋ら多士濟々であり、覇權を目標に全勝を夢みてゐる。

以上二校に肉薄して打倒神戸商大の念强き大阪商大は洲本の合宿以來チームの整調に餘念なく精進しつゝあり、同志社、和歌山商高商の奮闘も相當な波瀾を捲き起すと思はれる。

S10-11-1

東西でカレツヂ蹴球の幕開く

關東學生蹴球リーグ戰

早・帝覇業に邁進し慶應不振

小　野　卓　爾

關東大學蹴球聯盟第一部リーグ戰はこれまで五試合を終へたに過ぎず未だ覇業への前哨、あたかも布石の機に在りながら、昨年度早大と並んで第一位を掌握した慶應が中押負けにうら淋しくも優勝圏内より逸し去り、復興した帝大は順風に滿帆を揚げ總身曙光を浴びて希望に輝いてゐる。永い間不遇を喞つて低迷してゐた文理大の進出もまた顯著なるものがある、既に豫想に波瀾の一石を投じてゐる。

早大、商大は共に早商戰の一戰を終へたのみで、早大は實力差において商大を卻け、それだけにさしたる特徴、缺陷乃至は矛盾を顯現せずに終つてをり、商大は技術的に粗笨であるが意氣と人の和に依る纏りはゲームの上にも現れて、いづれかに喰ひ下らうとする氣魄が漲つてゐる。その間にあり立敎は既に二敗して、商大との一戰に一部殘留の希望をつないでゐる。

帝大は順風滿帆の勢

帝大は近來にない整備したメンバーに惠まれ、精神的團結と相俟つて戰前より復興帝大の名が傳へられてゐたが、對立敎戰においてそれが半ば裏書され、對慶應戰において如實に具現された。この二試合によつて帝大は十一點を擧げてをり相當得點力の有るチームであることを思はせた。

帝大のF・Wは球の保持力がありC・F高橋を中心として動く多角的なパス、それに呼應する鋭い動きはゲームを多彩に生氣ある展開に導いてゐる。これにH・Bの救援も加はつて攻撃に厚味を加へ、その重壓に堪へ兼ねて立敎、慶應共に敗退して仕舞つた。然し帝大の守備陣を見るに未だ些かの脆弱味があり、爾後に不安を感じない譯には行かない。



慶帝蹴球試合、後半の慶應ゴール前の混亂

この二試合においてはF・Wの球保持力が強大であつたがこれは敵のバックとの對照的關係においてであり、もしこれが減殺され、守勢に傾いた時において案外の脆さを暴露するのではないかと思はれる。對慶應戰に與へた二點は慶應の定跡的な攻撃によるものに非ずして、帝大バックの動きの齟齬より與へたものであつた。全體的に見ても未だ脆弱さはあるが組織立てられたチーム・ワークといふ點において、むしろ現在早大の上を行く樣に思はれる。

帝大に敗れた立敎

立敎のメンバーの不足は遂にシーズンに入つても纏りを見せず、對帝大戰には六對零にて慘敗を喫して仕舞つた。立敎のF・Wには敵の逆を衝いてゆくといふ動きの企圖に乏しく、簡單に相手方バックの術中に陷つてゐた。好機を迎へるの希望は、これを極言すればH・C飯島より、L・W上田に渡つてしかも上田が切れ込んで持ち込むにある。守備の點においては飯島の大童の奮闘にまつのみで、構成された力は見出されなかつた。對文理大戰においてはやゝ持直した感があり前半においては部分的ではあるが相當の動きも見られたが矢張り圓滑な動きと、纏りは見られなかつた。

依然、實力を持つ早大

早大は最も充實した豐富なメンバーを有してゐるが永い間のメンバーの不動はやゝもすると新鮮味を缺き危機はむしろ常に自らの中に藏してゐる。春以來案外な凡退を繰返してゐる。對商大戰は結局實力の相違によつて勝ち、さしたる特徴も、缺陷も現さずに終つたとはいへ、依然個人技の優勢が相手方守備陣の劣勢を蹂躙したものであつて、前半商大の激しい動きと必死の潰しの前に味氣ない戰を進め、そこには整備された組織的な力、しかもそれが緩急の波に乘つて寄せては衝くといつた樣な意圖的な試合の運び方の巧味は見られなかつた。

商大の頑張りも無爲

商大は一部昇進の第一戰を早大に當り、全員必死の動きと果敢な潰し、相當程度の攻撃への積極性を以て前半は三對一と健闘したが後半に入つて實力差から來る奔命に疲れ果て、守備陣は退嬰的となり惜しくも潰滅して仕舞つた。個人技もさる事ながらその戰術的方面に於ても攻勢より守勢への轉換、並に守勢より攻撃への展開において著しく全體の動きに圓滑を缺いて、破綻と難澁を繰返した。

淋しき慶應の成績

慶應は右近、二宮の病氣缺場により攻撃力を低減さ



慶帝蹴球試合の後半、慶應ゴール前における帝大高橋君のヘツデイング

れ且また守備陣の缺陷も未解決のまゝ極めて不安なスタートを餘儀なくされた。

第一戰對文理大においては自信の喪失と焦躁の念は相互の信頼をも薄めたかの如く、增田、播磨、駒崎と呼應する期待された鋭い突撃も見られず、バックの制球力の不確實はこれらを孤立無援のものとして、文理大の壓倒に委せて辛うじて二對二の引分に逃げ込んだのは試合上手であり、むしろ幸運といへやう。

慶應は文理大F・Bの消化されざる漠然たる布陣の缺陷を衝いて增田より駒崎に寄せ、乃至は播磨より增田に縦に出して一擧に落さうと試みた樣であるが降雨のグラウンドにおいてはかへつてこれは文理大F・Bの好餌となつて仕舞つた。

對帝大戰においては對文理大戰に比較すれば動きもあり、企圖された攻撃も繰返されてゐたが、バックの脆弱て、一度崩れて再び立直る間の時間的距離から來る破綻は帝大の得點差を大にした。攻撃においては帝大必死の潰して克明な動きに拘まれ力を分解せられ端的なものとなつて仕舞つた。この二試合て擧げた四點の中、企圖的な展開より進んだ効果に依るものゝ一點もないのは昨シーズン攻撃線の強大を誇つた慶應にしては餘りに淋しい現在の姿である。

不運なりし文理大

文理大は對慶大戰において最後まで慶應を壓倒し十指に餘る得點機會に惠まれ乍らこれを徒費し遂に引分けて長蛇を逸して仕舞つた。F・Wの不均衡より來る惜らC・F松永の酷使はH・B原崎、木村の救援に依つて幾分輕減されはしたが、依然松永が左右に廻り込んで、作り出すチヤンスの極め手に缺けてゐる。餘りにも價値なき好機の濫費は切齒に堪へぬものがあつた。守備においてはH・Bの懸命な動きと身を挺しての潰しは慶應F・Wの聯絡を遮斷し、F・Bは居ながらにして球を拾つては長蹴に返してゐた。

對立敎戰においては對慶應戰において暴露されなかつたF・Bの守備範圍の狹少と布陣の缺陷、F・BとH・Bとの間の動きの齟齬より撃退に手間どり、且またそれより攻勢に移つてF・Wが孤立に陷るなどの破綻を來し案外凡戰した。

かくして來る十一月九日に行はれる早帝戰は本年度の覇業への關ケ原と思はれ興味ある熱戰が期待されてゐる。（十・廿二）

※ 右ページへつづく

S10-11-1

※ 左ページからつづく

關西學生蹴球リーグ戰

―覇者は關大？關學？京大は如何―

三　宅　二　郎

去る十月十七日加盟十四校參列のもとに開幕した昭和十年度關西カレツヂ蹴球リーグの第一部試合は京都帝大對大阪外語、關西大學對神戸高商の二試合をこゝに了した、今年度から從來の二部制度を廢して三部制度に改組した關係上一部は前記四校の他に關西學院の五校となつたのである。

關學は十月二十六日神戸高商と試合することになつてゐるので、この試合を見れば大體同大學の持つ力を察知し得ることが出來るがこの稿の締切りには間に合はぬ。

もちろん關學は神宮大會關西豫選において關大俱を降して意氣高いものがあるがリーグ戰においてはまた變つた空氣を釀成するものであるからその消長を今から豫言するをはばかる。

振はざる外語

前年の覇者京大は對大外語戰で十三對二の大差をもつて勝ち第一戰をものにした、この結果は大體豫想されてゐたことだつたので別に異とするにはあたらないが、外語の無氣力さを嘆ぜずにはゐられない。

前年より實力が低下せるものと思はれてゐた神高商が對關大戰に堂々たる整備を見せたに反し外語の餘りにも貧弱な内容は遺憾にたへない。

滿足なプレーが出來るものは極く僅かであの硬直した姿態では敵陣を深く割つて出る術を施し得べくもなく要は先づ基礎技術の修練を目下の急務とする。

關西學生蹴球史上に印する淺からぬ因緣を思へば緊褌一番の要があらう。

まだ本調子の出ぬ京大

京大は段違ひの差で外語に勝つには勝つたがこの試合に示した進行振りはチーム全體の緊密な連絡がなく眞にチグハグなギコチなきものだつた、今春チームの中軸を失つたのでこの缺を如何にして償ふか、この補強工作の出來、不出來こそ同チームの連覇を達成させるかどうかの課せられたる重大な問題だつた。

當日F・Wラインから小出君が病のため出られなかつたので昨年L・Wとして活躍した長岡君をC・Fに据ゑ長岡君の跡に市山君(五高)右翼に中森君(廣高)の兩新人を起用してゐた、この線は恐らく今後また改善されることであらうが長岡君の大童な活動は別として他の選手の動きは餘りにも寂しいものだつた。

京大が古めに十三點のうちその大半は長岡君が單獨的プレーによつて奪つたところのもので、山中君、廠野君の兩インナーの外語ゴール前における動きは、頗る頼りないものだつた、しかしL・Wの市山君はまだ荒削りではあるが、キツクもよくボヂツシヨンもよいから試合馴れすればかなり期待し得る選手とならう。

◇

市山君はコーナー・キツクでよいボールを蹴つてゐたが、無爲に終らせてゐたのはもつたいなかつた、この點一考する要があると思ふ、H・B線はR・Bの栗原君をC・Hに R・Hに新人政家君(松山)を配してゐたがF・W線不振の因は前線自らの缺陷にもよるがH・B線の掩護の不十分によることも見逃がすことが出來ない。

對外語戰は常に攻撃的な立場に置かれてゐたので、防禦方面にわたつての勢力を十分に察知し得なかつたが攻撃への加擔にはさしたる迫力を認め得なかつた、この線の調整如何はF・W線の實力向上より以上に京大の浮沈を決する鍵となると思ふ。

◇

L・B持地君はますます圓熟味を發揮してゐたがR・B古川君それにG・K佐々木君はゴールを守るにはまだ物足らぬところがある殊に佐々木君は飛び抜けて巧かつた、金澤君の跡を襲つた爲でもあらうが、餘りにも見劣りがした、金澤君が良過ぎたので佐々木君位が普通のプレヤーかも知れないが、佐々木君は元氣で捕球振りはよいが進退の期を逸し勝ちなことである。

外語の爲不覺な二點を奪はれたのは佐々木君一人にその罪を被せるのは酷かも知れないが、若し進出への判斷を間違つてゐなかつたならば或ひはどちらかの失點を喰ひ止め得たかも知れない、初陣のため少々固くなり過ぎたのか知れぬが、危險を思はせる場面を時折露出してゐたのはチーム全對の士氣に影響するから戒心を要する。

↙ 左下へつづく

↙ 右上からつづく

善戰した神戸高商

對關大戰に示した神高商の善戰は賞すべく率直なところ今年はF・W線から前川君その他の有力選手を失つたので、昨年より實力が低下してゐるものと見られてゐたのであつた。

しかるに前半風上の有利な立場に置かれてゐたことも大きく作用したのではあるが、この二點をつづけ樣に先取したので試合はどうなるものかと思はれた。

◇

關大はその後やつと二點を回復して前半二對二の同點とし得たので後半漸く本來の姿を取り戻し得たものの、前半の終りに神高商が若し一點でもリードしてゐたならば結果は或ひは神高商に幸したかも知れぬ、後半に入つて關大に4―2に離されたと思へば直ぐさま4―3に肉薄するなどその反撥力は確かに同校の持つ力を發揮したものである。

F・W線はR・Hとして攻守兩方面に重きをなした小橋君をR・Iに引き上げそれがため疑はれた攻撃の薄力は或る程度拭はれてゐた兩ウイングは走力ありセンターリングもよくマスターしてをりその上センター・スリーの氣合もしつくりとしてゐるから對外語戰に示した京大の前線よりは纒りがよくまた迫力のあるものだつた。

バツクはC・Hの岡田君依然健在で攻撃加擔には見るべきものあつたが全體的に見てフルバツクの岸井君が出場しなかつたためもあらうが防禦には案外脆いところがあつた、ボールをもつてゐる相手を完全に潰して終ふ心掛けが必要である。

よき教訓を得た關大

今年こそはと覇氣に燃ゆる關大は對神高商戰のスタートにつまづいて全く茫然たる態だつた、實力が結局ものを言つて危く敗北から免れ得たが、試合最初に演じた蹉跌は今後のよき教訓となつたことと思ふ。

氣づかはれた前線のL・W長島弟もスランプから漸く脱したやうであるしまたR・Wの武田君はまだ走力を十分に利用し得ない嫌はあるが、對神高商には大體彼としての力をよく出してゐた、たゞ當り屋の西山君がこの日調子を崩してゐたことでために石垣君とのコンビに故障を來たし勝ちであつた。

大橋君も最初ボールのコントロールに苦んでゐたが徐々に整調し、大童な活躍で貴重な得點をかせぎ彼の本領を發揮してゐたのはさすがである。神高商戰は不用意な得點を許したバツクの責任はまぬがれないが、リーグ中一番まとまつた力をもつてゐると思ふ。

まだ戰はぬ關學は？

關西學院はまだ一回も試合をしてゐないのでこゝではその批評を差控へることにするが、しかし關大とゝもに有力な優勝候補校である、京大は今のところ前記兩大學にやゝ落ちるが、今後陣容の整備如何によつてその杞憂も一掃し得べく、こゝ二、三年來見せてゐる試合巧者は不利な豫想も解消することであらうから、一概に京大の劣勢を云々するわけにも行かない、外語はさに角として神高商は京大、關學とどんな試合を演ずるか、これもまた興味がもたれる。（十月二十三日記）

S10－11－1

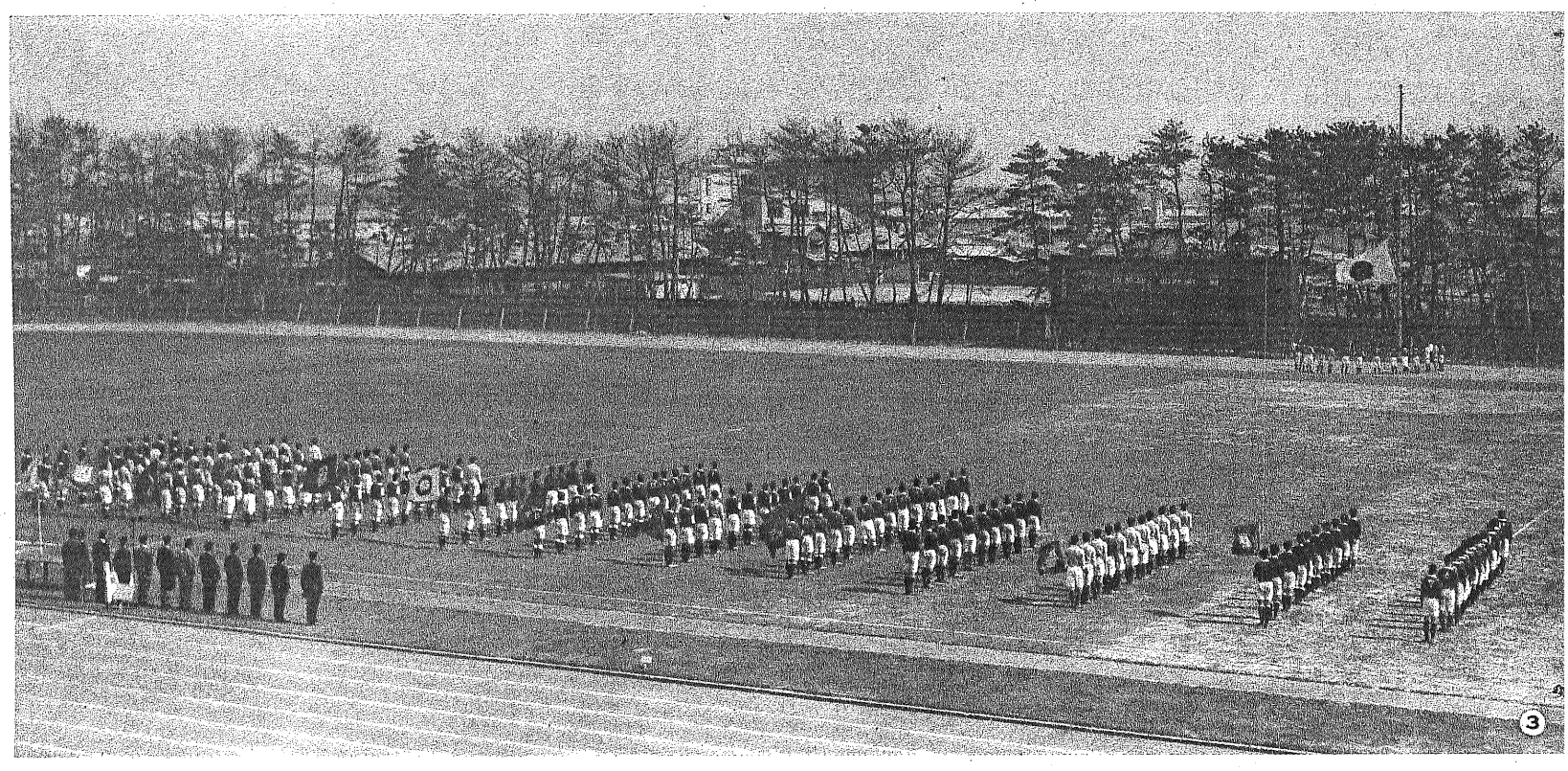
東西學生蹴球



東京學生蹴球　東大對慶應戰は十月十九日神宮競技場で擧行、3－1 2－1で東大が勝つた、寫眞左は東大コーナーキックで慶應ゴールを攻めたが慶應GKノックして危機を脫す（下）は東大高橋君の強襲を慶應GKセーブする瞬間



關西學生蹴球　關西學生蹴球リーグ戰の開會式は十月十七日午後甲子園南運動場で擧行、直ちに一部の京大對大外語の試合に入つたが豫想通り京大の一方的ゲームとなり13－2で京大が勝つた、今シーズンの參加校は十四校である、寫眞右はその入場式



關大5—3神高商　十月十九日甲子園南運動場で擧行、前半2　2のタイであつたが後半關大3－1で二點を擧げ勝つ寫眞下は前半神高商左から關大ゴールに迫つたが關大GKこれをセーブして蹴り返すところ



神高商の健闘　前半神高商風上を利してしばしば關大の心臟を寒からしめた、寫眞は神高商のチャージボールを關大GKジヤンプして後方へ叩き出しCKにせんとするところ



S 10-11-15

東西で擧行の學生蹴球

關東學生蹴球リーグ戰

帝大と文理の引分けで覇權は三巴
帝大と立教は二位轉落を賭けて戰ふ

小野卓爾

◇帝大文理大の試合は引分◇

既に慶應が優勝圈外に去つて、いよいよ早大と覇を爭ふ前階段となつた帝大對文理大戰は十月二十八日石神井球場で行はれたが結局二對二の引分に終つて、覇業を纏つて早、帝、文の三巴戰が殘された。

前日の豪雨によつて球場は可成の濕潤ではあつたが甚だしくコンデイシヨンの惡いものではなかつた。但し北の風七米六の疾風は相當ゲームに影響するところがあつたらう。

【前半文理優勢】

前半風上に陣した文理大は長球を風に乘せてキツクアンドラツシユに出で、持前の鋭いダツシユと走力を活用し、ルーズキツクをも拾つて生かし、且風禍による帝大の球操作の難澁を狙つて潰しに出で、試合を自己の支配下に置いた。一方風下に立つた帝大はショートパスによつて球を低くジリジリと寄せて行く方法を取つたが、風に流るゝ球の操作難は味方相互の動きに協和の時を失はせ、また文理大の激しい潰しにあつて意の如く試合を運ぶことが出來なかつた。

十二分文理大はスローインよりL・W長島、C・F松永に渡り、松永右寄りにドリブル・シユートにあつけなく一點を擧げ、十八分帝大はP・Kを得たが、G・Kの好守するところとなり、この危機を脫してからは文理大學は更に奔馬の如き旺盛な氣魄をそへ四十四分L・H木村のパスをR・W小川へデイングし帝大G・Kセーブしたが風に流され外れるをL・I久下へデイングに二點をリードして前半を終つた。

【後半に帝大挽回】

後半文理大の懸命なる死守に對し、帝大は前半と同一の調子によつて戰を進め十三分R・I川原のセンタリングを髣山ブツシユして一點を返し、三十二分C・F高橋右寄りに廻り込んでのパスを位置を換へてダツシユしたR・I川原シユートして二對二の同點に漕ぎつけたが、帝大の取つた試合の運び方は、戰法としては勿論首肯するに異議は無いが、文理大に比し精神力の不足と、風とかてて加へて自らの焦躁に依る球操作の亂れの結果却つて攻撃に時間的徒費を來して追撃リードするには至らなかつた。

【兩軍の戰法評】

文理大の取つた方法は自らを知る賢明な策である、弱點を或程度まで補强し、持味を活用し、全ての力を出し盡して闘つたといふべく、帝大F・Wのシユート五に對し文理大の放つたシユートは八てあり決定力に優つてゐたならば文理大の勝利に歸してゐたもので、文理大はまたまた長蛇を逸して仕舞つた。

帝大は頭初より對慶應戰に見た樣な熾烈な闘志と果敢な積極性に乏しく、精神力の萎微はゲームを凡調に進め、後半第二點目の得點に見た樣な變化ある動きは少かつた。またパスを受ける場合においても相手と接觸し激しく競り合ひつゝ球を受けて、展開に移り、或は突切るといふ樣な强靱な動きに乏しく、隨つてこれなくして球を廻さんがためには勢ひ無駄なパスを用ひ、乃至は今一步の好機も逸へられずに潰えるの結果となつてゐた。果敢な積極性の不足は味方同士の動きに諒解を缺き、前半第一點目の失點においてはお互に讓り合ふた結果松永を潰し得ず得點されたものであつた。

文理大の實力の全てを見せて闘つたのに比し、帝大は未だ幾分の餘裕を殘してをつた樣に考へられるが、この一戰においては正に優劣を論じ難く、この解決を早帝、早文戰に聞ふことになり、興味は更に深くなつた。

◇早大と立教、慶應と商大戰ふ◇

十月二十七日の早大對立大、慶應對商大の試合は七十粍といふ未曾有の豪雨のため、グラウンドは一面の湖の如く到底試合遂行に不適當と認められ、各試合當事校の希望を押切り協會は延期を申渡した。晴雨に不拘試合を行ふを原則とするもかかる荒天の場合に試合を行ふことは本來の意義を沒却するものである。客觀的に見ても協會のとつた策は妥當であつた。

【慶應商大を破る】

慶應對商大戰は十月二十八日商大グラウンドで行はれ、五對一にて慶應の勝に歸した。慶應は病氣缺場中の右近、二宮のカムバツクに生氣を添へ、商大は溢るる樣な覇氣を以て對戰したが、對早大戰におけると同樣の實力程度で、結局實力の然らしむるところ、前半の健闘にも拘らず結局潰滅したといはれる。

商大の懸命な動きによつて、脆弱な慶應の後陣を亂す事は出來やうも、個人技術の差より來る商大の奔命の疲れは後半に入つて潰滅を餘儀なくされ、全體の動きに圓滑を缺き餘りに脆くも得點を與へる結果となる

【早大立教を大破】

早大對立教戰は十月三十一日日吉グラウンドにおいて行はれたが、立教は上田を除いたF・Wの立直しに苦慮する狀態にあり、加ふるに主將飯島の負傷缺場は益々チームの力を弱め十三對零の大敗を喫した。

早大は對商大戰においてもまたこの對立教戰においても實力の相違は易々と試合を運んだが、對商大戰においては徹頭徹尾個人技の優勢が得點を重ねてゐたが、對立大戰においても實力の相違により順當に勝を制したものではあるが、その得點に到る徑路は前半においては組織的な力によつたものであり、後半において再び個人技の力によりて得點したとはいへ、早大は幾分の進境を示したことになる。

◇立教と商大の名譽の一戰◇

立教對商大戰は十一月七日石神井球場において行はれたが、現在までの成績は共に全敗てあり、商大は後に對帝、文の二試合を殘し、立教は對慶應戰を殘すのみとなり、共に殘る試合に勝利を豫期することは希望薄の狀態にあり一部に殘留するか二部に轉落するかの運命をこの一戰に賭けて雙方極度の緊重振りを示した。

【兩軍接戰する】

前半開始と同時に商大は兩翼に球を廻してオープンに攻めたて二分半L・I荒井よりL・W大掛に渡り大掛ドリブルに出てセンタリングを立教バツクへデイングに返したが、商大C・H小西取つてL・Iにパスすればし・I流しL・Wシユートして一點を先取した。立教は商大F・Bの前進氣味の布陣とH・Bの後退の不適時を衝いてゴールの前方へチヤーヂボールを上げ、F・Wは懸命に潰しに出た。

非常に端的な方法ではあるが之が効を奏し、十分飯島の大きなロビングを商大G・Kを取つた瞬間すかさずC・F灰田、R・W井上同時にチヤーヂしG・K倒れて球を離すをブツシユして一點を返し、續く二十五分の得點もまたR・I久保田のチヤーヂボールをG・K田島一寸落したところをチヤーヂした中村が拾つてシユートしたものてあり、かくて立教は逆に一點をリードした。

商大F・Wは折角の好機に惠まれながら決定力鈍く、シユートレンヂにありながら粗雜な、或は不必要なパスによつて好機を逸し前半既にリードせねばならぬ試合を逆にリードされて仕舞つた。

【後半て商大振ふ】

後半に入つて立教の陣容亂れ前半に示した意圖も影をひそめ、全く聯絡を缺き、商大は漸く好調になり、前半のバツクの位置的缺陷は立教の疲勞より來る緩慢な動きとオフサイドにかゝり後退を餘儀なくさせ、又積極的に攻撃に加擔する事を容易にした。商大は三分半F・B枝村の前送球はゴール左前に落ちG・K躊躇せる時L・W取つてシユート、同點とし、八分半R・I林田よりL・W大掛に渡り、大掛F・Bを外してドリブルシユート、一點をリードし、更にまた三十八分R・W村井のシユートはゴールに當り返るをL・I荒井シユート成つて商大は四對二と離した。

立教は全員の攻撃に參加してフアイナルラリーを試み四十三分L・I朝廣のクロスパスを商大バツク轉じて返したがC・F久保田取りてシユート、四對三と漕ぎつけたが、遂にタイムアツプとなりて立教の敗退するところとなつた。試合は相當エキサイトし、得點の接近せる點においては興味あつたが、試合そのものは內容のない味のないものてあつた。



立教、東京商大の蹴球試合て前半商大が最初の一點を擧げたところ

S10－11－15

關西學生蹴球リーグ戰

關學、神高商戰、關大、大外語戰から
關學、關大の力量を檢討する

高田　正夫

例年のダーク・ホース神戸高商は今春、前川以下かなり多くの中心選手を送り出したので、本年度の陣容整備に關しては、少からず衆目の注意を呼び起してゐたが、既に對關大及び對關學大のリーグ戰における重要な二戰を經た今日もなほ依然として、ポヂション決定に大いに困難を感じ、且つライン・アップ編成には心を碎いてゐるらしい。

陣容編成に苦む　神戸高商

從つてその結果未だ確固たる信念を持つた布陣を以つて、戰に臨むには至つてゐないのではないだらうか。

前記二戰よりみてもかなりそのライン・アップに變更を來してゐる。この變更は小橋、岡田の兩選手を如何に活躍さすかといふ點より出發してゐる。二人共ハーフ或はバックメンとしては大いに活躍を期待されるプレヤーではあるが、このチームのフオワードメンとして起用するには首肯し難い點が多々ある。といつてフオワードにはポイント・ゲツターがゐない。この邊りに陣容を編成するに當つての焦慮の因が潛んでゐる。

その結果、本年度のリーグ覇權獲得に虎視眈々たる關西大學との一戰には、小橋をR・Iとした積極的陣容に出てながら、彼を徹底的に攻撃の人として使ひ得ずに終つた。

また關大の攻撃力よりは一段劣るのではあるまいかと疑はれてゐる對關學大戰には、前回の小橋前衞起用失敗の結果、彼を元來のポヂションR・Hに戻し、防禦に重心を置いた消極的陣容で戰ふといふ退嬰的戰法を採つた。そのため防禦は强固になり得ても、攻撃に關する限りにおいては誠に手薄を感ぜざるを得ない。殊に急激に逆襲に轉ずる場合など、みすみす得點の好機を失するやうな、ポイント・ゲツターの不足を痛感せざるを得なかつた。

關學大のギゴチなさ

これに對した關學大は、本年度リーグ戰最初の試合であるので自重し過ぎてか、或ひは試合前々日までの合宿練習の疲勞が十分回復してゐなかつたのかいづれにしても、かなりぎごちない、見苦しい試合振りであつた。

然し老巧をもつて聞える關學大チームにして、リーグ戰最初の試合であるための不振とは受取れない。更に合宿練習による疲勞未回復は辯解の辭としては通用しない。何となればリーグ戰のスケヂユールは既に數旬以前より決定してゐるものであり、合宿練習はそのスケヂユールを中心としたものであるから。

期待される關學の奮起

多數の粒揃ひのプレヤーを擁してゐる關學大にも前記の神戸高商同樣ライン・アツプ編成には大いに惱まされてゐるらしい。それは明治神宮大會關西豫選の對關大戰に異常な活躍をして本年度の働きを期待されてゐた攻撃の中心C・F野澤が此試合の直前より突然一時試合に參加出來なくなつた事が原因の一であり、その補充に當つて殆んど同程度の技倆を有する選手の中よりの、何れを摘出するかに困難を感じてゐるのがその二であらう。

しかし從來の關學大チームには、チームの重要人員を失つた時にこれに刺激されて返つてチーム全體の結束を强固にし反撥して行く氣概が全員の間に張つてゐた。これが同チームをして今日の大チームたらしめた原因でもあり、またこのチームの風格として尊重され賞揚されて來た點でもあつた。

此の點に思を至すものは同チームの猛烈な反撥を豫期してゐたのであつたが期待は案外むくいられずに失望に終つた。

對神高商戰には關學大は不振

對神戸高商戰に示した同チームの戰ひ振りからは、同チームが從來誇つてゐた試合運用の妙味といふものは全く影をひそめ、別個のチームに接するかの感を抱かせるものがあつた。之は同チームがメンバーの大半を、始んど大試合の經驗を經てゐない所謂澁味の出てゐない一本調子の選手が占めてゐるためでもあり、同時にフオワードに唯一人のポイント・ゲツターもゐなくなつた故でもあらう。

センター・スリーにはさして得點を望み得ない狀態にある時兩アウト・サイダーはもつとポイントに粘着力を持つてよい。その好適例は彼等の先人が既に十分示してくれてゐるはずだ。この邊りから關學大再起の原動力が湧き起つて來るのではないだらうか。

關學大この日の苦戰を深めた更に大なる原因にハーフの進退の不適正を數へ得やう。如何なる蹴球文獻にも「ハーフは味方の攻撃に當つてはフオワードを援助せなければならぬ」といふ條件が記載されてゐるだらう。

味方の攻撃に當つて關學大ハーフの採つた態度は果してこのハーフとしての實行しなければならぬ不可缺の條件を誠實に守り通したものであるだらうか。一人フオワードより轉身したR・H田邊がかへつてハーフらしい健實な動きをしてゐたやうな淋しい狀態であつた。

努力の要ある關學大

概括的にいつて關學大の多くのプレヤーは、相手方プレヤーの存在を全然無視した、ただ單に見た目に美しい細かいフツトワークとか、紙上に畫いたショートパスとかにあまりにもこらはれ過ぎてゐるのではないか。

それらは彼らの先輩がその良材の上に磨きをかけて、熟慮努力の末初めて達し得られた境地であつて、今日の關學大プレヤーに必要なものは、そんな大成後初めてにじみ出て來る滋味あふれる樣なタクテイツクスよりも、それ以前にもつと根幹的なものに對する完全な理解把握ではなからうか。

とまれこの一戰は、神戸高商が關大に非常な敎訓を與へたと同樣に、關學大にも反省を促す處が少くはなかつた。

對外語戰から見た　關西大學の力

對神戸高商戰を通じて、關學大本年度活躍の豫測を立てることはやや困難なものであつたと同時に對大阪外語戰を通じて關大の陣容を檢討することも難しい。たゞ小地域内で起つた不連續的な僅かな動きに、各プレヤーの老巧味を散見するのみで、未だチーム全體の上にまとまつた迫力は現れてはをらない。また確實なポイント・ゲツターの少いこともこのチームの苦慮の種だらう。

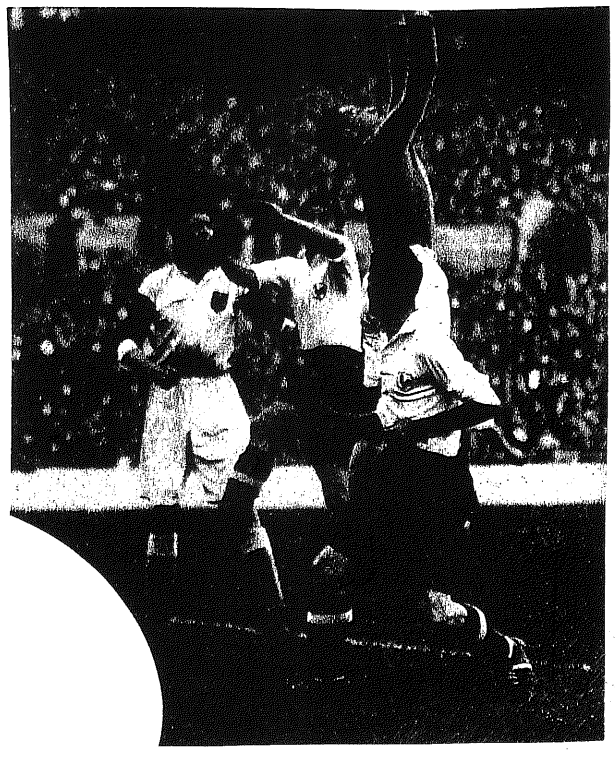
得たポイントの跡を巡つてみてもこの事柄は見逃せぬ事實である。ただ大橋一人では物足らない。L・I西山に强引な得點に向つての一步前進が望ましいが、彼のプレーの系統からは或は困難であるかも知れない。そうなれば新人に課せられた使命は重大である。

關大の弱い點

元來關大のウキーク・ポイントは試合當日の氣分にゲームの運行を支配され勝ちであるといふ事であつた。然しこの弱味も漸次匡正されつつあり、殊に今年は一戰一戰と愼重な態度に出てゐる。

關西リーグ全體を通じてのハーフ難はこのチームにも同樣な事がいへやう。殊にそのポヂションの振り分けに多大の考慮を促すものがある。

關大については十分筆を盡してゐないのであるが豫定の枚數が超過してゐるので筆を擱く。



S10－11－15

イギリス蹴球協會のトテナム・ホツトスパー對バーンレーの試合は十月十二日ホワイト・ハート・レーンのグラウンドで行はれた、寫眞はバーンレーのゴール・キーパー、スコツト君の見事なハイ・セーヴイング

Scott, Burnley goalie, making a magnificent save, in the soccer game between the Tottenham Hotspurs and Burnley at White Hart Lane.

第8回 明治神宮体育大会

S10－11－20

幸運に恵まれ京城蹴球團制覇

―スタートに失敗して慶應勝利を逸す―

山　田　午　郎



地　方　對　抗　蹴　球　試　合　の　光　景

幸運の京城蹴球團

この春行はれた全日本選手權大會の戰績からして關東代表か朝鮮代表かと豫想された如く慶應ＢＲＢと京城蹴球團は危い試合もあるにはあつたが決勝戰において覇權をめぐつて最終の一戰を試みた。

この結果は京城蹴球團が幸運のポイントをかき集めて遂に神宮奉納銅板額面に不朽の名を刻んでしまつた。本大會九試合の中、この位幸運の試合といふものはなかつた。

京城蹴球團は體格に恵まれ體力と走力に秀で、技術的にはキツキングとコントロールが優れてゐたが、戰術的にまたこの他の技術からして必ずしも一頭地を拔くほど優秀なチームであつたとは思はれない。

第一回戰からの戰績を繰つて見るに對中國臥虎とは後半において中國の潰えるに乘じて點差を6－2として勝つには勝つたがボールをキープすることは斷然優れてゐても攻撃圏内に入つてからのボールの處理はゴールに向つて無意味なものが多く戰術的には認める何ものもないことを暴露してゐた。

中國臥虎倶が中國傳統の誇りである確實なキツキングを以てバツクメンがフイードに考慮を拂ひ福田、藤井、豊島のＦ・Ｗ線右三人を活用することにしてゐたならば京城は更にゴールを許すことになつたであらう。

對函館、對關學、對慶應ＢＲＢと續いて行はれた各試合を通じて見るにバツクメンから大きくフイードされてＦ・Ｗ線に入ると横一文字に切るパスで左し右し若干時間を要する拙劣な攻法が採用される。

京城の缺點と長所

優れたフツトワークは容易にタツクルを許さないが守備線を整へさせる時間はある。シユーテング・レンヂは十代表中最も廣範圏といふことは出來たが決定力は乏しいものであつた。四試合で相手に八十五本のゴールキツクを行はしめてゐるがこの中にはパス失も含められてゐるにしてもシユーテングの不確實を語るに足るものがあらう、ＦＷ線の單的なパスワークとシユーテングの確實性が增さぬ限りフアウル・プレイの矯正と共に優勝しても些程誇るには足らぬ。相手方に僅か四試合を以て四十本のフリーキツクを與へたがこの中オフサイドによるものは稀でその多くはトリツピング、プツシユング、不當なるチヤージに依るか醜いホールデングであつた。レフエリーの見落し、見逃しがなかつたならば優に六十を超えたであらう。技術的向上を阻害して何の益もないこの種の不當なプレイは速かに矯正することに專念せねばならぬ。

對中國臥虎倶との一戰に於てＬＦ鄭龍洙君の相手を愚弄するが如き態度も改めねばならぬ一つである。對北海道函館との一戰の如き0－1の不利から後半において恵まれたポイントを拾つて1－1から辛くも一點を加へて勝つた第二回戰と決勝戰は飽くまで幸運であつたといふのを否定することは出來まい。

出足を誤つた慶應

慶應ＢＲＢは不戰一勝で九州熊本倶と第二回戰に於て對戰し准決勝では東北蜂章倶を相手にしたが双方共に試合經驗乏しく出足の鈍いのにつけ込んで9－0　6－0で攻撃力の威力を示す所があつた。慶應ＢＲＢとしては決して上乘の出來榮えではなかつたが、鋭角的の攻法で攻め立てて成功してゐた。然しこれ等の試合振りからして優勝を期待された決勝戰はスタートにおいて失敗した。

朝鮮ＲＦのロング・キツクは風に乘つて左前に深く出てＲＦ岩崎君がモーションを起し乍らボールの風に乘り工合を見てゴールアウトと判定したがノウプレイに出たのであつた。所が京城の蔡、崔の兩君が執拗に追走して先づ蔡君がバウンドするボールを殺した。岩崎君が相手の動きを見ず單に球速と球道のみによつて判斷したとすればこれは大きた失策であつた。京城は思はぬ拾ひ物としたのである。

不運のスタートをした慶應ＢＲＢは重い一點を背負つて向ひ風に喘ぎ後半に入つてＲＨ松丸君のプレイは岩崎君の救援なく反則と審判されＰＫを許すことになつて萬事休矣である。

ＦＷ線が日ごろの圓滑さを見せずマークを外さず佇立するに至つては二點は僞ふに容易ならぬものであるからである、倒さねば止まぬ氣魄も見せず、執拗さも缺いては七分三分の不利な試合に墜ちるも當然で關東代表としての重責を果たすために刀折れ彈丸つきるまで戰ふことをせぬやうに見受けられたのが返す返すも遺憾であつた。

闘志の不足で敗る

技術の巧拙ではなく、病後の二宮、右近兩君を起用したことから醸される體力的の差違からではたく、勝敗は要するに闘志の相違によつて決定されたものであつた。この試合において技術的にいふならばキツキングにおいて洗練さの乏しいことであつたらう。

關東は春の全日本においてもまたこの大會においてもより強力なるチームを擁しながら代表がームとしてこれを送り得ないことに對しより關心を持つ必要チあらう。

函館蹴球團の奮闘

決勝戰の登場に機會を逸して悔を殘したものは北海道函館蹴球團であつた。滿々たる闘志の下、勁敵京城蹴球團に眞向から挑んで案外穴のあるその守備陣をよく衝いて堂々一點を先取し大勢を決定すべきＰＫの絶對的得點機會を捉へてキヴカーの人選を誤つて落してしまつた。

死力を盡したバツクメンの奮闘も報いられず不愉快な謎の一點を許してから結局2－1で金的を射損ねた。

善闘好戰の隨一は北海道代表であつたといふに憚らない。名取君が傷ついてゐなかつたならば攻守相俟つて精彩を放つたらうと惜しまれる。

其の他の感想

關學は兩側の制球と走力劣つてゐた爲めに得點機會を逸し後半二點を與へたがＧＫ西川君によつてスコアを縮小したのは否めない。

初登場の鐵蹴球團は元氣一杯の試合を見せた。豫期以上の正體を捉へて一般を滿足させたが力の按配、パスワークなど今後に俟つものがある。

蜂章倶は技術及び戰術的に見るべきものあるが出足が鈍く攻守共より厚みを加へる事を必要としよう。この點は四高倶、熊本倶、名古屋高商にも言へる事であり臥虎倶はその優れたキツキングを如何にして活用するかを考慮したならより強力なるものとたるのではたからうか。



地　方　對　抗　蹴　球　試　合　の　光　景

S10－11－20

明治神宮競技大会

蹴　球　競　技

全日本地方對抗選手權を蹴球競技として奉納した。會するものは北は北海道（函館蹴球團）南は全日本的の催しに初めて登場の台灣鐵蹴球團をはじめこの春初舞台を踏んで今日本選手權を獲得した朝鮮京城蹴球團、關東慶應ＢＲＢ、東北蜂窩倶樂部、北陸四高倶樂部、東海名古屋高商、關西の關西學院大學、中國國虎倶樂部、九州熊本倶樂部の十代表を迎へて賑々しく行はれた。

會期の都合で會場は神宮競技場と戸山學校球場を用ひて三十日から五日間に亘つて行はれ、戰前の豫想の如く關東、朝鮮兩代表が決勝において相見えた末、顯權は遂に遠來の朝鮮代表の頭上に輝と輝いた。

優勝した朝鮮京城蹴球團

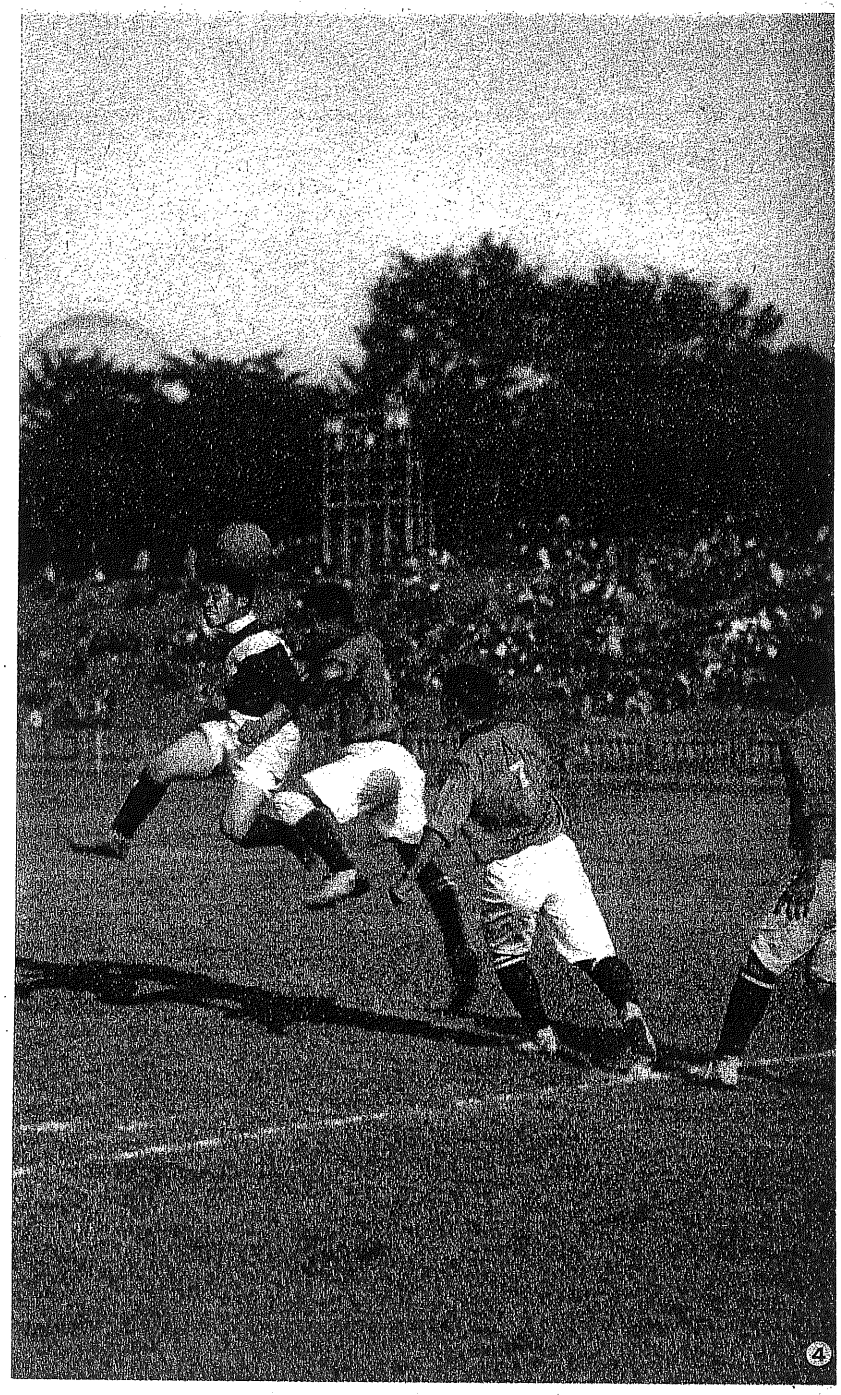


東北對東海の試合における東北三度目のゴール



關東對九州の試合における關東チームの九州方ゴール前における奮戰





朝鮮對中國の試合における中國ゴール前の攻防

S10-12-1

THE ASAHI SPORTS

アサヒ・スポーツ

The Japanese Twice-a-Month
Illustrated Record of Athletics

全日本庭球選手權大會記

蹴球とラグビー戰酣═オリンピック關係の諸報道



表紙寫眞　關學對京大蹴球戰の後半、關學陣でヘッディングに揉み合ふ兩軍（十一月二十四日甲子園南運動場）

═目　次═

全日本庭球選手權大會（佐藤儀太郎）……（4、5）
關東學生蹴球リーグ戰（山田午郎）…（6）
關西學生蹴球リーグ戰（清水金二郎、楠安盛平）……（9）
東京七大學ラグビー戰……（10、11、14）
◇早立戰（橋本生）◇明慶戰（青山生）◇早帝戰（矢村生）◇商立戰（加納生）◇早慶戰（香山生）
關西のラグビー戰……（15、28）
◇顏觸と試合つた京大、同志社（柯生）
◇明治、同志社戰（小幡生）
オリンピック型滑詮衡競技（永井康三）……（18）
オリンピック・フオア代表決定競漕（中川英造）……（19）
冬季オリンピックで日本はどこまで戰ふ……（20）
◇スピード・スケート（木谷辰巳）◇
東京五大學米式蹴球戰（金子忠雄）……（22）
關東大學米式蹴球戰（鈴木俊平）……（23）
關東學生ホツケー戰（江川伊小駒）…（25）
ドイツとブルガリア蹴球戰（酒井將）……（26、27）
運動界の先人に古事を聽く……（29）
マンガ（堤寒三、麻生豐）

スポーツカレンダー
十二月═添付

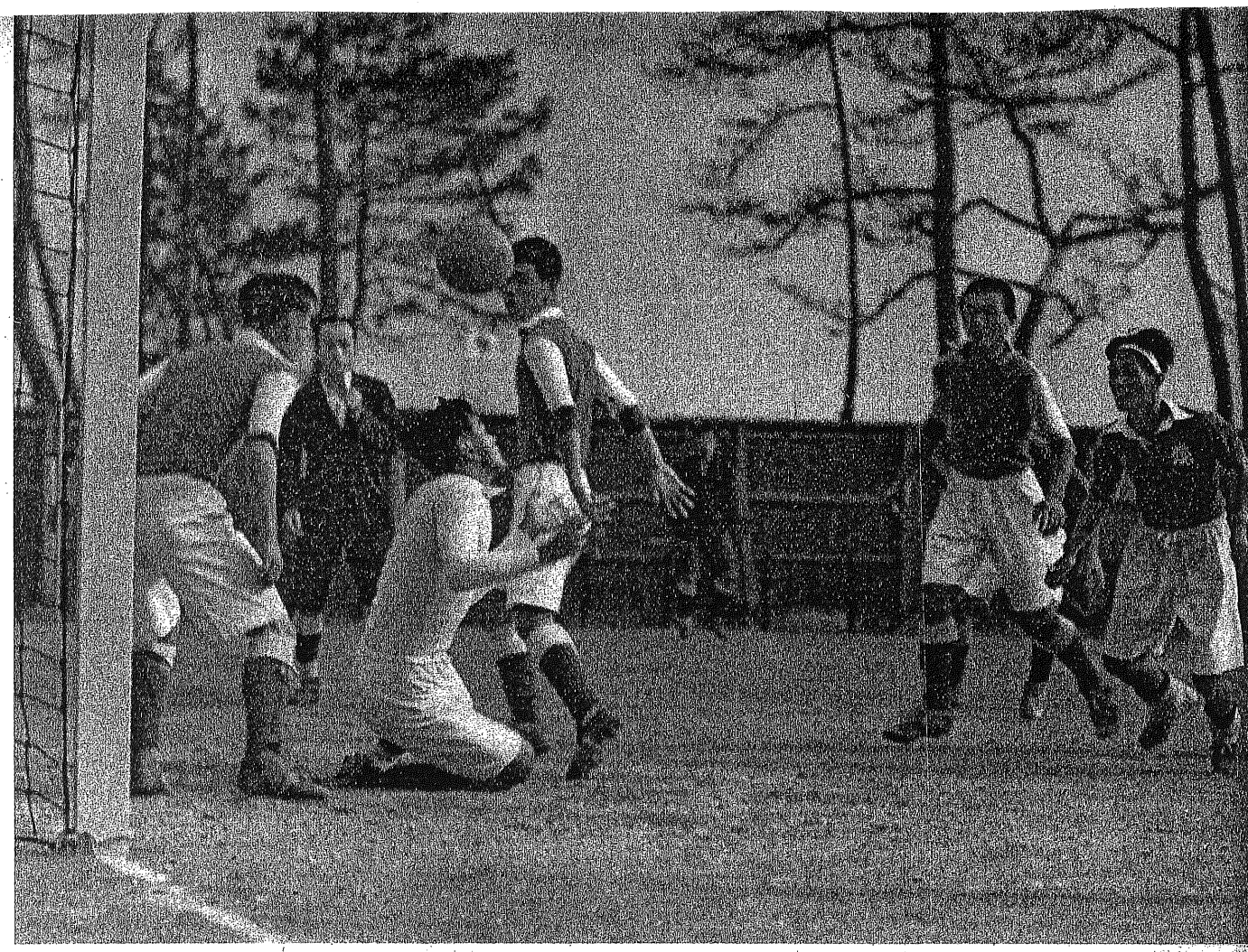
12月1日

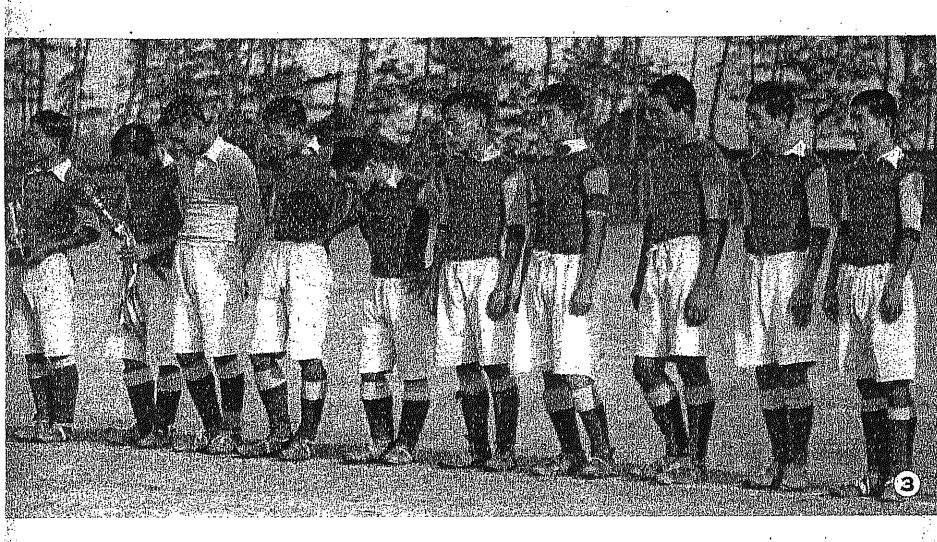
朝日新聞社發行

S10-12-1

東西學生 蹴球試合

東は早大、西は關學優勝





關西學生蹴球リーグに優勝した關西學院大學チーム

關學、京大試合　優勝か第三位かの興味ある決定試合となつた關學對京大の試合は十一月二十四日甲子園で擧行、四對零で關學が勝ち、關大は第二位、京大第三位となつた、寫眞(上)は後半十四分京大は關學左ＣＫで市山君好球を放ち關學の危機を思はせたがよく逃ぐ、脆くは關學ＧＫ西川君、右端は京大ＣＦ長岡君(下)は關學一氣に京大に攻め寄せＦＷラッシュして京大ゴールに押せば京大ＧＫ佐々木セーブせんと飛び出したので、ＦＢ持地君ゴールをカヴアーするところ



關學、關大試合　十一月十七日甲子園で擧行、前半關大一點をリードしたが後半に關學も一點入れ引分けとなる、寫眞は後半四十ヤード邊でフリーキックをした關學のボールが關大ゴール前の混亂をぬけて同點となる直前



京大、神高商試合　十一月十七日甲子園で擧行、神高商の健闘及ばず8—2で敗れた、寫眞は後半における京大のゴールイン



S10－12－1



⑥

㊤ 慶應、立教試合　十一月十五日神宮で擧行、前半は2―1で慶應一點のリードであつたが後半８點を入れ10―１で大勝した、寫眞は慶應のゴールイン



⑦

㊤ 東大、東商大試合　十一月十五日神宮で擧行、前半2―1、後半3―1のスコアで結局5―2で東大が勝つた、寫眞は商大のゴール前



⑧

㊤ 早大、文理大試合　十一月十六日神宮で擧行、結局早大が5(4―1、1―2)3で勝ち關東リーグにおける早大の優勝は確定した、寫眞は後半における兩軍の健闘

㊦ 早大、東大試合　十一月九日神宮で擧行、東大後半の執拗な攻撃も及ばず結局4(2―0、2―2)2で早大が勝つた、寫眞は早大ＯＦ野澤君のパスを平松君逸しこれを川本君(ポストの影)がうける直前



⑨

Intercollegiate soccer championship games of Kanto and Kansai, played at Meiji Shrine and Koshien, won in the East by Waseda and in the West by Kwansei Gakuin. ❶ Gakuin makes a pinch kick before her goal in the last half of the final game against Kyoto Imperial, November 24. ❷ Gakuin forwards rush the Imperial goal in the second half of the same game. ❸ Kwansei Gakuin. ❹ Gakuin ties the score with a goal from a free kick in the last half of her 1-to-1 game against Kansai U Nov. 17. ❺ Kyoto Imperial defeats Kobe Higher Commercial 8 to 2 on November 17. ❻ Keio beats Rikkyo 10 to 1 on November 15. ❼ Tokyo Imperial wins over Tokyo Commercial U 5 to 2 on November 15. ❽ Mixing it up in the last half of the 5-to-3 Waseda-Bunrika game November 16. ❾ Hiramatsu (Waseda) fails to receive forward Nozawa's pass in the Waseda-Tokyo Imperial game; won by Waseda, November 9.

S10-12-1

關東學生蹴球リーグ戰

早大文理を破つてリーグの覇者に確定
印象に殘る帝大の好闘と文理の惜敗

山　田　午　郎

早大の優勝は確實

早大は對慶應の一戰を殘してゐるが十一月十六日に行はれた對文大の試合において勝ちこれで四戰四勝しリーグの規定得點においてトツプを切り、殘る慶應との一戰が如何なる結果を齎さうとも、その優勝は確定してしまつた。だが早大の優勝は豫想したほどの拔群の力量が示されはしなかつた。尤も早大の優勝を斷たんとするほど東大の復活は目覺しいものであり、バランスを失してゐる文大の陣容にも恐るべきものがあつた。早帝、早文の二試合について見るに帝大も文大ももう一歩の試合をしてゐながら追ひ込み切れなかつた憾みはある。

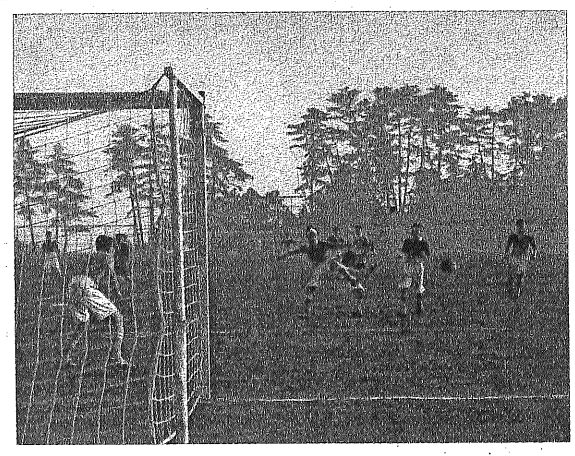
早大は事實豫期に反した苦戰を經て來てゐる。果して早大の實力が豫想したよりも乏しかつたか、帝文の躍進が早大を窮地に陷れたものであるかはリーグ戰の結末を見ぬうちは明言出來ないが早、帝、文それぞれの開きは僅少といふ所まで到達してゐる。

早帝の接戰

早大　4{2—0 / 2—2}2　東大

勿論試合は早大の勝味が豫想された如く前半は早大が二點を奪つたに對し、東大は九分にしてはじめて早陣に入つて右コーナー・キツクをとり、十七分また右コーナー・キツクをとつてこれは凡獸のゴールアウト、二十一分高橋シユートして攻撃線の面目を保つたといふのが攻撃的に見た東大であつた。これは早大の深く切り込むパスと出足の速さが物を言ひ東大を守備に走らせてゐた結果であつた。

しかるに後半に入つて東大はキツク・オフで縱に早大の守備線を貫き通して順調のスタートをするや早大は度を失ひ前半の確信あるプレイは瓦解して守備線は收拾困難に陷つてしまつた。これは東大陣のコントロールを取り戻したことに主因を見出すが早大守備線が前半においてマーキングに考慮を不要としてゐたものゝ暴露にもあると思ふ。



早大、文理大サツカーの後半、早大ゴール前の混戰

もつとも前半四分、十四分、二十分の機會を平松、川本、西村がそれぞれ惡位、遲滯、シヨツトの不確實で逸することがなかつたならば或はこの慘めさも見せずに濟んだかも知れない。

しかしまたかうも見られよう、後半2—2から二點を加へて勝ちはしたものゝ前半二十四分にCH立原の長蹴が鮮かにきまらなかつたならば二十七分西邑のシヨツトも如何なる結果を見せたか疑はれるほどに早大の攻撃線の出來は上乘でなかつた。

後半の早と帝

これは多角的の攻法に變化を見せようと努める早大の攻撃線の辛苦に敬意を表するがなほ滿足し得ないといふのは速攻に目標を置きながら速度を斷つ結果を見せることが多い。バツクスのフイードを1、2、3のパスでシユーテング・レンヂに入つたと思はれるのに更に一度廻して機會とするが如き、徒らに複雜性を加へて東大の守備線を攪亂した後にといふ意圖の下に行はれるそれが寧ろ失敗を繰り返してゐた。前半二十分における川本、野澤、平松のパスはバツクパスされて吉田の強蹴となつて惜しいゴールアウトとなつてゐるがこれは野澤がシユートすべきものであつたと思はれた。

また平松のところにおいてもフリー・シユートする機會があつた。しかしこれは前述の如くクルクル廻されて虻蜂とらずとなつてゐる。東大バツクスの忠實なマークがあつてのことなら詮議立て無用であるが如何にも失敗の責からのがれるが如く見ゆるこの球捌きはシユーテング・レンヂを自ら縮小し速攻の意味を殆んど失はしめるものとして採らぬものである。

もつとも常に早大の攻撃をして餘裕を持たしめなかつた東大バツクスの奮闘とGK川島の力闘を見逃すものではない、後半に入つて東大は早大の守備線をあらゆる角度から衝きまくつたがこれは立派に成功してゐる。いはゞ攻撃手段は東大の方が多く持ち合せてゐたといふことになる。

CF高橋が早くからコントロールがあつたならば早大この日の出來榮えを以てしては結果は轉倒してゐたかも知れない。

帝大商大戰

帝大　5{2—1 / 3—1}2　商大

商大の滿々たる鬪志は東大を向ふに廻して堂々たるものであつた、喰ひ下がる氣魄は2—1から2—2、これが假令思はぬ拾ひ物であつたにしてもきめつけて行く氣魄が溢れてゐればこその當然の所得であつたと言へやう。東大が早大をまくし立てた如く、商大は東大をまくし立てゝ一時は息をつがせぬものであつたが後半中ごろから地力の相違は歷歷とあらはれて勝敗が決した、これは當然のことであつたとしてもまさに商大の快心の作である。

東大は寄せの巧みさを見せたが決定力がこれに伴はぬ嫌があつた。

慶應、立教戰

慶應　10{2—1 / 8—0}1　立教

前半三十分までに1—1は慶應の攻撃線が逸機の多かつたことと立教守備線の奮闘がしからしめたものによるのであるが後半は全く立教の潰走するところとなつて終つてゐる。要は試合を捨てねばならぬ立教の意氣地なさがこの大敗を招いたものといふのほかはない。

早大、文理の戰ひ

早大　5{4—1 / 1—2}3　文理大

前後半位置をかへて同じやうな徑路を辿る試合してゐた。

前半キツク・オフとゝもに無雜作に衝きまくられた文大も聊甲斐ない脆いものであつたし、後半一分にして四回のコーナーキツクを與へた早大のそれも脆弱なものであつた、この試合において特筆せねばならぬことは力量殆んど互角か早大に歩がありといふ對戰では實に珍らしいコーナーキツクの14—4の相違である。文大が後半において十一本のコーナーキツクを得てゐるがしかも第十一本目のそれを前進してゐたCH原崎がペナルテイにかゝつての長蹴できめた他は極めて單的にこれを失つてゐる。

文理大の逸機

この試合について見るに前半早大が2—0と離したものは直接的にコーナーキツクからの得點であつた。然も三本の中二本を有効にした點から考へて文大の成功率一割にも達してゐないといふことは無能無力といふより他にない。

これはキツカーのコントロールを缺いてゐたことは勿論、ゴール前にあるプレイヤーが球道を無視し、球速を考慮の外に置き相手方の位置を辨へず、ゴールに近く落下するボールのみ注意してゐたといふ無意味な待機の姿勢にあつたと思ふ、餘りに平凡、單調な作戰、態度であつた、これが當然の結果として11—1が記錄されたのである。このコーナーキックに物をいはせたならば文大は凱歌を奏してゐたかも知れない。

こゝに技巧の差がありと言へるかも知れないが試合冒頭の失點は傍觀佇立の然らしめたものでこの一戰を失ふに大なる影響を與へた、これは重壓の一點であつた。

川本が一旦殺さうとした球に向つて誰か一人が潰しに出ればよいのであつたがその瞬間の判斷が出なかつたことが不思議である。然しこれは修練不足の災する所と見たい、球場を一定することが出來ず練習意に任せぬものがある文大としては致し方ないといはうか、前半4—1の決定的得點の開き之がなかつたならばと文大側は長嘆息しよう試合であるが前半の出來といふものは松永が餘りにボールを愼重に扱つた事とHB線が球の捌きを急いでゐたことも文大の動きを反つて鈍くしてゐた。後半それだけに撥ね返し得るものであつたならば焦ることなくより確實な潰して確實な送球に試合を進めるべきであつた。

文理大、商大戰

文大　2{1—1 / 1—0}1　商大

文大は松永を缺き、商大は大掛、枝村を缺いて雙方止むを得ない編成の下にチーム力を低下させて對戰した。文大はたゞ一人の松永を缺いだがために攻撃線は中心を失つてFW線は進退を誤ることが多かつた、CF久下はポヂシヨンに馴れぬせいもあつたらうが動きは偏して誰一人FW線を整へるものがなかつた。

このために決定的のチヤンスはバランスのとれてゐる商大FW線の方が多く作つてゐたといふ奇現象を呈したが松永なくてはこれも止むを得なかつたが、率ばかりでは戰は出來ぬ、それであつた。

慶、帝と引分け、早大に惜敗した文大は後方線のキツキングの確實性と松永の攻撃力とによつて辛くも支へて來たとも言へる。久下は松永なくしては跛者にも等しいものであることがこの試合て一層强められたことは久下のために惜しまれるものであつた。

商大は大掛、枝村を失つて攻守力をグツと引下げさせられたやうであるがこれは奮起によつて十分補はれ、小型ながらも迫力のあるところを見せた、ゴールゲツターが乏しい結果の敗戰ともいひ得るがゴール前に寄せることの單一も災したし、文大中垣内の力闘も商大の得點を遮るに大きく働いてゐた。この試合で痛感させられたことは商大が守備的には相當の厚味を見せるが攻撃的には貧弱さがあつたことである。

しかし登場の第一シーズン四敗一勝とはいひながら協調の實績を擧げたことは他に範を垂れたものとして推賞の價値は十分にある。

☆

☆

☆

S10-12-1

關西學生蹴球リーグ戰

關大と京大の熱戰

1—1で引分けとなる

清水金二郎

秋深まるこゝもに關西學生蹴球リーグ戰の興味もいよいよ高まつて來る。十一月九日には關西學院對大阪外語戰が、同十日には關西大學對京都帝大戰が何れも甲子園南運動場で行はれ、前試合は十七對〇の大スコアで關學が大勝し、後試合は關大一點を先取し前年の覇者京大を破り去るかに見えたが、惜くも一點を返され、同點のまゝ引分こなつた。

前半

試合開始さるゝや、京大はしきりに球を風に乘せて關大ゴールをおそひ、むしろ京大優勢である。即ち二分、五分、九分こ何れも京大右サイドより攻め込みたるもLWの位置惡くまたは凡蹴に止み十五分にはRWよりCF、RI、HCこ渡り、HC安原シユートせしもゴールアウト。更に二十分、二十三分こ連續的にLH、LWなごが絶好のチヤージボールをあげたが、關大GK上吉川好守して免れる。こゝらで京大こすれば何こか一點ものすべきであつたこ惜まれる。

關大もやゝ押され氣味ながらもCF石垣、RW大橋なご大童の活躍に度々京大ゴールを脅したが、HB兩インナーのフオローを缺くため大事な所でカットされ得點をなすに至らなかつた。

後半

風變り關大またも風下に立つここゝなつた。後半開始後五分京大LWゴール前へパス、關大GK上吉川パンチしてコーナーキツクに免れる。その後關大全員よく動き、屢次京大ゴールを脅したが、つひに九分關大RW大橋のパスを石垣そのまゝずかせば西山ノーマークこなり京大ゴール前二十ヤード邊よりクリーンシユートし見事にきまつてゴール一點を先取した。

勢ひに乘じた關大はなほ得點を重ねて勝利を確實にせんこし強攻を續け十七分二十九分、三十五分こ好機る作つたが京大HB、FBの健闘に阻まれて無爲。一方京大も前年の覇者の面目にかけても一點を奪回せんものこ屢次好機を作つたがゴール・ゲツターに乏しき爲何時も今一歩こいふ所で逸機し、このまゝ押切られるのではないかこ危ぶまれるに至つた。

即ち十五分、二十分、三十分、三十三分こ機を迎へたがFWの出足揃はなかつたり或ひはまた關大GKの美技に阻まれて空しく最早京大の追撃成らずこ見られたが三十八分京大LW市山逆襲て關大陣をぐんぐん拔き、ゴール前に位置してゐたCF長岡にパス、長岡これを取るや直ちにシユート球は左程強いこも見えなかつたが綺麗に關大ゴール右隅を破つて一點を返し同點こなつた。

試合概評

【1】

この試合戰前の豫想は五分五分こいはれてゐたが寧ろ筆者は關大に六分の利ありこ思つてゐた。それは前述したやうに、FWにおいて關大は西山、石垣、大橋こ相當に曲者を揃へてをり殊に西垣君のドツヂングの巧みさ、石山君の好位置をこり、突込みの鋭い事、大橋君の球さばきの確實無比なることなご、これを京大FWが長岡君一人に賴らねばならぬ狀態に比すれば相當關大に有利だこ思へるからである。

ハーフも關大長島兄の練習不足の點はあるこしても塚井、戸川兩君は相當信賴し得る人々であり京大ハーフこ比してむしろ勝れりこもいひ得る。FBは京大の栗原、持地兩君の動きは關大の渡邊、土井兩君に優るこ言へるだらうが、名手金澤君を失つた今シーズンは思ひ切つたプレーが出來ずこの點では上吉川君を後陣に持つ渡邊、土井兩君の方がずつこ身輕に思ひ切つたプレーが出來るはずである。

更に關大は十年臥薪嘗膽の結果遂にその志をこげる日も近きにあるかを思はせるチームである。加ふるに關大は今春の全日本綜合選手權大會關西豫選で京大に制勝してゐる。これらのこごを考ふれば關大に六分の利を認めるのも無理ではなからう。然も試合の結果はむしろ京大が押し氣味であり、關大は一點をリードしながらも常に不安を免れぬゲームを續け遂に一點を返されて引分に終るに至つた。關大こしても京大こしてもあきらめ切れぬ一戰だつたらう。

【2】

思ふにこの日引分に終つた原因は多々あるだらうが關大ハーフが一點を先取したのちタイム・アツプ近しこ見てやゝ氣をゆるめ、不足勝ちだつたフオローをさらに缺くに至つたこごがその主原因だつたてあらう。また石垣、大橋なごが球を持つた時さばくべきにさばかず徒らに持ちすぎて京大バツクにつぶされた事も得點を重ね得ざりし一原因てあらう。一方京大も關大GK上吉川君の美技に阻まれたこはいひ乍ら、もしCF長岡君に加ふるになほ一人強力なFWがをれば、あれほご多くの得點機をむざむざ逸する樣なここもなかつたてあらう。特にRI、LWなごが大事な時に位置が惡くそのため折角のチヤンスを逸したこごが多かつたのが惜まれる。京大が同點こなし得たのは、一に戰前案ぜられたHBが全試合を通じてよく忠實に動き、こぎれ勝ちの攻撃を助けた點にその原因を求め得やう。



關學、關大サツカーの後半、關大のG・K上吉川君キツクせんとするところ

興味を呼んだ關大・關學戰

1—1 で引分けとなる

福安量平

關西學生リーグ戰中最も興味を期待された關學對關大戰は十一月十七日關學の先蹴に開始された、戰前の豫想に違はず試合は果然大接戰こなり遂に一對一の無勝負に終つた。

昨年の對關學戰において全く互角の試合を運び乍ら不運にも自ら失つた一點のため惜敗した關大は三崎、川西の超芽級を失つた關學に比してホワードにはなほ大橋、西山を擁しバツクには戸川、長島、土井らの猛者を控へ只管關西制覇を期してこの一戰に備へて來たがまたしても幸運に惠まれず貴重な一點を先取し乍ら遂に引き分けに終つたこごは何こしても諦め切れぬものがあつたてあらう。

戰況

【前半】風下に位置しながら關學は例年の通り敵の虛を衝くウイングへの好送球によつて關大陣に迫る戰法に出で試合開始直後L・W梅園しばしば關大陣深く攻め入りチヤンスらしきものに惠まれるこご再三あつたが關學兩インナーの動き鈍く且つ關大バツクス殊にC・H長島の下り氣味にある愼重な防衛陣に對しては遂に効を奏し得なかつた。

一方關大は西山をC・Fに大橋、石垣を兩インナーに配し布陣に苦心の跡を見せ風上の利を得てよく關學陣にボールをキープし强引に攻めたてたが關學バツクスの好防、宮部らの判斷よきカツトに妨げられ、大橋に期待した動きも見られず關大の武器こする鋭い縱のパスによる中央突破の攻撃も細かな技が災して却つて効果を發揮し得ない感があつた。

40分に至りL・W長島のセンターリングをR・W大谷へツドして貴重な一點を先取したがゴール前において殆んごフリーなスタンデイングヘツドを許した關學バツクスの瞬間的な弛緩は何れのチームにこつても最も戒心すべきこごであらう

【後半】風上に陣し得た關學は斷然攻撃的こなり關大陣で試合を運び得たがG・K上吉川の輕敏なる働きに妨げられゴールポストに當り惜しくも機を逸するなごしばしばのチヤンスも得點に至らず、これに對し關大は病後練習不足にて前半殆んごチヤンスをつぶしてゐたL・W大谷もやゝ元氣回復し大橋時々鋭いドリブルを見せたが何れも後陣續かず。20分に至り中央線右に得たるフリーキツクを關學R・F宮部好蹴して絶好のチヤーヂボールを上げるやホワードのチヤーヂ奏効してこゝに一點を返し、俄然試合は白熱化するに至つた關大も最後のはげしい攻撃を試みたがあせつて前線揃はず遂に接戰裡に一對一の引き分けに終つた。

概評

試合全體を通じ兩軍こもよく攻めよく守り全く伯仲の間にある實力を示し得たが何れも最後の決定的シユーターを缺き得點能力に乏しく兩軍の示した一對一の成績は先づ當然のものてあつたこ言へやう。

關大こしてはむしろ大橋をC・Fに置きもつこ奔放な攻撃を加へC・H長島の今一歩攻撃への參加があればより得點の機會を捉へ得たのではなかつたらうか、昨年同樣京大關學に優る基礎的技術こ體力こを有し乍ら不幸勝運に惠まれないのは試合運行上或はなほ考慮すべき餘地があるのではなからうか？

これに對し關學は老巧三崎、川西を失ひR・W田中の不出場のハンデイキヤツプがあつたにせよ關學得意の深いW型戰法をこるには兩インナーの動きがあまりに鈍かつたやうに思ふ、C・F野澤が期待されたほご活躍し得なかつたのは關大バツクの好守にもよるこご乍ら物足りなく思はれた。

兎まれこの一戰雙方先づ善戰したこいふべく京大關學の對戰も愈よ興味深きものこなつたが最近やゝもすれば沈滯の氣配ある我が關西學生蹴球界のため今後こも關學關大諸君のより以上眞摯なる練習を續けられることを切望して止まぬ。

S10－12－1

ドイツとブルガリアの蹴球戰

兩軍大接戰を演じ數萬の觀衆熱狂す

【ライプチヒにて】 酒　井　　將

Y兄第六回國際學生競技會に參加する日本代表體操選手七名を引率して日本を出發する時何かお知らせするものあればお知らせすると約束しながら機會を逸して本日に至りましたことをお許し下さい。

◇

十月二十日午後三時からライプチヒ市郊外V・B競技場でドイツ對ブルガリアのアソシエーションフットボール競技がありました、勿論私は蹴球に對しては素人ですが、來年のオリンピックの前哨戰とも見られる競技會ですから、何かの御參考になれば結構と思ひまして、早速見たままを申上げます。

【ドイツの蹴球熱】

ドイツの蹴球は全國遍く普及してゐる點において、おそらく世界第一というても過言ではないと思はれます、從つて蹴球に對する興味は非常に旺んである上に特に今度の試合は來年のオリンピック競技をひかへ、近くは來る十二月ロンドンへ渉つてイギリスと對戰することになつてゐるので相當に重要な競技會であり、なほブルガリアに對しては去る五月ブルガリアの首都ソフイアに遠征し2—0で敗北してゐる、勿論遠征の際の戰はドイツの二軍であつたといふことであるが、兎も角、その復讐戰でもあるので、その人氣たるや數週間以前から大變なものでした。ドイツの今までに行つた國際競技の主なる國に對する成績は次の樣です。

國名	競技回數	勝	分	負	得點合計
ベルギー	6	3	0	3	22：15
デンマーク	7	3	0	4	17：21
イギリス	5	0	2	3	6：22
フインランド	6	4	1	1	23：9
ポーランド	14	4	5	5	29：31
イタリー	5	1	0	4	4：11
ノルウエー	8	4	4	0	17：8
オーストリー	10	3	1	6	18：32
スエーデン	12	4	2	6	20：24
スイス	19	13	2	4	55：26
ハンガリー	11	3	3	5	20：27
ウルガイ	1	0	0	1	1：4

V・B競技場は神宮球場と殆ど同じ大きさで3萬人の觀覽席がある。蹴球專用の立派な競技場である。この廣い競技場も、午後二時半には既に立錐の餘地の無いほどの多勢の人壜であつた。

これよりさき、二時より第二軍の試合が開始されてゐたが、それが終ると同時にいよいよ三時五分前にブルガリアの選手が競技場に現れた、ユニフオームはエビ茶のシヤツに、白パンツ黑のストツキング、續いてドイツの選手も襟と袖とに赤い緣付きの白シヤツ、黑パンツ、黑のストツキングといふいでたちで現れた。

觀衆は總立になつて歡迎し音樂隊によつて兩國國歌が吹奏された。

ドイツ【GK】ブフロ【FB】ハリンガ、ミンツセンベルク【HB】ヴアンケン、ゴルドブルンナ、グラムリツヒ【FW】シーメツツライター、シツエバン、ベルゲン、シフリン、レーナ

ブルガリア【FW】パツチエジフト、ロツアノフ、ベヒーフ、アンクヘロフ、ヨルダノフ【HB】ガブロブスキー、カメンスキー、ラフエロフ【FB】ギーユフ、ヤナキツフエ【GK】マツニコフ

出場選手の體格は、外見したところドイツ軍は身長も高く側も大きくがつちりしてをり、ブルガリア軍は身丈やゝ低く小粒でピリピリした感が有つた。

【戰　況】

一二分キツクの練習をして正三時北側に陣取つたブルガリア軍ベヒーフに依つて行はれたキツクオフで競技は開始された、競技開始早々風上に陣したブルガリア軍の高く蹴上げた球は遠くドイツ軍のゴール近くに至り、獨のフルバツクこれをタツチラインに蹴り出しその後二、三回タツチに球を蹴り出し極めてぎこちない五分間を過す。

やがて中央邊に一進一退してゐる中獨軍のフオアワードセンターとウイングの好連絡でぢりぢりとブルガリアを壓迫し、一寸危機に見えたがドイツ側反則のためキツクで中央までかへさる、續いて再びブルガリアのゴール前にせまつたがキーパーの好防にはばまれた。

次にハンガリー側猛烈にドイツ側に突進したがゴール前十ヤード中央で反則ありキツクで中央に返さる兩軍共未だ零。

◇

十二分ドイツ側左ウイングのノーマークの絶好のチヤンスあるもゴールキツクに終り後一進一退してゐる中再びドイツ側にチヤンスありしがブルガリアの名キーパーの好防にはばまる。二十五分ブルガリア側に一寸チヤンスが見えたが反則で返さる、その反則のキツクの球を獨軍のセンターのベルゲン取りこれを左ウイングシーメツツライターに送りシーメツツライター右インナーに送り右インナーシフリンのシユートできまる、ドイツ一點先取。

◇

三十分ブルガリアキツクオフのボールを直ちにドイツひつかけ左インナーのシユートした球をキーパー一度これを捕へたが手からこぼれる球を右インナーおよびセンターなだれ込んでシユート決つて續いて一點、計獨二點先取。

二點先取したドイシは俄然元氣づき、猛烈にブルガリア陣に突進するも、ブルガリア側の全員後退しての防禦に得點出來ず、ドイツ側蹂躙の間に四十五分を經ちハーフタイム。

【後　半】

十五分休憩の後正四時ドイツ側のキツクオフで後半戰が開始された、競技開始後暫く兩軍とも一進一退、少しく混戰の氣味あり、その中ドイツブルガリア軍のゴール前に切迫したがこの際ハンガリアに反則あり、ドイツの矢のやうなキツクも物にならずゴールキツクとなる、そのゴールキツクの球をブルガリアの右ハーフ良くとり、これを左ウイングに送り、左ウイング少しくドリブルの後左インナーに渡し、左インナーこれをシユートすればキーパー辛じて捕へたがぼろりと落すところを右インナーをとり込んでシユートきまつてブルガリア一點を返す時に後半開始後七分、その後十分にもブルガリア軍にチヤンスがあつたがポストに當り撥ね返つて得點とならず。

◇

ブルガリアはさきほどの得點と全く同一の戰法でまた得點したそれは左ウイング少しくドリブルの後左インナーに渡しこれを右インナーに渡し、右インナーシユートしこれがゴールし二點を返す、時に十七分、到頭2—2の大接戰となる。

◇

二十二分ブルガリアゴール前混戰中ドイツ軍ボールをとりこれを右ウイングより左インナーに渡り、更にセンターに返しセンター左ウイングに送り左ウイングシユートしてゴール。後半開始後初めてドイツ得點し前半と合せて3—2とリードする。

◇

二十五分ドイツはまたも同じ戰法で右ウイングより左インナーに渡りこれをセンターに返し、センターシユートしてゴール、計四點となる、つひに4—2とドイツ軍斷然リードし、既に勝敗は見えたかの樣であつたがブルガリア猛然と奮ひ立ち三十分にはブルガリアにチヤンスあり、先程得點したと同樣に左ウイングに球は渡りノーマークであつたが少し長く持ち過ぎ中央に返され却つて逆襲に遭つたが幸にポストに當り撥ね返つたので得點とはならなかつた。

その後一進一退得點とならず、4—2でドイツ軍の勝利に閉幕。

【戰後感想】

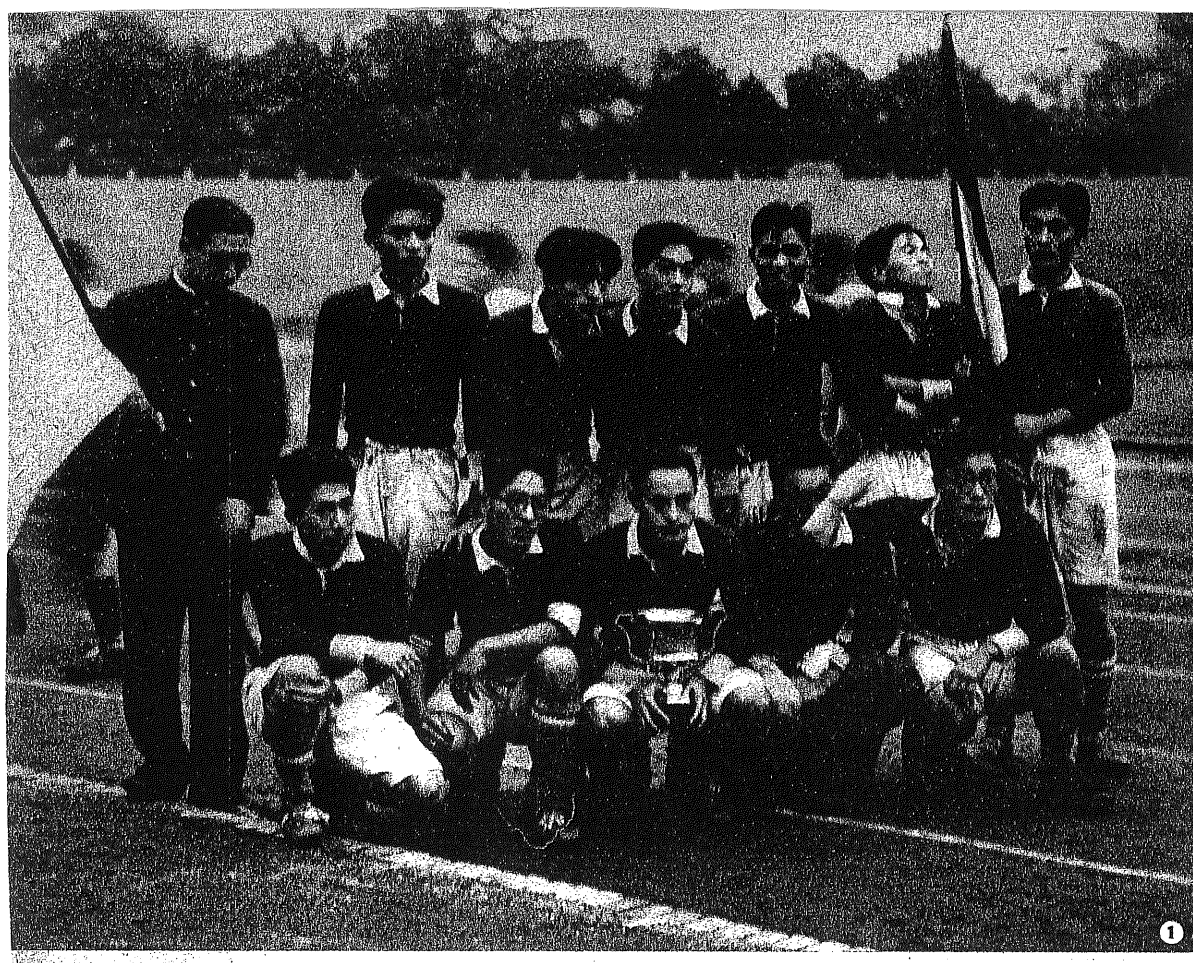
この試合で兩軍共常に殆ど同樣の戰法で攻めて得點してゐた樣である、即ち右ハーフ、左ウイング、左インナー、右インナーといふ順序に球を送り、ドイツ軍は前半は同一サイドの前衛三人、中衛二人の五人による巧みな聯絡でブルガリアは手も出せず立すくみの態であつたが、後半に至りブルガリア得點するにおよんで戰法を變へ、駿足右ウイングレーナーのものすごい驀進を利し、またたく間に敵陣に肉薄するといふ全くものすごいスピード、見る者をしてもなほ且つ息をもつがせぬ早技の攻撃振りであつた。

一時間半の試合を通じて常にキツクおよびヘツデングは正確で蹴り損じのために敵にボールを奪はれたといふやうなことは極めて少數であつた、從つてガードの立場になつた場合の各人の動きはもつて參考とする價値があつたやうに思はれた。

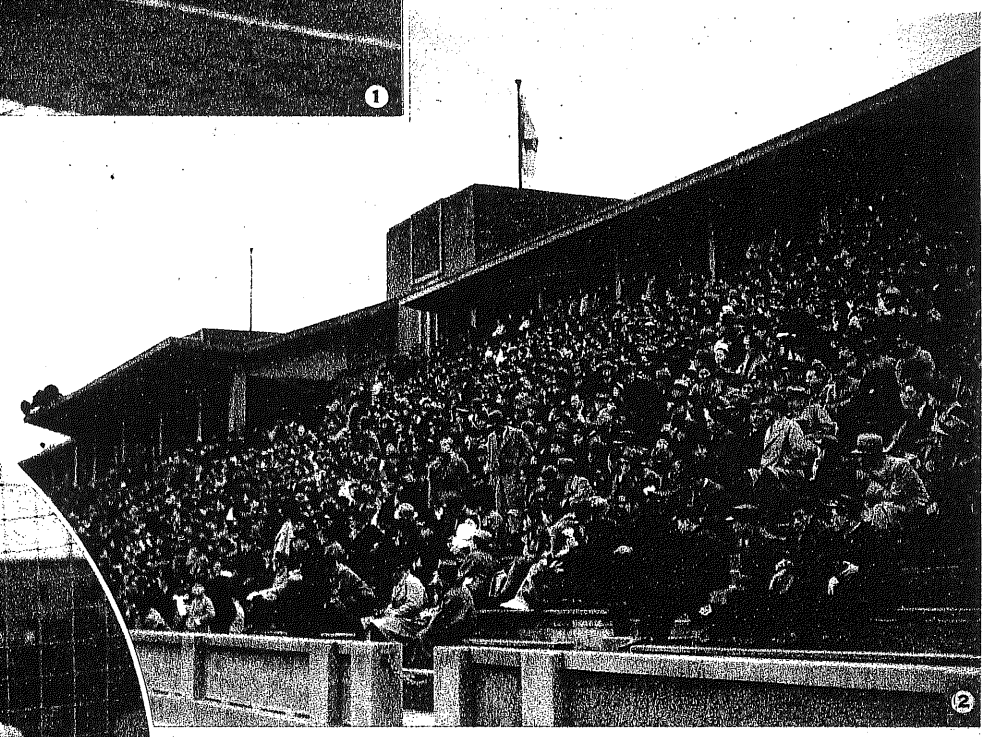
S10-12-25

關東學生蹴球終る

掉尾の早慶戰に早大
大勝し十五日關學と對戰



❶ 關東學生蹴球リーグに破竹の勢を示し十年度の覇者となつた早大チーム



❷ 十一月二十四日神宮で行はれた早慶試合の觀衆、試合は前半4－1、後半も4－1で結局8－2のスコアで早大勝ち覇者の貫祿を堂々と示した



❸ 早慶蹴球前半慶應右近君のシヨツトを捕へんとする早大GK不破君



❹ 早慶蹴球前半慶應LW二宮君のドリブルに際し早大FB堀江君後方よりスライデイングタツクルした瞬間

Kanto students' Soccer League. ❶ Waseda University team victor of this season. ❷ Spectators of the Keio-Waseda varsity game held at Meiji Shrine Stadium on 24th November. ❸ Waseda goalkeeper about to catch Keio's shot in the first half of the game. ❹ Waseda full-back making a sliding tackle against Keio's dribble in the first half of the game.

S10-12-25

熱戰して早大、慶應を破る

「この一戰で關東リーグ戰終幕す」

小野卓爾

關東大學蹴球聯盟リーグ戰掉尾の早慶戰は十一月二十四日神宮競技場に於て擧行されたが結局八對二ぢいふ大差を以て堂々覇者の貫祿を示して早大の勝つところとなり、昨シーズン白熱戰を演じ再度引分未解決のまま殘された輸贏の歸趨に結着をつけた。

興味あつた早慶戰

既に優勝の確定せる早大も、衰勢に沈淪せる慶應も歷史的對抗意識に燃え、得點差は開いたとはいへ張り切つた戰ひを交へ相當興味ある一戰であつた。

前半は四對一と開いたものの試合はスコアの示す程一方的のものではなく、兩軍各々自らの調子に依つて戰を進め、動きも烈しく展開も變化に富んで内容のあるゲームであつたが、後半に入つてからは慶應に精神的な萎靡の色も見えて、全く自己の調子を外して早大調に引き廻され早大の蹂躙に委せて慘敗を喫して仕舞つた。

早大はこれまで一戰毎にメンバーの配置、起用を替へて臨んでをり、この試合においてもF・Wの布陣を替へC・Fに加茂(兄)を据ゑ、C・Wに平松を配したが、これが爲今までに見られた様な拙だしき結滯もなくF・Wの動きが圓滑になり、パスワークも多角的となつてこれまでにない攻撃戰線の整備された活動を見ることが出來た。これは捜しあぐんでゐた焦點を求め得た感であり、メンバーの起用の成功ぢいふべきである。個人技の圓熟と馴れに依り纏まりも整調され、しかして相互の諒解とそれに呼應する動きと意圖的な展開もあつて、組織的な力も擴充せられ早大今シーズン最高の水準を行く好調さであつた。

◇

慶應はベストメンバーを以て對戰したが、バックスの脆弱さは如何とも彌縫することが出來ず、得點競り合に期待をかけてゐたが縱に割つて出る例の攻法も給球の不足を慨き、かつバックスの脆弱さのために救援を缺き成功の一歩手前に手薄を感じて潰えるの結果となつてゐた、特に右側のウイークポイントは早大の狙ひ打つところとなつて潰滅し、早大得點中の七點までこの右側より衝かれ、寄せられた結果より擧げられたものであつた。

第一部早大全勝

かくて六旬に亙る關東大學蹴球聯盟リーグ戰はこの一戰を最後に終幕を告げたが、第一部においては早大が全勝十點を得て關東大學蹴球聯盟の覇權を掌握し、昨年度昇進第三位を獲得した立教が零點を以て第二部に轉落一抹の哀愁を感じさせた。

今シーズンは帝大の復興文理大の擡頭に依り實力接近せる四テイームの對立となり、慶應の圈外に去るに及んで再び三巴鼎立の狀態となつて、覇權を繞つて群雄割據の狀態を示した。

かゝる帝大の復興、文理大の健闘に刺激せられて、これまで個人技の優勢に依つて押し切つて來た豐富な比較的優秀な素材を有する早大がシーズンの深まるにつれて組織的な活動力を持ち、意圖的な運行によつて一應圓滑な纏りを見せる様になつたことは相當の進歩であり、帝大の復興と相俟つて現段階飛躍の希望を見出し得た様に考へられる。

第二部農大奮起

第二部において昨年度轉落した農大が九點を得て第一部に復歸し、中大が全敗總失點は五十三點といふ未曾有の記錄を殘して第三部に轉落した。第二部における今シーズンの水準は期待したほどの高さには至らず農大は對明大戰までは案外の凡戰を演じてをり、優勝は寧ろ今シーズンに入つて躍進目覺ましき明大に歩がある様に豫想せられてゐた。これは農大がいはゆる二部並の試合に甘んじ、安逸に墮せる結果であり、かくては進歩向上を望むことも困難であつて折角一部に昇進しても永く席を溫むることを得ずして、再び二部に轉落するの歷史を繰り返すのも當然である。

一部より轉落せるテイームがいはゆる一部級のゲームを行ふことに依つて、他を刺激し派生的に二部の水準の高揚に資するところがなければ聯盟組織上の効果も乏しく、自らもまた沈滯を免がれ得ず假令一部に昇進するも精鋭に伍して行くだけの實力を蓄へることは不可能である。

第三部千葉醫大

第三部においては今シーズンより新に加盟せる千葉醫大が全勝を以て第二部に昇進した第三部は聯盟改組により舊四部より六部迄のテイームに依つて編成せられてをり、下位層と上位層の間には著しく實力に相違があるが、之は聯盟改組の効果に依つて漸次向上することゝ思はれるが、個々のテイームが内面的にも素質の向上を計らねばならないと思はれる。リーグ戰を制覇したやうなテイームも見受けられるが、聯盟に加盟するの意を忘却し乃至は解せぬならば宜しく聯盟を退いて、自己の充實を計つて出直す可きであらう。

【第一部】

	順位	定點	總得點	總失點
早大	1	10	37	9
帝大	2	7	20	10
文理大	3	6	12	11
慶應	4	5	21	17
商大	5	2	9	22
立教	6	0	6	36

【第二部】

	順位	定點	總得點	總失點
農大	1	9	29	6
明大	2	8	39	9
拓大	3	6	25	15
法大	4	4	7	19
慈大	5	3	15	18
中大	6	0	6	53

【第三部】

	順位	定點	總得點	總失點
千葉醫大	1	12	32	4
工大	2	10	22	11
國大	3	8	30	10
日醫大	4	6	26	21
日大	5	4	12	18
上智大	6	2	12	47
駒大	7	0	4	27



早慶蹴球戰の前半、慶應石近君のパスを早大近藤君カットせんとして失し慶應増田君これを拾はんとする直前

S10-12-25

熱戰して早大、慶應を破る

「この一戰で關東リーグ戰終幕す」

小野卓爾

關東大學蹴球聯盟リーグ戰掉尾の早慶戰は十一月二十四日神宮競技場に於て擧行されたが結局八對二ざいふ大差を以て堂々覇者の貫祿を示して早大の勝つところとなり、昨シーズン白熱戰を演じ再度引分未解決のまま殘された輸贏の歸趨に結着をつけた。

興味あつた早慶戰

既に優勝の確定せる早大も、衰勢に沈淪せる慶應も歷史的對抗意識に燃え、得點差は開いたとはいへ張り切つた戰ひを交へ相當興味ある一戰であつた。

前半は四對一と開いたものの試合はスコアの示す程一方的のものではなく、兩軍各々自らの調子に依つて戰を進め、動きも烈しく展開も變化に富んで内容のあるゲームであつたが、後半に入つてからは慶應に精神的な萎靡の色も見えて、全く自己の調子を外して早大調に引き廻され早大の蹂躙に委せて慘敗を喫して仕舞つた。

早大はこれまで一戰毎にメンバーの配置、起用を替へて臨んでをり、この試合においてもF・Wの布陣を替へC・Fに加茂(兄)を据ゑ、C・Wに平松を配したが、これが爲今までに見られた様な拙だしき結滯もなくF・Wの動きが圓滑になり、パスワークも多角的となつてこれまでにない攻撃戰線の整備された活動を見ることが出來た。これは捜しあぐんでゐた焦點を求め得た感であり、メンバーの起用の成功ざいふべきである。個人技の圓熟と馴れに依り纏まりも整調され、しかして相互の諒解とそれに呼應する動きと意圖的な展開もあつて、組織的な力も擴充せられ早大今シーズン最高の水準を行く好調さであつた。

◇

慶應はベストメンバーを以て對戰したが、バックスの脆弱さは如何とも彌縫することが出來ず、得點競り合に期待をかけてゐたが縱に割つて出る例の攻法も給球の不足を慨き、かつバックスの脆弱さのために救援を缺き成功の一歩手前に手薄を感じて潰えるの結果となつてゐた、特に右側のウイークポイントは早大の狙ひ打つところとなつて潰滅し、早大得點中の七點までこの右側より衝かれ、寄せられた結果より擧げられたものであつた。

第一部早大全勝

かくて六旬に亙る關東大學蹴球聯盟リーグ戰はこの一戰を最後に終幕を告げたが、第一部においては早大が全勝十點を得て關東大學蹴球聯盟の覇權を掌握し、昨年度昇進第三位を獲得した立教が零點を以て第二部に轉落一抹の哀愁を感じさせた。

今シーズンは帝大の復興文理大の擡頭に依り實力接近せる四チームの對立となり、慶應の圈外に去るに及んで再び三巴鼎立の狀態となつて、覇權を繞つて群雄割據の狀態を示した。

かゝる帝大の復興、文理大の健闘に刺激せられて、これまで個人技の優勢に依つて押し切つて來た豐富な比較的優秀な素材を有する早大がシーズンの深まるにつれて組織的な活動力を持ち、意圖的な運行によつて一應圓滑な纏りを見せる様になつたことは相當の進歩であり、帝大の復興と相俟つて現段階飛躍の希望を見出し得た様に考へられる。

第二部農大奮起

第二部において昨年度轉落した農大が九點を得て第一部に復歸し、中大が全敗總失點は五十三點ざいふ未曾有の記錄を殘して第三部に轉落した。第二部における今シーズンの水準は期待したほどの高さには至らず農大は對明大戰までは案外の凡戰を演じてをり、優勝は寧ろ今シーズンに入つて躍進目覺ましき明大に歩がある様に豫想せられてゐた。これは農大がいはゆる二部並の試合に甘んじ、安逸に墮せる結果であり、かくては進歩向上を望むことも困難であつて折角一部に昇進しても永く席を溫むることを得ずして、再び二部に轉落するの歷史を繰り返すのも當然である。

一部より轉落せるチームがいはゆる一部級のゲームを行ふことに依つて、他を刺激し派生的に二部の水準の高揚に資するところがなければ聯盟組織上の効果も乏しく、自らもまた沈滯を免がれ得ず假令一部に昇進するも精鋭に伍して行くだけの實力を蓄へることは不可能である。

第三部千葉醫大

第三部においては今シーズンより新に加盟せる千葉醫大が全勝を以て第二部に昇進した第三部は聯盟改組により舊四部より六部迄のチームに依つて編成せられてをり、下位層と上位層の間には著しく實力に相違があるが、之は聯盟改組の効果に依つて漸次向上することゝ思はれるが、個々のチームが内面的にも素質の向上を計らねばならないと思はれる。リーグ戰を壟斷したやうなチームも見受けられるが、聯盟に加盟するの意を忘却し乃至は解せぬならば宜しく聯盟を退いて、自己の充實を計つて出直す可きであらう。

【第一部】

	順位	定點	總得點	總失點
早大	1	10	37	9
帝大	2	7	20	10
文理大	3	6	12	11
慶應	4	5	21	17
商大	5	2	9	22
立教	6	0	6	36

【第二部】

	順位	定點	總得點	總失點
農大	1	9	29	6
明大	2	8	39	9
拓大	3	6	25	15
法大	4	4	7	19
慈大	5	3	15	18
中大	6	0	6	53

【第三部】

	順位	定點	總得點	總失點
千葉醫大	1	12	32	4
工大	2	10	22	11
國大	3	8	30	10
日醫大	4	6	26	21
日大	5	4	12	18
上智大	6	2	12	47
駒大	7	0	4	27



早慶蹴球戰の前半、慶應石近君のパスを早大並原君カットせんとして失し慶應增田君これを拾はんとする直前

S10－12－25

關西學院京大を大破す

「自信と纏りのある關學に京大敵せず」

市　橋　忠　治

關西蹴球リーグの結びの一戰は絶好の日和に惠まれグラウンド・コンデイシヨンも申分はなかつた。

價千金の一戰

關大對京大の引分、關大對關學の同點の後を受けての覇權の爭奪戰、その上來るオリンピック參加選手決定の詮衡資料とせられる東西對抗を控へて兩チーム共野心勃々一般ファンは勿論地に墜ちずして二位にある關大イレブンも此の一戰再び接戰に終り再度チヤンスの與へられんことを心裡祕かに願つたであらうが結果は京大無氣力を暴露し力の差異を確然と我々の前に曝け出した。

それは當日の運、調子とは勿論いへない蓄積された關學チームの底力が榮冠へと導いたのである。リーグ全般を見て關學は纏があり各ライン平均してゐるが併せて今シーズン技術および頭腦的に向上した跡があつたとはいへないのは淋しいそれには種々なる見方もあらうが筆者は個人の技術的向上の等閑視、練習方法の缺陷の二を擧げプレヤーの熟考を促す次第である。

京大HBの不振

京大HBは攻撃參加に熱心では無かつた、これは京大FWが關學HBに壓へられ勝であつた事と關連してはゐるが例へば京大FBが良くFWへ好送球をした瞬間京大HBの一部或は全部が兎に角攻撃參加のためFWに接近すべきであつた、觀點を變ずれば味方の攻撃に移ると同時にHBのみならず全員が敵より遠ざかることは常識である故に蹴球は球のない部分においても始終爭鬪が行はれ蹴球の興味は全グラウンドに散在してゐる、この球の無い處にまで觀察の目を向けてこそ眞のフツトボールを見ることが出來る、未だ大衆を集め得ない原因の一つも興味が一點に集中してゐないことにあると思ふ。

關學のHBは前半よりよく敵のボールをカツトし積極的態度を持したことは彼等に自信もあつたことであらうが賢明であつたLH笠井は體格の優秀さと強引なプレーと相俟つて比較的確實な防禦を示しCH三田は往年の三崎君を髣髴させるプレーを演じ鋭い出足を以てHBラインをリードしてゐた。

京大HBは前試合に見ざる不成績をこの最も大事な決勝戰に示し京大敗北の主因をなしたことは如何なる理由に依るか？　CH安原が負傷したといふ理由のみでは濟まされない、反撥力に乏しいこと、疲勞時におけるHB線の凡蹴は殊に目立つた、京大の敗北は此處に主因があつた様に思ふ。

兩軍のFW陣評

FW線は戰前互角と評されたがその動きを比較する時中央におけるW型をゴール前に到つて締めくゝりが出來てゐただけ關學に强味があつた、京大CF長岡は良く敵陣を攪拌はしたけれども不幸得點に至らなかつたことは單に一人のミスと解釋せずFWの動き方の不整に歸したい、目を東都に轉じて見給へ。

早大FWのゴールへの殺到振りは五匹の餓えたる獅子が兎を追ふ様を思はせる。要するにCF及びウイングだけにゴールダツシユを委せず、インナーもこれに介意すべく努力を望む。

忠言二つ

前半關學FWがゴール前に無駄なパスを繰返し徒に敵防禦の人數を增加せしめたことが再三あつた、また關學FC野澤は絶好の機會あるに不拘中央突破を逡巡したことを見受けた躊躇は禁物である、筆者はこれを練習方法から來た惡癖だと評したい近時パスワークの進歩に伴ひ「敵の意表に出る」個人の判斷力が鈍くなつてゐる様に思ふ、特にCFはこの懷劍を持してゐなければならない。

FWに感じたもう一つのことはシユートの注意が少くなつて居る、强さがあるか、癖があるか、或は狙はれてゐるかの條件をそなへたシユートが少いこととクロスキツクが少いことである、敵FWにボールがフイードされる前に或は同時にカツトに出るべき定石を沒却した京大FBの惡癖は是非矯正すべきだと思ふ。

筆者は關學に對する策略と判じ得なかつたから斯く記する次第である。京大FBの對策がCF野澤に中央突破を牽制し得ただけでは足りないHBと仕事の分擔をもつと諒解すべきであつた二點は寧ろ京大側のミスから起つたといつても過言でない。

必要な基礎技術

試合酣になるにつれて基礎技術の有無は自然に暴露されて來た、意氣は或る程度これを補ふが蹴球は競技中特に高度の技術を要求する性質のものであることは諸君も御承知の如くであるが疲勞しても個技術に搖ぎが來ないまでに慣熟される様斯くして後向上は期待される。

最後に舊年の研磨の効成つて榮ある優勝を久し振りにかち得た關學に對し祝意を表すると同時に併せて全國制覇への精進を祈つて止まない。

S10-12-25

東西學生蹴球の覇者 早稲田大學 關西學院大學 が顔を合せたら

兩軍の殘した試合傾向を檢討し決勝戰の興味を想ふ

關學が早大を破る祕策は？

關學の潜勢力は傳統の成績

津田　弘



關學京大蹴球戰の後半京大が關學ゴール前に迫る

日覺しい關大の擡頭に依つて近來に無い好ゲームを展開して久し振りにフアンをして斯技の妙味を滿喫させた關西學生蹴球リーグ戰は關西學院が前シーズンの覇者京大を大きく四對〇で破つて堂々優勝した。

關學の巧味

二位の關大、三位の京大ともに優勝者關學と實力に大差なく、その試合運行においても甲乙無く關學が最も苦戰したといはれた對關大の如きは六割以上の攻撃を受けながら最後に幸運なフリーキツクをものにして引分戰を演じたのである。

關學バツクスの松井、宮部の防禦堅く强引な關大FWの攻撃を巧みに泳ぎぬいた所に關學傳統の力が加算した事は想像に難くない。

關大が前半にリードした事が早きに過ぎたともいはれ後半バツクの全體が消極的戰法に引きづられた事も相當リーグに古參の連中が大半をなす關大チームとしてどうした事だらうか、あした關學戰の如き、その周圍がかもす雰圍氣に依つて負けてはならないといふ〆ゴチない氣持に支配されて再々のチヤンスにめぐまれながら破り得なかつたのであらう。

シーズン隨一の激戰を展開した兩大學イレブンの氣持はいさゝか堅くなり過ぎ處々にラフなプレーが演じられた事はその起因する處はどちらに屬すべきかは判斷にまかずとして精神的な優越感をお互が抱くとはいへ將來一考を要するだらう。

決勝を爭つた關學對京大は共にベストメンバーで對し戰前五分と評され興味津々として試合運行に幾分關學有利とされたがその內容は平凡に關學大勝して四年振りで關西學生蹴球界の王座を把握したのである。

早大と關學の比較

東西の學生蹴球リーグの覇者早稲田大學對關西學院は十二月十五日明治神宮球場で顔合せをするが東京大學リーグの花形早大の今シーズンの大飛躍からすれば關學がどの程度の奮鬪に終始するか然し關學が齋藤、後藤の黄金時代より過去における對早大の戰跡からすれば四勝一負四引分てあり、よし關學が幾分實質低下にあるとしても兩軍が醸す傳統的歷史は實力以上の對戰となり關學も容易くは軍門に下るまいと想像せられる。

早大FW線を一瞥するに關學より轉じた西邑の參加は別として平松、川本、野澤、加茂兄弟等多士濟々にして關學の左より梅園、林野澤、山藤、田中のラインよりは强豪ぞろひの早大に軍配を擧ぐべく關學主將山藤早大の名手川本と市岡中學を同窓として四つに組んだ處感慨無量の心境であらう。

ハーフラインは早大の關野、立原、笹野或は末岡の四者に對して關學笠井、三田、田邊とまとまりはあるがCH三田に攻撃に重さなく田邊の短軀最近好調な笠井のキツクに賴るのみてハーフラインの活躍の消長は同大學の死活であらう。

早大の後陣鈴木、堀江のペアーとGK不破を加へた一枚は關學の松井、宮部のバツクスに今シーズン捕球に一段と技術の進歩をなしたGK西川のトリオと好一對であり前者にいさゝか重みがあるにしても關學としてもそう簡單に敗れないであらう。

關學バツクへ期待

要するに關學FWが豫期以上に活躍しない限り早大ハーフラインを突破するには今一層の研鑽が要求されるだらう、早大としては强引に完勝すべく關學もバツクの好戰と相待つてLW梅園CF野澤の動きは相當な波瀾をまき起す事と想像出來得る。

野望に燃える早大に總體的な强みを認めるが關西學生リーグにおいても愼重に戰ひ覇者としての貫祿を示した關學も打倒早大の意氣を以つて關西軍のために萬丈の氣概に終始するであらう。

四分六で早大が優勢だが

關學の勝つ手は側面攻撃

小野卓爾

東西學生對抗蹴球は來る十五日神宮競技場において關東大學蹴球聯盟の覇者早大と關西學生蹴球聯盟の覇者關學大とにより行はるゝ事となつたが、この試合はシーズン掉尾の、圓熟せる最高潮において行はるゝものであり、一月行はる東西選抜對抗試合とはまた異つた意味において、現在における事實上日本高峰たるの榮譽を爭ふものである。

◇

關學大は明治神宮大會に出場せるメンバーに野澤をC・Fに加へて陣容を整へ今シーズン三年連勝の京大を破つて優勝した。關學大のF・Wは深いW形に位置をとり、ミツドフイールドよりロングパスを以て相手方のF・Bの後を衝いてウイングに出し野澤に返して一擧にゴールを落す方法を取る可く、早大は加茂(兄)を中心として立原の救援により攻撃を厚くし多彩なパスワークと鋭い衝撃に依つて寄せに出る可く、關學大に比し變化に富む攻撃をなすであらう。

◇

早大は現在最高調にあり全體の動きにも圓滑さが出來かつその攻撃線は著しく强化し相當の得點能力あるテイームとなつてゐるに反し、關學大は神宮大會における印象よりして、强靱さに缺け組織的な力に不足し全體より受ける感じが單調であり、その後充實したとするも、その素材からして關西學生蹴球聯盟リーグ戰の記錄に照らして見ても早大の上を行く好調とは思はれず、早大がC・F並に兩ウイングをデフエンスゾーンに備へて、破綻を來さないならば關學大は得點機會に惠まるゝ事少く、早大は順調に得點を重ねて勝を制するであらう。

◇

然し關學大の兩ウイングよりの側面攻撃の一線に兩インナーが入り込むことに成功し、側面攻撃に脆さの認められるゝ早大の後陣を破綻に導く事を得ば早大の潰滅も考へられ、六分四分、早大に勝味ありと考へられるこの一戰も逆睹し難い結果とならう。